

指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第36集

水迫遺跡Ⅲ

平成16年3月

鹿児島県指宿市教育委員会

Report of
The
MIZUSAKO

Archaeological
Site
Vol.3

Published by
The
IBUSUKI
Board
of Education

2004
March

序 言

水迫遺跡は、平成5年度に実施されたサンオーシャンリゾート計画に伴う分布調査で、その存在が明らかになりました。平成8年度は、広域農道建設事業に伴う確認調査が実施され、さらに、平成11年度には、鹿児島県農政部、指宿市耕地課の協力を得て農道建設予定地の全面的な発掘調査が行われました。そして、後期旧石器時代に帰属する竪穴建物跡、道跡、ピット、石器分布から構成される遺構群が発見され、全国的な注目を集めました。

日本の旧石器時代遺跡において、ここまで具体的に集落の様子が判明した事例はなく、また、この時期の遺構群としては世界的にも貴重であると聞き及んでいます。

この成果から、新たな課題も提出されました。それは、どこまで遺構の範囲が広がっているのかという点や、どうして建物跡は竪穴を伴っているのかという点、なぜ道は掘り窪められなければならなかったのか、どの位の期間に人々が生活を営んだのか等、それまでの旧石器時代研究では言及することのできなかった具体的な議論が可能になってきました。

この平成11年度の成果を受けて、平成12年度には、文化庁、鹿児島県教育委員会の御理解と御協力を得て水迫遺跡の内容を確認するため、水迫遺跡総合調査団が組織されました。総合調査の結果、竪穴建物跡5基、道跡2条、炉跡2基などが新たに発見されました。

また、こうした成果から、平成13・14年度には、水迫遺跡における後期旧石器時代の遺跡範囲の確認調査を実施し、幅の狭い尾根上に東西に伸びる後期旧石器時代の遺跡範囲が確定されました。

水迫遺跡の発掘調査の成果は、わが国の集落の出現について大きな貢献をするものと確信するところです。

この報告書は、こうした水迫遺跡の発掘調査の結果を報告するものです。これが水迫遺跡の適切な保存・活用に役立てられることを願ってやみません。

水迫遺跡の大きな成果をあげることができましたのも、関係機関、各位の御理解と御協力のおかげと感謝申し上げる次第です。また、水迫集落の皆様の暖かい御協力を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

指宿市教育委員会
教育長 林 賢一郎

例 言

1. 本書は、平成13年9月10日から平成14年3月31日と、平成14年4月24日から平成15年3月20日まで実施した鹿児島県指宿市西方に所在する水迫遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国庫・県補助金・市単費を用いて、指宿市教育委員会が実施し、社会教育課文化係の下山 覚、中摩浩太郎、渡部徹也、鎌田洋昭がそれぞれ分担して担当した。
3. 平成13年度の調査費は3,500千円(国:1,750千円、県:875千円、市:875千円)で、平成14年度の調査費は、5,500千円(国:2,750千円、県:1,100千円、市:1,650千円)である。
4. 各調査の原図・製図作成者については、目次に記す。執筆は、中摩、渡部、鎌田が分担した。本文については文中末尾にそれぞれ文責を記す。本書の編集は、中摩、渡部、鎌田が行った。
5. 遺構検出状況や・出土遺物状況の写真撮影については、中摩、渡部、鎌田が行った。
6. 本書のレベルはすべて絶対高である。また、図中に用いられている座標値は国土座標系第Ⅸ系に準ずる。
7. 本発掘調査の基本測量については、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し、基本測量と空撮の協力を得た。
8. 本書の層位の色調表記は、特に断りのない場合は「標準土色帖」1990年版に基づくマンセル表色系によるが、必要に応じてCIEL*a*b*(CIE1976表色系:JISZ8729)あるいはRGB表色系などを用いている。
9. 遺物観察表、遺物実測図、遺構図の表記凡例は、下記及び、「橋牟礼川遺跡Ⅲ」(1992、指宿市教育委員会)に準ずる。
10. 本調査で得たすべての成果については、指宿市考古博物館 時遊館C O C C Oはしむれでこれを保存し、活用している。
11. 本報告書を作成するために使用したソフトウェアは以下のとおりである。
編集 QuarkExpress (Pantone, Inc), Excel2000 (MicroSoft, Inc), Paintshop Pro (Jasc Software, Inc)
図面作成 AutoCAD (Autodesk, Inc)
12. 発掘調査員(平成13・14年度)
吉元トシエ 吉元澄子 林山イネ 竹下カツエ 東 富子 池元ヨシエ 新小田千恵子 田野尻忠美
13. 室内整理員(平成13・14・15年度)
清 秀子 竹下珠代 有村尚子 下吹越美香 鮫島里奈 松山麻弥

表記凡例

〈表中表記凡例〉

土器の混和材[カ:角閃石,セ:石英,金:金ウンモ,白:白色粒,黒:黒色粒,赤:赤色粒]

遺物の色調[内面の色調:色内,外面の色調:色外,器肉の色調:色肉]

層位断面図中の記号[第14層ブロック:Y,第9層,及び第10層中の「斑」*:B 1,またはB 2[色調の違いで,明るいものをB 1,暗いものをB 2とした。色については各TabのL*a*b*値を参照]

※「斑」・・・第9層,第10層中に含まれる褐色土のブロックを示す。この褐色土のブロックの起源については、『水迫遺跡Ⅰ』の早田 勉(古環境研究所)「水迫遺跡の土層とテフラ」を参照されたい。

〈図中表記凡例〉

断面図の▼は遺構の立ち上がりを示す。また、○で囲んだ数値,例えば①,②などは測色の位置を示す。a,b,cなど小文字のアルファベットは,細分した埋土を示す。また,Rは樹木痕を示す。

石器実測図中の←→は,使用痕の範囲を示す。▼——▼は,磨面の範囲を示す。▼は想定される打面の位置を示す。石器が使用による破損あるいは切断が認められる場合は一印で推定復元した。さらに,実測図中の小文字a~fは,展開面を示す。

石器表裏面に見られる節理面は斜線で示し,自然面は細かな点で示した。

目次 CONTENTS

第一編 発掘調査編	1	①土器	73
		②石器	75
		③礫器	75
第1章 遺跡の環境	1	第6節 11トレンチの調査	93
第1節 水迫遺跡の立地	1	(1) 調査の経緯	93
第2節 周辺の遺跡と水迫遺跡	3	(2) 層位	95
第2章 発掘調査の経緯と組織	5	(3) 横転	102
第1節 発掘調査の経緯	5	(4) 縄文時代の遺物	103
第2節 発掘調査・報告書作成組織	6	①分布状況	103
第3章 発掘調査	7	②土器	103
第1節 調査区の設定	7	③石器	109
第2節 基本層序	9	(5) 後期旧石器時代の遺構	115
(1) 火山噴出物堆積層の概要	9	①遺構A	117
(2) 水迫遺跡標準土層	12	②遺構B	131
第3節 12トレンチの調査	15	③遺構C	150
(1) 層位	15	④遺構D	156
(2) 遺構	15	⑤遺構E	158
①第1層bの遺構	15	⑥ピット	160
②第1層eの遺構	15	⑦土坑	164
(3) 遺物	18	(i) 土坑①	164
第4節 13トレンチの調査	23	(ii) 土坑②	165
(1) 層位	23	(6) 後期旧石器時代の遺物	167
(2) 遺構	25	①第9層出土遺物	167
①第1層bの遺構	25	(i) 分布状況	167
②第1層gの遺構	25	(ii) 石器組成	167
③第5・6層の遺構	25	(iii) 石材組成	167
④第8層の遺構	25	(iv) 石器	169
⑤第9層の遺構	26	②遺構埋土出土遺物	175
(3) 遺物	30	(i) 石器	175
①土器	30	③第10層出土遺物	179
②礫器	33	(i) 分布状況	179
③石器	33	(ii) 石器組成	179
第5節 14トレンチの調査	55	(iii) 石材組成	179
(1) 層位	55	(iv) 石器	179
(2) 遺構	58	第7節 平成13・14年度の調査成果	193
①第1層dの遺構	58	第8節 第I調査区・西側拡張区検出の後期旧石器時代の遺構群について	195
②第1層gの遺構	58	第9節 水迫遺跡の保存処置について	214
(3) 遺物	71		

図版目次 FIGURES

Fig.1 水迫遺跡の位置(1/2,400,000・1/50,000)	(原:一, 製:室内整理員)	2
Fig.2 水迫遺跡の地形(1/5,000)	(原:一, 製:室内整理員)	2
Fig.3 水迫遺跡周辺の遺跡(1/50,000)	(原:下山, 製:室内整理員)	4
Fig.4 各調査区の位置(1/2,000)	(原:鎌田, 製:鎌田)	7
Fig.5 各時期の推定地形コンタ図(1/2,000)	(原:鎌田, 製:鎌田)	8
Fig.6 水迫遺跡の各地点の柱層図	(原:鎌田, 製:鎌田)	11
Fig.7 12トレンチ完掘状況図(S=1/100)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	15
Fig.8 12トレンチ東壁層位断面図(S=1/40)	(原:中摩・渡部, 製:室内整理員)	16
Fig.9 12トレンチ北壁層位断面図(S=1/40)	(原:中摩・渡部, 製:室内整理員)	17
Fig.10 12トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:埋文サポート, 製:埋文サポート)	19
Fig.11 12トレンチ出土土器実測図(S=1/3)	(原:渡部, 製:渡部・室内整理員)	20
Fig.12 13トレンチ完掘状況図(S=1/100)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	23
Fig.13 13トレンチ東壁・北壁層位断面図(S=1/60)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	24
Fig.14 13トレンチ第5・6層帰属のピット検出状況図(S=1/40)	(原:中摩, 製:室内整理員)	26
Fig.15 13トレンチ第5・6層の帰属のピット平面・断面図(S=1/20)	(原:中摩, 製:室内整理員)	27
Fig.16 13トレンチ第9層帰属のピット検出状況図(S=1/20)	(原:鎌田, 製:室内整理員)	28
Fig.17 13トレンチ第9層の帰属のピット平面・断面図(S=1/10)	(原:鎌田, 製:室内整理員)	29
Fig.18 13トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/120)	(原:埋文サポート, 製:埋文サポート)	30

Fig.19	13トレンチ弥生時代出土土器実測図①(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	32
Fig.20	13トレンチ弥生時代出土土器実測図②(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	34
Fig.21	13トレンチ弥生時代出土土器実測図③(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	35
Fig.22	13トレンチ弥生時代出土礫器実測図(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	38
Fig.23	13トレンチ弥生時代出土石器実測図(S=2/3・1/3)	(原:鎌田, 製:鎌田)	39
Fig.24	14トレンチ完掘状況図(S=1/100)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	55
Fig.25	14トレンチ西壁層位断面図(S=1/50)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	56
Fig.26	14トレンチ北壁層位断面図(S=1/50)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	57
Fig.27	14トレンチ中世ピット検出状況図(S=1/80)	(原:鎌田・埋文サポート, 製:室内整理員)	59
Fig.28	14トレンチ中世ピット平面・断面図①(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	60
Fig.29	14トレンチ中世ピット平面・断面図②(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	61
Fig.30	14トレンチ弥生時代ピット検出状況図(S=1/80)	(原:中摩・埋文サポート, 製:室内整理員)	63
Fig.31	14トレンチ第1層g帰属のピット平面・断面図①(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	64
Fig.32	14トレンチ第1層g帰属のピット平面・断面図②(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	65
Fig.33	14トレンチ第1層g帰属のピット平面・断面図③(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	66
Fig.34	14トレンチ第1層g帰属のピット平面・断面図④(S=1/20)	(原:中摩・鎌田, 製:室内整理員)	67
Fig.35	14トレンチ弥生時代炭化物平面・断面図(S=1/20)	(原:渡部・鎌田, 製:渡部)	70
Fig.36	14トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:埋文サポート, 製:埋文サポート)	71
Fig.37	14トレンチ弥生時代出土土器実測図①(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	72
Fig.38	14トレンチ弥生時代出土土器実測図②(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	74
Fig.39	14トレンチ弥生時代出土土器実測図③(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	76
Fig.40	14トレンチ弥生時代出土土器実測図④(S=1/3)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	77
Fig.41	14トレンチ弥生時代出土石器・礫器実測図(S=1/1・1/2)	(原:鎌田, 製:鎌田)	81
Fig.42	11トレンチ調査終了時状況図・セクション釘位置図(S=1/100)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	94
Fig.43	11トレンチ西壁層位断面図(S=1/80・1/40)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	96
Fig.44	11トレンチ東壁層位断面図(S=1/80・1/40)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	97
Fig.45	11トレンチ北壁層位断面図(S=1/80・1/40)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	98
Fig.46	11トレンチ中央ベルト層位断面図(S=1/20)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	99
Fig.47	11トレンチ横転1・2検出状況位置図(S=1/80)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	102
Fig.48	11トレンチ縄文時代出土土器実測図①(S=1/2)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	104
Fig.49	11トレンチ縄文時代出土土器実測図②(S=1/2)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	106
Fig.50	11トレンチ縄文時代出土土器実測図③(S=1/2)	(原:中摩・渡部, 製:中摩・渡部)	107
Fig.51	11トレンチ縄文時代出土石器実測図①(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	110
Fig.52	11トレンチ縄文時代出土石器実測図②(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	112
Fig.53	11トレンチ縄文時代出土石器実測図③(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	114
Fig.54	11トレンチ後期旧石器時代の遺構配置図(S=1/25)	(原:下山・中摩・渡部・鎌田, 製:中摩)	116
Fig.55	遺構A全体図・インデックス(Section:S=1/20, 中央平面図:S=1/40)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	118・119
Fig.56	遺構A-①層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	120
Fig.57	遺構A-②層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	121
Fig.58	遺構A-③層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	122
Fig.59	遺構A-④層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	123
Fig.60	遺構A-⑤層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	124
Fig.61	遺構A-⑥層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	125
Fig.62	遺構A-⑦層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	126
Fig.63	遺構A-⑧層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	127
Fig.64	遺構A-⑨層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	128
Fig.65	遺構A-⑩層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	129
Fig.66	遺構B全体図・インデックス(Section:S=1/20, 中央平面図:S=1/40)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	132・133
Fig.67	遺構B-①層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	134
Fig.68	遺構B-②層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	135
Fig.69	遺構B-③層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	136
Fig.70	遺構B-④層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	137
Fig.71	遺構B-⑤層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	138
Fig.72	遺構B-⑥層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	139
Fig.73	遺構B-⑦層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	140
Fig.74	遺構B-⑧層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	141
Fig.75	遺構B-⑨層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	142
Fig.76	遺構B-⑩層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	143
Fig.77	遺構B-⑪層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	144
Fig.78	遺構B-⑫層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	145
Fig.79	遺構B-⑬層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	146

Fig.80	遺構B-⑭層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	147
Fig.81	遺構B-⑮層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	148
Fig.82	遺構B-⑯層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	148
Fig.83	遺構C全体図・インデックス(Section:S=1/20, 平面図:S=1/40)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	151
Fig.84	遺構C-①層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	152
Fig.85	遺構C-②層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	154
Fig.86	遺構C-③層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	154
Fig.87	遺構C-④層位断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	154
Fig.88	遺構D全体図・インデックス・各断面図(Section:S=1/10, 平面図:S=1/40)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	157
Fig.89	遺構E全体図・インデックス・各断面図(Section:S=1/10, 平面図:S=1/40)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	159
Fig.90	11トレンチピット平面・断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	161
Fig.91	土坑①平面・断面図(S=1/10)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	164
Fig.92	土坑②平面・断面図(S=1/25)	(原:中摩・渡部・鎌田, 製:室内整理員)	165
Fig.93	11トレンチ第9層石器出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:埋文サポート, 製:埋文サポート)	168
Fig.94	11トレンチ第9層出土石器実測図①(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	170
Fig.95	11トレンチ第9層出土石器実測図②(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	172
Fig.96	11トレンチ遺構埋土層出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:埋文サポート, 製:埋文サポート)	176
Fig.97	11トレンチ遺構埋土層出土石器実測図(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	178
Fig.98	11トレンチ第10層出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)	(原:埋文サポート, 製:埋文サポート)	180
Fig.99	11トレンチ第10層出土石器実測図(S=1/1)	(原:鎌田, 製:鎌田)	182
Fig.100	水迫遺跡後期旧石器時代帰属の遺構群の広がり(S=1/2,000)	(原:鎌田, 製:鎌田)	194
Fig.101	第I調査区・西側拡張区の地層堆積状況図(S=1/20)	(原:埋文サポート, 製:室内整理員)	196
Fig.102	水迫遺跡後期旧石器時代石器群の組成図	(原:鎌田, 製:鎌田)	198
Fig.103	第I調査区・西側拡張区第9層出土遺物平面分布図(S=1/120)	(原:渡部, 製:渡部)	200
Fig.104	西側拡張区検出の1号炉跡平面・断面図(S=1/10)	(原:鎌田, 製:渡部)	201
Fig.105	西側拡張区第9層遺構外出土遺物平面・垂直分布図(S=1/50)	(原:渡部, 製:渡部)	204
Fig.106	西側拡張区第9層遺構外出土遺物・遺構埋土出土遺物平面・垂直分布図(S=1/50)	(原:鎌田, 製:鎌田)	206

表目次 TABLES

Tab.1	水迫遺跡周辺の遺跡	4	Tab.31	14トレンチ出土遺物台帳①	82
Tab.2	水迫遺跡の基本層序	10	Tab.32	14トレンチ出土遺物台帳②	83
Tab.3	12トレンチ出土遺物観察表	20	Tab.33	14トレンチ出土遺物台帳③	84
Tab.4	12トレンチ出土遺物台帳①	21	Tab.34	14トレンチ出土遺物台帳④	85
Tab.5	12トレンチ出土遺物台帳②	22	Tab.35	14トレンチ出土遺物台帳⑤	86
Tab.6	13トレンチ第5・6層帰属のピット法量表	26	Tab.36	14トレンチ出土遺物台帳⑥	87
Tab.7	13トレンチ第9層帰属のピット法量表	28	Tab.37	14トレンチ出土遺物台帳⑦	88
Tab.8	13トレンチ出土遺物観察表①	36	Tab.38	14トレンチ出土遺物台帳⑧	89
Tab.9	13トレンチ出土遺物観察表②	37	Tab.39	14トレンチ出土遺物台帳⑨	90
Tab.10	13トレンチ出土礫器・石器観察表	40	Tab.40	14トレンチ出土遺物台帳⑩	91
Tab.11	13トレンチ出土遺物台帳①	41	Tab.41	14トレンチ出土遺物台帳⑪	92
Tab.12	13トレンチ出土遺物台帳②	42	Tab.42	11トレンチ縄文時代出土石器観察表	108
Tab.13	13トレンチ出土遺物台帳③	43	Tab.43	11トレンチ縄文時代出土石器観察表	113
Tab.14	13トレンチ出土遺物台帳④	44	Tab.44	遺構A-①測色データ	120
Tab.15	13トレンチ出土遺物台帳⑤	45	Tab.45	遺構A-②測色データ	121
Tab.16	13トレンチ出土遺物台帳⑥	46	Tab.46	遺構A-③測色データ	122
Tab.17	13トレンチ出土遺物台帳⑦	47	Tab.47	遺構A-④測色データ	123
Tab.18	13トレンチ出土遺物台帳⑧	48	Tab.48	遺構A-⑤測色データ	124
Tab.19	13トレンチ出土遺物台帳⑨	49	Tab.49	遺構A-⑥測色データ	125
Tab.20	13トレンチ出土遺物台帳⑩	50	Tab.50	遺構A-⑦測色データ	126
Tab.21	13トレンチ出土遺物台帳⑪	51	Tab.51	遺構A-⑧測色データ	127
Tab.22	13トレンチ出土遺物台帳⑫	52	Tab.52	遺構A-⑨測色データ	128
Tab.23	13トレンチ出土遺物台帳⑬	53	Tab.53	遺構A-⑩測色データ	129
Tab.24	13トレンチ出土遺物台帳⑭	54	Tab.54	ピットと平面ラインの距離	130
Tab.25	14トレンチ中世ピット法量表	61	Tab.55	遺構B-①測色データ	134
Tab.26	14トレンチ弥生時代ピット法量表	68	Tab.56	遺構B-②測色データ	135
Tab.27	14トレンチ弥生時代出土遺物観察表①	78	Tab.57	遺構B-③測色データ	136
Tab.28	14トレンチ弥生時代出土遺物観察表②	79	Tab.58	遺構B-④測色データ	137
Tab.29	14トレンチ弥生時代出土遺物観察表③	80	Tab.59	遺構B-⑤測色データ	138
Tab.30	14トレンチ弥生時代出土石器・礫器観察表	81	Tab.60	遺構B-⑥測色データ	139

Tab.61	遺構B-⑦測色データ	140	Tab.77	土坑①・②法量表	166
Tab.62	遺構B-⑧測色データ	141	Tab.78	11トレンチ第9層出土石器組成表	173
Tab.63	遺構B-⑨測色データ	142	Tab.79	11トレンチ第9層出土石器観察表	174
Tab.64	遺構B-⑩測色データ	143	Tab.80	11トレンチ埋土層出土石器組成表	177
Tab.65	遺構B-⑪測色データ	144	Tab.81	11トレンチ遺構埋土層出土石器観察表	177
Tab.66	遺構B-⑫測色データ	145	Tab.82	11トレンチ第10層出土石器組成表	181
Tab.67	遺構B-⑬測色データ	146	Tab.83	11トレンチ第10層出土石器観察表	181
Tab.68	遺構B-⑭測色データ	147	Tab.84	11トレンチ出土遺物台帳①	183
Tab.69	遺構B-⑮測色データ	148	Tab.85	11トレンチ出土遺物台帳②	184
Tab.70	遺構C-①測色データ	152	Tab.86	11トレンチ出土遺物台帳③	185
Tab.71	遺構C-②測色データ	155	Tab.87	11トレンチ出土遺物台帳④	186
Tab.72	遺構C-③測色データ	155	Tab.88	11トレンチ出土遺物台帳⑤	187
Tab.73	遺構C-④測色データ	155	Tab.89	11トレンチ出土遺物台帳⑥	188
Tab.74	遺構D-①②・E-①測色データ	156	Tab.90	11トレンチ出土遺物台帳⑦	189
Tab.75	遺構E-②測色データ	158	Tab.91	11トレンチ出土遺物台帳⑧	190
Tab.76	ピット法量表	163	Tab.92	11トレンチ出土遺物台帳⑨	191

写真目次 Plates

Pl.1	水迫遺跡全景(西側から東側を望む)	1	Pl.42	14トレンチ中世ピット10・11号検出状況写真③	62
Pl.2	第I調査区全景(後期旧石器時代の遺構検出状況)	1	Pl.43	14トレンチ中世ピット15号検出状況写真④	62
Pl.3	12トレンチ完掘状況写真(南側より)	15	Pl.44	14トレンチ弥生時代ピット13号検出状況写真	68
Pl.4	12トレンチ第1層g出土遺物状況写真(北側より)	18	Pl.45	14トレンチ弥生時代ピット4号検出状況写真	68
Pl.5	12トレンチ東壁層位断面(一段目)状況写真①	18	Pl.46	14トレンチ弥生時代ピット20号検出状況写真	68
Pl.6	12トレンチ北壁層位断面(二・三段目)状況写真①	18	Pl.47	14トレンチ弥生時代ピット26号検出状況写真	68
Pl.7	12トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真②	18	Pl.48	14トレンチ弥生時代ピット15号検出状況写真	69
Pl.8	12トレンチ出土土器写真(外面)	20	Pl.49	14トレンチ弥生時代ピット14号検出状況写真	69
Pl.9	12トレンチ出土土器写真(内面)	20	Pl.50	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真①	69
Pl.10	13トレンチ完掘状況写真(南側より)	23	Pl.51	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真②	69
Pl.11	13トレンチ東壁層位断面(一～四段目)状況写真①	25	Pl.52	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真③	69
Pl.12	13トレンチ東壁層位断面(五段目)状況写真	25	Pl.53	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真④	69
Pl.13	13トレンチ北壁層位断面(一～四段目)状況写真①	25	Pl.54	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真⑤	70
Pl.14	13トレンチ北壁層位断面(五段目)状況写真②	25	Pl.55	14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真⑥	70
Pl.15	第5・6層のピット検出状況写真(南側より)	26	Pl.56	14トレンチ弥生時代遺物出状況(北東側より)	71
Pl.16	第5・6層のピット1号検出状況写真	27	Pl.57	14トレンチ弥生時代出土土器①写真(外面)	72
Pl.17	第5・6層のピット2号検出状況写真	27	Pl.58	14トレンチ弥生時代出土土器①写真(内面)	72
Pl.18	第5・6層のピット3号検出状況写真	27	Pl.59	14トレンチ弥生時代出土土器②写真(外面)	74
Pl.19	13トレンチ第9層ピット1号検出写真	29	Pl.60	14トレンチ弥生時代出土土器②写真(内面)	74
Pl.20	13トレンチ第9層ピット2号検出写真	29	Pl.61	14トレンチ弥生時代出土土器③写真(外面)	76
Pl.21	13トレンチ第9層ピット3号検出写真	29	Pl.62	14トレンチ弥生時代出土土器③写真(内面)	76
Pl.22	13トレンチ第9層ピット4号検出写真	29	Pl.63	14トレンチ弥生時代出土土器④写真(外面)	77
Pl.23	13トレンチ第9層ピット5号検出写真	29	Pl.64	14トレンチ弥生時代出土土器④写真(内面)	77
Pl.24	13トレンチ第1層g出土遺物状況写真(南側より)	30	Pl.65	14トレンチ弥生時代出土石器・礫器写真(表面)	81
Pl.25	13トレンチ弥生時代出土土器①写真(外面)	32	Pl.66	14トレンチ弥生時代出土石器・礫器写真(裏面)	81
Pl.26	13トレンチ弥生時代出土土器①写真(内面)	32	Pl.67	11トレンチ調査終了時状況写真(南側より)	93
Pl.27	13トレンチ弥生時代出土土器②写真(外面)	34	Pl.68	11トレンチ北壁・西壁層位断面状況写真 (平成13年度・東側より)	100
Pl.28	13トレンチ弥生時代出土土器②写真(内面)	34	Pl.69	11トレンチ西壁・南壁層位断面状況写真 (平成14年度・北側より)	100
Pl.29	13トレンチ弥生時代出土土器③写真(外面)	35	Pl.70	11トレンチ南壁層位断面(一段目)状況写真	100
Pl.30	13トレンチ弥生時代出土土器③写真(内面)	35	Pl.71	11トレンチ西壁層位断面(一段目)状況写真	100
Pl.31	13トレンチ出土礫器写真(表面)	38	Pl.72	11トレンチ南壁層位断面(二段目)状況写真	100
Pl.32	13トレンチ出土礫器写真(裏面)	38	Pl.73	11トレンチ南壁層位断面(二段目)状況写真	100
Pl.33	13トレンチ出土石器写真(表面)	39	Pl.74	11トレンチ南壁層位断面(三段目)状況写真	101
Pl.34	13トレンチ出土石器写真(裏面)	39	Pl.75	11トレンチ西壁層位断面(三段目)状況写真①	101
Pl.35	14トレンチ完掘状況写真(南側より)	55	Pl.76	11トレンチ西壁層位断面(三段目)状況写真②	101
Pl.36	14トレンチ東壁層位断面(一～三段目)状況写真①	58	Pl.77	11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真①	101
Pl.37	14トレンチ東壁層位断面(一・二段目)状況写真②	58	Pl.78	11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真②	101
Pl.38	14トレンチ北壁層位断面(一～三段目)状況写真①	58	Pl.79	11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真③	101
Pl.39	14トレンチ北壁層位断面(四段目)状況写真②	58	Pl.80	11トレンチ横転1検出状況写真(東側より)	102
Pl.40	14トレンチ中世ピット6号検出状況写真①	62			
Pl.41	14トレンチ中世ピット17号検出状況写真②	62			

Pl.81	11トレンチ横転2検出状況写真(北側より)	102	Pl.141	9号・10号ピット断面写真	163
Pl.82	11トレンチ第5・6層出土遺物状況写真(東側より)	103	Pl.142	土坑①平面写真	166
Pl.83	11トレンチ縄文時代出土土器①写真(外面)	104	Pl.143	土坑①断面写真(東側より)	166
Pl.84	11トレンチ縄文時代出土土器①写真(内面)	104	Pl.144	土坑②断面写真(東壁断面)	166
Pl.85	11トレンチ縄文時代出土土器②写真(外面)	106	Pl.145	11トレンチ第9層遺物出土状況写真①	167
Pl.86	11トレンチ縄文時代出土土器②写真(内面)	106	Pl.146	11トレンチ第9層遺物出土状況写真②	167
Pl.87	11トレンチ縄文時代出土土器③写真(外面)	107	Pl.147	11トレンチ第9層出土土器①写真(表面)	170
Pl.88	11トレンチ縄文時代出土土器③写真(内面)	107	Pl.148	11トレンチ第9層出土土器①写真(裏面)	170
Pl.89	11トレンチ縄文時代出土土器①写真(表面)	110	Pl.149	11トレンチ第9層出土土器②写真(作業面)	172
Pl.90	11トレンチ縄文時代出土土器①写真(裏面)	110	Pl.150	11トレンチ第9層出土土器②写真(打面)	172
Pl.91	11トレンチ縄文時代出土土器②写真(表面)	112	Pl.151	11トレンチ遺構埋土層出土状況写真	175
Pl.92	11トレンチ縄文時代出土土器②写真(裏面)	112	Pl.152	11トレンチ遺構埋土層出土土器写真(表面)	178
Pl.93	11トレンチ縄文時代出土土器③写真(表面)	114	Pl.153	11トレンチ遺構埋土層出土土器写真(裏面)	178
Pl.94	11トレンチ縄文時代出土土器③写真(裏面)	114	Pl.154	11トレンチ第10層出土土器写真(表面・作業面)	182
Pl.95	11トレンチ後期旧石器時代遺構検出状況写真①	115	Pl.155	11トレンチ第10層出土土器写真(裏面・打面)	182
Pl.96	11トレンチ後期旧石器時代遺構検出状況写真②	115	Pl.156	1号竪穴建物跡検出直後の写真	208
Pl.97	遺構A—東辺検出状況スナップ写真	117	Pl.157	1号竪穴建物跡ラインあり写真	208
Pl.98	遺構A—①層位断面写真	120	Pl.158	西側拡張区落ち込み検出直後の写真	208
Pl.99	遺構A—②層位断面写真	121	Pl.159	西側拡張区落ち込み断面確認写真	208
Pl.100	遺構A—③層位断面写真	122	Pl.160	西側拡張区南側平面確認写真	208
Pl.101	遺構A—④層位断面写真	123	Pl.161	6号竪穴建物立ち上がり状況	208
Pl.102	遺構A—⑤層位断面写真	124	Pl.162	6号竪穴建物立ち上がり状況	212
Pl.103	遺構A—⑥層位断面写真	125	Pl.163	6号竪穴建物立ち上がり画像解析	212
Pl.104	遺構A—⑦層位断面写真	126	Pl.164	水迫遺跡の層序	212
Pl.105	遺構A—⑧層位断面写真	127	Pl.165	道跡A検出状況	212
Pl.106	遺構A—⑨層位断面写真	128	Pl.166	道跡B検出状況	212
Pl.107	遺構A—⑩層位断面写真	129	Pl.167	第I調査区・西側拡張区遺構所在地確認用のピンボール位置写真	215
Pl.108	遺構B—①層位断面写真	134	Pl.168	埋め戻し作業状況写真①	216
Pl.109	遺構B—①層位断面解析画像	135	Pl.169	埋め戻し作業状況写真②	216
Pl.110	遺構B—②層位断面写真	135	Pl.170	埋め戻し作業状況写真③	216
Pl.111	遺構B—③層位断面写真	136	Pl.171	埋め戻し作業状況写真④	216
Pl.112	遺構B—④層位断面写真	137	Pl.172	埋め戻し作業状況写真⑤	216
Pl.113	遺構B—⑤層位断面写真	138	Pl.173	埋め戻し作業状況写真⑥	216
Pl.114	遺構B—⑥層位断面写真	139	Pl.174	埋め戻し作業状況写真⑦	217
Pl.115	遺構B—⑦層位断面写真	140	Pl.175	埋め戻し作業状況写真⑧	217
Pl.116	遺構B—⑧層位断面写真	141	Pl.176	埋め戻し作業状況写真⑨	217
Pl.117	遺構B—⑨層位断面写真	142	Pl.177	埋め戻し作業状況写真⑩	217
Pl.118	遺構B—⑩層位断面写真	143	Pl.178	埋め戻し作業状況写真⑪	217
Pl.119	遺構B—⑪層位断面写真	144	Pl.179	埋め戻し作業状況写真⑫	217
Pl.120	遺構B—⑫層位断面写真	145	Pl.180	埋め戻し作業状況写真⑬	218
Pl.121	遺構B—⑬層位断面写真	146	Pl.181	埋め戻し作業状況写真⑭	218
Pl.122	遺構B—⑭層位断面写真	147	Pl.182	埋め戻し作業状況写真⑮	218
Pl.123	遺構B—⑮層位断面写真	148	Pl.183	埋め戻し作業状況写真⑯	218
Pl.124	遺構B—⑰層位断面写真	148	Pl.184	埋め戻し作業状況写真⑰	218
Pl.125	遺構C—①層位断面写真	152	Pl.185	埋め戻し作業状況写真⑱	218
Pl.126	遺構C—②層位断面写真	155			
Pl.127	遺構C—③層位断面写真	155			
Pl.128	遺構C—③層位断面解析画像	155			
Pl.129	遺構C—④層位断面写真	155			
Pl.130	遺構D—①層位断面写真	157			
Pl.130-2	遺構D—②層位断面写真	157			
Pl.131	遺構E—①層位断面写真	158			
Pl.132	遺構E—②層位断面写真	158			
Pl.133	1号ピット断面写真	162			
Pl.134	2号ピット断面写真	162			
Pl.135	3号ピット断面写真	162			
Pl.136	4号ピット断面写真	162			
Pl.137	5号ピット断面写真	162			
Pl.138	6号ピット断面写真	162			
Pl.139	7号ピット断面写真	163			
Pl.140	8号ピット断面写真	163			

水迫遺跡発掘調査報告編

第一編 発掘調査編

第1章 遺跡の環境

第1節 水迫遺跡の立地

水迫遺跡は、指宿市西方水迫に所在する遺跡で、標高約126mの尾根上に位置する。池田湖からは直線距離で約1.2kmと近い。池田湖と水迫遺跡の間には、約5万年前に活動していた清見岳があり、清見岳から延びる裾野上に水迫遺跡が所在する尾根がある (Fig.1)。

現在確認できる立地状況は、次のとおりである。尾根は、ほぼ東西方向に伸びており、南方は急激な傾斜をなし、深い谷地形を形成する。この谷では、近年まで湧水地があり、水迫集落に生活用水を供給していたという。北方は、畑が広がり、水迫遺跡から約100mほどで急傾斜面が変わる (Fig.2)。北側は土地改良が一部行なわれて平坦地があるものの別の谷地形が控えている。

水迫遺跡の現地地形は、池田カルデラ噴出物の埋積とその後の侵食作用によって、池田カルデラ噴出以前の旧地形と比較するとかなり変化している状況が窺える。実際、第I調査区・西側拡張区と11トレンチの地権者に聞き取り調査をした結果、2筆とも現在よりも2～5m以上も高い丘 (尾根の頂上部) の地形であり、その丘を3m程削平し、かつ東側の土地はさらに2m程土取りし東側の土地と段差をつけたとのことであった。



PI.1 水迫遺跡全景(西側から東側を望む)

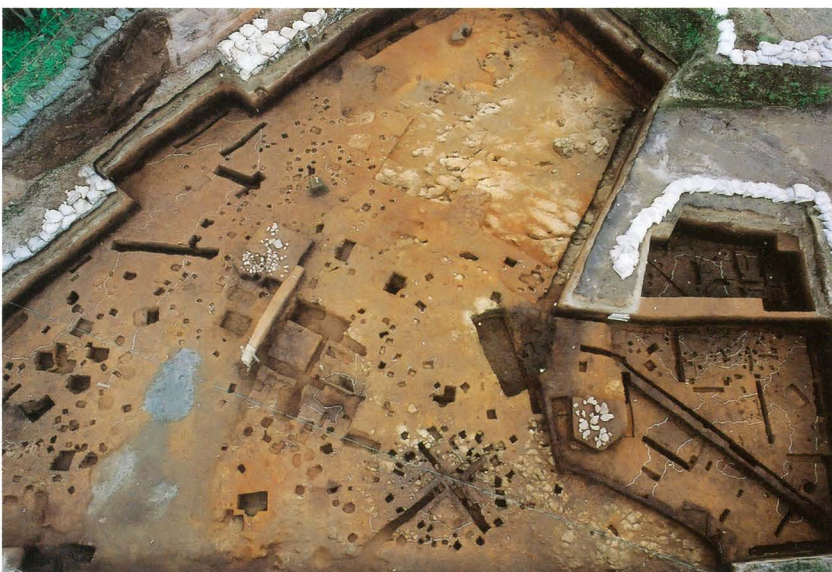
11トレンチの西側層位断面図 (Fig.43) に、第2層を斜めに断ち切るように第1層が斜堆積していることと、1トレンチの北側への斜面地の確認から、削平以前の旧地形が丘のような地形であったことが推定できる。また、その尾根の頂上部である丘は、13・14トレンチを設定した西側の方まで延びていたものと考えられる。また、調査の結果、13・14トレンチの部分も削平を行っていたことが判明した。

この尾根状の地形の基盤は、第14・15層の宿利原火山灰と第16～19層までの清見岳の噴出物であり、その後の侵食によって地形が形成されているものと考えられる。

Fig.5に示しているとおり、後期旧石器時代と縄文時代早期、弥生時代中期の各時代・時期の旧地形を比較してみると、基本的な尾根の位置と南側の谷地形は変わらない。しかし、池田カルデラ噴出物の埋積とその後の侵食作用によって、12・13・14トレンチの北側部分の傾斜地の位置が現在の平坦地部分にまで入り込んでいることから、池田カルデラ噴出物の侵食が著しかったことが窺える。

したがって、水迫遺跡では、清見岳の活動で形成された基本的な尾根地形上にさまざまな層が堆積したが、池田カルデラ噴出物の埋積と後の侵食により大きく地形が変化し、さらに現在の削平により平坦な畑地に至るという履歴を有していることがわかる。

(文責 鎌田)



PI.2 第I調査区全景(後期旧石器時代の遺構検出状況)

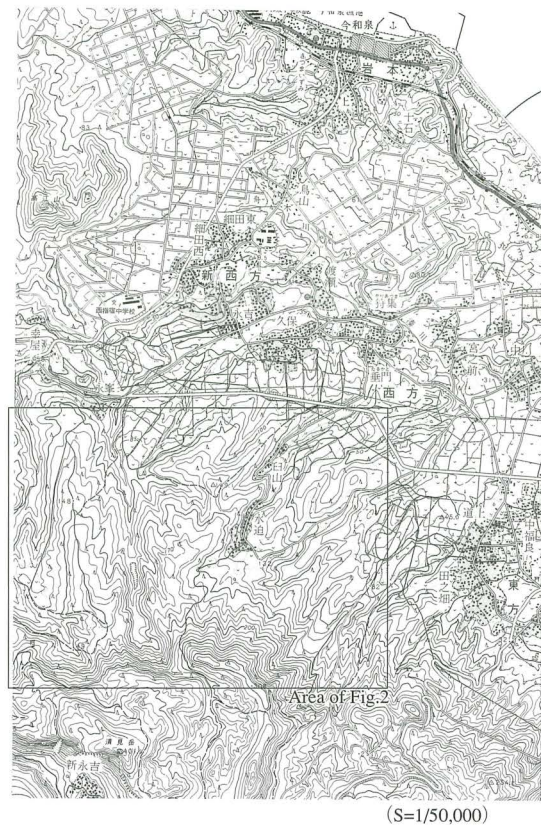
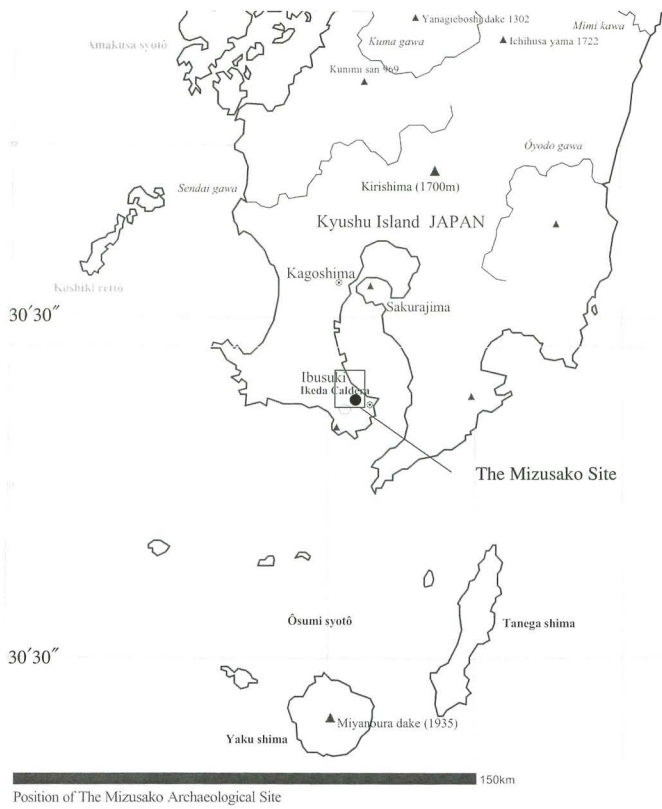


Fig.1 水迫遺跡の位置(1/2,400,000・1/50,000)

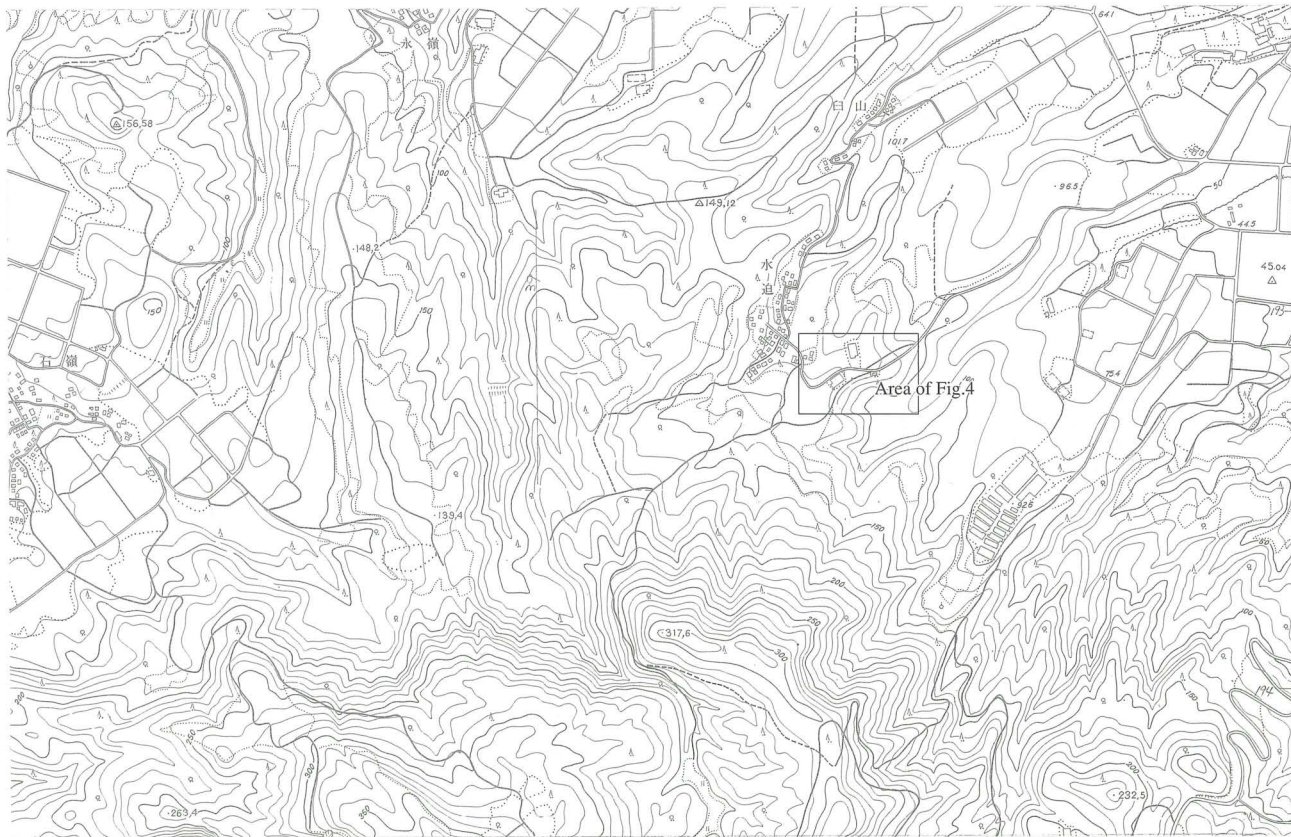


Fig.2 水迫遺跡の地形(1/5,000)

第2節 周辺の遺跡と水迫遺跡

水迫遺跡は、平成5年度に実施しているサンオーシャン・リゾート計画に伴う鹿児島県教育委員会文化財課が実施した分布調査成果に基づき周知された遺跡である。平成8年度に、広域農道建設に伴う確認調査が実施され、その際、縄文早期の土器、石鏃、石斧、集石、ナイフ形石器などが発見された。このことを受けて、平成11年5月より、対象地1,400㎡の内、340㎡の発掘調査が実施された⁽¹⁾。

水迫遺跡の周辺には、平成8年度に行われた中尾迫遺跡があり、ここでは、弥生時代の土器焼成土壌などが発見されている。また、水迫遺跡より、やや標高の下がる侵食台地では、鳥山遺跡群の中の西原迫遺跡⁽²⁾の所在する十石台地があり、ここでは縄文時代末から弥生時代前期にいたる資料が出土している。

十石台地の北側に隣接して、岩本式土器⁽³⁾の標識遺跡として知られている岩本遺跡⁽⁴⁾の所在する岩本台地がある。また、さらに北の小牧台地に所在する小牧第Ⅱ遺跡群⁽⁵⁾ではナイフ形石器などが出土した露重遺跡などがあり、鹿児島県における後期旧石器時代の遺跡の存在する代表的な地域として知られている。

岩本遺跡の発掘調査は、昭和51、52年の二ヵ年にわたり発掘調査が行われた遺跡で、貝殻文系円筒形土器の最古形態として評価される岩本式土器の標識遺跡である。岩本遺跡の発掘調査は県営畑地帯総合土地改良事業に伴って発掘調査が実施されたが、平成11年度にNTT Docomoの中継施設建設に伴う発掘調査も行われ、良好な状態で遺跡が残存していることが確認されている。

岩本遺跡の発掘調査では、縄文時代早期の土器や石器資料が蓄積されたが、それらは、上野原遺跡(約9,500年前)に先立つおよそ10,000年ほど前の遺跡である。そして水迫遺跡では、この岩本式土器に先行すると考えられる水迫式土器が発見されている。また、隆帯文土器と呼ばれる11,400年以前の土器も同時に発見されている。

このような資料の蓄積によって、旧石器時代から縄文時代への文化変遷の姿が次第に具体的に示されるようになってきた。岩本遺跡の成果は、このような問題意識を生み出すきっかけとなった遺跡である。

小牧遺跡は、包括名で、指宿市小牧の北西および南西に広がる台地上に立地する。小牧3A遺跡は、昭和51年に県営畑地帯総合土地改良事業に伴い発掘調査された遺跡であるが、その位置は、現在の小牧台地より、ひとつ隔てた岩本台地にあり、現在の指宿商業のグラウンドの上の台地が該当する。

また、小牧第Ⅱ調査区は、県営畑地帯総合土地改良事業小牧工区の対象エリア65ヘクタールが該当し、昭和53年に確認調査が行われた。その中で、遺跡は9地点に分けられ、51ヶ所のトレンチが設けられ調査された。その結果、5地点が遺跡として確認されたものである。発掘調査は、昭和53年度に実施されており、出水迫、中尾、尾越・堀添、露重、小久保などの地点で遺跡が確認された。小牧遺跡という名称は、この二つの調査をまとめて包括的に用いられることがあるが、基本的に位置が全く異なっていることに注意しなければならない。

さて、この二つの発掘調査ともに、南部九州では事例の少なかった旧石器時代、特に、ナイフ形石器や台形石器などが多量に出土し、南部九州の代表的な旧石器時代遺跡として評価された。

小牧3A遺跡の発掘調査においては、剥片尖頭器、三稜尖頭器、ナイフ形石器、台形石器、スクレイパーなどが豊富に出土した。このような良好な資料が数量的にも多く出土した事例は当時はきわめて稀であった。それら資料については、まさに、始良カルデラの噴火(24,000年程前)によって堆積した堆積物、いわゆるシラスの上から出土した一群の石器であり、南部九州における細石刃文化の出現以前の後期旧石器時代の代表的な遺跡と評価された。

そして、昭和51年から、研究の深化に伴い、例えば、ナイフ形石器や台形石器などの微細な観察に基づいて分類され、小牧3A遺跡の石器群もいくつかの石器組成の段階に分離できることが判明しつつある。

小牧第Ⅱ遺跡群のある小牧台地と侵食谷をはさんで、喜入町側は、帖地と呼ばれ、AT下位の石器群が多く発見された帖地遺跡がある。帖地遺跡では、概ね4つの時期の文化層が確認されている。

第一文化層は、細石刃を主体とする文化層で木葉形の石槍、石鏃、局部磨製石斧などが礫群などと同一レベルで出土しているという。また、第二文化層は、三稜尖頭器と両面加工尖頭器が主体となっている。第三文化層は、剥片尖頭器と台形石器が主体隣、露重遺跡との対比が可能であろう。さらに、第四文化層はAT回の石器群でナイフ形石器、台形石器などが主体と成っている。この中で、水迫遺跡の古い様相の細石器文化の包含層は見られず、該当時期の資料は認められないことから、水迫遺跡の石器群の評価を含め、帖地遺跡の第一文化層と第二文化層との間隙に位置する可能性が高い。

喜入町、指宿市の標高100m以上の台地では、このように、後期旧石器時代の良好な遺跡が散在しており、AT前後のナイフ形石器から細石器までの文化解明に絶好の遺跡が存在しているといえよう。

(「水迫遺跡Ⅱ」より転載)

- (1) 指宿市教育委員会 1999 p1-p4 水迫遺跡の概要、第6回企画展示「ドキドキ縄文さがし展」図録、指宿市教育委員会
- (2) 鹿児島県教育委員会 1980 p36-p55 鳥山調査区-西原迫遺跡 西原迫遺跡 早馬迫遺跡 その他、鹿児島県指宿市教育委員会
- (3) 下山覚・鎌田洋昭 1999 p12-p15 水迫式土器の設定、第6回企画展示「ドキドキ縄文さがし展」図録、指宿市教育委員会
- (4) 指宿市教育委員会 1978 岩本遺跡、指宿市教育委員会
- (5) 指宿市教育委員会 1979 小牧第Ⅱ調査区-出水迫遺跡 中尾迫遺跡 尾越・堀添遺跡 露重遺跡 小久保遺跡、鹿児島県指宿市教育委員会

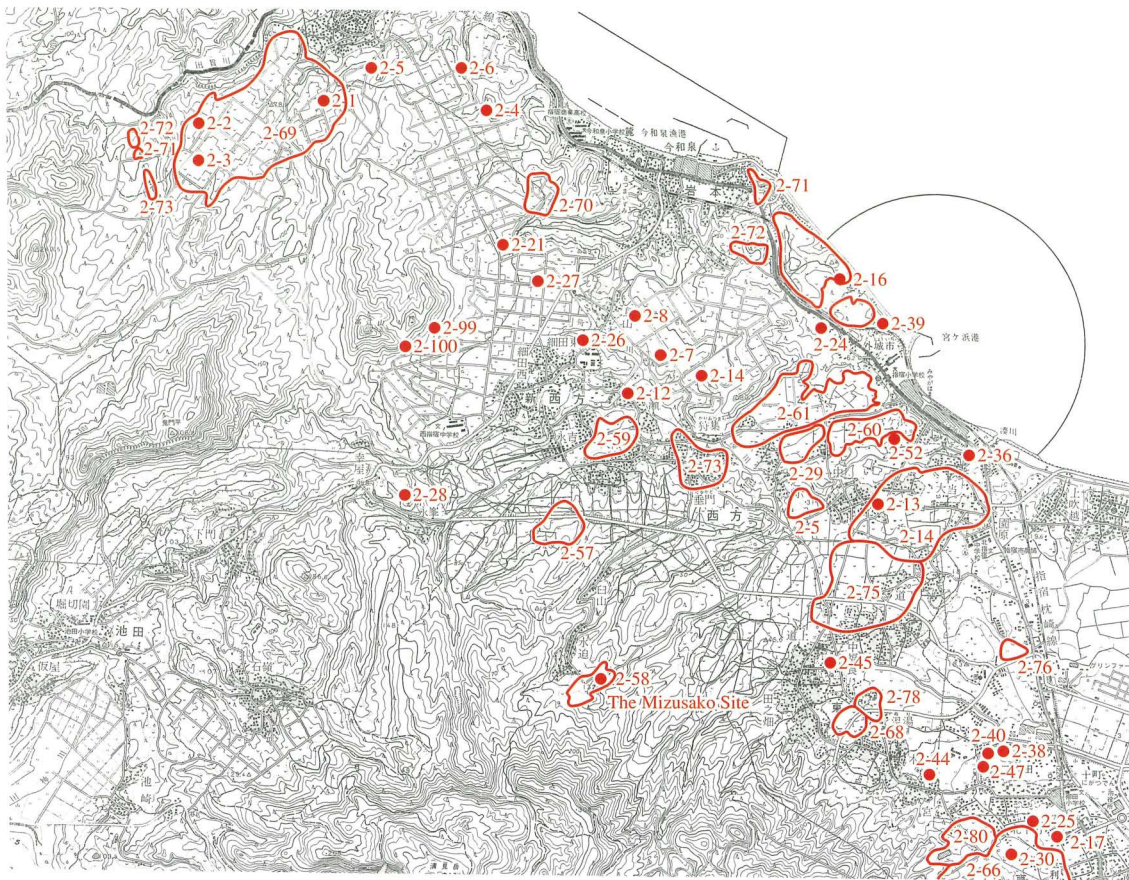


Fig.3 水迫遺跡周辺の遺跡(1/50,000)

遺跡番号	遺跡名	所在地	地形	時代	調査履歴
2-58	水迫	西方字水迫	丘陵	旧石器時代・縄文	平成11・12・13・14年度
2-1	露重	小牧字露重	台地	旧石器	昭和53年度
2-2	尾越・堀添	小牧字尾越・堀添	台地	旧石器	昭和53年度
2-3	中尾	小牧字中尾	台地	旧石器	昭和53年度
2-4	小牧ⅢA	岩本	台地	旧石器・縄文	昭和51年度
2-5	小久保	小牧字小久保	台地	旧石器・縄文	昭和53年度
2-6	岩本	小牧	台地	旧石器・縄文	昭和52年度
2-69	小牧	小牧字西出水迫他	台地	旧石器・縄文・古墳・中世	昭和53年度
2-70	岩本Ⅰ	岩本麓上門之口西平	台地	縄文・古墳	昭和52年度
2-21	鳥山	新西方鳥山	台地	古墳・古代・中世	市誌
2-27	細田東後	新西方細田東後	台地	古代・中世	
2-26	舟木	新西方舟木	台地	古代・中世	
2-7	西原道畑	新西方西原道畑	台地	縄文・弥生	昭和54年度
2-8	西原迫	新西方西原迫	台地	縄文・弥生	
2-12	渡瀬	新西方渡瀬	台地	縄文	日本考古学報告5
2-14	早馬迫	新西方早馬迫	台地	縄文・弥生	昭和54年度
2-99	宮尻平	新西方宮尻平	台地	古墳・古代・中世	
2-100	高江山麓	岩本高江山麓	斜面	弥生・古墳	
2-71	景色ヶ鼻	岩本景色ヶ鼻	台地	古墳・古代	
2-72	十石	西方十石十石原他	台地	古墳	
2-16	尾長谷迫	西方尾長谷迫	海岸段丘	古墳・古代・中世	昭和60年度
2-24	外城市	西方外城市	海岸段丘	弥生	
2-39	松尾城	西方	海岸段丘	中世	
2-61	佐貫原	西方佐貫原	台地	古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分布調査
2-60	弓場	西方宮之前弓場	台地	古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分布調査
2-52	長勝院跡	西方宮之前	斜面	中世	市指定文化財
2-29	宮之前	西方宮之前	台地	弥生・古墳・古代	昭和53年度
2-36	湊川橋	西方宮ヶ浜	河川	近世	市指定文化財
2-13	中川	西方中川	台地	縄文・弥生	
2-74	大園原	西方大当大園原	台地	縄文	
2-75	道下	西方道下	台地	古墳	
2-76	田口田	西方二月田田口田	微高地		
2-45	上西園	東方	微高地	民俗文化財	市指定文化財
2-78	野間	西方道下野間	台地		平成2年度
2-68	中島ノ下	中福良中島ノ下	微高地	古墳・近世	市指定文化財
2-44	島津掘井碑	東方	微高地	近世	市指定文化財
2-40	湯権現	西方	台地	近世	市指定文化財
2-38	殿様湯跡	西方	微高地	近世	市指定文化財
2-47	揖宿神社田の神	東方	微高地	民俗文化財	市誌
2-25	久玉神社	十町	微高地	弥生	市誌
2-17	指宿高校校庭	十町	微高地	弥生	
2-80	松ヶ迫	西方松ヶ迫	微高地	弥生・古墳	
2-66	上玉利Ⅱ	東方玉利上玉利	丘陵	弥生・古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分布調査
2-30	光明寺跡	十町迫田	台地	中世	市誌
2-59	久保	西方字久保	台地	縄文・古墳	サンオーシャンリゾート分布調査
2-73	狩集	西方字狩集	台地	古墳	
2-57	中尾迫	西方字中尾迫	丘陵	弥生	平成9年度発掘調査
2-28	幸屋	新西方幸屋	台地	古墳・古代・中世	サンオーシャンリゾート分布調査
2-73	土愛喜	小牧字土愛喜	丘陵	縄文時代	平成11年度分布・確認調査
2-71	多羅ヶ迫	小牧字多羅ヶ迫	谷地	中世	平成13年度
2-72	西多羅ヶ迫	小牧字西多羅ヶ迫	丘陵	旧石器・縄文・中世	平成14・15年度

Tab.1 水迫遺跡周辺の遺跡

第2章 発掘調査の経緯と組織

第1節 発掘調査の経緯

水迫遺跡は、平成5年度に鹿児島県が実施するサン・オーシャンリゾート開発に伴い、鹿児島県文化財課による分布調査が実施しされ、弥生時代等の土器片が表面採集された。そして、弥生時代の遺物散布地として周知化された。

平成8年度に、指宿市教育委員会が鹿児島県耕地事務所と委託契約し、広域農道建設に伴う確認調査が実施された。その結果、縄文時代早期の岩本式土器や石斧などが出土し、広域農道予定路内の地下に遺物包含層があることが確認された。

その後の協議の結果、平成11年度に約1,400m²の対象地域（市道を挟み南側を第Ⅰ調査区、北側を第Ⅱ調査区と仮称）の発掘調査を指宿市教育委員会が行うこととなった。平成11年度の調査成果は大きく3つ挙げられる。

①後期旧石器時代の遺構群の発見

第Ⅰ調査区の第14層（宿利原火山灰ローム層）上面で、第9層（ナイフ形石器文化終末期～細石刃文化初期）に帰属すると考えられる竪穴建物跡、道跡、ピットと石器分布によって構成される遺構群が発見された。

②縄文時代草創期の「水迫式土器」の出土と型式設定

サツマ火山灰を混在する第7層中から、隆帯文土器と貝殻文系円筒形土器との型式学的なヒアタスを埋める土器が発見された。その土器を「水迫式土器」と命名した。層位学的方法により、隆帯文土器と水迫式土器は、同一層に包含され、貝殻文系円筒形土器の最古形態とされる岩本式土器は、その上位層から確認されたことから、隆帯文土器から水迫式土器、そして貝殻文系円筒形土器への型式変遷の組列はほぼ正しいものであることが確認された。

③弥生時代の生活域の発見

標高120mを越す尾根上の広い範囲において、弥生時代中期（入来Ⅱ式土器・山之口式土器）の遺物包含層と柱穴等の遺構が検出された。

平成12年度は、国庫・県費補助金による第Ⅰ調査区の後期旧石器時代の遺構群の広がり、内容確認を目的とした確認調査を実施した。その結果、第Ⅰ調査区の西側隣接地（西側拡張区）から竪穴建物跡5基、道跡2条、炉跡2基、土坑、ピット、石器分布が検出され、遺構群が西側に広がっていることが確認された。合わせて、市道を挟んだ第1トレンチでは、北側への急斜面が検出され、後期旧石器時代の遺構群が幅約16mの尾根上の南側平坦地と緩やかな傾斜地に造られていることが確認された。

同年には、水迫遺跡の保存を目的とし、広域農道の迂回予定路を検討。この基礎情報入手のため、鹿児島県耕地事務所と委託契約を締結し、広範囲に遺跡の有無を目的として3～10トレンチを設定し、確認調査を実施した。その結果、第Ⅰ調査区の東側には遺跡が広がっていないことが確認された。

平成13年度は、後期旧石器時代の遺構群の広がり、内容確認を目的として、11・12・13トレンチを設定し、確認調査を実施した（文化庁補助事業）。11トレンチでは、後期旧石器時代に帰属する竪穴建物跡と考えられる遺構が検出された。12・13トレンチでは、弥生時代中期の遺物包含層が確認された。

平成14年度は、遺構が検出された11トレンチの西側を拡張し、継続調査を実施した。また、14トレンチでは弥生時代中期の遺物包含層が確認された。

平成12年度以降の確認調査成果では、上記した平成11年度の調査成果以外に、中世・弥生時代後期・縄文時代中期の遺物包含層や柱穴、土坑などの遺構が確認された。

また、これまでの確認調査の結果、水迫遺跡は、中世、弥生時代後期・中期（入来Ⅱ式土器・山之口式土器）、縄文時代中期（春日式土器）・早期（岩本式土器・前平式土器・轟式土器）、草創期（水迫式土器・隆帯文土器）、後期旧石器時代第9層石器群（ナイフ形石器文化～細石刃文化）・第10層石器群（ナイフ形石器文化）・第12・13層石器群（ナイフ形石器文化：AT下位）の遺物包含層が確認され、県内でも希少な複合遺跡（4時代9時期）であることが分かった。

平成11年度から平成14年度までの継続調査によって、第Fig.100図の範囲のように後期旧石器時代の遺構群の範囲が確認された。

本発掘調査報告書は、平成13・14年度の国庫・県費補助金による11・12・13・14トレンチの確認調査成果の報告である。

（文責 鎌田）

第2節 発掘調査・報告書作成組織

水迫遺跡の発掘調査（平成13・14年度）と報告書作成（平成15年度）の組織は、以下のとおりである。

発掘調査・報告書作成主体	指宿市教育委員会		
発掘調査責任者	指宿市教育委員会	教 育 長 （～2003.8.10） 同 上 （2003.9.22～）	山下 隼雄 林 賢一郎
発掘調査担当者	指宿市教育委員会	教 育 次 長 （～2002.3.31） 同 上 （2002.4.1～）	田之畑正志 堀口健一郎
	指宿市教育委員会	社会教育課長 （～2002.3） 同 上 （2002.4.1～） 社会教育係長 （～2003.3.31） 同 上 （2003.4.1～） 派遣社会教育主事 （～2003.3.31） 同 上 （2003.4.1～） 社会教育係主事 同 上 （～2003.3.31） 文化係長 （～2002.3.31） 同 上 （2002.4.1～） 文化係主査 （～2003.3.31） 同 上 （2002.4.1～） 同 上 文化係主事補 （2003.4.1～）	山崎 忠明 久保憲一郎 川畑 忠晴 臼山 尚人 下南 達朗 井上 智司 坂元 智博 岩下まり子 小村 重志 枝田 富雄 前原 寿 東中川睦子 福永 清子 吹留 義輝
発掘調査担当		文化係主査 （～2003.3.31） 同 上 同 上 文化係主事	下山 覚 中摩浩太郎 渡部 徹也 鎌田 洋昭
発掘調査指導者	平成13・14年度	文化庁記念物課調査官 国学院大学教授 別府大学教授 岡山大学教授 東京大学助教授 鳥取環境大学助教授 鹿児島国際大学教授 鹿児島国際大学教授 鹿児島県教育委員会文化財課文化財主事 鹿児島県立埋蔵文化財センター調査課長 鹿児島県立埋蔵文化財センター文化財主事 鹿児島県立埋蔵文化財センター文化財主事 奈良国立文化財研究所 東京農工大学大学院	加藤 真二 小林 達雄 橋 昌信 稲田 孝司 佐藤 宏之 浅川 滋男 上村 俊雄 中園 聡 井上 秀文 新東 晃一 宮田 栄二 前迫 亮一 宮路 淳子 須永 薫子

第3章 発掘調査

第1節 調査区の設定

水迫遺跡は、平成5年度に鹿児島県が実施するサン・オーシャンリゾート開発に伴い、鹿児島県文化財課による分布調査が実施され、弥生時代等の土器片が表面採集された。そして、弥生時代の遺物散布地として周知化された。

平成8年度に、指宿市教育委員会が広域農道建設に伴う確認調査を実施し、その際、現在の第I調査区に設定した2ヶ所のトレンチから縄文時代早期の岩本式土器、石斧などが出土し、縄文時代早期の遺物包含層が広域農道予定路の地下にあることが確認された。

平成11年度には、広域農道予定路内で買収が完了している地域に第I調査区と第II調査区を設定し発掘調査を実施した。道路予定地における工事区域の形態に沿って設定されたため、道路及び、交差点隅切部分の発掘調査となっている。

平成12年度は、平成11年度調査成果に基づき、国庫・県費補助金を用いて次の調査区を設定し、後期旧石器時代の遺構群の広がりとその内容確認を目的とした確認調査を実施した。第I調査区の西側隣接地に西側拡張区を、第I調査区の北側に1トレンチと2トレンチを設定した。

合わせて、鹿児島耕地事務所と委託契約を締結して、水迫遺跡の保存を目的として広域農道迂回路候補の確定のための遺跡の有無調査を実施した。その際に、3・4・5・6・7・8・9トレンチを設定した。

平成13年度には、第I調査区と西側拡張区の西側に後期旧石器時代の遺構群が広がっているかを目的として、11・12・13トレンチを設定して確認調査を実施した。

平成14年度には、前年度の11トレンチを南側に拡張して継続調査を実施した。また、周知の遺跡の範囲内での最も西側に位置する所に14トレンチを設定して遺構群の広がりを目的とした確認調査を実施した。

11トレンチは、拡張し最終的には13×15の規模となり、縄文時代早期・草創期と第9層の遺物包含層の調査後、第10層上面で第9層等を埋土とする方形状の遺構と考えられるものを検出した。

12トレンチでは、弥生時代中期の遺物包含層と北側への傾斜面を確認した。その後、約6m以上の池田カルデラ噴出物層と二次堆積層を重機で除去し縄文時代と後期旧石器時代の遺物包含層の探査を行なった。

13トレンチと14トレンチでは、中世と弥生時代中期の遺物包含層を確認した。その後、段掘りを行いながら後期旧石器時代の遺物包含層の有無と遺構探査を行った。

(文責 鎌田)

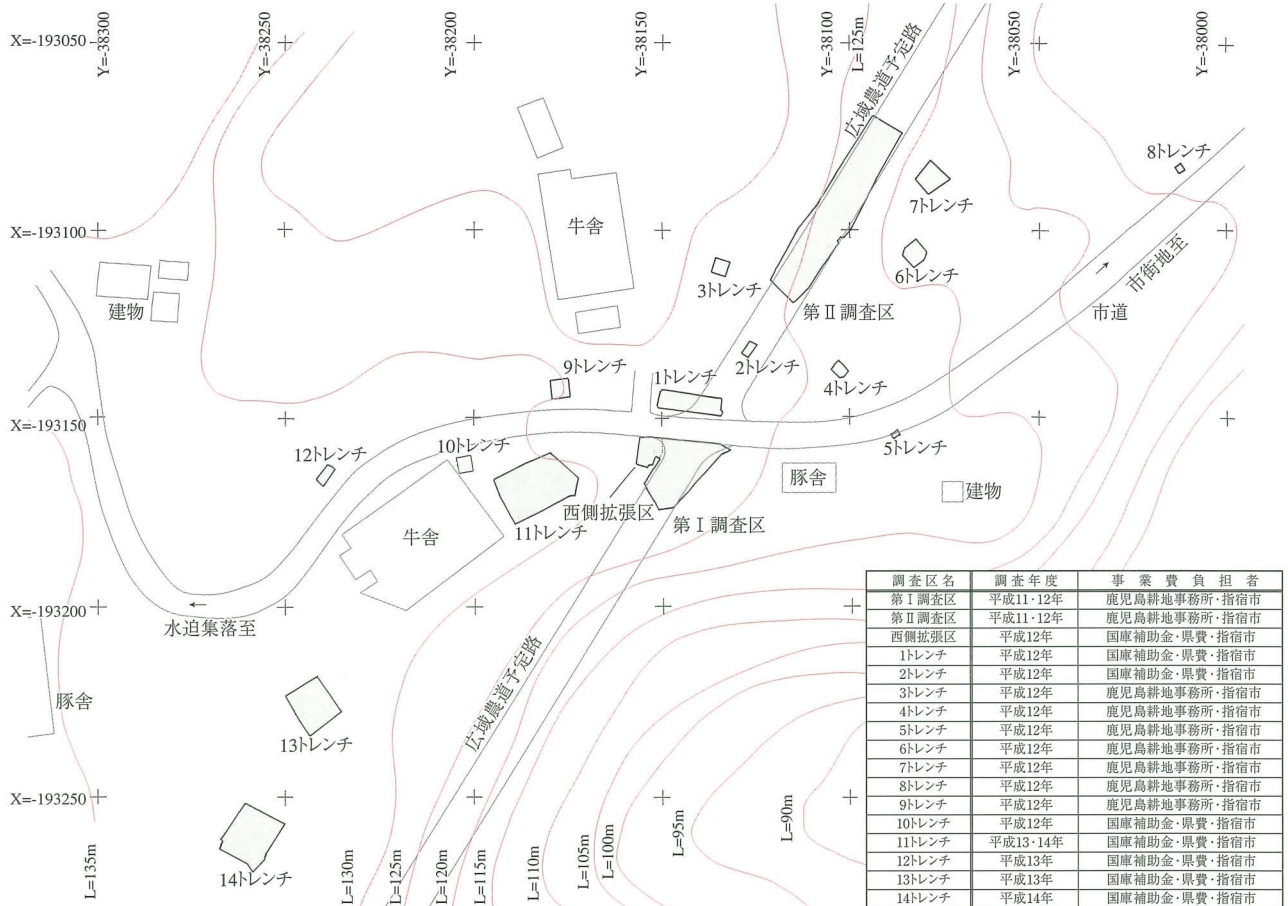


Fig.4 各調査区の位置(1/2,000)

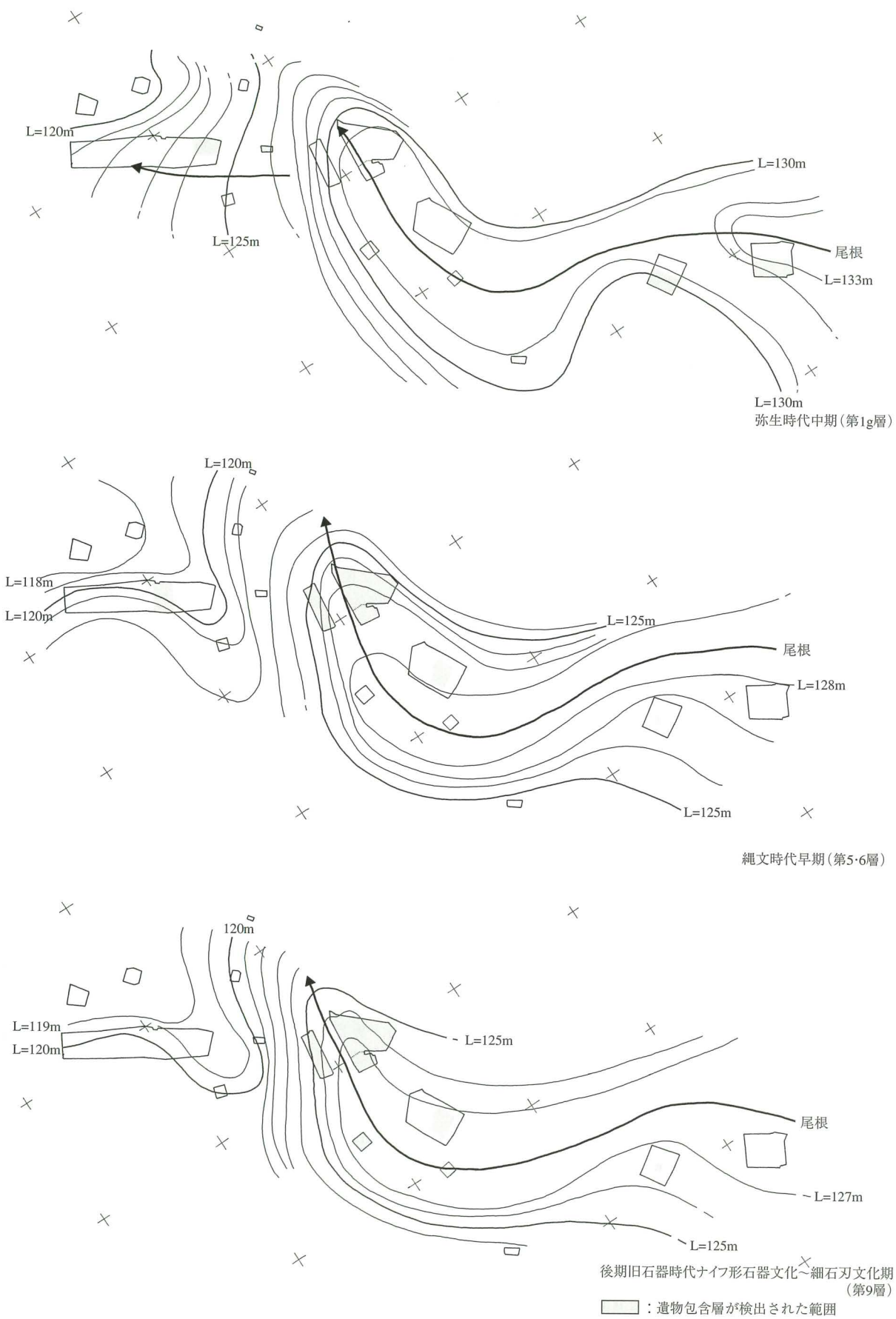


Fig.5 各時期の推定地形コンタ図(1/2,000)

第2節 基本層序

水迫遺跡の堆積層は、およそ5万年前に比定される清見岳の噴火に伴う噴出物堆積層をベースとしながら、おもに火山噴出物堆積層やローム層、そして、高所からの土砂供給や腐植土層の発達などの要因で堆積している。

清見岳の噴出物堆積層の下位についても、火山噴出物堆積層と腐植土層との互層となっているが、考古学的な遺物、遺構の確認は現在までに行われていない。したがって、ここでは、現地表面から清見岳噴出物堆積層までの層序について言及する。

(1) 火山噴出物堆積層の概要 (Tab.2)

指宿地方では、さまざまな火山の活動によって噴出物が供給されているため、鍵層として層序の対比に大きく貢献していると同時に、包含層のおよその年代を考えるために極めて有効である。層序において指宿市内で確認される火山活動の痕跡は、まず、清見岳火山の噴出物が知られている。これは、約4～5万年前に噴出したものと推定されているものであるが、その年代観についてはまだ課題が多いとされている。宿原テフラと呼ばれる噴出物は、奥野らの研究によると、約3.7万年前とされる。このテフラは、一次堆積においては、フォール・ユニットが顕著であり、また硬化していることが特徴である。水迫遺跡の遺構は、この層ないしは、この層の上位に発達しているローム層に掘り込まれたものが多い。

指宿地方では、その後の堆積物で顕著なものは、始良カルデラの噴火に伴う噴出物であるが、これは、現在の標高で100メートルを越えるような場所では比較的薄く堆積しており、水迫遺跡では、厚くとも30センチメートル程度しか残存していない。始良カルデラの一連の火山活動に伴い、水迫遺跡では、大隅降下軽石と考えられるユニットが確認され、その上に降下火山灰などが堆積している。始良カルデラの噴出物の年代観については、およそ2.4万年前とされているが、最近では、2.8万年前に修正される可能性がある。これに伴い、下位のテフラについても補正される可能性が高い。

さて、第9層の細石器文化期における噴出物堆積層のうち、後期旧石器時代に該当すると考えられている火山噴出物堆積層では、岩本火山灰とよばれるテフラが知られている。このテフラは比較的ローカルなテフラであると考えられる。指宿市岩本遺跡の発掘調査において注意された層準であり、現在、その給源など不明な部分があるものの、後期旧石器における編年研究などに有意となると考えられるものである。ただし、水迫遺跡では、その堆積状況は、谷部分などでは比較的厚く、顕著に堆積しているが、遺構が検出された尾根上においてはきわめてルーズな堆積状況が看取され、遺物の弁別には至っていない。今回、この岩本火山灰のテフラとしての特性については水迫Iの附編で述べられているのでここでは詳述しない。

岩本火山灰の上位で観察されるテフラでは、桜島を給源とするいわゆるサツマ火山灰 (P14,Sz-Sr) と呼ばれているものがあるが、指宿市はその分布の外縁に位置すると考えられ、堆積状況は必ずしも良好ではないがこのテフラによって供給された降下軽石がルーズな堆積状況で認められる。これがおよそ11,400yBP頃と考えられている。

サツマ火山灰の上位では、いわゆるアカホヤと呼ばれる鬼界カルデラの噴火に伴うテフラが認められる。水迫遺跡は火砕流範囲であり、その下半部分では、幸屋火砕流が認められ、その上半部分は、降下テフラとなっている。この年代値については、従来6,400yBPと考えられてきたが、近年の計測データでは、さらに古いデータが求められていることから、実年代観については暫定的なものになりつつある。

アカホヤの直上層は、腐食土壌が発達しているが、その上位では、池田カルデラの噴火に伴う火山噴出物堆積層が厚く堆積する。水迫遺跡では、池田カルデラの噴火に伴う噴出物の堆積によって、大きく地形が変化している。池田カルデラの噴出物は、大きく3つのステージがあることが知られている。初期のマグマ水蒸気爆発に伴うベースサージ、そして、降下軽石、そして降下火山灰である。特に、給源に近い水迫遺跡では、降下火山灰の堆積厚が谷部では5メートルに達する場所もあり、付近の地形的な景観を大きく改変するほどの状況であったと考えられるものである。この一連の火山活動に伴う噴出物堆積層の形成時期については、直下の炭化物からおよそ5,500yBP頃のデータが得られている。

池田カルデラの活動の収束後には、開聞岳の活動が開始したと考えられ、指宿では、大きく5回の活動履歴を示す火山噴出物堆積層が認められる。縄文時代後期の指宿式土器を被覆していたことで知られる噴火のステージ、そして縄文時代晩期の土器が直上、直下から認められたステージ、そして、山之口遺跡で、弥生時代中期の土器を直接被覆していた事で知られる噴火のステージ、そして、7世紀前半期のスコリアを堆積させ、その後7世紀第4四半期の須恵器を直接被覆していた一連の火山活動のステージ、そして最後のステージは、「日本三代実録」に記載のある貞観十六年三月四日(旧暦)及び、仁和元年に発生した噴火のステージである。

開聞岳は、指宿から直線距離にして10Km程度あり、比較的給源から遠いこともあり、堆積物のほとんどはエア・フォールによるものであるため、指宿市でも地域的あるいは地形的に残存する場所と現在までに欠失して残存していない場所が認められる。水迫遺跡では、開聞岳噴出物は、弥生時代該当期の堆積物、7世紀第4四半期該当の堆積物が認められる。他の開聞岳の噴出物堆積層については、今回の調査トレンチでは欠失していた。

Layers Number	Layers Number	Name of layers 層名称	Soil colors of Munsell's charts※ 色調※	Inclusions 包含物	Other attributes その他属性	Factors of accumulation 形成要因	Containing relics 遺物		
第1層 1440yBP 2000yBP	No.1	a	表土/present soil	7.5YR3/3,10YR1/4	—	—	Present soil	—	
		b	中世黒色帯土層/Black band of the medieval Age	10Y2/1	—	—	Humus	—	
	c	青コラ火山灰/Tephra from Kaimondake 'Ao-kora'	10BG5/1-4/1	—	—	Harden	Ash fall from Kaimondake	—	
		d	灰褐色土層/Grayish brown layer	2.5YR4/2-3/2	—	—	Silty clay	Secondary and loamy, and Humus	—
	e	暗紫コラ火山灰/Tephra from Kaimondake 'Anshi-kora'	10YR3/4-3/3	—	—	Harden	Ash fall from Kaimondake	—	
		f	褐色土層/Very dark reddish brown layer	10YR4/4,4/6	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	—
		g	灰黄褐色土層/Grayish yellow brown layer	10YR4/2-4/3	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	弥生時代遺物/Relics of the middle of Yayoi period
		h	暗褐色土層/Dark brown layer	10YR3/3	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	—
		i	暗褐色土層/Dark brown layer	10YR3/4	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	—
		j	褐色土層/Brown layer	10YR4/6	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	縄文時代中期遺物/Relics of the middle Jomon period
		k	オリーブ褐色土層/Olive brown layer	2.5Y4/6	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	—
		l	黄褐色土層/Yellowish brown layer	10YR5/6-5/8	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	—
		m	黄褐色土層/Yellowish brown layer	10YR5/8	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	—
		n	にぶい赤褐色土層/Dull brown layer	2.5YR4/4-4/6	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	—
o	暗赤褐色土層/Dark reddish brown layer	2.5YR3/2-3/3	Pumice from the Ikeda	—	—	Secondary and loamy, and Humus	—		
第2層 5500yBP	No.2	a	池田湖火山灰二次堆積層/Ikeda secondary ash layer	10YR4/4,7.5YR3/4	Pumice from the Ikeda	—	Secondary accumulation of ash from Ikeda	—	
		b	池田湖火山灰(下部火砕流堆積物)/Ikeda fall ash (Lower is Pyrocrastic-Flow)	7.5YR4/4,7.5YR5/3,5YR3/5	—	—	Micro-bedding	Ash fall	—
		c	池田湖降下軽石層/Ikeda pumice fall	10YR7/6,7.5YR3/5	—	—	Pumice only	Pumice fall from Ikeda	—
		d	池崎火山灰層/Ikezaki ash fall	10YR5/4	Osagari Scoria	—	—	Micro-bedding	Ash fall
第3層	No.3	—	黒色腐植土層/Black humus layer	10YR2/1	Based on the ash of Ah	—	Humus	—	
第4層 6500yBP	No.4	a	アカホヤ火山灰(Ah)/Akahoya ash layer	10YR4/4-4/3	Small pumice	—	Losely bedding	Ash fall from the Kikai	—
		b	幸屋火砕流/Koya pyrocrastic-flow	10YR4/3	—	—	—	Koya pyrocrastic-flow from Kikai	—
		c	降下軽石片/Pumice fall layer	10YR5/3,4/3	—	—	—	Rubbish pumice fall from Kikai	—
第5層	No.5	—	褐色土層/Brown	7.5YR4/4	—	—	Humus	縄文時代早期遺物/Pottery and other relics of the early Jomon period	
第6層	No.6	—	褐色土層/Brown	7.5YR4/3,3/3	—	—	Humus	縄文時代早期遺物/Pottery and other relics of the early Jomon period	
第7層 11400yBP	No.7	—	暗褐色土層/Dark brown layer	10YR3/3	Sakurajima pumice(P14)	Harden, Losely accumulation	Humus	縄文時代草創期遺物/Pottery and other relics of the initiation of Jomon period	
第8層	No.8	—	黒色土層/Black layer	7.5YR2/2	—	—	Mixture and Humus	—	
第9層 15000-17000yBP	No.9	—	黒褐色土層/Brownish black layer	7.5YR2/3-2/2	Iwamoto volcanic materials/Block of AT or Yadoribai loam	—	Losely accumulation	Mixture and Humus	後期旧石器時代遺物・遺構/The last of the Palaeolithic period/Backed-brade,Trapeze, Micro-core,Micro-brade, Scraper, and traces
第10層	No.10	a	黒色粘質土層/Black layer	7.5YR2/1	Block of AT or Yadoribai loam	—	Silty clay	Mixture and Humus	後期旧石器時代遺物/The last of the Palaeolithic period / Backed Brade,Trapeze, Points
		b	第10a, 11混在暗褐色土層/Mixture of the 10th and 11th layer with a dark brown color	7.5YR3/3,3/4	Block of AT or Yadoribai loam	—	Silty clay	Mixture and Humus	後期旧石器時代遺物/The last of the Palaeolithic period / Scraper
第11層 24000yBP	No.11	a	始良・丹沢火山灰層(AT)/ AT	7.5YR4/4	—	—	—	Primary AT?	—
		b	大隅降下軽石片二次堆積/Secondary layer of Osumi pumice	7.5YR4/4	—	—	—	Secondary Osumi pumice	—
		c	大隅降下軽石片/Osumi pumice layer	7.5YR5/6	—	—	—	Secondary Osumi pumice	—
第12層	No.12	—	暗褐色土層/Dark brown layer	7.5YR3/4-3/3	—	—	Silty clay	Secondary and loamy of the ash from the Yadoribai tephra, and Humus	後期旧石器時代遺物/The last of the Palaeolith icperiod / Scraper
第13層	No.13	—	褐色土層/Brown layer	7.5YR4/4-3/4	—	—	Silty clay	Secondary and loamy of the ash from the Yadoribai tephra, and Humus	後期旧石器時代遺物/The last of the Palaeolith icperiod /Backed Brade, Trapeze
第14層	No.14	—	宿利原火山灰ローム褐色土層/Loamy layer of Yadoribai ash with a brown color	7.5YR4/4	—	—	—	Secondary and loamy of the ash from the Yadoribai tephra	—
第15層 37000yBP	No.15	—	宿利原火山灰層/Yadoribai ash fall layer	10YR4/6,10YR5/4,2.5Y5/4	—	—	Micro-bedding, Harden	Ash fall of the Yadoribai	—
第16層	No.16	—	清見岳火山灰ローム褐色土層/Loamy layer of Kiyomidake fall ash with a brown color	7.5YR4/4,4/6,5/6	—	—	—	Loamy layer of the Kiyomidake ash	—
第17層 40000-50000yBP	No.17	—	清見岳火山灰/Kiyomidake fall ash layer	10YR3/3,10YR4/2, 7.5YR4/3,7.5YR5/2	—	—	Micro-bedding, Harden	Ash fall of the Kiyomidake	—
第18層	No.18	—	清見岳溶岩/Lava of Kiyomidake	—	—	—	Rock	Lava of Kiyomidake	—
第19層	No.19	—	以下未調査/Un-surveyed	—	—	—	—	Un-surveyed segments	—

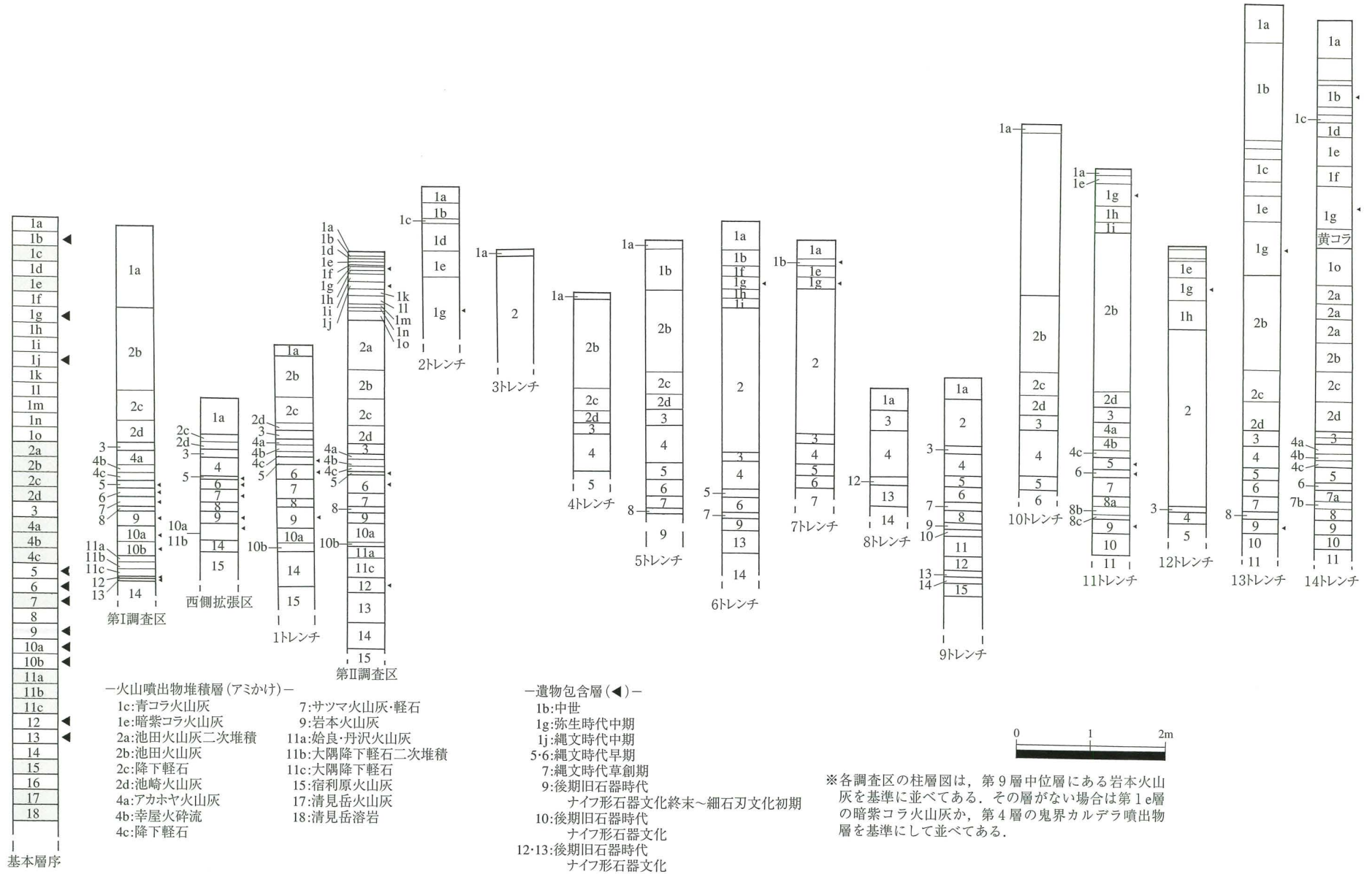
※この表における土色表記は、測色器によるマンセル値を計測したものであり、肉眼における平均的な色認識と差がある。

※In this Table, the statement of the Munsell's color chart was measured by SCR-1(Daiichi Gosei Co.,Ltd).

※ These marked places were tephras

Tab.2 水迫遺跡の基本層序

Fig.6 水迫遺跡の各地点の柱層図



(2) 水迫遺跡標準土層 (Tab.2)

各調査区において堆積層は、微地形の特質に応じて層の堆積状況は異なるが、水迫遺跡のこれまでの発掘調査で認識した土層について次に包括的に記述する。

- 第1層 a 現代耕作土である。
- 第1層 b 中世黒色帯と呼ばれる指宿市内一円に認められる土層で、12世紀以降の遺物を包含しているものと一致する。水迫遺跡では出土遺物はなかった。
- 第1層 c 青コラと一般に呼ばれる開聞岳の7世紀第4四半期に該当するテフラである。水迫遺跡では、スコリアは認められず、降下火山灰がルーズなユニットを形成しながら堆積する。
- 第1層 d 明褐色の粘性の高い土層で、一般には、古墳時代の遺物を包含する土層であるが、水迫遺跡では遺物は認められていない。
- 第1層 e 暗紫コラと一般に呼ばれる開聞岳の弥生中期に該当するテフラである。山之口式土器を被覆することで知られている。水迫遺跡ではこのテフラの直下層から山之口式土器は出土していない。この層は岩片やスコリアによりざらざらとした堆積状況で、フォールユニットは不明瞭である。
- 第1層 f 本層は、暗紫コラ直下の層であり、本来的には、山之口遺跡出土資料該当期の資料が包含される時期のものであると思量する。しかし、水迫遺跡においては遺物は出土していない。
- 第1層 g 弥生時代中期に該当する層であるが、山之口遺跡の出土資料が暗紫コラに直接被覆されていたものであるのに対し、本層の土器資料は、第1層 f という間層を挟んで下位から出土している資料であり、時期的に若干古いものであるといえる。この層は、下位の地層の土壌供給によって生成したものと考えられ、池田カルデラを給源とする降下軽石の碎片が土壌中に混入する。しかし、この層中では遺物の上下移動がほとんど見られず、ほぼ一定範囲に収まる垂直分布を見せることや、直下の層が攪乱を受けていないことから、これらの軽石は、土層の生成過程において、付近の高所からの急激ではない土壌供給によるものと考えられ、直下の池田降下軽石層の軽石が攪乱等の理由によってこの層にもたらされたものではない。
- 第1層 h 池田降下軽石碎片を含む、やや粘土質の土壌で、土壌中の礫の量は第1層 f, g に比べて少ない。無遺物層である。
- 第1層 i 第1層 h とほぼ同じ土壌性状を有するが、本層のほうがやや暗い色調を呈している。無遺物層である。
- 第1層 j 第1層 i に比べ、やや明るい褐色を呈する土壌で、やはり、池田降下軽石碎片が含まれる。この層からは、縄文時代中期に該当すると考えられる土器が少量出土している。第1層 h から第1層 o までは、池田降下火山灰が侵食され形成された谷地形に局所的に堆積した層準であり、縄文時代中期には、池田カルデラの活動および、その直後の浸食作用によって形成された谷地形が高所などからの土壌供給によって、埋没していく過程の生成層であると認められる。
- 第1層 k この層も、池田カルデラの噴出物が侵食された谷地形が埋没していく過程の土層である。池田降下軽石碎片を含み、土質は細かくなり、池田降下火山灰などのほぼ均質な性状となる。無遺物層である。
- 第1層 l 第1層 l, m とともに黄褐色の土層で、明るい色調を呈する。土質は、池田降下火山灰の性状に近くなり、やや明るい土色を呈するようになる。本層では池田降下軽石碎片を含む。無遺物層である。
- 第1層 m 第1層 l とほぼ同様の土壌性状を有するが、池田降下軽石碎片がほとんど含まれない。無遺物層である。
- 第1層 n 直上層よりも赤みが強く、褐鉄の吸着痕跡も若干認められる。粘性が強く、土壌性状は、池田降下火山灰に近い。無遺物層である。
- 第1層 o 池田降下火山灰が堆積し、やや土壌の移動が安定した後に発達した腐植土壌であると考えられる。土壌性状は第1層 n に近いが、黒みが強い。無遺物層である。
- 第2層 a 池田降下火山灰二次堆積層であり、一次堆積層である池田降下火山灰が降下した直後の地形の安定化に伴う堆積層であると考えられ、腐植化が進んでいない段階のものであることがわかる。土壌性状は、池田降下火山灰とほぼ等しく、池田降下軽石をほとんど含んでいない。池田降下火山灰は、極めて厚く、水迫遺跡周辺では、薄くとも1.5メートルを超えることから、池田降下火山灰が堆積した後の地形が侵食などによって安定化するまでの期間においては、この降下火山灰が主な供給土壌であったことが想定できる。
- 第2層 b 池田降下火山灰である。肉眼により層を観察すると白色やピンク、褐色などのフォールユニットが認められる。また、第2層 c の直上付近では、カーボンが認められることから、降下火山灰に先立ち、火砕流などの熱を有する堆積形態が想定できる。この層の堆積厚は給源に近いこともあり、1～4メートルの堆積厚が認められる。この層は、旧地形に対して影響を与えたと考えられる。
- 第2層 c 池田降下軽石である。粒径が5センチメートル程度の軽石が約50センチメートル程度堆積しており、軽石と火山灰の混在状況を呈している。

- 第2層 d 池田カルデラの初期の噴出物の堆積層である。池崎火山灰とよばれるこの層中には、尾下スコリアと呼ばれる礫が混在し、粒径の大きい礫については、10センチメートル程度も下層に突き刺ささり、直下の土層は影響を受け歪曲した構造が認められる。
- 第3層 本層は、アカホヤ火山灰をベースとして生成された腐植土壌の堆積層であり、アカホヤ火山灰の上位から色調変化が漸移し、黒色に至る。土壌性状は、色調以外はアカホヤ火山灰と大きく異ならないが、やや粘質である。無遺物層である。
- 第4層 a アカホヤ火山灰である。軽石細片を含み、フォールユニットは極めてルーズな状態で認められる。下部には、異質の砂質の薄い層が認められる。
- 第4層 b 幸屋火砕流である。軽石細片で構成されるもので、粒径は3ミリメートル程度である。
- 第4層 c 1～2ミリメートルの軽石石片が薄く堆積している。これは、第4層 b と一連の堆積状況を示しているが、色はやや白みが強く、初期のステージの堆積物の可能性がある。
- 第5層 明るい褐色を呈する層で、縄文時代早期前半の岩本式土器を包含する。本層と第6層は基本的に土壌性状は似ているが、本層の場合、上半部分に第4層 c の微細な軽石細片が混在している。また、第6層の場合、植物の地下茎の生育痕跡に由来すると考えられる、鉄ないしはマンガンなどの成分と考えられる無機分の吸着が認められることから、やや暗い色調になっている。
- 第6層 第5層と比較し、やや黒みが強い土層で、縄文時代早期前半に該当する岩本式土器を包含する。縄文時代早期の遺構については、本層に帰属するものが多い。
- 第7層 本層は、サツマ火山灰と呼ばれるテフラのうち、橙色の特徴的な色調を呈する降下軽石が極めてルーズな状況で混在している。本層は、上下の地層とは土壌性状が明らかに異なり、硬く硬化しているうえ、黒みが極めて強い。本層からは、縄文時代草創期に該当する隆帯文土器、水迫式土器とそれに伴う遺物が出土しており、また、遺構も多く認められる。本層では、サツマ火山灰がマーカーとして包含されているため、下位の層準に掘り込む遺構が本層の該当期に構築されたものであることが、サツマ火山灰の軽石細片の有無や、本層のブロックなどが入り込むため識別できる。サツマ火山灰は、鹿児島湾奥部を中心として火砕流エリアが認められているが、本水迫遺跡付近は、その縁辺部として位置付けられる。確認調査地点によって、降下軽石層とやや硬く引き締まった火山灰層に細分できる地点もあり、第7層 a・第7層 b と細分を行なっている。
- 第8層 本層は黒褐色を呈する土層で、第9層よりも黒みの強い土層である。極めて薄く、谷部における傾斜面では、比較的厚く堆積しているが、尾根頂部付近の平坦面では欠失しているところもある。遺物は明確な人為物の出土はない。若干、黒曜石の剥片などが若干出土しているが2点程度であり、本層が遺物等を包含するいわゆる文化層と認めることが困難である。第8層は上下層の第7層と第9層との混在層が認められる調査区もあり、その場合は第8層の細分を行い、出土遺物の帰属層位に留意した。
- 第9層 本層は、後期旧石器時代の細石器文化期に該当する遺物を包含する層で、第10層、第8層と比較し、第9層は明るい色を呈しており、土壌中には、白色の粒子を多く含む。この白色の粒子は、いわゆる岩本火山灰と呼ばれる火山噴出物の構成物であり、その粒子中には角閃石を含む。岩本火山灰が認識されたのは、指宿市岩本遺跡の発掘調査においてである。このテフラは、比較的ローカルに分布するものと考えられている。さて、このテフラは、第9層において混在している状況であるが、第9層の中央付近にルーズであるがピークが認められる。このテフラは、将来的には、第9層が包含する細石器文化期を細分する上で有意なテフラとなるものと思われる。ところで、第9層の土壌特性は、他の層準には認められないものであり、たとえば、第9層の時期に掘り込まれた遺構であれば、その遺構を埋めた埋土は第9層の土壌的な性状を有するであろう。このように、第9層の特に白色粒の存在は、土壌そのものの性状と合わせて遺構などの構築に伴う攪乱のマーカーとして機能することが考えられる。第9層には、さらに、色がうすいブロックが「斑」状に混在している。第9層の生成段階ですでに混在しているこれらの混在物が遺構構築に伴い人為的にカットされるなどの痕跡も残ることが予想されるなど、これらの混在物もまた、遺構などの探査において有効なマーカーとして機能すると考えられる。第9層に包含されている石器類は、黒曜石を素材とした小形な野岳・休場型細石核、細石刃と、頁岩等を主体的に素材として用いるナイフ形石器と台形石器などである。出土石器の形態と出土層位から、九州におけるナイフ形石器文化終末から細石刃分化初期にかけての石器群と考えられる。第9層中位に普遍的に点在する岩本火山灰や白色粒を考慮し、かつ、細石核とナイフ形石器・台形石器の出土分布状況から分離・分層を試みたが、明確にはできなかった。
- 第10層 a 第10層 a と第10層 b は基本的には同質土壌性状を有するが、第10層 b のほうが、よりATや宿利原テフラのブロックを多く含むことから暫定的に分層した。第10層の生成段階では、斜面部分では、ATが、尾根頂部では宿利原テフラが露出していた状態で、第10層が生成されたものと思量する。本層では、後期旧石器時代の遺物が確認されている。主要なものとしては、ナイフ形石器・台形石器・三稜尖頭器・槍先形尖頭器などである。いわゆるAT上位のナイフ形石器文化で確認できる剥片尖頭器は

出土していないことから、九州におけるナイフ形石器文化においても剥片尖頭器が消滅し三稜尖頭器も小型化しているものが主体を占める時期の石器群と考えられる。

- 第10層 b 第10層 bは、第10層 aとほぼ同様の土壌性状を有するが、ATや宿利原テフラのブロックがより多く含まれることから分層した。しかし、第10層 aと第10層 bの包含する遺物の時期差を明確に言及できるほどの明瞭な性状差はない。遺物量は少なく、スクレーパーや剥片が若干出土している。ATや宿利原テフラのロームからの漸移的な変化をたどることができることから、これらロームの腐植土壌化が進んだ時期に生成された層準であると考えられることができる。
- 第11層 a 本層はAT（始良・丹沢火山灰）と呼ばれる広域に分布するテフラの堆積層である。本遺跡では、ほぼ10センチメートル程度の厚みがあり、硬化している。本層の上位では、ややローム化しているが、極めて薄く、すぐに第10層に移行する。
- 第11層 b 本層は大隅降下軽石と呼ばれる降下軽石堆積層の二次堆積層または、第11層 cの一連のユニットとして考えられるものであるが、色調が第11層 bの場合、やや赤色が強いため分層した。
- 第11層 c 本層は、大隅降下軽石と呼ばれる降下軽石堆積層で、粒径3～5ミリメートル程度の軽石細片が堆積したものである。
- 第12層 本層は、暗褐色の腐植土壌であるが、そのベースとなっているのは、宿利原テフラであると考えられ、宿利原テフラの構成物である火山ガラスや岩片を含む。後期旧石器時代の遺物を含み、スクレーパーなどの資料が若干得られている。
- 第13層 基本的に第12層と同様の土壌性状であるが、後期旧石器時代の遺物をより多く含む。第12層と本層とを比較すると、本層は遺物量が少ないため、本来的には、第13層が文化層として存在し、その再堆積の過程で、第12層に遺物が混在した可能性もある。このように考えると、第12層と第13層の遺物を積極的に時期差として捉えることには躊躇しなければならない。ところで本層はの下半部分は、宿利原テフラのローム層ブロックの包含状況が漸移的に少なくなる傾向は、第11層 aと第11層 bの状況に酷似していることから、このようなテフラのローム層が腐植土壌化していく過程において同様の現象が見られることは興味深い。
- 第14層 本層は、宿利原火山灰を起源とするローム層で粘性が高い。遺物はこの中からは得られていない。
- 第15層 宿利原火山灰の一次堆積物である。さまざまな噴出物が互層をなしてユニットを形成しているが、その上部においては細粒の火山灰のマイクロベッディングが認められ、硬化している。
- 第16層 本層は清見岳火山灰のローム層であり、遺物は得られていない。
- 第17層 清見岳を給源とするテフラで、青灰色をした火山灰が厚く堆積する。非常に固結している。
- 第18層 第17層と同様に、清見岳を給源とする溶岩であり、噴出源に近いため供給されたものと考えられる。
- 第19層 第18層以下において、テフラ、腐植土などが互層になっている状況が認められるが、現在、テフラメンバーの研究については途上である。考古学的な資料も現在のところ得られていない。

（『水迫遺跡Ⅱ』より転載・一部改変）

第3節 12トレンチの調査

遺跡の広がりを確認するために、第I調査区の西側、約85mの地点に5×10mのトレンチを1箇所設定し、確認調査を実施した。

本地点では、第2層の堆積が5mと厚く、第5層検出時点で、現地表下約7mに達していたため、第5層途中までの調査にとどめ、記録措置後、埋め戻し、原状に復した。



Pl.3 12トレンチ完掘状況写真(南側より)

(1) 層位 (Fig.8・9)

確認調査の結果、第1層、第1層g、第2層a～e、第3層、第4層、第5層を確認した。第2層上面は、南側から北側に向けて傾斜しているため、その後に堆積した上位層も同様の堆積状況を示す。しかしながら、第3層以前は、概ね水平堆積を示しており、旧地形と現況地形とが大きく異なることが確認できた。鬼界カルデラ噴出物の第4層は、層厚約30cmで、第5層を直接被覆している。第5層は、縄文時代早期該当の層であるが、本地点から遺構・遺物は確認されなかった。

(2) 遺構 (Fig.9)

①第1層bの遺構

北側壁面において、第1層bを埋土とする土坑2基を確認した。土坑1は、断面で確認した範囲では、上幅75cm、下幅50cm、深さ22+ α cmを測り、断面形態は台形を呈する。立ち上がりは、第1a直下まで延びるが、埋土は、第1bのみで、第1bの上部が削平されているものと考えられる。

土坑2は、断面で確認した範囲では、上幅100cm、下幅70cm、深さ30cm前後を測り、断面形態は台形を呈し、切り合いが見られる。埋土から、いずれも中世の時期のものと考えられる。確認した範囲では、埋土中に遺物は見られなかった。

②第1層eの遺構

同じく、北側壁面において、第1層eを埋土とするピット1基を確認した。ピットは、第1層gから第2層aに対して掘り込まれ、埋土中には、第1層e(暗紫コラ)のブロックが混在していた。確認した範囲では、上幅20cm、下幅8cm、深さ50+ α cmを測る。埋土から、弥生時代中期に帰属するものと考えられる。(文責 渡部)

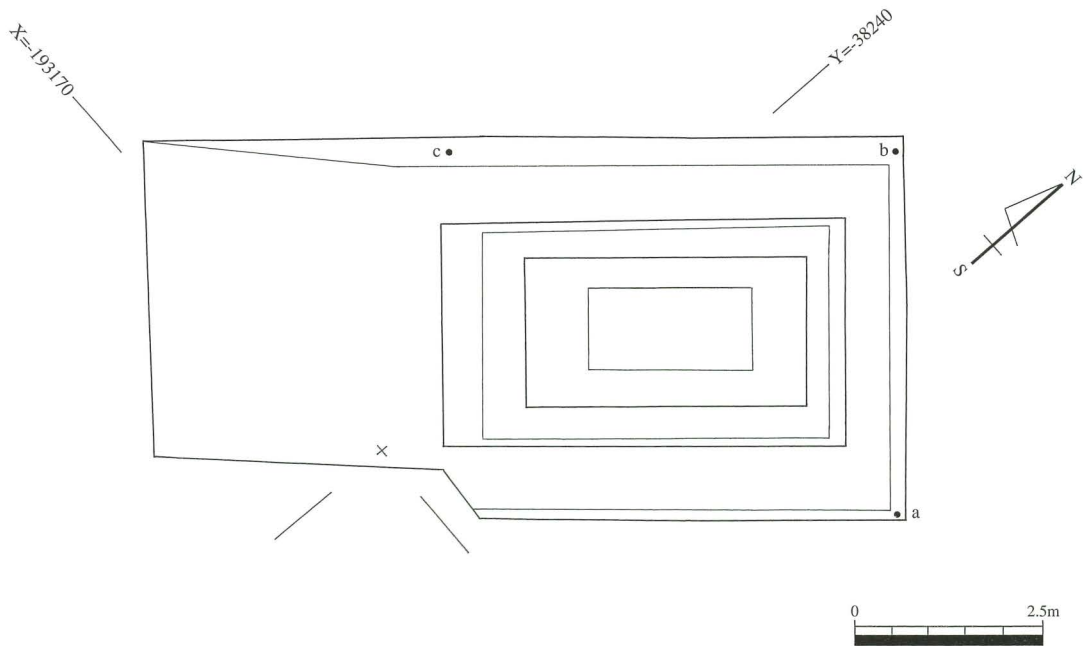


Fig.7 12トレンチ完掘状況図(S=1/100)

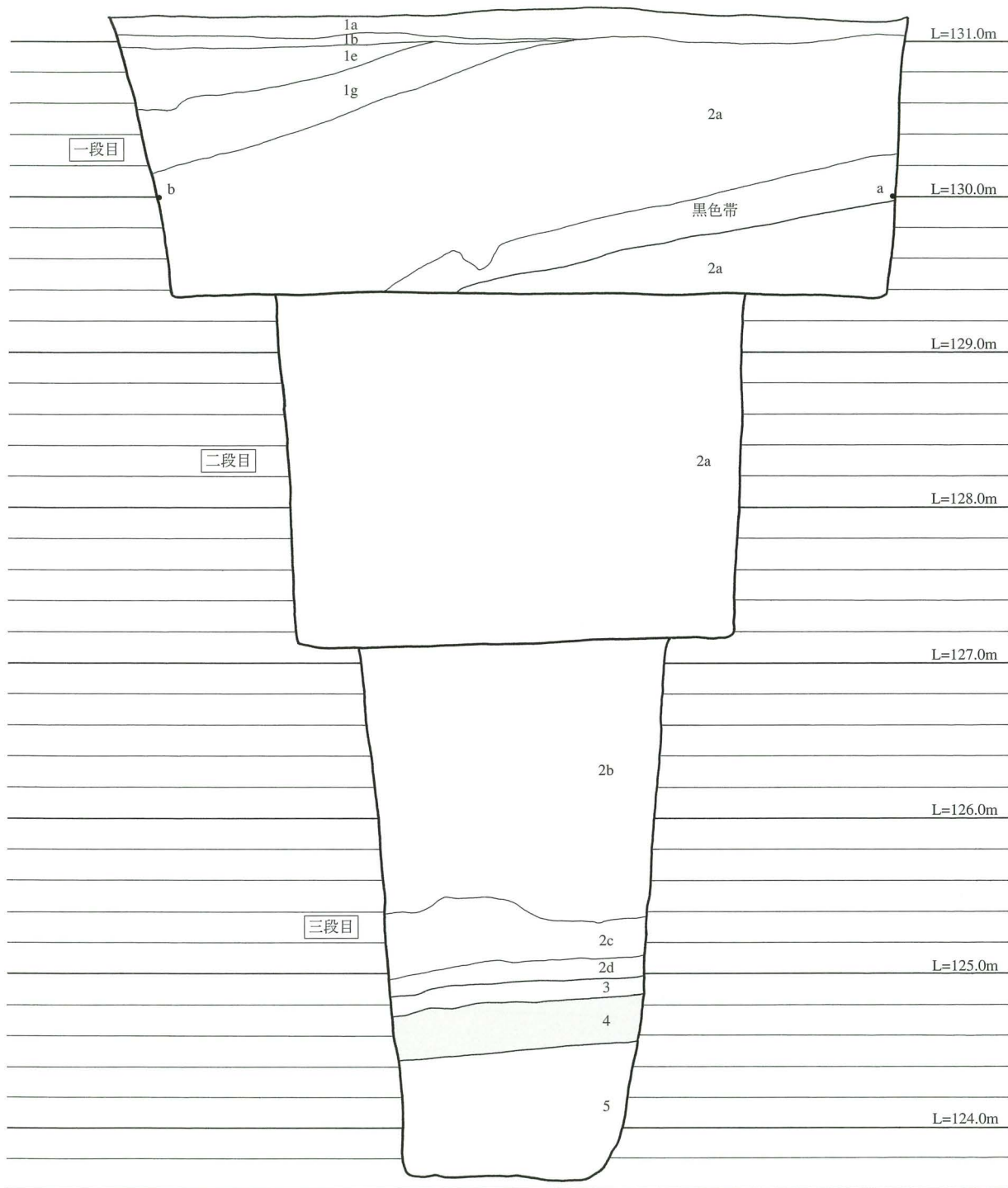


Fig.8 12トレンチ東壁層位断面図(S=1/40)

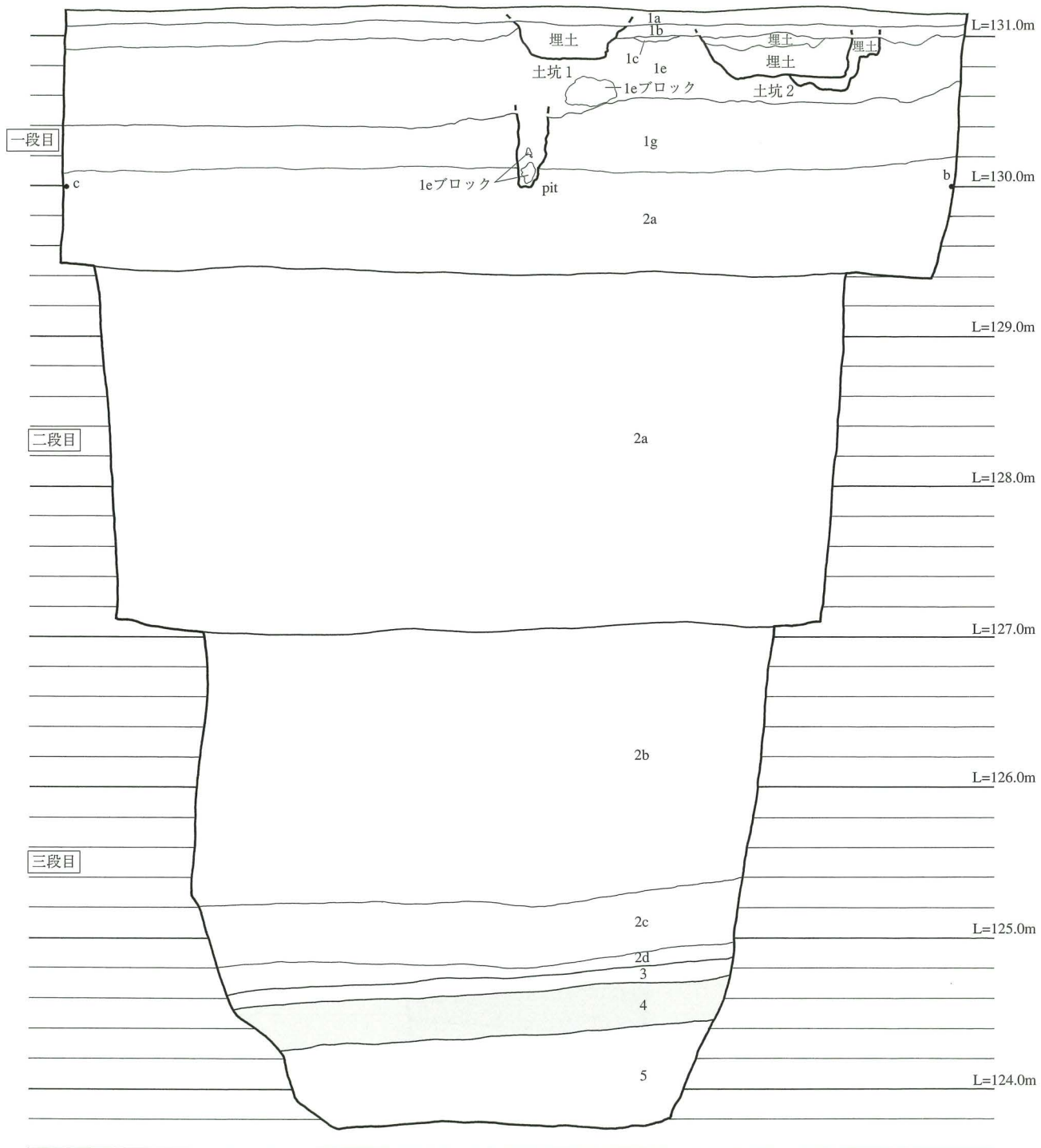


Fig.9 12トレンチ北壁層位断面図(S=1/40)



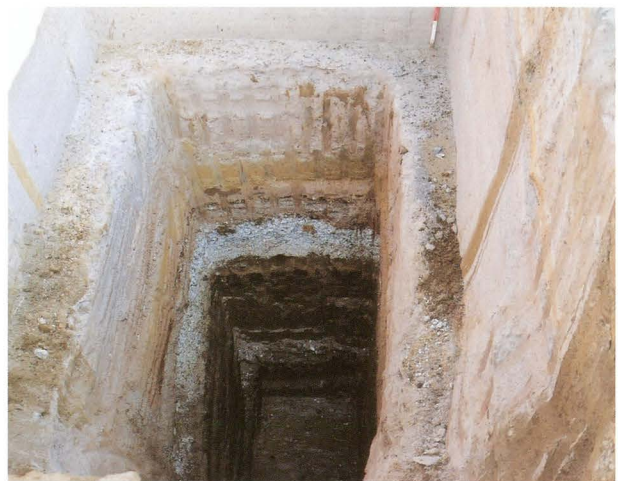
Pl.4 12トレンチ第1層g出土遺物状況写真(北側より)



Pl.5 12トレンチ東壁層位断面(一段目)状況写真①



Pl.6 12トレンチ北壁層位断面(二・三段目)状況写真①



Pl.7 12トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真②

(3) 遺物 (Fig.11)

本地点では、第1層gから、弥生時代中期に該当すると思われる合計65点の遺物が出土した。遺物の種類別の内訳は土器61点、石器2点、礫2点である。

遺物は、旧地形の傾斜面に散在した状況で出土した。いずれも破片資料である。以下、図化した4点について報告する。

No.1は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部端部が窪み、断面形態は、わずかに丸みを帯びる。口縁部は、若干外上がりに仕上げられている。器面内面には、工具によるナデの痕跡を確認できる。

No.2は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、端部が丸みを帯びるT字状を呈し、外上がりに仕上げられている。器面内面には、ユビオサエの痕跡を確認できる。

No.3は、甕形土器、もしくは鉢形土器の底部の破片である。復元底径は、8.1cmを計る。底部は平底である。器面外面には、一部ユビオサエの痕跡を確認できる。

No.4は、甕形土器の底部の破片である。復元底径は、9cmを計る。底部は平底になるものと思われる。

(文責 渡部)

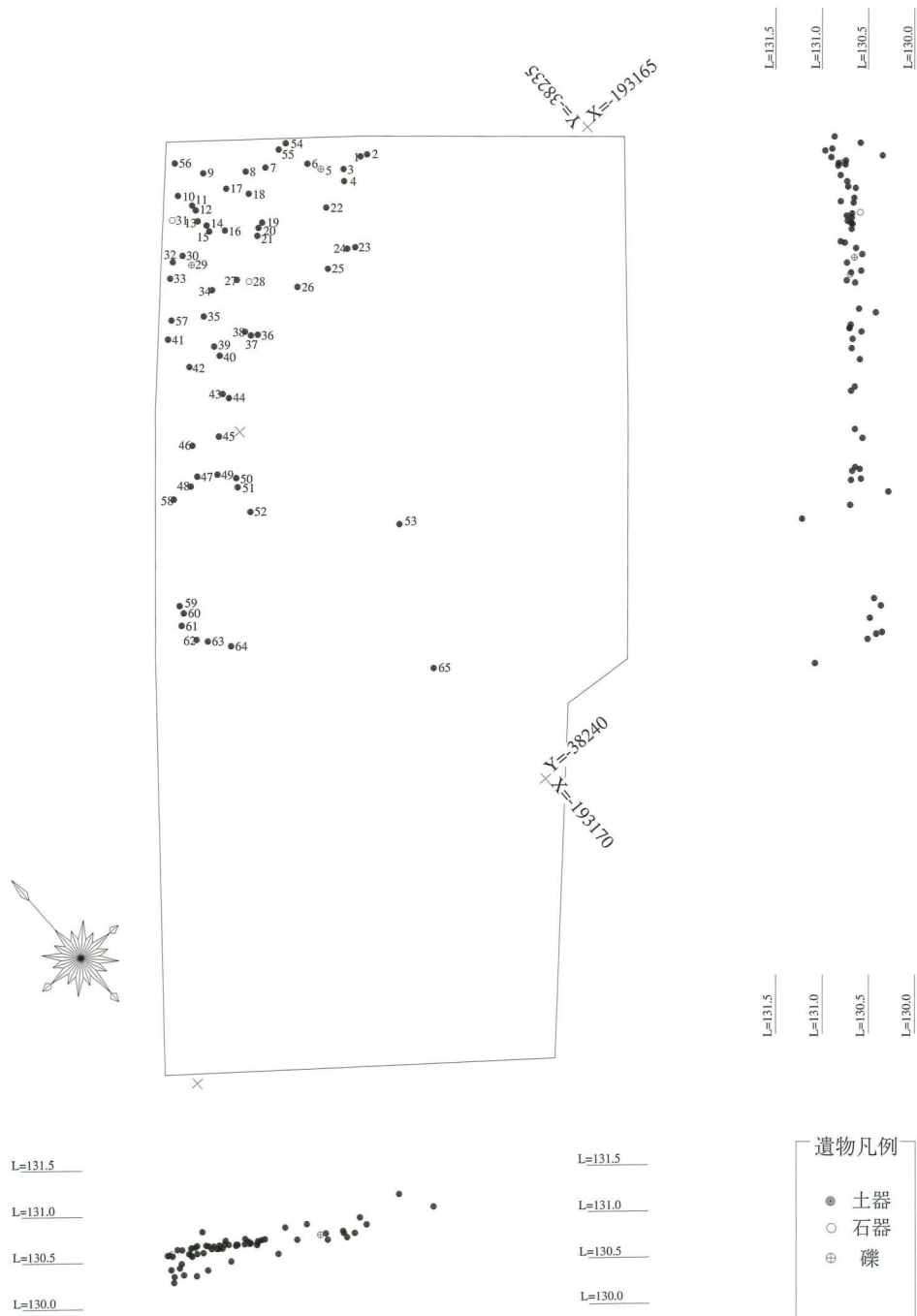
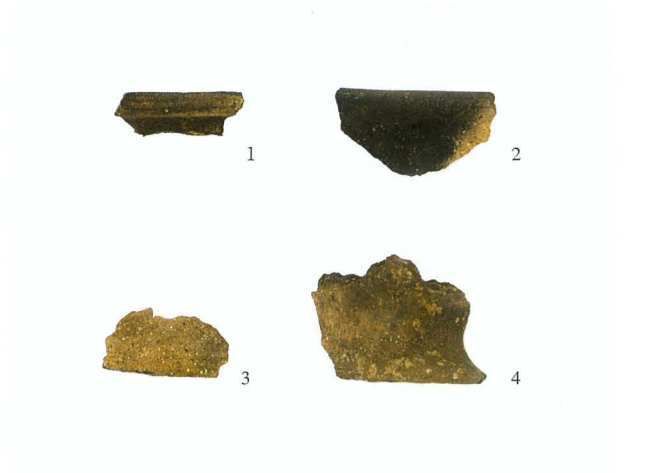


Fig.10 12トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)



Pl.8 12トレンチ出土土器写真(外面)



Pl.9 12トレンチ出土土器写真(内面)



Fig.11 12トレンチ出土土器実測図(S=1/3)

図番 No.	取上げ No.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和材	調整	その他	出土層位	接合
1	32	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR7/3 5P3/1	7.5YR5/4	5P4/1	口縁 7.5YR4/3	細砂粒を若干含む	カ・セ・ 白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問	1g	
2	62	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR3/1	7.5YR6/4 7.5YR3/1	5YR5/3 10GY6/1	口縁 7.5YR4/2 10YR3/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・他	内・ナデ一部ユビオサエ 外・ナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問	1g	
3	63	甕形土器	破片 1/5残存 復元底径 9	底部	5YR5/4	—	2.5YR4/4	底 7.5YR4/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を多く含む	カ・セ・白・ 黒・他	外・ナデ ヨコナデ 底・ナデ	反転	1g	
4	12	甕形土器 or鉢形土器	破片 1/3残存 復元底径 8.1	底部	7.5YR4/3 10YR4/2	7.5YR3/1	2.5Y4/1	底 10YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・ 白・黒・他	内・ナデ 外・工具によるナデ のちナデ 一部ユビオサエ ナデ一部ユビオサエ ヨコナデ 底・ナデ	反転	1g	

Tab.3 12トレンチ出土土器観察表

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合 個体	備考
1		1g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193163.619	-38237.051	130.968		
2		1g	土器	破片	-						-193163.649	-38236.983	130.892		
3		1g	土器	胴部片	-						-193163.601	-38237.279	130.824		
4		1g	土器	細片	-						-193163.704	-38237.360	130.802		
5		1g	礫	礫	安山岩	42.6	71.7	44	29.7	80	-193163.439	-38237.464	130.785		
6		1g	土器	破片	-						-193163.300	-38237.534	130.902		
7		1g	土器	破片	-						-193163.031	-38237.904	130.744		
8		1g	土器	胴部片	-						-193162.923	-38238.092	130.749		
9		1g	土器	口縁部片	-						-193162.634	-38238.450	130.828		
10		1g	土器	破片	-						-193162.638	-38238.817	130.637		
11		1g	土器	胴部片	-						-193162.818	-38238.771	130.654		
12	4	○	1g	土器 甕形土器 or鉢形土器底部片	-						-193162.883	-38238.775	130.661		
13		1g	土器	破片	-						-193162.986	-38238.837	130.677		
14		1g	土器	破片	-						-193163.084	-38238.795	130.680		
15		1g	土器	破片	-						-193163.151	-38238.816	130.672		
16		1g	土器	突帯部片	-						-193163.255	-38238.682	130.686		
17		1g	土器	破片	-						-193162.923	-38238.374	130.731		
18		1g	土器	細片	-						-193163.125	-38238.226	130.721		
19		1g	土器	破片	-						-193163.456	-38238.323	130.735		
20		1g	土器	破片	-						-193163.473	-38238.391	130.725		
21		1g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193163.530	-38238.458	130.682		
22		1g	土器	破片	-						-193163.791	-38237.694	130.800		
23		1g	土器	細片	-						-193164.321	-38237.743	130.801		
24		1g	土器	破片	-						-193164.277	-38237.817	130.756		
25		1g	土器	胴部片	-						-193164.303	-38238.118	130.732		
26		1g	土器	甕形土器突帯部片	-						-193164.232	-38238.495	130.735		
27		1g	土器	細片	-						-193163.742	-38238.937	130.688		
28		1g	石器	調整剥片	頁岩	0.8	22.2	18.2	3.6	1.47	-193163.844	-38238.849	130.697		
29		1g	礫	礫	軽石	21.6	62.4	46.5	36.1	36.87	-193163.299	-38239.201	130.651		
30		1g	土器	破片	-						-193163.159	-38239.207	130.634		
31		1g	石器	石鏃	頁岩	0.6	21.1	13.7	2.2	0.61	-193162.797	-38239.037	130.588		
32	1	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193163.142	-38239.331	130.566		
33		1g	土器	胴部片	-						-193163.257	-38239.471	130.577		

Tab.4 12トレンチ出土遺物台帳①

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
34			1 g	土器	破片	-						-193163.650	-38239.211	130.643			
35			1 g	土器	破片	-						-193163.804	-38239.467	130.601			
36			1 g	土器	破片	-						-193164.338	-38239.160	130.703			
37			1 g	土器	破片	-						-193164.295	-38239.220	130.705			
38			1 g	土器	破片	-						-193164.223	-38239.242	130.692			
39			1 g	土器	破片	-						-193164.123	-38239.597	130.671			
40			1 g	土器	破片	-						-193164.237	-38239.619	130.681			
41			1 g	土器	胴部片	-						-193163.738	-38239.923	130.574			
42			1 g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193164.113	-38239.946	130.591			
43			1 g	土器	破片	-						-193164.570	-38239.868	130.647			
44			1 g	土器	破片	-						-193164.648	-38239.846	130.687			
45			1 g	土器	破片	-						-193164.889	-38240.203	130.646			
46			1 g	土器	細片	-						-193164.775	-38240.483	130.563			
47			1 g	土器	胴部片	-						-193165.062	-38240.664	130.592			
48			1 g	土器	破片	-						-193165.096	-38240.788	130.580			
49			1 g	土器	細片	-						-193165.189	-38240.486	130.643			
50			1 g	土器	口縁部片	-						-193165.351	-38240.359	130.676			
51			1 g	土器	破片	-						-193165.436	-38240.412	130.688			
52			1 g	土器	突帯部片	-						-193165.728	-38240.485	130.697			
53			1 g	土器	胴部片	-						-193166.890	-38239.362	131.216			
54			1 g	土器	胴部片	-						-193162.979	-38237.564	130.868			
55			1 g	土器	破片	-						-193162.980	-38237.667	130.584			
56			1 g	土器	破片	-						-193162.351	-38238.610	130.345			
57			1 g	土器	胴部片	-						-193163.606	-38239.759	130.420			
58			1 g	土器	破片	-						-193165.081	-38241.019	130.282			
59			1 g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193165.990	-38241.733	130.438			
60			1 g	土器	胴部片	-						-193166.078	-38241.752	130.364			
61			1 g	土器	破片	-						-193166.164	-38241.858	130.484			
62	2	○	1 g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193166.383	-38241.835	130.352			
63	3	○	1 g	土器	甕形土器底部片	-						-193166.476	-38241.754	130.414			
64			1 g	土器	破片	-						-193166.681	-38241.600	130.508			
65			1 g	土器	破片	-						-193168.304	-38240.111	131.077			

Tab.5 12トレンチ出土遺物台帳②

第4節 13トレンチの調査

遺跡の広がりを確認するために、第I調査区の南西側、約100mの地点に10×12mのトレンチを設定し、確認調査を実施した。

本地点では、後期旧石器時代の遺構群が、西側にどこまで、広がっているかを確認する必要があったため、段掘りを繰り返し、第11層までを確認した。第11層検出時点で、現地表下約6.5mに達していたため、記録措置後、埋め戻し原状に復した。

(1) 層位 (Fig.13)

第1層a~g, 第2層a~e, 第3層, 第4層, 第5層, 第6層, 第7層, 第8層, 第9層, 第10層, 第11層を確認した。第2層上面は、12トレンチ同様、北側方向は浸食され、南側から北側に向けて傾斜しているため、その後堆積した上位層も同様の堆積状況を示す。しかしながら、第3層以前は、概



Pl.10 13トレンチ完掘状況写真(南側より)

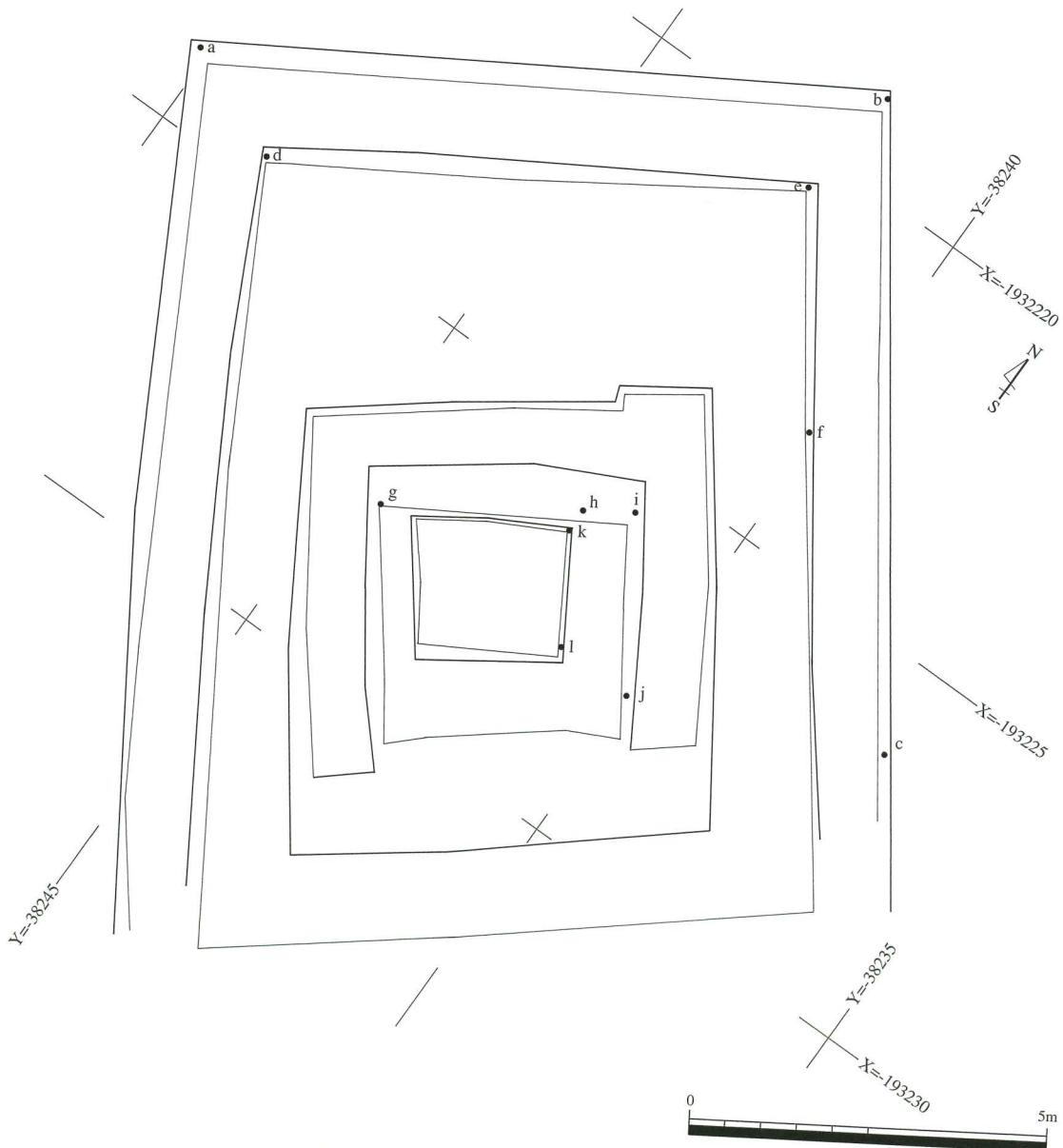


Fig.12 13トレンチ完掘状況図(S=1/100)

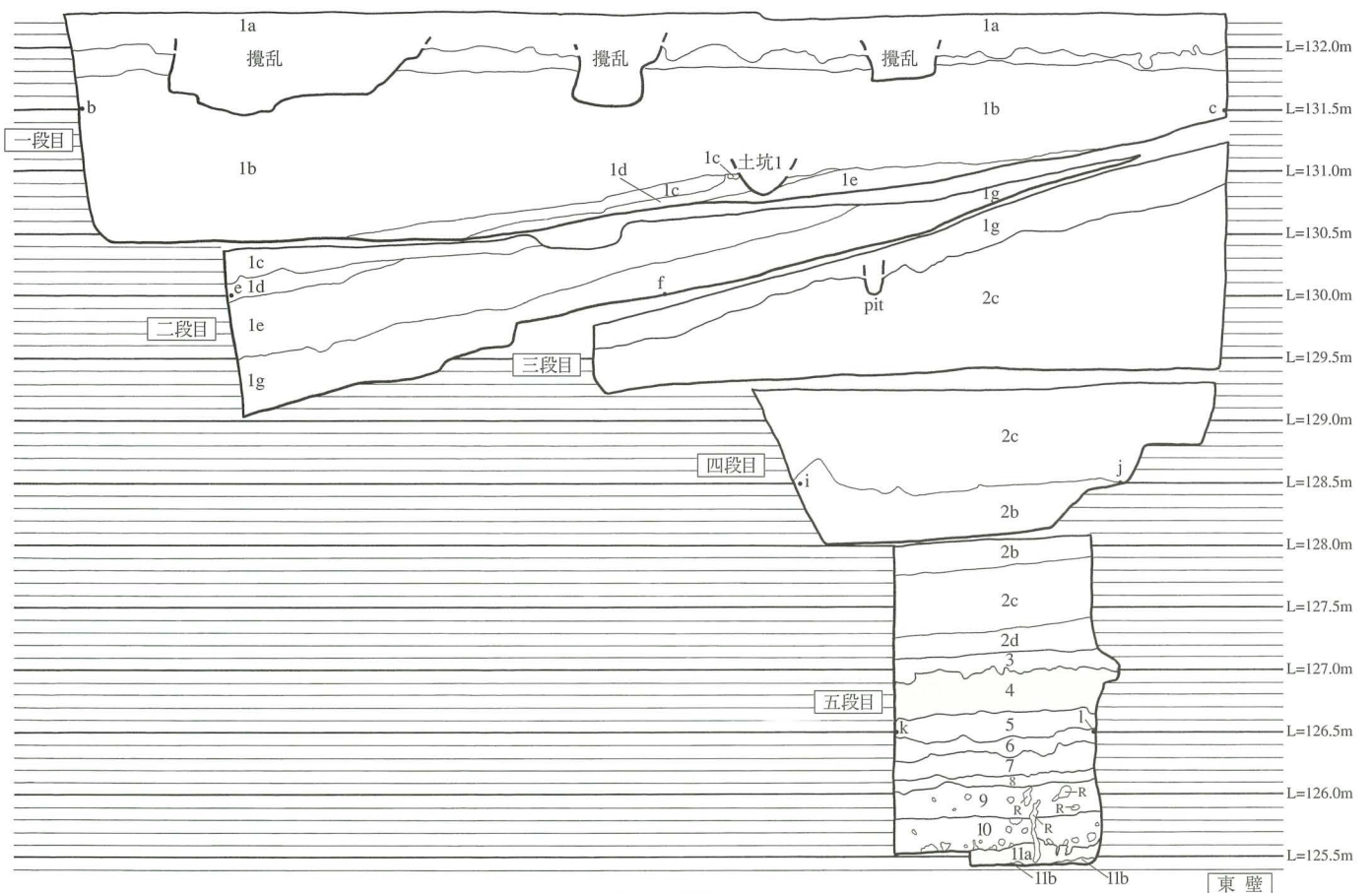
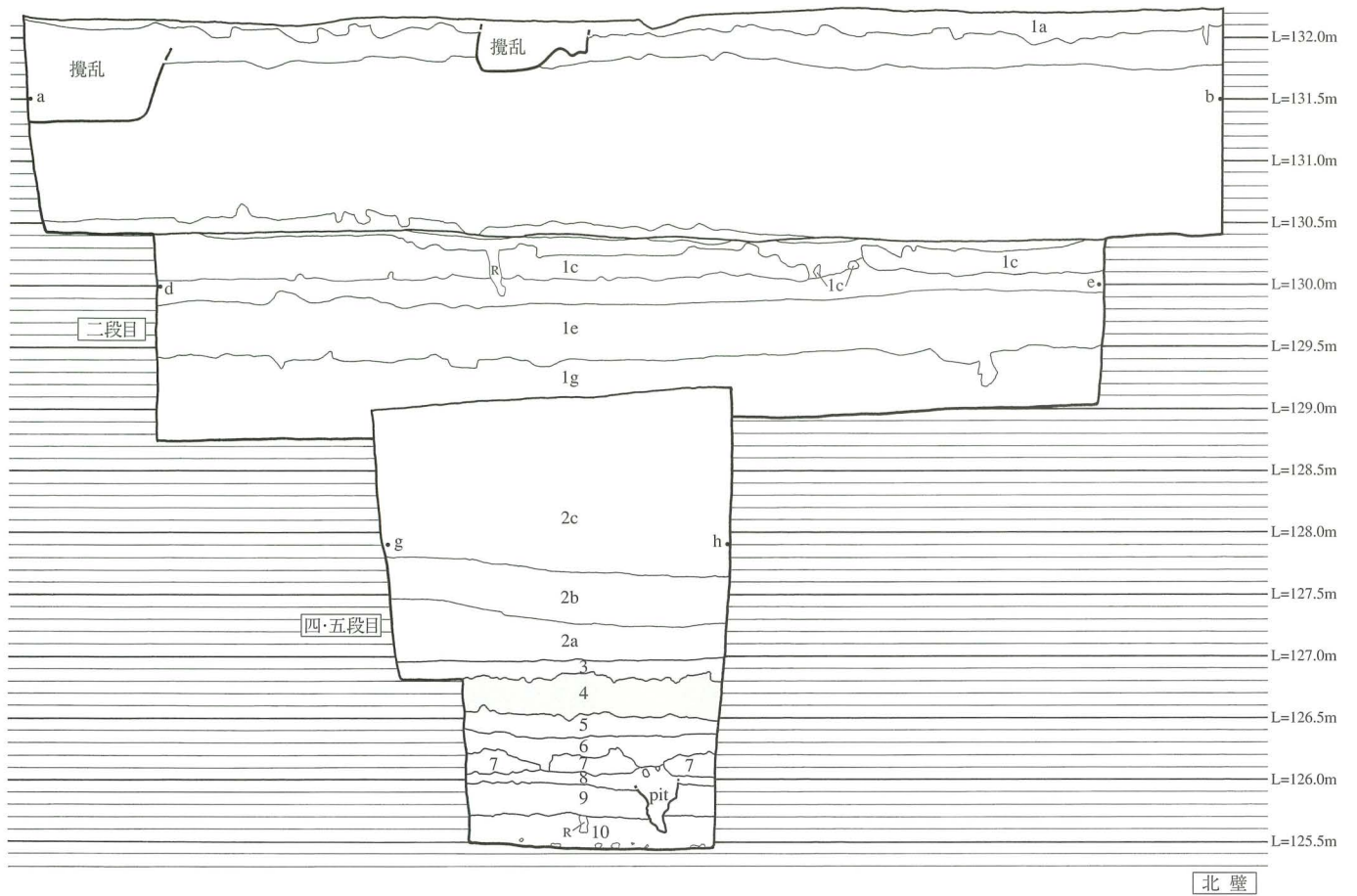


Fig.13 13トレンチ東壁・北壁層位断面図(S=1/60)



Pl.11 13トレンチ東壁層位断面(一〜四段目)状況写真①



Pl.12 13トレンチ東壁層位断面(五段目)状況写真②



Pl.13 13トレンチ北壁層位断面(一〜四段目)状況写真①



Pl.14 13トレンチ北壁層位断面(五段目)状況写真②

ね水平堆積を示しており、旧地形と現況地形とが大きく異なることが確認できた。第4層は、層厚約30cmで、第5層を直接被覆している。第7層は、層厚約20cmで、第8層を被覆している。第8層は、層厚約8cmで比較的安定して堆積している。第9、10層はともに層厚約25cmを測り、AT、あるいは岩本火山灰を起源とするブロックが混在する。

(文責 鎌田)

(2) 遺構

①第1層bの遺構 (Fig.13)

東側壁面において、第1層bを埋土とする土坑1基を確認した。土坑1は、断面で確認した範囲では、上幅約40cm、深さ約15+ α cmを測り、断面形態はボール形を呈する。埋土の土色等から、中世の時期のものと考えられる。確認した範囲では、埋土中に遺物は見られなかった。

②第1層gの遺構 (Fig.13)

同じく、東側壁面において、第1層gを埋土とするピット1基を確認した。ピットは、第1層gから第2層に対して掘り込まれていた。確認した範囲では、上幅約15cm、下幅約10cm、深さ約18+ α cmを測る。埋土の土色等から、弥生時代中期に帰属するものと考えられる。

③第5・6層の遺構 (Fig.14・15)

第8層上面で、第5・6層を埋土とするピット3基を確認した。平面形態は、不整形な楕円を呈する。埋土から、縄文時代早期に帰属するものと考えられる。プランは形成されなかった。ピットの詳細はTab.6の通りである。

④第8層の遺構 (Fig.13)

北側壁面において、第8層を埋土とするピット1基を確認した。ピットは、第8層から第9、10層に対して掘り込ま

れていた。確認した範囲では、上幅約30cm、下幅約10cm、深さ約40+ α cmを測る。埋土から、縄文時代草創期に帰属するものと考えられる。

⑤第9層の遺構 (Fig.16・17)

第11層の上面で、第9層を埋土とするピット5基を確認した。後期旧石器時代に帰属するものと思われる。ピットの詳細はTab.7の通りである。調査範囲も狭いことからプランを検討することは出来なかった。

(文責 渡部)



Pl.15 第5・6層のピット検出状況写真(南西側より)

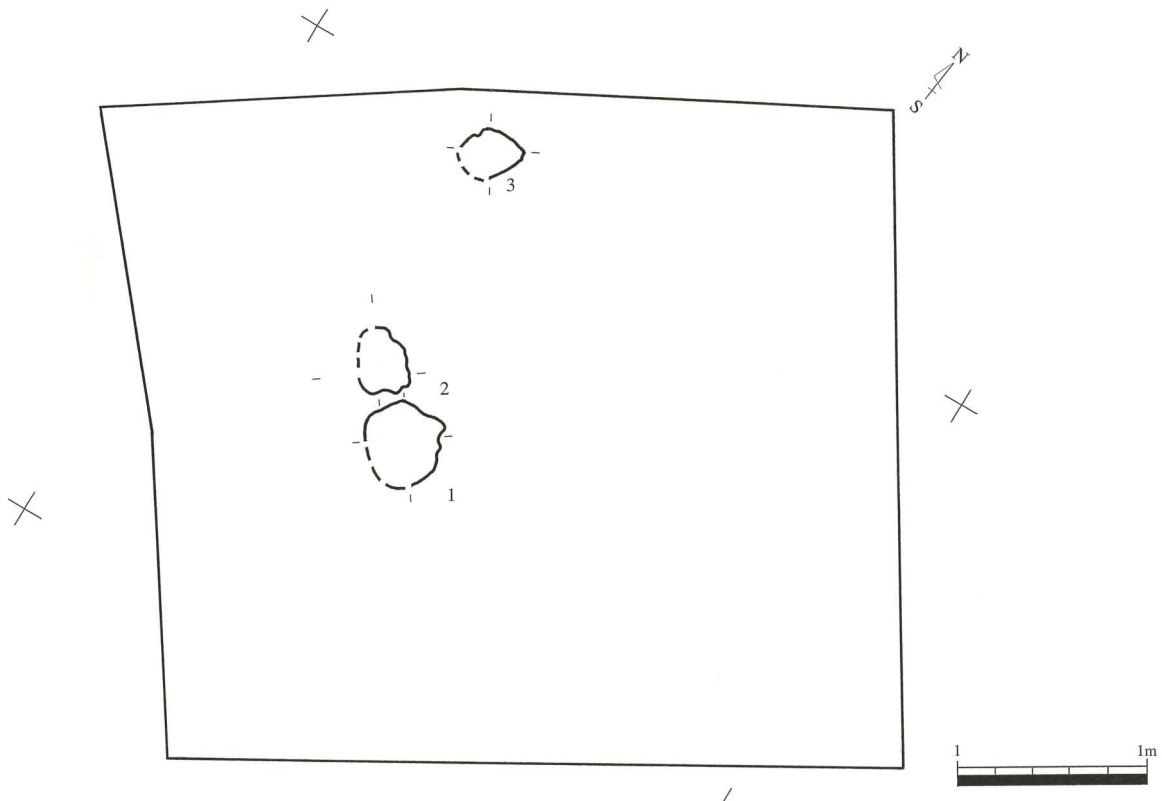


Fig.14 13トレンチ第5・6層帰属のピット検出状況図(S=1/40)

ピットNo.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	47	39	67.5
2	34	21.5	59.5
3	36.5	28	41

Tab.6 13トレンチ第5・6層帰属のピット法量表



Pl.16 第5・6層のピット1号検出状況写真



Pl.17 第5・6層のピット2号検出状況写真



Pl.18 第5・6層のピット3号検出状況写真

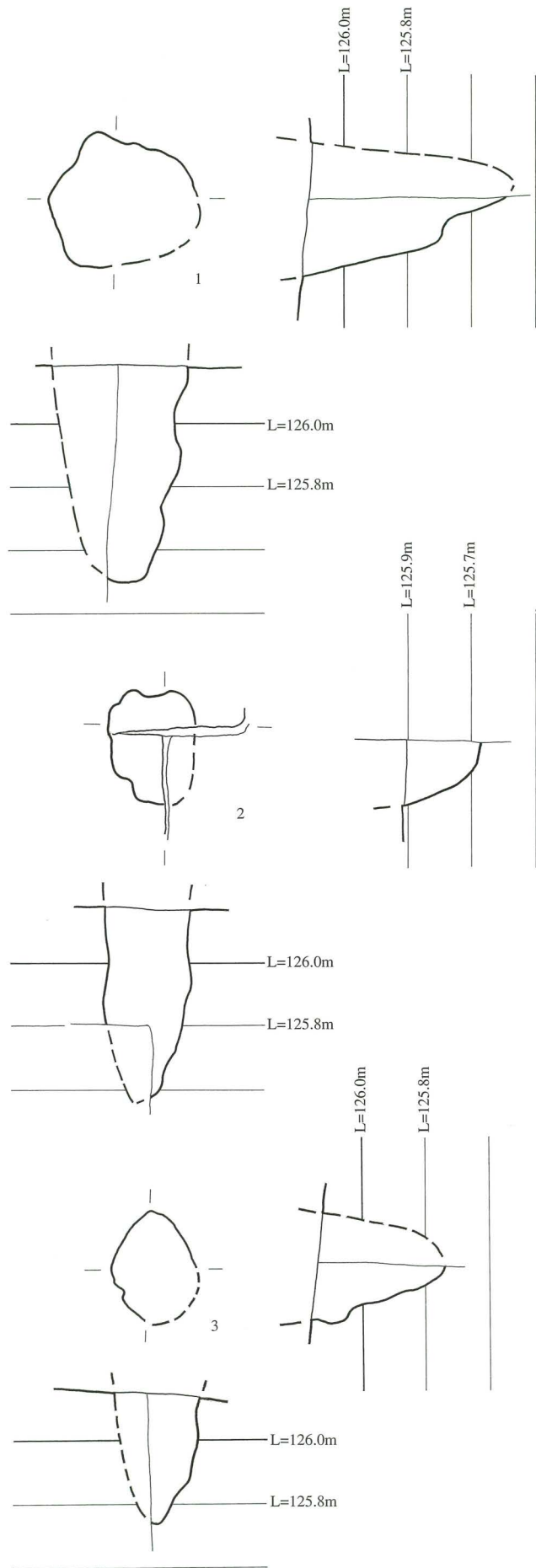


Fig.15 13トレンチ第5・6層帰属のピット平面・断面図(S=1/20)

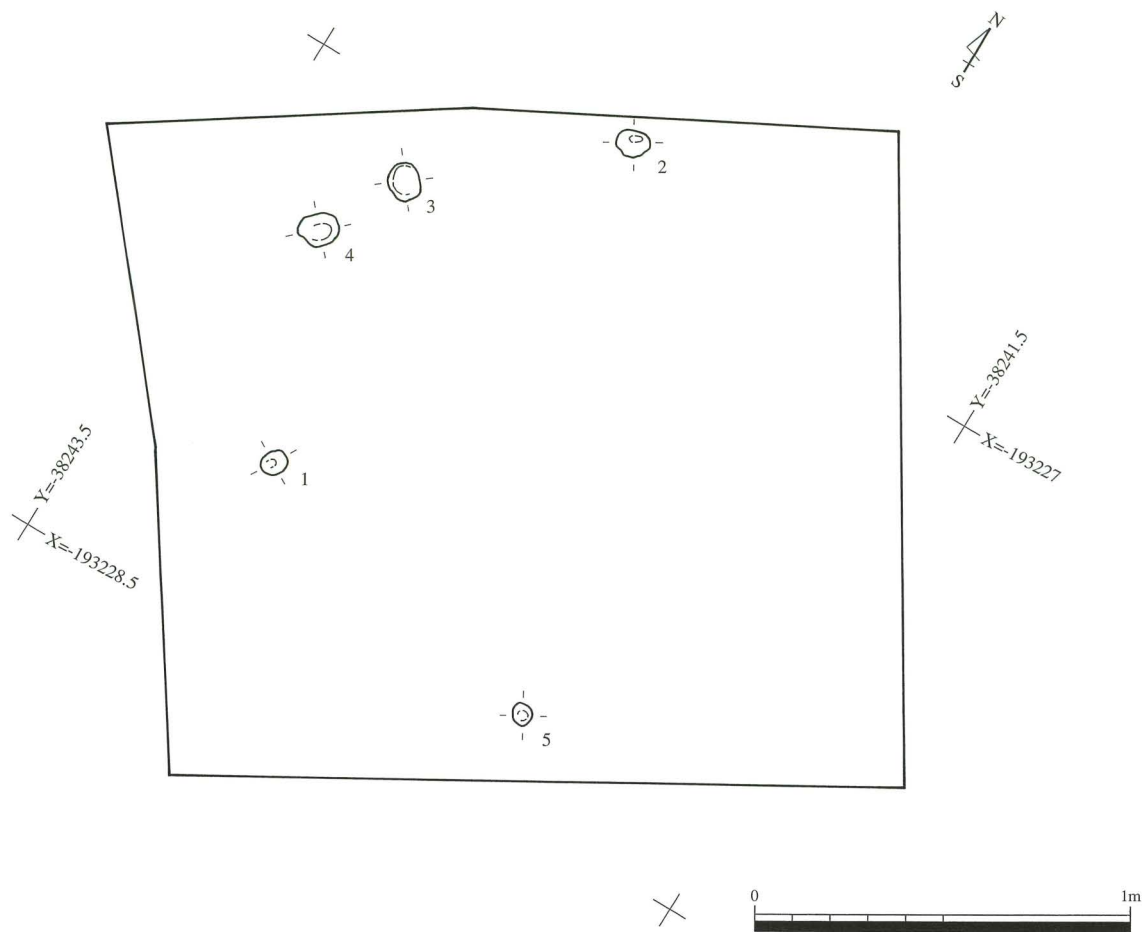


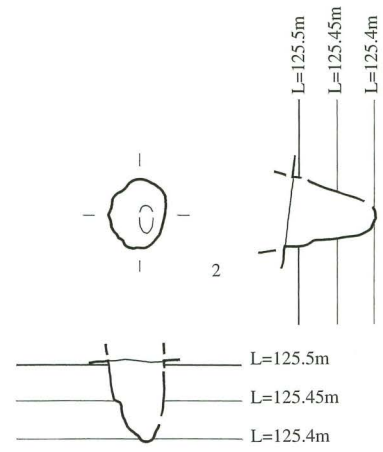
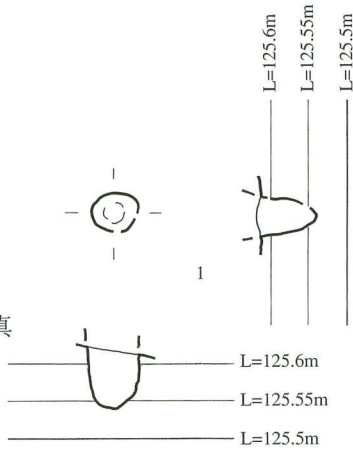
Fig.16 13トレンチ第9層帰属のピット検出状況図(S=1/20)

ピットNo.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	13	11	16
2	19	15.5	23
3	21	17.5	21
4	22.5	17.5	20.5
5	12.5	14.5	22.5

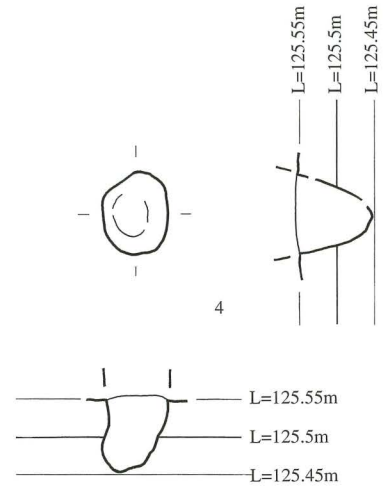
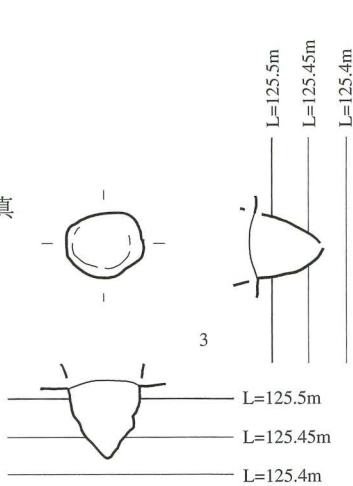
Tab.7 13トレンチ第9層帰属のピット法量表



Pl.19 13トレンチ第9層ピット1号検出写真



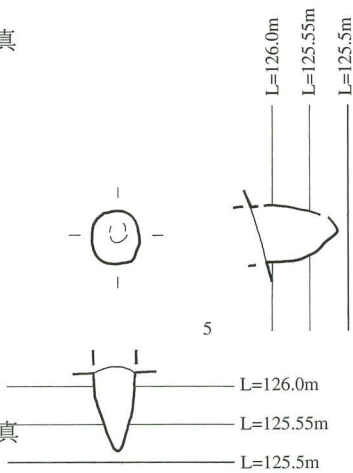
Pl.20 13トレンチ第9層ピット2号検出写真



Pl.21 13トレンチ第9層ピット3号検出写真



Pl.22 13トレンチ第9層ピット4号検出写真



Pl.23 13トレンチ第9層ピット5号検出写真

Fig.17 13トレンチ第9層帰属のピット平面・断面図(S=1/10)

(3) 遺物

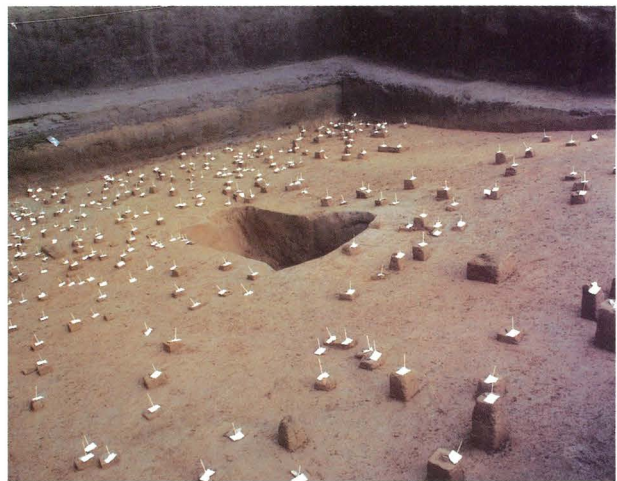
本地点では、第1層gから、それぞれ弥生時代中期に該当すると思われる遺物合計682点の遺物が出土した。第1層g出土の遺物の種類は、土器632点、石器5点、礫器9点、礫35点、粘土塊1点である。なお、35点の礫の中には、石器素材や自然礫等が含まれている可能性がある。第9層出土の3点の遺物は、すべて礫であった。

以下、第1層g出土遺物のうち図化した41点について報告する。

①土器 (Fig.19・20・21)

No.1は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、端部が若干窪む三角形形状を呈す。口縁部は、水平に仕上げられている。口縁部外面には稜をもち、器面内外面には、工具によるナデの痕跡を確認できる。

No.2は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、端部が若干窪む三角形形状を呈す。口縁部は、水平に仕上げられている。口縁部内外面には稜をもち、器面内外面には、工具によるナデの痕跡を確認できる。



Pl.24 13トレンチ第1層g出土遺物状況写真(南側より)

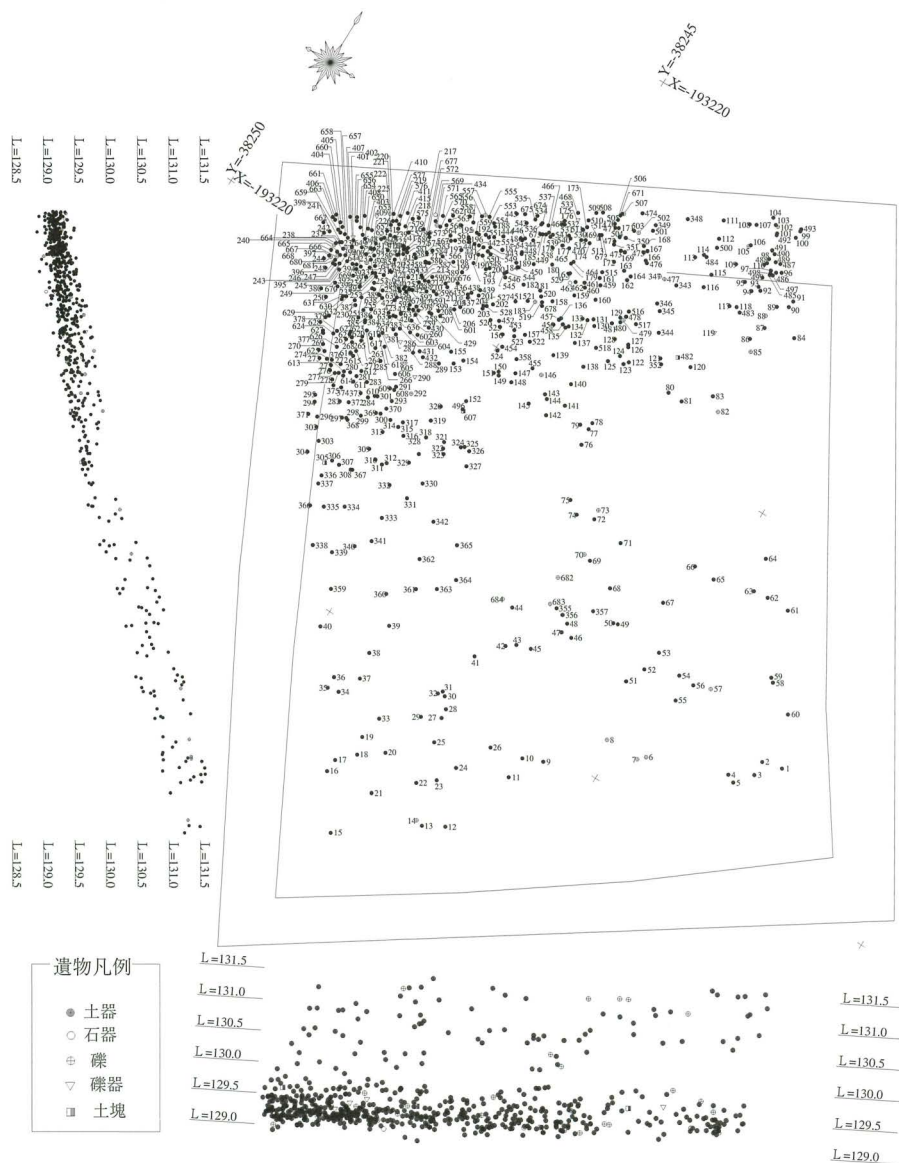


Fig.18 13トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/120)

No. 3は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部は、若干外下がりには仕上げられている。口縁部端部がわずかに窪む。

No. 4は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し端部が窪む。口縁部は、わずかに外下がりには仕上げられている。器面の外面に工具によるナデ、内面にユビオサエの痕跡が残る。

No. 5は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、わずかに外下がりには仕上げられている。口縁部と胴部との接合痕が確認できる。また、口縁部上面は若干丸みを帯び、端部は若干窪む。残存する胴部に、3条の三角突帯が確認できる。器面の内外面にハケメの痕跡が残る。

No. 6は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、口縁部端部には、工具によるキザミが施される。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられており、器面の内面には、口縁部と胴部との接合痕が確認できる。器面の外面にハケメ、内面に工具によるナデの痕跡が残る。

No. 7は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態はT字状を呈し、口縁部端部には棒状工具によるキザミが施される。口縁部は、若干外上がりには仕上げられている。器面外面に工具によるナデ、内面にユビオサエの痕跡が残る。

No. 8は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、内面にも口縁部端部が若干張り出す。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。また、器面内面には、口縁部と胴部との接合痕が確認できる。

No. 9は、口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態はT字状を呈し、口縁部上面がわずかに窪む。口縁部は、若干外下がりには仕上げられている。残存する胴部に、1条の三角突帯が確認できる。

No.10は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態はT字状を呈し、口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。胴部には、1条の絡縄突帯が一部残存している。突帯の接続部分は片方の端部が、巻き上げられたように屈曲する。

No.11は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。復元口径は、34.4cmを計る。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、わずかに外上がりには仕上げられている。口縁部端部には、工具によるキザミが施される。残存する胴部には、2条の三角突帯がめぐる。器面内面には、わずかにハケメの痕跡が見られる。

No.12は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。復元口径は、34.2cmを計る。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、わずかに外上がりには仕上げられている。また、口縁部上面は、丸みを帯びる。口縁部端部に、指先でつまみ断面が三角形を呈する附文が張りつけられている。器面外面には、ハケメの痕跡が、器面内面には工具によるケズリの痕跡が残る。

No.13は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、丸みを帯びた台形を呈する。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。残存する胴部には、一条の沈線がめぐる。器面外面には、ハケメの痕跡が若干残る。また、器面内面にはミガキによって仕上げられている。

No.14は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は楕円形を呈し、上面は丸みを帯びる。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。口縁部端部が若干窪む。器面内外面には、工具によるナデの痕跡が若干残る。

No.15は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、T字状を呈する。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。口縁部端部の下方には、工具によるキザミが施されている。器面内面には、ハケメの痕跡が若干残る。

No.16は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部端部の断面形態は、端部が潰れた三角形を呈する。口縁部は、若干外下がりには仕上げられている。残存する胴部には、3条の三角突帯がめぐる。器面の内面には一部ユビオサエの痕跡が残る。器面外面にはミガキが見られる。

No.17は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部が窪む。口縁部の迫り出しは短く、端部は若干窪む。口縁部上面は下方に下がる。残存する胴部には、3条の三角突帯がめぐる。器面内面に工具によるナデの痕跡がわずかに認められる他、内面にはユビオサエの痕跡が残る。

No.18は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部端部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部の上方には、工具によるキザミが施される。口縁部はほぼ水平に仕上げられている。残存する胴部には、1条の沈線がめぐる。器面内外面に工具によるナデの痕跡がわずかに認められる。

No.19は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部端部の断面形態は、台形を呈する。口縁部は水平に仕上げられている。器面内外面は、ミガキによって仕上げられている。

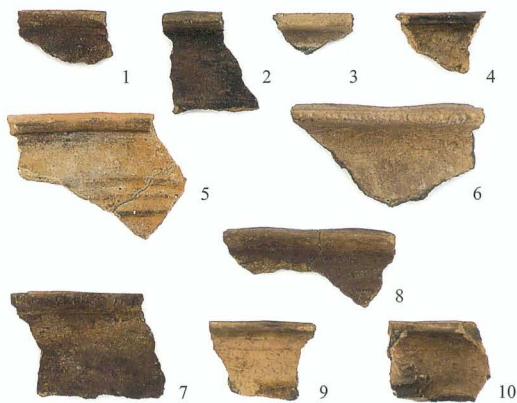
No.20は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈する。口縁部はほぼ水平に仕上げられている。

No.21は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、T字状を呈し、端部は丸みを帯びる。口縁部上面は若干窪み下方に下がる。器面内外面に工具によるナデの痕跡が認められる。

No.22は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部は丸みを帯びる。口縁部端部下方がわずかに窪む。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられており、器面内外面に工具によるナデの痕跡が認められる。

No.23は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部は丸みを帯びる。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられており、上面は丸みを帯びる。器面内外面に工具によるナデの痕跡が認められる。

No.24は、壺形土器の口縁部～頸部の破片である。復元口径は23cmを計る。口縁部は「」型に外半する。器面外面に



Pl.25 13トレンチ弥生時代出土土器①写真(外面)



Pl.26 13トレンチ弥生時代出土土器①写真(内面)

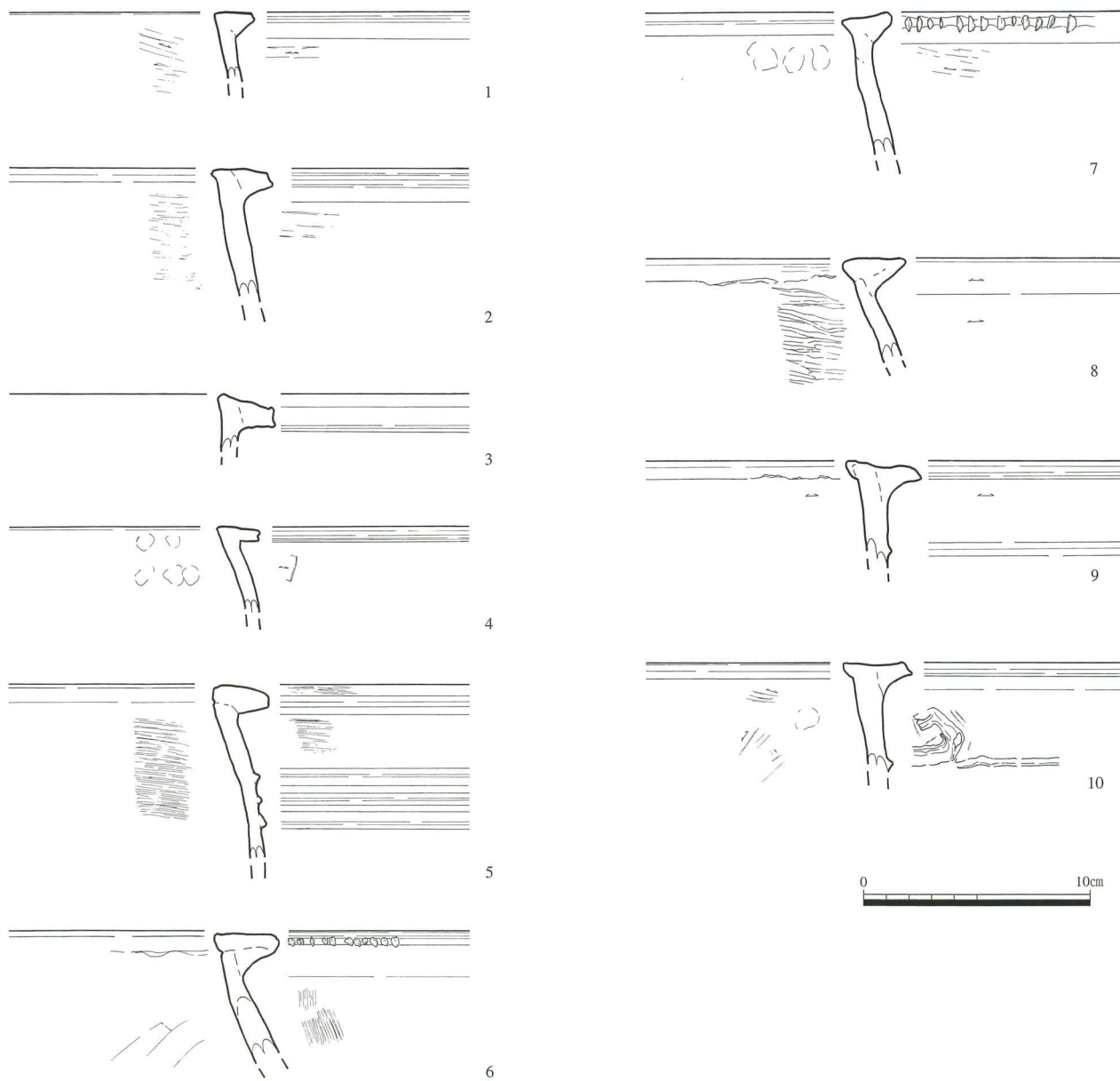


Fig.19 13トレンチ弥生時代出土土器実測図①(S=1/3)

ハケメの痕跡がわずかに認められる他、内面には三角突帯状の2条の段が認められる。

No.25は、壺形土器の口縁部～頸部の破片である。復元口径は12.4cmを計る。口縁部の断面形態は、T字状を呈する。口縁部は、若干外下がりには仕上げられ、その端部には工具によるキザミが施されている。

No.26は、壺形土器の胴部突帯部の破片である。残存する胴部には1条の三角突帯がめぐり、その上部に波状の突帯が貼り付けられている。

No.27は、甕形土器の胴部の破片である。器面に焼成後に施された補修孔と思われる直径4mmの穿孔が認められる。

No.28は、壺形土器の底部の破片である。底径は9.2cmを計る。底部は平底であるが、若干丸みを帯びているため、安定が悪い。器面外面に工具によるナデの痕跡が認められる。

No.29は、甕形土器の底部の破片である。復元底径は、7.5cmを計る。底部は平底である。

No.30は、甕形土器の底部の破片である。復元底径は、7cmを計る。底部は平底である。

No.31は、甕形土器の底部の破片である。復元底径は、8cmを計る。底部は平底である。

②礫器 (Fig.22)

No.32は、軽石製加工品である。縦5.1cm、横6.6cm、厚さ2.7cm、重さ17.18gを計る。a、b面に凹部があり、両側から穿孔が施され、貫通している。C面は磨面となる。

No.33は、軽石製加工品である。縦11cm、横4.8cm、厚さ4.8cm、重さ80gを計る。a、b面、c面は磨面となる。

No.34は、軽石製加工品である。縦10.2cm、横6.2cm、厚さ4.9cm、重さ110gを計る。a、b面に磨面が認められる。

No.35は、軽石製加工品である。縦8.8cm、横7.2cm、厚さ3.5cm、重さ58.62gを計る。a面に凹部と溝状の切れ目が認められる。また、B面にも3条の並行した切れ目が認められる。

No.36は、軽石製加工品である。縦9cm、横8.6cm、厚さ3.9cm、重さ10.5gを計る。a、b面に磨面が認められる。

No.37は、軽石製加工品である。縦6.3cm、横5.7cm、厚さ3.4cm、重さ29.91gを計る。全面に磨面が認められる。

(文責 渡部)

③石器 (Fig.23)

No.38は、粘板岩製の剥片を素材とした切断剥片である。a面とb面に認められる剥離の剥離方向は、3枚とも異なっていることから、この剥片は、打面を頻繁に移動しながら剥片を剥離した石核から剥離されたものと考えられる。素材剥片の打面部・下端部・両側部とも1枚あるいは2枚の剥離によって切断されている。切断にともなう加撃方向は、a面右側部のみがa面側からの加撃で、他の三ヶ所はb面側からの加撃によるものである。四ヶ所の切断によって、全体的な形状は、長方形を呈しているものの、その利用方法や目的については不明である。縁辺部には使用痕や切断後の調整痕などは認められない。

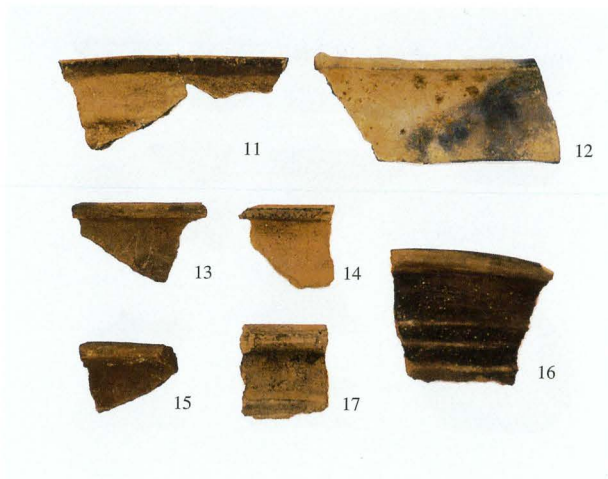
No.39は、幅広の剥片を素材とした二次加工のある剥片で、a面上端部とb面左端部に二次加工が認められる。a中央に認められる大きな剥離痕の剥離方向とb面の主要剥離面に認められる剥離方向は、概ね180度異なっている。このことから、この素材剥片は、打面転移をしながら剥片を剥離する石核から剥離されたものと考えられる。素材剥片の打面部は、a面上端部の二次加工によってほぼ除去されている。推測の域を出ないが、素材剥片の打面自体も、幅広で厚みのある打面ではなく、点状打面のような小さい打面であったと考えられる。a面左側部は、b面右側部で認められるように、a面側からの加撃によって切断されている。二次加工は、a面上端部とb面左端部に認められており、二次加工後の形状は概ね直角に交わる二線を呈している。

No.40は、粘板岩製の剥片を素材とした使用痕のある剥片である。a面とb面に認められる剥離の剥離方向は、3枚とも異なっていることから、この剥片は、打面を頻繁に移動しながら剥片を剥離した石核から剥離されたものと考えられる。素材剥片の打面部と下端部は切断によって整形されている。切断によって概ね平面形状が三角形を呈している。刃部は、素材剥片の縁辺の範囲で切断されていないほぼ直線的な縁辺を用いている。刃部には、刃こぼれ状の使用痕が認められる。

No.41は、砂岩を素材とした有溝砥石である。有溝部分が顕著に認められる部分は、a面左側面(c面)と、b面中央部である。a面左側部は、断面①・②で確認されるとおり、2条の溝が並列している。溝の長さは14cm前後を測り、幅は1.5～2.8cmを測る。溝の深さは最深で0.55cmと0.65cmを測る。溝の中央部分で最深を測り、溝の両端にいくに従って浅くなっている。b面中央部は、ほぼ45度のずれがある溝が切り合っている状態で2条認められる。a面中央下部の溝は、b面左端から右端へ右斜め下方方向へ延びている。長さ約11cm、幅は最大で5cm、深さは0.6cmを測る。なお、その溝の下位には、ほぼ平行する浅い溝状のものが看取できるものの、他の溝と比較すると深さは浅く、形状的には溝の両端が不整形で平行ではなく、明瞭ではない。溝状砥面の初期段階とも考えられる。b面中央上部の溝は、先述した溝によって切られているためか、長さが約6.3cmと短い。幅は約2.5cm、深さは最深で0.6cmを測る。

また、溝状は呈していないものの、部分的な断面がU字形を呈している部分が、a面下部に認められる。(c面下部・d面下部の断面図にて、その形状が確認できる。)さらに、平面的な砥面は、a面右側面全体である。すなわち、石器全体の面がほぼ砥面であり、平面的あるいは溝状を呈しているかの違いであることから、多種の道具の研磨具として利用されていたことが推測できる。

(文責 鎌田)



Pl.27 13トレンチ弥生時代出土土器②写真(外面)



Pl.28 13トレンチ弥生時代出土土器②写真(内面)

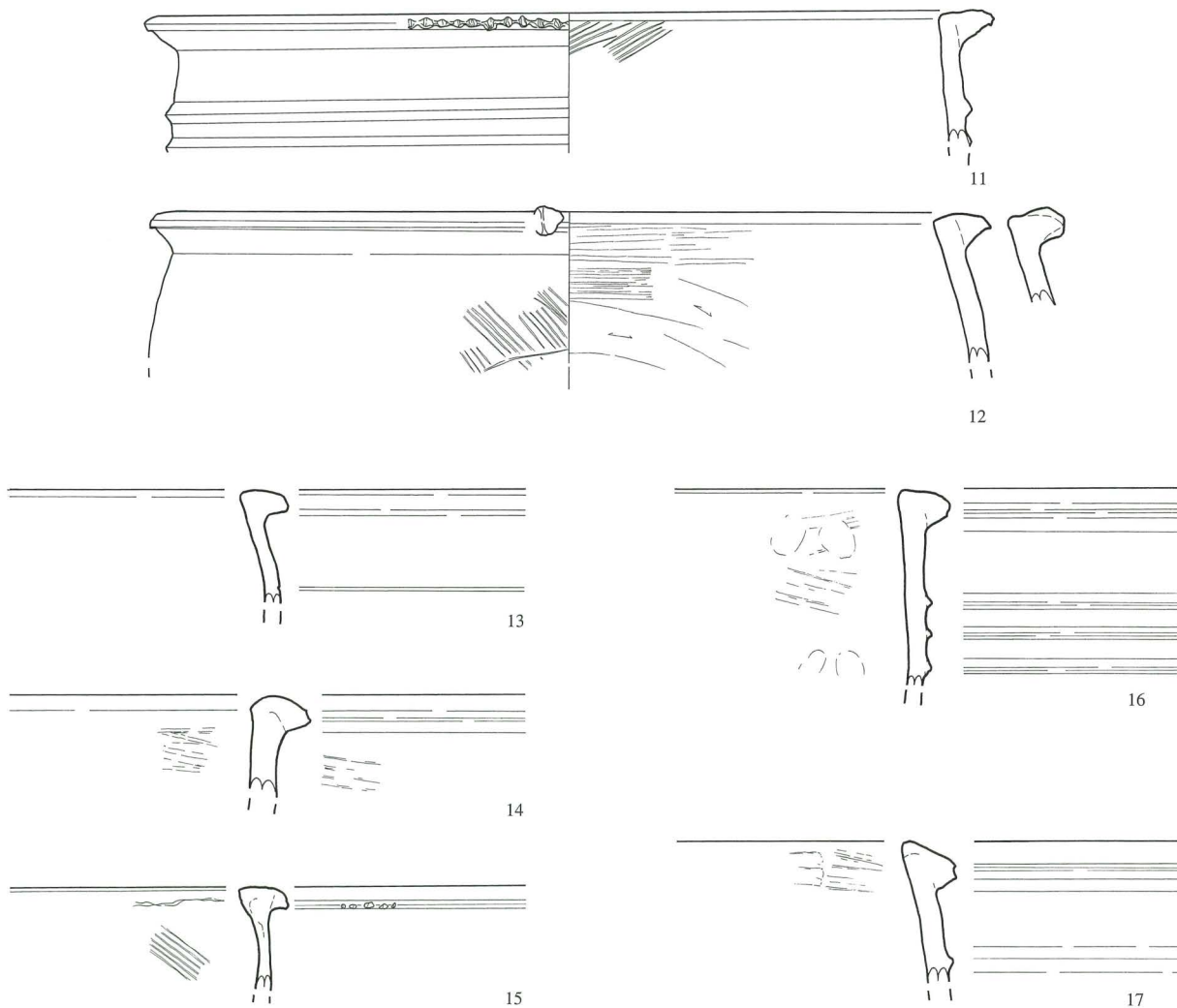
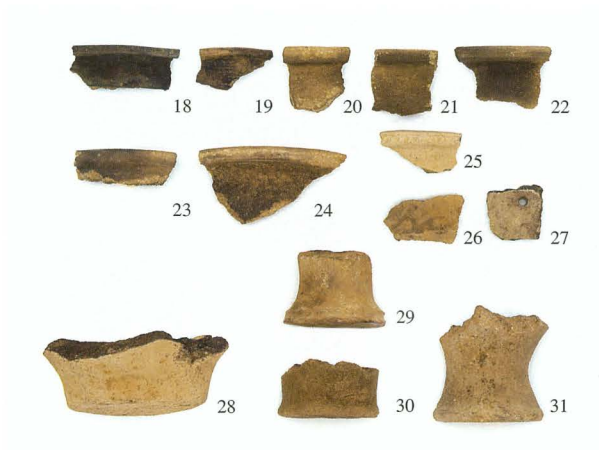


Fig.20 13トレンチ弥生時代出土土器実測図②(S=1/3)



Pl.29 13トレンチ弥生時代出土土器③写真(外面)



Pl.30 13トレンチ弥生時代出土土器③写真(内面)

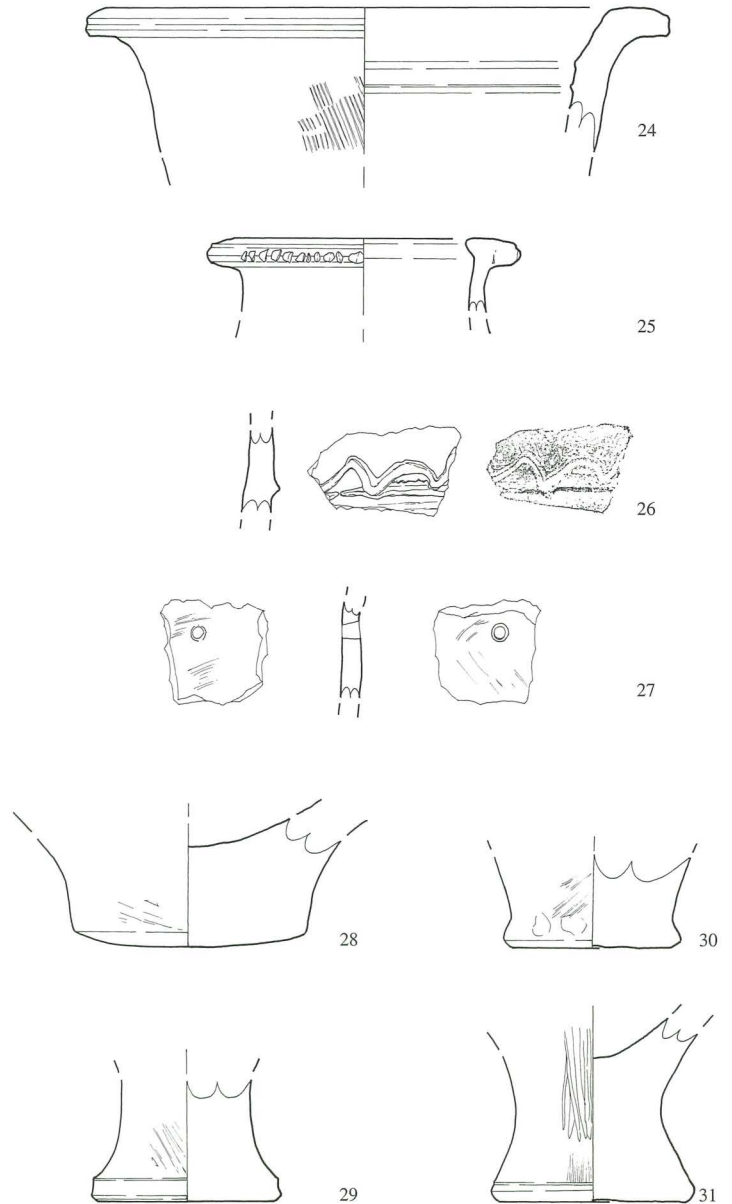
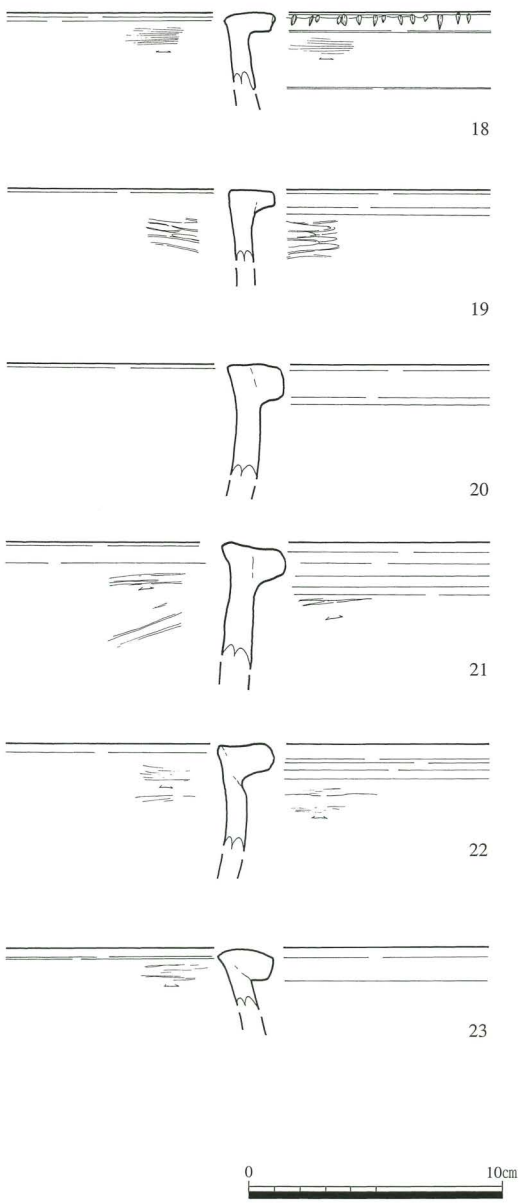


Fig.21 13トレンチ弥生時代出土土器実測図③(S=1/3)

図番 No.	取上げ No.	器 種	残存法量(cm)	部 位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土 層位	接 合
1	400	甕形土器	破片	口縁部	2.5YR3/1	7.5YR5/4	7.5YR4/1 5YR5/3	口縁 5YR5/4	細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
2	564	甕形土器	破片	口縁部	2.5YR3/1	5YR5/3	7.5YR4/2 5YR5/3	口縁 2.5Y4/1	細砂粒・微砂粒を 若干含む	セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
3	268	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2 7.5YR7/2	7.5YR5/3	7.5R4/1 7.5YR7/2	口縁 7.5YR3/1 10YR7/3	細砂粒を含む	カ・セ・白・黒	内・ヨコナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
4	621	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR5/3	7.5YR5/4	7.5YR5/4	口縁 7.5YR5/4 2.5YR4/2	細砂粒・微砂粒を 若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・ユビオサエのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ナデ ヨコナデ 工具によ るナデのちナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
5	403	甕形土器	破片	口縁部～ 胴部突帯部	5YR4/2 10YR5/2	7.5YR5/4	7.5YR7/3	口縁 5YR5/4	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・ 金ウンモ	内・工具によるナデのちナデハケメ のちナデ 外・ナデハケメのちナデのちナデ ヨコナデ 口縁・ハケメのちナデ ヨコナデ ナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
6	223	甕形土器	破片	口縁部	10YR5/3	10YR5/3	10YR4/2 10YR5/3	口縁 7.5YR5/3	細砂粒を多く含む	カ・セ・白・黒	内・ヨコナデ 工具によるナデのち ナデ接合痕あり 外・ヨコナデ タテ方向のナデ 口縁・ヨコナデ 端部にキザミ	傾き疑問 焼成良好	1g	
7	503	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2 7.5YR3/1	7.5YR4/3	10YR4/2 7.5YR4/3	口縁 5YR5/4 5YR5/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を 若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・ユビオサエのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ 端部にキザミ	傾き疑問 焼成良好	1g	
8	122	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR3/1	5YR4/3	7.5YR4/2	口縁 7.5YR4/1 5YR5/3	砂粒を含む	カ・セ・白・黒	内・丁寧なナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	372
9	68	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3	7.5YR5/4	7.5YR4/2 10YR5/2	口縁 5YR5/4 5PB5/1	細砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒	内・ナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
10	565	甕形土器	破片	口縁部～ 突帯部	7.5YR4/2 10YR3/1	5YR5/4	2.5YR4/1 5YR6/4	口縁 5YR5/4	細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ一部 ユビオサエ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ ナデ 工具によるナデのちナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	13	
11	309	甕形土器	破片 1/8残存 復元口径34.4	口縁部	7.5YR4/3 5YR3/1	10YR5/4	10YR3/1 10YR5/4	口縁 10YR5/3 7.5YR7/2	砂粒を含む	カ・セ・白・黒	内・工具によるナデのちナデ 外・ヨコナデ ナデ 口縁・ヨコナデ キザミ 突・ナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	368
12	243	甕形土器	破片 1/6残存 復元口径34.2	口縁部	10YR5/3 N4/0	10YR6/3	10YR3/1 10YR6/3	口縁 10YR5/3 5Y6/1	微細粒を含む	カ・セ・白・黒	内・工具によるナデ 工具によるケズリのちナデ 外・ヨコナデ ハケメのちナデ 口縁・ヨコナデ 端部にコブ	傾き疑問 焼成良好	1g	
13	488	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR7/2	7.5YR5/2	7.5YR5/4 5YR4/2	口縁 7.5YR6/4 7.5YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を 若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・ミガキ 外・ハケメのちナデ ナデ 沈線 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
14	594	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/2	5YR4/2	7.5YR4/3	口縁 5YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を 若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ナデ ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
15	385	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/1	7.5YR4/3	7.5YR4/1 5YR5/4	口縁 7.5YR5/4	細砂粒を含む	カ・セ・黒・ ウンモ・他	内・工具によるナデのちナデ ユ ビオサエ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 端部にキザミ	傾き疑問 焼成良好	1g	

Tab.8 13トレンチ出土遺物観察表①

図番 No.	取上げ No.	器 種	残存法量(cm)	部 位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土 層位	接 合
16	449	甕形土器	破片	口縁部～ 胴部突帯部	5YR3/1	7.5YR5/3 7.5YR3/1	5YR5/3	口縁 7.5YR5/3 10YR3/1	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ウンモ・ 他	内・工具によるナデのちナデ一部 ユビオサエ 外・ミガキ 口縁・ヨコナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
17	220	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR5/3	7.5YR5/3	10YR5/2	口縁 7.5YR6/4	砂粒を多く含む	カ・セ・白・ 黒・赤	内・工具によるナデのちナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
18	454	甕形土器	破片	口縁部	10YR3/1	2.5Y4/2	10YR4/1	口縁 10YR3/1	細砂粒・微砂粒を 若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 沈線 口縁・ヨコナデ 工具によるナデの ちナデ 端部にヨコナデのちキザミ	傾き疑問 焼成良好	1g	
19	599	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3 10YR3/1	7.5YR4/1	7.5YR4/1	口縁 5YR5/3 2.5YR5/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を 若干含む	セ・白・黒・ 赤・他	内・ミガキ 外・ミガキ 口縁・ミガキ ヨコナデ 工具によ るナデのちナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
20	10	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/2	7.5YR5/4	10YR4/2 5YR4/2	口縁 5YR5/4	微砂粒を含む	カ・セ・白・黒	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
21	46	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/2	7.5YR5/4	7.5YR4/2 7.5Y5/4	口縁 5YR5/4	微砂粒を含む	カ・セ・白・黒	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
22	498	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR4/1	5YR4/3	7.5YR4/2 10YR4/3	口縁 5YR4/2 7.5YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を 若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
23	630	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2 10YR3/1	7.5YR6/3 7.5YR4/1	7.5YR6/4	口縁 5YR3/1 10YR4/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を 若干含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	
24	295	壺形土器	破片 1/8残存	口縁部	5YR3/2 7.5YR4/1	7.5YR4/3	7.5R5/3	口縁 10YR4/3	細砂粒を多く含む	カ・セ・白・ 黒・ 金ウンモ	内・ヨコナデ 外・ハケメ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1g	内面突 帯2条
25	130	壺形土器	破片 1/6残存	口縁部	5YR7/3	5YR7/3	5YR3/1 5YR7/3	口縁 10YR6/3	細砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ナデ 端部にナデのちキザミ	傾き疑問 焼成良好	1g	
26	288	壺形土器	破片	胴部	5YR5/4 7.5YR5/3	7.5YR5/3	10YR5/2		砂粒を含む 小レキを含む	カ・セ・白・黒	内・ナデ一部ハクラク 外・ナデ ヨコナデ 突・工具による沈線	傾き疑問 焼成良好	1g	
27	342	甕形土器	破片	胴部	7.5YR5/3	10YR6/3	10YR3/1 10YR7/3		細砂粒を含む	カ・セ・白・黒	内・ナデ 外・ナデ 焼成後センコウ	傾き疑問 焼成良好	1g	
28	396	壺形土器	破片 1/1残存 復元底径9.2	底部	7.5YR6/3	7.5YR6/3	10YR3/1 7.5YR6/3	底10YR6/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・無調整?一部ハクラク 外・工具によるナデのちナデ 底・ナデ	焼成良好	1g	
29	405	甕形土器	破片 1/2残存 復元底径7.5	底部	2.5YR4/3	—	5R4/1 5YR4/3	底5YR4/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	外・工具によるナデのちナデ一部 ハケメ残る 底・無調整	焼成良好 反転	1g	
30	196	甕形土器	破片 1/2残存 復元底径7.0	底部	10YR4/2	—	2.5YR3/4	底7.5YR4/3	砂粒を多く含む	カ・セ・白・黒	外・工具によるナデ 指頭痕 底・ナデ	焼成良好	1g	
31	248	甕形土器	破片 1/2残存 復元底径8.0	底部	7.5Y5/2 7.5YR5/3	10YR3/1	5YR5/4	底10YR5/2 7.5YR4/3	砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・ 金ウンモ	内・カーボン付着調整不明 外・工具によるナデ ハクラク 底・ナデ	傾き疑問焼成 良好	1g	

Tab.9 13トレンチ出土遺物観察表②



Pl.31 13トレンチ出土礫器写真(表面)



Pl.32 13トレンチ出土礫器写真(裏面)

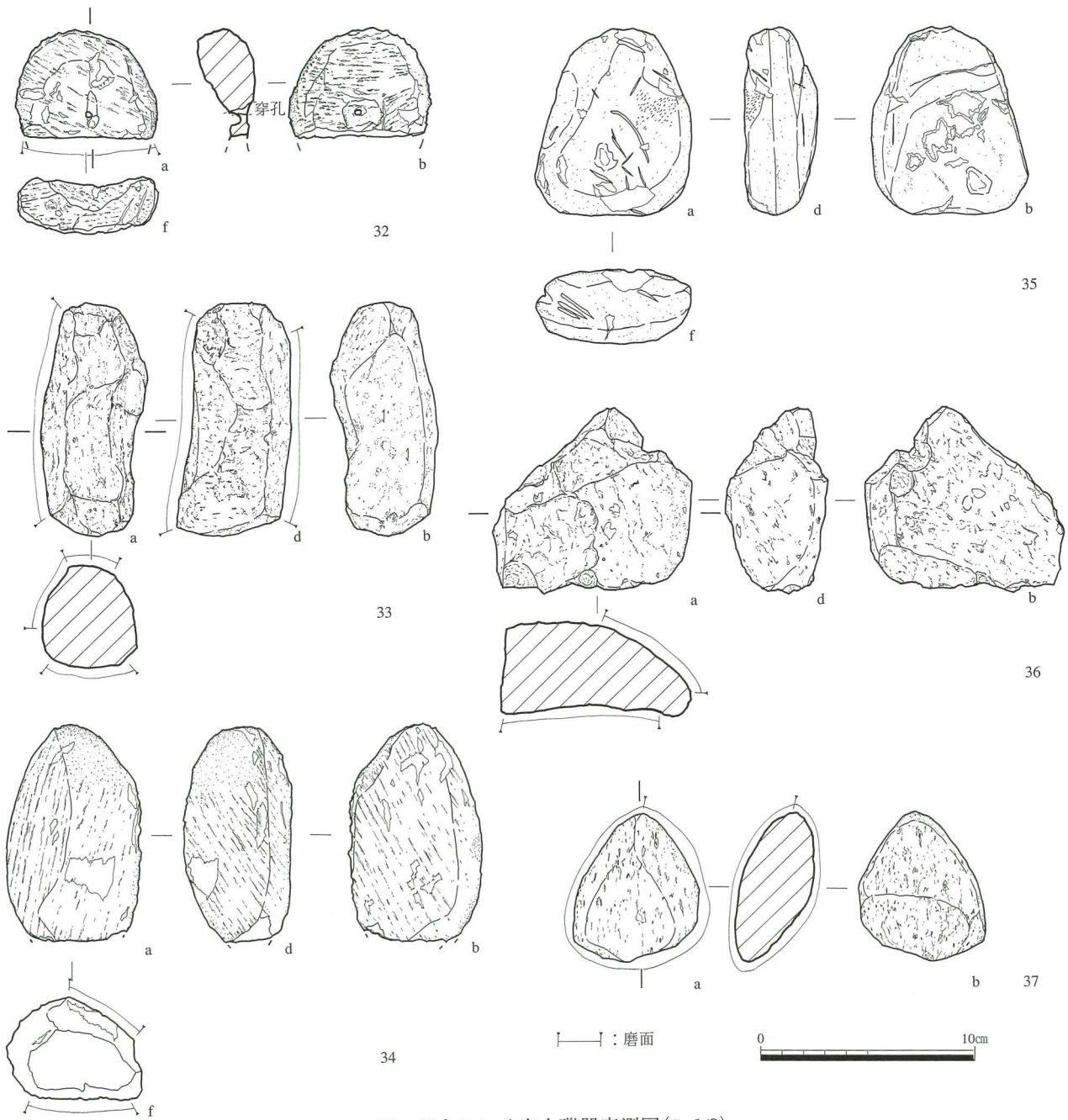
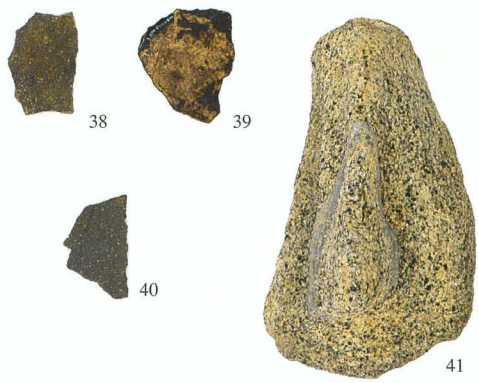


Fig.22 13トレンチ出土礫器実測図(S=1/3)



Pl.33 13トレンチ出土石器写真(表面)

Pl.34 13トレンチ出土石器写真(裏面)

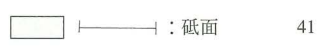
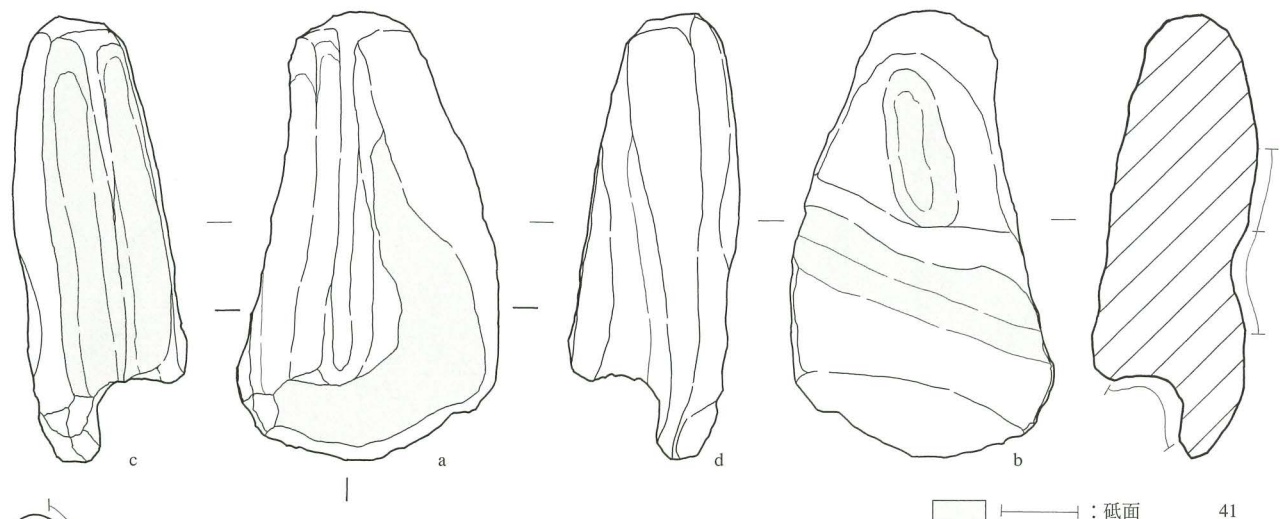
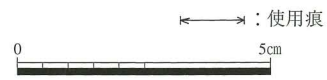
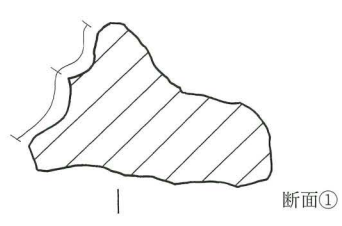
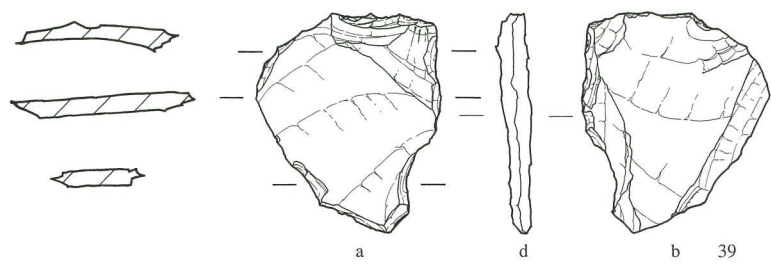
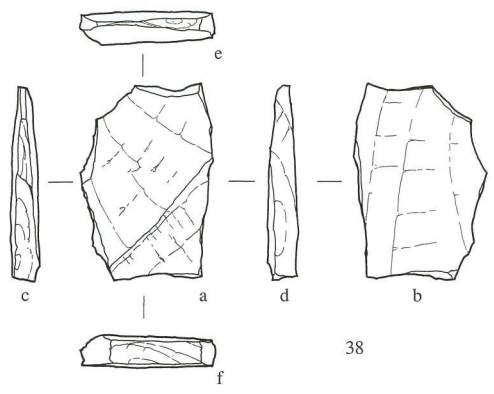


Fig.23 13トレンチ出土石器実測図(S=2/3・1/3)



No.	取上げNo.	器種	石材	法量 (cm)	重量 (g)	打面形状	使用痕	層	備考
32	381	軽石製加工品	軽石	最大長：6.6 最大幅：5.1 最大厚：2.7	17.18			1 g	
33	402	軽石製加工品	軽石	最大長：11 最大幅：4.8 最大厚：4.8	80			1 g	
34	119	軽石製加工品	軽石	最大長：10.2 最大幅：6.2 最大厚：4.9	110			1 g	
35	226	軽石製加工品	軽石	最大長：8.8 最大幅：7.2 最大厚：3.5	58.62			1 g	
36	286	軽石製加工品	軽石	最大長：8.6 最大幅：9 最大厚：3.9	105			1 g	
37	409	軽石製加工品	軽石	最大長 6.3 最大幅：5.7 最大厚：3.4	29.91			1 g	
38	511	切断剥片	粘板岩	最大長：5.2 最大幅：3.5 最大厚：0.9	18.15	切断により 不明		1 g	
39	463	二次加工剥片	粘板岩	最大長：5.8 最大幅：4.9 最大厚：0.8	20.73	二次加工により 除去		1 g	
40	596	使用痕のある剥片	粘板岩	最大長：5.3 最大幅：3.15 最大厚：0.7	9.16	切断により 除去	刃こぼれ状	1 g	
41	569	砥石	安山岩	最大長：17.6 最大幅：9.7 最大厚：5.9	802	—		1 g	

Tab.10 13トレンチ出土礫器・石器観察表

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
1		1g	土器	胴部片	-						-193228.288	-38237.567	131.568			
2		1g	土器	胴部片	-						-193228.369	-38237.892	131.521			
3		1g	土器	胴部片	-						-193228.613	-38237.887	131.507			
4		1g	土器	破片	-						-193228.827	-38238.239	131.576			
5		1g	土器	破片	-						-193228.892	-38238.109	131.519			
6		1g	礫	礫	安山岩	56.9	42.4	39.9	26.1	47.25	-193229.285	-38239.496	131.357			
7		1g	礫	礫	安山岩	101.6	79.1	67	54.2	330	-193229.388	-38239.596	131.359			
8		1g	礫	礫	安山岩	9.6	69.5	62.4	33.7	70	-193229.383	-38240.170	131.326			
9		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193230.221	-38240.847	131.270			
10		1g	土器	破片	-						-193230.352	-38241.156	131.302			
11		1g	土器	破片	-						-193230.724	-38241.181	131.399			
12		1g	土器	突帯部片	-						-193231.924	-38241.612	131.494			
13		1g	土器	突帯部片	-						-193232.110	-38241.936	131.322			
14		1g	礫	礫	軽石	44	72.8	67.1	44.6	100	-193232.083	-38242.056	131.305			
15		1g	土器	破片	-						-193232.981	-38243.106	131.248			
16		1g	土器	破片	-						-193232.181	-38243.678	130.896			
17		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193231.961	-38243.663	130.907			
18		1g	土器	胴部片	-						-193231.703	-38243.413	130.891			
19		1g	土器	細片	-						-193231.420	-38243.493	130.902			
20		1g	土器	胴部片	-						-193231.437	-38243.046	130.900			
21		1g	土器	胴部片	-						-193232.098	-38242.893	131.018			
22		1g	土器	胴部片	-						-193231.582	-38242.374	131.181			
23		1g	土器	突帯部片	-						-193231.373	-38242.121	131.345			
24		1g	土器	細片	-						-193231.041	-38241.965	131.159			
25		1g	土器	細片	-						-193230.881	-38242.478	131.104			
26		1g	土器	胴部片	-						-193230.475	-38241.676	131.050			
27		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193230.490	-38242.585	130.900			
28		1g	土器	細片	-						-193230.333	-38242.600	130.808			
29		1g	土器	胴部片	-						-193230.649	-38242.873	130.867			
30		1g	土器	胴部片	-						-193230.168	-38242.727	130.769			
31		1g	土器	突帯部片	-						-193230.120	-38242.794	130.759			
32		1g	土器	破片	-						-193230.188	-38242.842	130.707			
33		1g	土器	破片	-						-193231.028	-38243.420	130.773			
34		1g	土器	破片	-						-193231.009	-38244.197	130.589			
35		1g	土器	破片	-						-193231.046	-38244.379	130.564			
36		1g	土器	破片	-						-193230.849	-38244.383	130.472			
37		1g	土器	破片	-						-193230.649	-38244.022	130.554			
38		1g	土器	破片	-						-193230.223	-38244.114	130.493			
39		1g	土器	胴部片	-						-193229.687	-38244.075	130.405			
40		1g	土器	破片	-						-193230.279	-38244.999	130.315			
41		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193229.376	-38242.666	130.647			
42		1g	土器	破片	-						-193228.974	-38242.339	130.574			
43		1g	土器	壺形土器破片	-						-193228.868	-38242.202	130.722			
44		1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193228.397	-38242.576	130.518			
45		1g	土器	破片	-						-193228.799	-38241.973	130.751			
46	21	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193228.307	-38241.522	130.691			
47		1g	土器	口縁部片	-						-193228.313	-38241.700	130.642			
48		1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193228.150	-38241.700	130.631			
49		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193227.724	-38241.005	130.827			
50		1g	土器	破片	-						-193227.750	-38241.078	130.759			

Tab.11 13トレンチ出土遺物台帳①

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
51			1g	土器	破片	-						-193228.427	-38240.407	131.101			
52			1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193228.111	-38240.265	131.072			
53			1g	土器	破片	-						-193227.762	-38240.207	130.986			
54			1g	土器	高坏脚部端部片	-						-193227.900	-38239.740	131.130			
55			1g	土器	破片	-						-193228.268	-38239.578	131.225			
56			1g	土器	破片	-						-193227.913	-38239.468	131.201			
57			1g	礫	礫	安山岩	145.2	58.9	37.5	35.1	105	-193227.816	-38239.202	131.185			
58			1g	土器	突帯部片	-						-193227.203	-38238.420	131.235			
59			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193227.149	-38238.484	131.211			
60	20	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193227.506	-38237.946	131.348			
61			1g	土器	破片	-						-193226.100	-38238.830	130.911			
62			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193226.099	-38239.212	130.846			
63			1g	土器	破片	-						-193226.128	-38239.456	130.781			
64			1g	土器	破片	-						-193225.585	-38239.568	130.654			
65			1g	土器	破片	-						-193226.309	-38240.096	130.741			
66			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193226.288	-38240.455	130.695			
67			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193227.050	-38240.577	130.805			
68	9	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193227.306	-38241.419	130.658			
69			1g	土器	破片	-						-193227.103	-38241.924	130.379			
70			1g	礫	礫	安山岩	61.8	55.5	54.4	35.1	58	-193227.065	-38242.053	130.401			
71			1g	土器	破片	-						-193226.600	-38241.655	130.474			
72			1g	土器	破片	-						-193226.503	-38242.217	130.249			
73			1g	礫	礫	安山岩	37	39.9	32.2	24.1	24.54	-193226.347	-38242.239	130.220			
74			1g	土器	破片	-						-193226.590	-38242.491	130.148			
75			1g	土器	胴部片	-						-193226.447	-38242.706	130.153			
76			1g	土器	胴部片	-						-193225.602	-38243.024	129.849			
77			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193225.332	-38243.062	129.867			
78			1g	土器	破片	-						-193225.217	-38243.063	129.880			
79			1g	土器	破片	-						-193225.340	-38243.212	129.849			
80			1g	土器	口縁部片	-						-193224.158	-38242.292	129.873			
81			1g	土器	胴部片	-						-193224.164	-38242.041	129.908			
82			1g	礫	礫	安山岩	54.1	44.1	46.6	21.6	31.83	-193224.000	-38241.463	129.948			
83			1g	土器	細片	-						-193223.830	-38241.664	129.882			
84			1g	土器	破片	-						-193222.352	-38241.062	129.775			
85			1g	礫	破損礫	安山岩	183	60.9	61.8	36.4	155	-193222.909	-38241.534	129.805			受熱痕
86			1g	土器	破片	-						-193222.740	-38241.656	129.754			
87			1g	土器	破片	-						-193222.468	-38241.550	129.749			
88			1g	礫	礫	軽石	16.5	31.6	28.7	20.3	9.65	-193222.293	-38241.638	129.644			
89			1g	土器	胴部片	-						-193222.077	-38241.564	129.686			黒塗り
90			1g	土器	細片	-						-193221.977	-38241.400	129.609			
91			1g	土器	胴部片	-						-193221.863	-38241.387	129.624			
92			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193221.999	-38241.925	129.550			
93			1g	土器	破片	-						-193221.961	-38241.983	129.533			
94			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193222.079	-38242.041	129.564			
95			1g	土器	破片	-						-193222.009	-38242.207	129.494			
96			1g	土器	破片	-						-193221.573	-38241.788	129.525			
97			1g	土器	細片	-						-193221.635	-38241.954	129.526			
98			1g	土器	破片	-						-193221.495	-38242.075	129.520			黒塗り
99			1g	土器	胴部片	-						-193220.856	-38241.885	129.485			
100			1g	土器	破片	-						-193220.982	-38241.891	129.374			

Tab.12 13トレンチ出土遺物台帳②

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
101			1g	土器	底部片	-						-193221.084	-38242.182	129.354			
102			1g	礫	礫	軽石	23.7	66.7	35.8	45.1	35.29	-193220.985	-38242.229	129.322			彩色あり
103			1g	土器	破片	-						-193220.980	-38242.272	129.290			
104			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193220.901	-38242.368	129.314			
105			1g	礫	礫	軽石	4	93.8	68	34.9	40.24	-193221.500	-38242.456	129.366			
106			1g	土器	細片	-						-193221.468	-38242.439	129.367			
107			1g	土器	細片	-						-193221.143	-38242.536	129.334			
108			1g	土器	細片	-						-193221.194	-38242.630	129.318			
109			1g	土器	壺形土器胴部片	-						-193221.845	-38242.479	129.445			
110			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193221.613	-38242.093	129.444			
111			1g	土器	胴部片	-						-193221.360	-38243.014	129.243			
112			1g	土器	破片	-						-193221.648	-38242.920	129.437			
113			1g	土器	細片	-						-193222.096	-38243.086	129.426			
114			1g	土器	破片	-						-193221.989	-38242.986	129.399			
115			1g	土器	破片	-						-193222.195	-38242.717	129.490			
116			1g	土器	底部付近胴部片	-						-193222.429	-38242.716	129.581			
117			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193222.468	-38242.211	129.574			
118			1g	土器	口縁部片	-						-193222.422	-38242.107	129.662			
119	34	○	1g	礫器	軽石製加工品	軽石	9.8	10.2	6.2	4.9	110	-193222.955	-38242.186	129.680			
120			1g	土器	破片	-						-193223.625	-38242.214	129.822			
121			1g	土器	胴部片	-						-193223.761	-38242.693	129.780			
122	8	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193224.081	-38243.087	129.723	372		
123			1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193224.149	-38243.141	129.683			
124			1g	土器	破片	-						-193224.070	-38243.257	129.621			
125			1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193224.244	-38243.380	129.638			
126			1g	土器	胴部片	-						-193223.881	-38243.223	129.632			
127			1g	土器	胴部片	-						-193223.848	-38243.245	129.608			
128			1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193223.887	-38243.476	129.608			
129			1g	土器	細片	-						-193223.547	-38243.579	129.603			
130	25	○	1g	土器	壺形土器口縁部片	-						-193223.884	-38243.863	129.517			
131			1g	土器	破片	-						-193223.800	-38243.931	129.492			
132			1g	土器	細片	-						-193223.864	-38244.007	129.492			
133			1g	土器	胴部片	-						-193223.885	-38244.086	129.526			
134			1g	土器	細片	-						-193224.110	-38244.211	129.540			
135			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193224.152	-38244.243	129.548			
136			1g	土器	細片	-						-193224.063	-38244.379	129.525			
137			1g	土器	底部付近胴部片	-						-193224.278	-38243.981	129.590			
138			1g	土器	細片	-						-193224.529	-38243.663	129.685			
139			1g	土器	細片	-						-193224.626	-38244.166	129.611			
140			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193224.872	-38243.684	129.738			
141			1g	土器	胴部片	-						-193225.215	-38243.584	129.804			
142			1g	土器	底部付近胴部片	-						-193225.504	-38243.756	129.755			
143			1g	土器	胴部片	-						-193225.229	-38243.949	129.706			
144			1g	土器	底部付近胴部片	-						-193225.278	-38243.884	129.664			
145			1g	土器	胴部片	-						-193225.493	-38244.090	129.627			
146			1g	礫	礫	軽石	2.9	58.3	35.8	30.5	15	-193224.998	-38244.161	129.664			黒塗り
147			1g	土器	胴部片	-						-193225.196	-38244.527	129.580			
148			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.351	-38244.506	129.595			
149			1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193225.365	-38244.730	129.616			
150			1g	土器	破片	-						-193225.314	-38244.763	129.551			

Tab.13 13トレンチ出土遺物台帳③

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
151			1g	土器	破片	-						-193225.372	-38244.818	129.545			
152			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.989	-38244.952	129.646			
153			1g	土器	細片	-						-193225.584	-38245.439	129.489			
154			1g	土器	破片	-						-193225.463	-38245.335	129.503			
155			1g	土器	破片	-						-193225.445	-38245.574	129.504			
156			1g	土器	突帯部片	-						-193224.777	-38245.030	129.564			
157			1g	土器	胴部片	-						-193224.592	-38244.725	129.500			
158			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193223.903	-38244.638	129.413			
159			1g	土器	破片	-						-193223.638	-38244.392	129.446			
160			1g	土器	破片	-						-193223.516	-38244.069	129.533			
161			1g	土器	胴部片	-						-193223.186	-38244.197	129.414			
162			1g	土器	突帯部片	-						-193222.982	-38243.809	129.434			
163			1g	土器	胴部片	-						-193222.878	-38243.928	129.363			
164			1g	土器	破片	-						-193222.902	-38243.793	129.391			
165			1g	土器	破片	-						-193223.396	-38244.657	129.339			
166			1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193222.560	-38243.724	129.436			
167			1g	土器	突帯部片	-						-193222.419	-38243.781	129.337			
168			1g	土器	細片	-						-193222.382	-38243.871	129.304			
169			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193222.624	-38244.075	129.284			
170			1g	土器	細片	-						-193222.329	-38244.454	129.325			
171			1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193222.352	-38244.361	129.334			
172			1g	土器	細片	-						-193222.847	-38244.144	129.336			
173			1g	土器	胴部片	-						-193222.611	-38244.800	129.332			
174			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193222.807	-38244.630	129.312			
175			1g	礫器	軽石製加工品	軽石	19.4	74.5	39.9	39.3	36.44	-193222.588	-38244.980	129.338			
176			1g	土器	破片	-						-193222.715	-38245.158	129.382			
177			1g	土器	底部付近胴部片	-						-193223.068	-38244.975	129.322			
178			1g	土器	破片	-						-193223.181	-38245.086	129.350			
179			1g	土器	細片	-						-193223.236	-38244.711	129.397			
180			1g	土器	胴部片	-						-193223.408	-38244.954	129.352			
181			1g	土器	破片	-						-193223.861	-38244.894	129.386			
182			1g	土器	破片	-						-193223.923	-38245.170	129.439			
183			1g	礫	礫	軽石	23.7	100.8	79.2	53.4	135	-193224.058	-38244.866	129.363			
184			1g	土器	口縁部片	-						-193223.741	-38245.402	129.375			
185			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193223.524	-38245.459	129.386			
186			1g	土器	胴部片	-						-193223.325	-38245.598	129.348			
187			1g	土器	胴部片	-						-193223.634	-38245.751	129.343			
188			1g	土器	破片	-						-193223.382	-38246.045	129.332			
189			1g	土器	胴部片	-						-193223.688	-38245.456	129.328			
190			1g	土器	口縁部片	-						-193223.898	-38246.033	129.280			
191			1g	土器	細片	-						-193223.760	-38246.024	129.276			
192			1g	土器	細片	-						-193223.625	-38246.193	129.273			
193			1g	土器	破片	-						-193224.055	-38246.028	129.296			
194			1g	土器	破片	-						-193223.459	-38246.472	129.272			
195			1g	礫	礫	軽石	33.9	63.9	47.5	45.7	68	-193223.635	-38246.324	129.295			
196	30	○	1g	土器	甕形土器底部片	-						-193223.770	-38246.288	129.340			
197			1g	土器	細片	-						-193223.983	-38246.303	129.359			
198			1g	土器	胴部片	-						-193224.211	-38246.307	129.336			
199			1g	土器	破片	-						-193224.226	-38246.500	129.312			
200			1g	土器	口縁部片	-						-193223.987	-38245.768	129.357			

Tab.14 13トレンチ出土遺物台帳④

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考	
201		1g	土器	胴部片	-						-193224.450	-38245.680	129.421				
202		1g	土器	胴部片	-						-193224.449	-38245.413	129.477				
203		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193224.593	-38245.517	129.418				
204		1g	土器	胴部片	-						-193224.529	-38245.837	129.434				
205		1g	礫	礫	軽石	22.9	49.2	37.1	40.5	25.83	-193224.633	-38245.900	129.438				
206		1g	土器	胴部片	-						-193224.845	-38245.892	129.428				
207		1g	土器	胴部片	-						-193225.055	-38246.026	129.379				
208		1g	土器	細片	-						-193225.000	-38246.093	129.359				
209		1g	土器	細片	-						-193224.569	-38246.230	129.332				
210		1g	土器	細片	-						-193224.776	-38246.323	129.353				
211		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193224.791	-38246.261	129.344				
212		1g	土器	口縁部片	-						-193224.686	-38246.475	129.293				
213		1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193224.683	-38246.594	129.261				
214		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193224.800	-38246.785	129.265				
215		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193224.476	-38246.850	129.350			黒塗り	
216		1g	土器	甕形土器突帯部片	-						-193224.193	-38247.157	129.278				
217		1g	土器	胴部片	-						-193224.024	-38246.987	129.230				
218		1g	土器	破片	-						-193223.976	-38247.219	129.271				
219		1g	土器	甕形土器突帯部片	-						-193224.042	-38247.414	129.284				
220	17	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193224.174	-38247.468	129.214				
221		1g	礫	礫	不明	28.9	31.1	24.5	17.6	9.14	-193224.102	-38247.567	129.359				
222		1g	土器	胴部片	-						-193224.244	-38247.464	129.202				
223	6	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193224.373	-38247.307	129.199				
224		1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193224.433	-38247.041	129.226				
225		1g	土器	破片	-						-193224.489	-38247.742	129.252				
226	35	○	1g	礫器	軽石製加工品	軽石	6.3	8.8	7.2	3.5	58.62	-193224.563	-38247.558	129.202			
227		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193224.736	-38247.533	129.274				
228		1g	土器	細片	-						-193224.796	-38247.432	129.282				
229		1g	土器	破片	-						-193224.847	-38247.550	129.242				
230		1g	土器	甕形土器口縁部付近片	-						-193225.629	-38247.265	129.279				
231		1g	土器	突帯部片	-						-193224.881	-38247.443	129.247				
232		1g	礫	礫	軽石	22.5	82.2	48.9	35.5	40.05	-193224.958	-38247.470	129.245				
233		1g	土器	胴部片	-						-193224.998	-38247.391	129.233				
234		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.043	-38247.307	129.324				
235		1g	土器	胴部片	-						-193225.065	-38247.228	129.325				
236		1g	土器	破片	-						-193224.869	-38247.810	129.300				
237		1g	土器	胴部片	-						-193224.912	-38248.008	129.253				
238		1g	土器	甕形土器突帯部片	-						-193224.972	-38247.908	129.316				
239		1g	土器	突帯部片	-						-193224.233	-38247.332	129.202				
240		1g	礫	礫	軽石	70.3	85.7	60.3	27.9	70	-193225.002	-38248.060	129.224				
241		1g	土器	突帯部片	-						-193224.852	-38248.238	129.218				
242		1g	土器	破片	-						-193224.919	-38248.301	129.207				
243	12	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193225.038	-38247.827	129.224				
244		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.262	-38248.085	129.303				
245		1g	土器	突帯部片	-						-193225.104	-38247.751	129.249				
246		1g	土器	破片	-						-193225.199	-38247.834	129.302				
247		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.251	-38247.884	129.255				
248	31	○	1g	土器	甕形土器底部片	-					-193225.376	-38247.985	129.237				
249		1g	土器	胴部片	-						-193225.526	-38247.664	129.273				
250		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.766	-38247.732	129.376				

Tab.15 13トレンチ出土遺物台帳⑤

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
251		1g	土器	破片	-						-193225.470	-38247.247	129.264			
252		1g	土器	破片	-						-193225.259	-38247.180	129.272			
253		1g	土器	底部付近破片	-						-193225.166	-38247.200	129.298			
254		1g	土器	破片	-						-193225.196	-38247.020	129.399			
255		1g	土器	破片	-						-193225.303	-38246.961	129.372			
256		1g	土器	破片	-						-193225.060	-38246.782	129.353			
257		1g	土器	破片	-						-193224.960	-38246.669	129.288			
258		1g	土器	破片	-						-193225.200	-38246.443	129.356			
259		1g	土器	破片	-						-193225.249	-38246.369	129.394			
260		1g	土器	破片	-						-193225.360	-38246.371	129.356			
261		1g	土器	底部付近胴部片	-						-193225.447	-38246.660	129.315			
262		1g	土器	破片	-						-193225.772	-38247.119	129.321			
263		1g	土器	破片	-						-193225.875	-38246.893	129.354			
264		1g	土器	胴部片	-						-193225.996	-38246.903	129.420			
265		1g	土器	胴部片	-						-193226.060	-38246.882	129.427			
266		1g	土器	胴部片	-						-193225.840	-38246.684	129.456			
267		1g	土器	底部付近胴部片	-						-193226.170	-38247.102	129.394			
268	3	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193226.160	-38246.994	129.378			
269		1g	土器	破片	-						-193226.430	-38247.368	129.424			
270		1g	土器	胴部片	-						-193226.513	-38247.289	129.453			
271		1g	土器	破片	-						-193226.244	-38246.865	129.453			
272		1g	土器	胴部片	-						-193226.554	-38246.961	129.405			
273		1g	土器	胴部片	-						-193226.650	-38247.297	129.366			
274		1g	土器	胴部片	-						-193226.597	-38247.190	129.401			
275		1g	土器	底部付近胴部片	-						-193226.649	-38247.082	129.416			
276		1g	土器	底部付近胴部片	-						-193226.726	-38247.052	129.447			
277		1g	土器	胴部片	-						-193226.723	-38246.963	129.461			
278		1g	土器	口縁部片	-						-193226.832	-38246.943	129.447			
279		1g	土器	破片	-						-193226.689	-38246.913	129.433			
280		1g	土器	胴部片	-						-193226.583	-38246.763	129.474			
281		1g	土器	破片	-						-193226.582	-38246.645	129.496			
282		1g	土器	破片	-						-193227.065	-38246.656	129.555			
283		1g	土器	破片	-						-193226.573	-38246.453	129.473			
284		1g	土器	胴部片	-						-193226.772	-38246.307	129.507			
285		1g	土器	破片	-						-193226.171	-38246.448	129.428			
286	36	○	1g	礫器	軽石製加工品	軽石	58.4	8.6	9	3.9	105	-193225.743	-38246.342	129.431		
287		1g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193225.681	-38246.465	129.378			
288	26	○	1g	土器	壺形土器胴部片	-					-193225.782	-38246.078	129.437			
289		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.710	-38245.639	129.527			
290		1g	礫器	軽石製加工品	軽石	6.6	35.5	21.7	20.9	4.17	-193226.096	-38245.848	129.506			
291		1g	土器	細片	-						-193226.389	-38246.017	129.565			
292		1g	礫	礫	安山岩	26.3	36.3	22.4	11.9	12.74	-193226.354	-38245.753	129.598			
293		1g	土器	胴部片	-						-193226.618	-38245.953	129.566			
294		1g	土器	破片	-						-193227.283	-38246.991	129.444			
295	24	○	1g	土器	壺形土器口縁部片	-					-193227.184	-38247.044	129.453			内面に突帯あり
296		1g	土器	胴部片	-						-193227.463	-38246.829	129.473			
297		1g	土器	底部片	-						-193227.267	-38246.487	129.486			
298		1g	土器	壺形土器底部突帯部片	-						-193227.236	-38246.426	129.578			
299		1g	土器	胴部片	-						-193227.080	-38246.247	129.522			
300		1g	土器	突帯部片	-						-193226.884	-38245.998	129.531			

Tab.16 13トレンチ出土遺物台帳⑥

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
301		1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193226.675	-38246.187	129.502			
302		1g	土器	底部片	-						-193227.610	-38246.752	129.472			
303		1g	土器	細片	-						-193227.780	-38246.603	129.576			
304		1g	土器	胴部片	-						-193228.020	-38246.660	129.586			
305		1g	土塊	土塊	-						-193228.027	-38246.334	129.606			
306		1g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193227.933	-38246.254	129.626			
307		1g	土器	破片	-						-193227.932	-38246.124	129.640			
308		1g	土器	胴部片	-						-193227.899	-38245.926	129.707			
309	11	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193227.460	-38245.853	129.606	368		
310		1g	土器	破片	-						-193227.552	-38245.674	129.642			
311		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193227.564	-38245.546	129.669			
312		1g	土器	胴部片	-						-193227.505	-38245.495	129.663			
313		1g	土器	細片	-						-193227.116	-38245.814	129.638			
314		1g	土器	胴部片	-						-193226.887	-38245.811	129.563			
315		1g	土器	突帯部片	-						-193226.915	-38245.645	129.644			
316		1g	土器	細片	-						-193226.992	-38245.500	129.670			
317		1g	土器	破片	-						-193226.813	-38245.622	129.606			
318		1g	土器	胴部片	-						-193226.820	-38245.181	129.658			
319		1g	土器	細片	-						-193226.552	-38245.261	129.672			
320		1g	土器	細片	-						-193226.276	-38245.246	129.633			
321		1g	土器	甕形土器頸部突帯部片	-						-193226.730	-38244.900	129.712			
322		1g	土器	甕形土器頸部突帯部片	-						-193226.827	-38244.858	129.688			
323		1g	土器	突帯部片	-						-193226.899	-38244.804	129.708			
324		1g	土器	底部片	-						-193226.660	-38244.630	129.688			
325		1g	土器	細片	-						-193226.625	-38244.584	129.679			
326		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193226.643	-38244.485	129.690			
327		1g	土器	胴部片	-						-193226.871	-38244.394	129.767			
328		1g	土器	細片	-						-193227.108	-38245.138	129.738			
329		1g	土器	胴部片	-						-193227.308	-38245.196	129.727			
330		1g	土器	破片	-						-193227.475	-38244.836	129.786			
331		1g	土器	破片	-						-193227.807	-38244.919	129.821			
332		1g	土器	破片	-						-193227.777	-38245.268	129.763			
333		1g	土器	破片	-						-193228.287	-38245.092	129.890			
334		1g	土器	胴部片	-						-193228.452	-38245.694	129.768			
335		1g	土器	破片	-						-193228.627	-38245.972	129.785			
336		1g	土器	破片	-						-193228.224	-38246.269	129.671			
337		1g	土器	口縁部片	-						-193228.361	-38246.245	129.727			
338		1g	土器	破片	-						-193229.241	-38245.794	129.898			
339		1g	土器	口縁部片	-						-193229.176	-38245.474	130.000			
340		1g	土器	胴部片	-						-193228.903	-38245.221	130.050			赤塗り
341		1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193228.690	-38245.034	129.963			
342	27	○	1g	土器	甕形土器胴部片	-					-193227.901	-38244.365	130.041			補修孔有
343		1g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193222.637	-38243.101	129.575			
344		1g	土器	胴部片	-						-193223.427	-38242.934	129.653			
345		1g	土器	底部片	-						-193223.125	-38243.105	129.598			
346		1g	土器	胴部片	-						-193223.044	-38243.203	129.530			
347		1g	礫	礫	安山岩	72.1	51	36.2	16.2	44.96	-193222.652	-38243.399	129.347			
348		1g	土器	胴部片	-						-193221.646	-38243.508	129.240			
349		1g	土器	口縁部片	-						-193221.999	-38243.888	129.260			
350		1g	土器	胴部片	-						-193222.425	-38244.183	129.255			

Tab.17 13トレンチ出土遺物台帳⑦

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考	
351		1g	土器	胴部片	-						-193222.617	-38244.288	129.274				
352		1g	土器	胴部片	-						-193223.835	-38242.633	129.694				
353		1g	土器	胴部片	-						-193224.574	-38247.112	129.228				
354		1g	礫	礫	安山岩	7.7	39.4	30.8	17.9	26.24	-193224.688	-38247.212	129.221				
355		1g	土器	破片	-						-193228.028	-38241.967	130.564				
356		1g	土器	胴部片	-						-193228.070	-38241.834	130.691				
357		1g	土器	破片	-						-193227.759	-38241.452	130.639				
358		1g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193224.994	-38244.633	129.541				
359		1g	土器	突帯部片	-						-193229.681	-38245.176	130.177				
360		1g	土器	細片	-						-193229.280	-38244.387	130.216				
361		1g	土器	壺形土器底部突帯部片	-						-193228.963	-38244.028	130.266				
362		1g	土器	胴部片	-						-193228.525	-38244.233	130.154				
363		1g	土器	破片	-						-193228.784	-38243.745	130.267				
364		1g	土器	底部付近胴部片	-						-193228.498	-38243.562	130.299				
365		1g	土器	胴部片	-						-193228.019	-38243.846	130.128				
366		1g	土器	破片	-						-193228.726	-38246.168	129.713				
367		1g	土器	破片	-						-193227.888	-38245.903	129.622				
368	11	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193227.251	-38246.394	129.499	309			
369		1g	土器	胴部片	-						-193226.914	-38246.066	129.489				
370		1g	土器	細片	-						-193226.768	-38245.962	129.510				
371		1g	土器	胴部片	-						-193227.501	-38246.970	129.430				
372	8	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193227.002	-38246.528	129.429	122			
373		1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193226.775	-38246.442	129.441				
374		1g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193226.865	-38246.755	129.402				
375		1g	土器	胴部片	-						-193226.901	-38246.877	129.384				
376		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193226.569	-38247.116	129.368				
377		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193226.351	-38247.159	129.317				
378		1g	土器	胴部片	-						-193226.134	-38247.293	129.310				
379		1g	土器	胴部片	-						-193226.044	-38247.566	129.238				
380		1g	土器	胴部片	-						-193225.691	-38247.869	129.212				
381	32	○	1g	礫器	軽石製加工品	軽石	3.4	6.6	5.1	2.7	17.18	-193225.785	-38246.585	129.318			
382		1g	土器	破片	-						-193225.774	-38246.660	129.332				
383		1g	土器	破片	-						-193225.634	-38246.544	129.294				
384		1g	土器	破片	-						-193225.661	-38246.955	129.288				
385	15	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193225.749	-38247.002	129.254				
386		1g	土器	突帯部片	-						-193225.627	-38247.112	129.264				
387		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.566	-38247.315	129.239				
388		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.285	-38247.038	129.246				
389		1g	土器	口縁部片	-						-193225.254	-38247.144	129.231				
390		1g	土器	胴部片	-						-193225.331	-38247.365	129.221				
391		1g	土器	細片	-						-193225.156	-38247.359	129.201				
392		1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193225.248	-38247.546	129.206				
393		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.131	-38247.559	129.179				
394		1g	土器	胴部片	-						-193225.094	-38247.653	129.164				
395		1g	土器	破片	-						-193225.284	-38247.788	129.184				
396	28	○	1g	土器	壺形土器底部片	-					-193225.251	-38247.923	129.162				
397		1g	土器	突帯部片	-						-193225.178	-38248.041	129.141				
398		1g	土器	突帯部片	-						-193224.896	-38247.983	129.168				
399		1g	礫	礫	軽石	14.9	30.9	24.2	18.2	6.13	-193224.927	-38247.880	129.194				
400	1	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193224.880	-38247.802	129.173				

Tab.18 13トレンチ出土遺物台帳⑧

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
401			1g	土器	胴部片	-						-193224.773	-38247.840	129.207			
402	33	○	1g	礫器	軽石製加工品	軽石	6.6	11	4.8	4.8	80	-193224.730	-38247.872	129.166			
403	5	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193224.617	-38247.760	129.159			
404			1g	土器	破片	-						-193224.777	-38248.083	129.166			
405	29	○	1g	土器	甕形土器底部片	-						-193224.684	-38248.104	129.163			
406			1g	土器	細片	-						-193224.648	-38248.262	129.149			
407			1g	土器	突帯部片	-						-193224.481	-38248.086	129.155			
408			1g	土器	細片	-						-193224.343	-38247.893	129.157			
409	37	○	1g	礫器	軽石製加工品	軽石	9.8	6.3	5.7	3.4	29.91	-193224.244	-38247.728	129.156			
410			1g	土器	突帯部片	-						-193224.071	-38247.520	129.165			
411			1g	土器	細片	-						-193223.939	-38247.337	129.280			
412			1g	土器	胴部片	-						-193224.358	-38247.465	129.140			
413			1g	土器	胴部片	-						-193224.389	-38247.385	129.168			
414			1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193224.474	-38247.442	129.179			
415			1g	土器	底部付近胴部片	-						-193224.140	-38247.255	129.186			
416			1g	礫	調整削片	軽石	5.6	27.4	26.2	13.7	2.75	-193224.465	-38247.164	129.304			
417			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193224.422	-38247.101	129.194			
418			1g	土器	胴部片	-						-193224.464	-38247.083	129.204			
419			1g	土器	突帯部片	-						-193224.530	-38247.051	129.215			
420			1g	土器	破片	-						-193224.676	-38247.118	129.211			
421			1g	土器	突帯部片	-						-193224.873	-38247.062	129.222			
422			1g	土器	破片	-						-193225.228	-38246.777	129.259			
423			1g	土器	破片	-						-193225.170	-38246.767	129.263			
424			1g	土器	破片	-						-193224.995	-38246.749	129.257			
425			1g	土器	胴部片	-						-193224.938	-38246.618	129.253			
426			1g	土器	胴部片	-						-193225.361	-38246.573	129.307			
427			1g	土器	破片	-						-193225.226	-38246.505	129.309			
428			1g	土器	胴部片	-						-193225.129	-38246.426	129.326			
429			1g	土器	破片	-						-193225.101	-38246.165	129.327			
430			1g	土器	破片	-						-193225.310	-38246.081	129.357			
431			1g	土器	破片	-						-193225.708	-38246.002	129.416			
432			1g	土器	破片	-						-193225.761	-38245.907	129.424			
433			1g	土器	胴部片	-						-193224.444	-38246.660	129.211			
434			1g	土器	胴部片	-						-193223.814	-38246.893	129.189			
435			1g	土器	胴部片	-						-193224.603	-38246.176	129.356			
436			1g	土器	破片	-						-193224.463	-38246.067	129.270			
437			1g	土器	口縁部片	-						-193224.573	-38245.810	129.315			
438			1g	土器	胴部片	-						-193224.475	-38245.803	129.320			
439			1g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193224.364	-38245.706	129.293			
440			1g	土器	破片	-						-193223.810	-38246.262	129.255			
441			1g	土器	突帯部片	-						-193223.794	-38246.174	129.237			
442			1g	土器	底部付近胴部片	-						-193223.773	-38246.101	129.237			
443			1g	土器	破片	-						-193223.704	-38245.933	129.250			
444			1g	土器	胴部片	-						-193223.445	-38245.851	129.245			
445			1g	土器	壺形土器底部突帯部片	-						-193223.027	-38245.865	129.268			
446			1g	土器	細片	-						-193223.290	-38245.543	129.312			
447			1g	土器	胴部片	-						-193223.247	-38245.414	129.260			
448			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193223.501	-38245.467	129.319			
449	16	○	1g	土器	甕形土器口縁部片～ 胴部突帯部片	-						-193223.559	-38245.208	129.280			
450			1g	土器	口縁部片	-						-193223.732	-38245.385	129.287			

Tab.19 13トレンチ出土遺物台帳⑨

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
451			1g	土器	破片	-						-193224.219	-38245.138	129.362			
452			1g	土器	胴部片	-						-193224.621	-38245.191	129.380			
453			1g	土器	破片	-						-193224.619	-38244.910	129.431			
454	18	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193224.946	-38244.929	129.454			
455			1g	土器	胴部片	-						-193224.982	-38244.338	129.551			
456			1g	土器	破片	-						-193224.210	-38244.423	129.476			
457			1g	土器	壺形土器突帯部片	-						-193224.098	-38244.392	129.452			
458			1g	土器	破片	-						-193224.130	-38244.303	129.485			
459			1g	土器	胴部片	-						-193223.279	-38244.126	129.344			
460			1g	土器	破片	-						-193223.443	-38244.318	129.374			
461			1g	土器	破片	-						-193223.380	-38244.363	129.324			
462			1g	土器	突帯部片	-						-193223.445	-38244.489	129.326			
463	39	○	1g	石器	二次加工剥片	粘板岩	1.0	5.8	4.9	0.8	20.73	-193223.508	-38244.562	129.314			
464			1g	土器	破片	-						-193223.190	-38244.689	129.324			
465			1g	土器	細片	-						-193223.051	-38244.865	129.256			
466			1g	土器	破片	-						-193223.008	-38245.269	129.238			
467			1g	土器	破片	-						-193222.787	-38245.166	129.235			
468			1g	土器	破片	-						-193222.491	-38245.040	129.279			
469			1g	土器	胴部片	-						-193222.679	-38244.831	129.230			
470			1g	土器	細片	-						-193222.799	-38244.710	129.239			
471			1g	土器	胴部片	-						-193222.379	-38244.412	129.318			
472			1g	土器	胴部片	-						-193222.569	-38244.310	129.251			
473			1g	土器	底部付近胴部片	-						-193222.637	-38244.138	129.274			
474			1g	土器	突帯部片	-						-193221.950	-38244.168	129.348			
475			1g	土器	破片	-						-193222.469	-38243.819	129.254			
476			1g	土器	破片	-						-193222.585	-38243.689	129.335			
477			1g	礫	礫	不明	23.5	22.2	13.6	15.6	3.41	-193222.652	-38243.314	129.340			
478			1g	土器	胴部突帯部片	-						-193223.486	-38243.511	129.511			
479			1g	礫	礫	凝灰岩	1.2	25.1	22.4	15.3	10.85	-193223.556	-38243.518	129.524			
480			1g	土器	細片	-						-193223.609	-38243.540	129.537			
481			1g	土器	細片	-						-193223.698	-38243.650	129.482			
482			1g	粘土塊	粘土塊	-						-193223.602	-38242.465	129.620			
483			1g	土器	胴部片	-						-193222.470	-38242.018	129.539			
484			1g	土器	胴部片	-						-193221.995	-38242.935	129.377			
485			1g	土器	破片	-						-193221.706	-38241.929	129.519			
486			1g	土器	胴部片	-						-193221.620	-38241.864	129.482			
487			1g	土器	破片	-						-193221.463	-38241.881	129.463			
488	13	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193221.568	-38242.068	129.411			
489			1g	土器	胴部片	-						-193221.481	-38241.959	129.414			
490			1g	土器	胴部片	-						-193221.381	-38242.043	129.397			
491			1g	土器	破片	-						-193221.353	-38242.106	129.333			
492			1g	土器	破片	-						-193221.111	-38242.173	129.346			
493			1g	土器	細片	-						-193220.820	-38241.890	129.489			
494			1g	土器	破片	-						-193224.930	-38247.333	129.197			
495			1g	土器	突帯部片	-						-193225.025	-38247.266	129.230			
496			1g	土器	胴部片	-						-193226.128	-38244.928	129.560			
497			1g	土器	胴部片	-						-193221.684	-38241.887	129.486			
498	22	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193221.676	-38241.935	129.419			
499			1g	土器	細片	-						-193221.803	-38242.009	129.344			
500			1g	土器	破片	-						-193221.787	-38242.871	129.159			

Tab.20 13トレンチ出土遺物台帳⑩

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
501			1g	土器	破片	-						-193222.098	-38243.878	129.199			
502			1g	礫	礫	軽石	21.3	65.6	40.9	24.4	28.12	-193222.247	-38244.054	129.180			塗彩あり
503	7	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193222.259	-38244.132	129.163			
504			1g	土器	胴部片	-						-193222.466	-38244.271	129.199			
505			1g	土器	破片	-						-193222.246	-38244.442	129.101			
506			1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193222.166	-38244.445	129.203			
507			1g	礫	礫	軽石	2.9	55.3	47.5	17.5	8.93	-193222.116	-38244.414	129.206			
508			1g	土器	破片	-						-193222.275	-38244.709	129.150			
509			1g	土器	胴部片	-						-193222.337	-38244.795	129.202			
510			1g	土器	胴部片	-						-193222.506	-38244.839	129.210			
511	38	○	1g	石器	切断剥片	粘板岩	68.9	5.2	3.5	0.9	18.15	-193222.678	-38244.839	129.207			
512			1g	土器	胴部片	-						-193222.834	-38244.766	129.086			
513			1g	土器	胴部片	-						-193222.608	-38244.562	129.231			
514			1g	土塊	土塊	-						-193222.664	-38244.544	129.229			
515			1g	土器	口縁部片	-						-193223.086	-38244.214	129.241			
516			1g	土器	細片	-						-193223.394	-38243.519	129.393			
517			1g	土器	破片	-						-193223.504	-38243.315	129.461			
518			1g	土器	胴部片	-						-193224.164	-38243.653	129.488			
519			1g	土器	破片	-						-193224.005	-38244.771	129.317			
520			1g	土器	細片	-						-193223.935	-38244.832	129.282			
521			1g	土器	胴部片	-						-193224.109	-38244.977	129.327			
522			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193224.645	-38244.602	129.357			
523			1g	土器	胴部片	-						-193224.703	-38244.859	129.422			
524			1g	土器	胴部片	-						-193225.037	-38244.960	129.402			
525			1g	土器	胴部片	-						-193224.697	-38245.127	129.370			塗彩あり
526			1g	土器	胴部片	-						-193224.683	-38245.314	129.348			沈線あり
527			1g	土器	胴部片	-						-193224.551	-38245.526	129.277			黒塗り
528			1g	土器	胴部片	-						-193224.525	-38245.485	129.280			
529			1g	土器	破片	-						-193223.377	-38244.643	129.263			
530			1g	土器	破片	-						-193222.905	-38244.930	129.183			
531			1g	土器	破片	-						-193222.881	-38244.975	129.178			
532			1g	土器	底部破片	-						-193222.767	-38245.127	129.200			
533			1g	欠番		-						-193222.611	-38245.240	129.121			
534			1g	土器	細片	-						-193222.877	-38245.566	129.171			
535			1g	土器	胴部片	-						-193222.944	-38245.563	129.074			
536			1g	土器	細片	-						-193222.960	-38245.441	129.167			
537			1g	土器	細片	-						-193222.915	-38245.338	129.173			
538			1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193223.084	-38245.338	129.140			
539			1g	土器	胴部片	-						-193223.058	-38245.295	129.184			
540			1g	土器	胴部片	-						-193223.053	-38245.213	129.194			
541			1g	土器	胴部片	-						-193223.003	-38245.196	129.214			
542			1g	土器	破片	-						-193223.067	-38245.653	129.218			
543			1g	土器	底部片	-						-193223.337	-38245.564	129.119			
544			1g	土器	胴部片	-						-193223.899	-38245.508	129.263			
545			1g	土器	破片	-						-193223.932	-38245.524	129.274			
546			1g	土器	胴部片	-						-193223.981	-38245.480	129.198			
547			1g	土器	胴部片	-						-193224.031	-38245.808	129.120			
548			1g	土器	破片	-						-193223.876	-38245.967	129.185			
549			1g	土器	破片	-						-193223.777	-38245.932	129.222			
550			1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193223.792	-38245.871	129.224			

Tab.21 13トレンチ出土遺物台帳①

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
551			1g	土器	胴部片	-						-193223.581	-38246.035	129.216			
552			1g	土器	細片	-						-193223.532	-38245.967	129.176			
553			1g	土器	破片	-						-193223.572	-38246.098	129.147			塗彩あり
554			1g	土器	胴部片	-						-193223.345	-38246.087	129.090			
555			1g	土器	胴部突帯部片	-						-193223.296	-38246.203	129.122			
556			1g	土器	胴部片	-						-193223.353	-38246.307	129.121			
557			1g	礫	破損礫	安山岩	129.1	46.6	31.5	25.3	72	-193223.307	-38246.273	129.144			
558			1g	土器	胴部片	-						-193223.511	-38246.373	129.131			
559			1g	土器	突帯部片	-						-193223.620	-38246.238	128.892			
560			1g	土器	細片	-						-193223.653	-38246.510	129.144			
561			1g	土器	突帯部片	-						-193223.751	-38246.311	129.177			
562			1g	土器	突帯部片	-						-193223.589	-38246.704	129.092			
563			1g	土器	胴部片	-						-193223.684	-38246.706	129.194			
564	2	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193223.776	-38246.711	129.178			
565	10	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193223.680	-38246.837	129.191			
566			1g	土器	突帯部片	-						-193223.947	-38246.517	129.185			
567			1g	土器	胴部片	-						-193223.881	-38246.568	129.110			
568			1g	土器	甕形土器底部付近破片	-						-193223.909	-38246.464	129.165			
569	41	○	1g	石器	砥石	安山岩	54.9	17.6	9.7	5.9	802	-193223.729	-38246.949	129.175			
570			1g	土器	胴部片	-						-193223.849	-38246.784	129.093			
571			1g	礫	軽石	軽石	2.8	79.7	60.6	35.7	34.89	-193223.859	-38246.841	129.182			
572			1g	土器	破片	-						-193224.028	-38246.875	129.154			
573			1g	礫	礫	不明	18.5	22	16.1	13.9	4.24	-193224.011	-38246.867	129.112			
574			1g	土器	底部付近破片	-						-193224.082	-38246.841	129.096			
575			1g	土器	底部片	-						-193223.912	-38247.146	129.156			
576			1g	土器	胴部片	-						-193224.167	-38247.357	129.159			
577			1g	土器	破片	-						-193224.141	-38247.422	129.152			
578			1g	土器	胴部片	-						-193224.199	-38247.157	129.152			
579			1g	土器	胴部片	-						-193224.431	-38247.128	129.031			
580			1g	土器	底部片	-						-193224.409	-38247.035	129.128			
581			1g	土器	底部付近破片	-						-193224.473	-38247.011	129.169			
582			1g	土器	破片	-						-193224.436	-38246.894	129.173			
583			1g	土器	胴部片	-						-193224.318	-38246.739	129.105			
584			1g	土器	胴部片	-						-193224.238	-38246.686	129.147			
585			1g	土器	胴部片	-						-193224.444	-38246.687	129.171			
586			1g	土器	破片	-						-193224.430	-38246.626	129.194			
587			1g	土器	破片	-						-193224.663	-38246.625	129.229			
588			1g	土器	胴部片	-						-193224.779	-38246.600	129.228			
589			1g	土器	胴部片	-						-193224.706	-38246.535	129.188			
590			1g	土器	細片	-						-193224.592	-38246.466	129.231			
591			1g	土器	破片	-						-193224.837	-38246.420	129.197			
592			1g	土器	破片	-						-193224.940	-38246.630	129.233			
593			1g	土器	胴部片	-						-193224.948	-38246.673	129.229			
594	14	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193225.019	-38246.689	129.229			
595			1g	土器	胴部片	-						-193224.955	-38246.745	129.215			
596	40	○	1g	石器	使用痕のある剥片	粘板岩	43.8	5.3	3.15	0.7	9.16	-193224.745	-38246.245	129.046			
597			1g	土器	破片	-						-193225.160	-38246.531	129.117			
598			1g	土器	甕形土器頸部突帯部片	-						-193225.166	-38246.368	129.297			
599	19	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193225.100	-38246.202	129.296			
600			1g	土器	甕形土器頸部突帯部片	-						-193224.763	-38245.832	129.284			

Tab.22 13トレンチ出土遺物台帳⑫

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
601		1g	礫	破損礫	安山岩	2.7	27.6	58.6	11.2	13.66	-193224.872	-38245.942	129.299			
602		1g	土器	胴部片	-						-193225.503	-38246.171	129.312			
603		1g	土器	口縁部片	-						-193225.531	-38246.290	129.299			
604		1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193225.568	-38246.462	129.318			
605		1g	礫	軽石	軽石	19	53.1	46.5	35.1	32.28	-193225.982	-38246.098	129.379			
606		1g	土器	胴部片	-						-193226.224	-38246.140	129.323			
607		1g	土塊	土塊	-						-193226.150	-38244.903	129.442			
608		1g	土器	胴部片	-						-193226.447	-38246.015	129.361			
609		1g	土器	胴部片	-						-193226.462	-38246.085	129.410			
610		1g	土器	破片	-						-193226.696	-38246.228	129.409			
611		1g	土器	破片	-						-193226.682	-38246.641	129.326			
612		1g	土器	胴部片	-						-193226.470	-38246.621	129.369			
613		1g	土器	胴部片	-						-193226.625	-38246.855	129.347			
614		1g	土器	胴部片	-						-193226.688	-38246.829	129.288			
615		1g	土器	胴部片	-						-193226.336	-38246.862	129.234			
616		1g	土器	胴部片	-						-193226.315	-38246.916	129.246			
617		1g	土器	破片	-						-193226.040	-38246.628	129.324			
618		1g	土器	破片	-						-193225.944	-38246.515	129.241			
619		1g	土器	破片	-						-193225.944	-38246.769	129.274			
620		1g	土器	破片	-						-193226.097	-38247.037	129.262			
621	4	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193226.074	-38247.095	129.255			
622		1g	土器	胴部片	-						-193226.029	-38247.102	129.259			
623		1g	土器	胴部片	-						-193225.778	-38246.988	129.232			
624		1g	土器	胴部片	-						-193226.200	-38247.320	129.154			
625		1g	土器	破片	-						-193226.545	-38247.377	129.220			
626		1g	土器	破片	-						-193226.279	-38247.460	129.282			
627		1g	土器	破片	-						-193226.246	-38247.485	129.270			
628		1g	土器	胴部片	-						-193226.153	-38247.592	129.238			
629		1g	土器	胴部片	-						-193225.994	-38247.531	129.231			
630	23	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193225.663	-38247.501	129.131			
631		1g	土器	破片	-						-193225.617	-38247.508	129.142			
632		1g	土器	胴部片	-						-193225.586	-38247.464	129.120			沈線あり
633		1g	土器	底部付近破片	-						-193225.552	-38247.015	129.227			
634		1g	土器	胴部片	-						-193225.497	-38246.701	129.237			
635		1g	土器	破片	-						-193225.450	-38246.750	129.219			
636		1g	土器	壺形土器頸部突部片	-						-193225.441	-38246.622	129.222			
637		1g	土器	細片	-						-193225.346	-38246.583	129.286			
638		1g	土器	破片	-						-193225.285	-38247.020	129.220			
639		1g	礫器	軽石製加工品	軽石	23.7	56.8	44.3	51.8	43.7	-193225.120	-38246.830	129.168			
640		1g	土器	破片	-						-193225.030	-38246.820	129.098			
641		1g	土器	破片	-						-193224.978	-38247.137	129.183			
642		1g	土器	胴部片	-						-193224.870	-38247.085	129.125			
643		1g	土器	底部付近破片	-						-193224.930	-38247.332	129.119			
644		1g	土器	甕形土器頸部突部片	-						-193225.060	-38247.518	129.114			
645		1g	土器	壺形土器頸部突部片	-						-193224.591	-38247.124	129.091			
646		1g	土器	突部片	-						-193224.611	-38247.292	129.159			
647		1g	土器	胴部片	-						-193224.710	-38247.487	129.085			
648		1g	土器	破片	-						-193224.622	-38247.509	129.053			
649		1g	土器	胴部片	-						-193224.794	-38247.666	129.118			
650		1g	土器	底部片	-						-193224.652	-38247.695	129.108			

Tab.23 13トレンチ出土遺物台帳⑬

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
651			1g	土器	破片	-						-193224.518	-38247.472	129.153			
652			1g	石器	剥片	頁岩	0.2	11.3	19.5	2.9	0.75	-193224.498	-38247.492	129.164			
653			1g	土器	底部付近破片	-						-193224.478	-38247.677	129.048			
654			1g	土器	破片	-						-193224.536	-38247.856	129.022			
655			1g	土器	破片	-						-193224.481	-38247.961	129.025			
656			1g	土器	胴部片	-						-193224.427	-38247.988	129.020			
657			1g	土器	胴部片	-						-193224.786	-38247.938	129.137			
658			1g	土器	口縁部片	-						-193224.761	-38248.009	129.147			
659			1g	土器	胴部片	-						-193224.756	-38248.135	129.108			
660			1g	土器	胴部片	-						-193224.639	-38248.171	129.097			
661			1g	土器	破片	-						-193224.568	-38248.291	129.089			
662			1g	土器	壺形土器口縁部付近破片	-						-193224.780	-38248.399	129.157			
663			1g	土器	底部付近破片	-						-193224.631	-38248.318	128.923			
664			1g	土器	壺形土器頸部破片	-						-193224.955	-38248.051	129.114			二条沈線あり
665			1g	土器	破片	-						-193225.062	-38247.963	129.141			
666			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193225.088	-38248.061	129.131			
667			1g	礫	軽石	軽石	15.6	40.6	36.3	21	10.76	-193225.127	-38247.927	129.154			
668			1g	土器	胴部片	-						-193225.079	-38247.899	129.058			
669			1g	土器	胴部片	-						-193225.068	-38247.595	129.050			
670			1g	土器	胴部片	-						-193225.496	-38247.728	129.095			
671			1g	土器	口縁部片	-						-193222.129	-38244.434	129.191			
672			1g	土器	細片	-						-193222.593	-38244.534	129.150			
673			1g	土器	胴部片	-						-193223.100	-38245.372	129.107			
674			1g	土器	胴部片	-						-193222.935	-38245.438	129.146			
675			1g	土器	胴部片	-						-193222.960	-38245.748	129.033			
676			1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193224.277	-38246.104	128.934			
677			1g	土器	破片	-						-193224.041	-38246.879	129.030			
678			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193224.056	-38244.742	129.059			
679			1g	土器	口縁部片	-						-193225.013	-38246.694	129.155			
680			1g	礫	礫	砂岩	5.9	23.1	15.9	11.9	3.73	-193225.183	-38248.009	129.006			
681			1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193225.187	-38247.923	128.970			
682			9	礫	礫	安山岩	23.8	29.1	24	12.9	8.19	-193227.600	-38242.210	126.084			
683			9	礫	礫	不明	0.6	43.1	35.7	23.7	43.34	-193228.027	-38242.095	126.062			
684			9	礫	礫	頁岩	0.6	27.4	17.6	7.7	4.96	-193228.363	-38242.778	126.101			
685			1g	土器	胴部片	-											
686			1g	土器	胴部片	-											
687			1g	土器	破片	-											
688			1g	土器	胴部片	-											

Tab.24 13トレンチ出土遺物台帳⑭

第5節 14トレンチの調査

遺跡の広がりを確認するために、第I調査区の南西側、約130mの地点に12×12mのトレンチを設定し、確認調査を実施した。

本地点では、後期旧石器時代の遺構群が、西側にどこまで、広がっているかを確認する必要があったため、段掘りを繰り返し、第11層までを確認した。第11層検出時点で、現地表下約6.5mに達していたため、記録措置後、埋め戻し原状に復した。

(1) 層位 (Fig.26)

第1層、第1層g、第2層a～e、第3層、第4層、第5層、第6層、第7層、第8層、第9層、第10層、第11層を確認した。第2層上面は、北側方向へ浸食され、南側から北側に向けて傾斜しているため、その後堆積した上位層も同様の堆積状況を示す。しかしながら、第3層以前は、概ね水平堆積を示しており、旧地形と現況地形とが大きく異なることが



Pl.35 14トレンチ完掘状況写真(南側より)

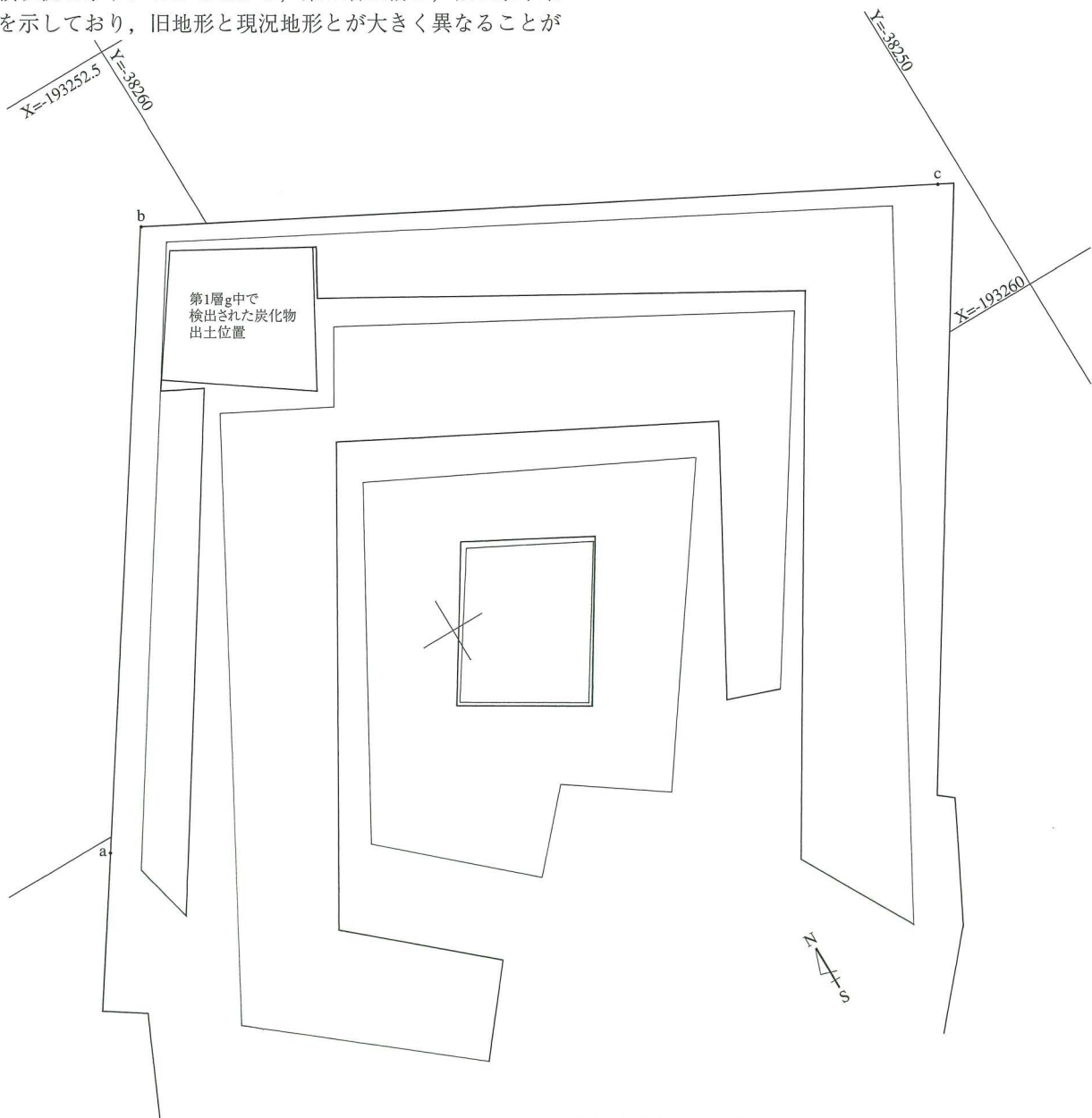


Fig.24 14トレンチ完掘状況図(S=1/100)



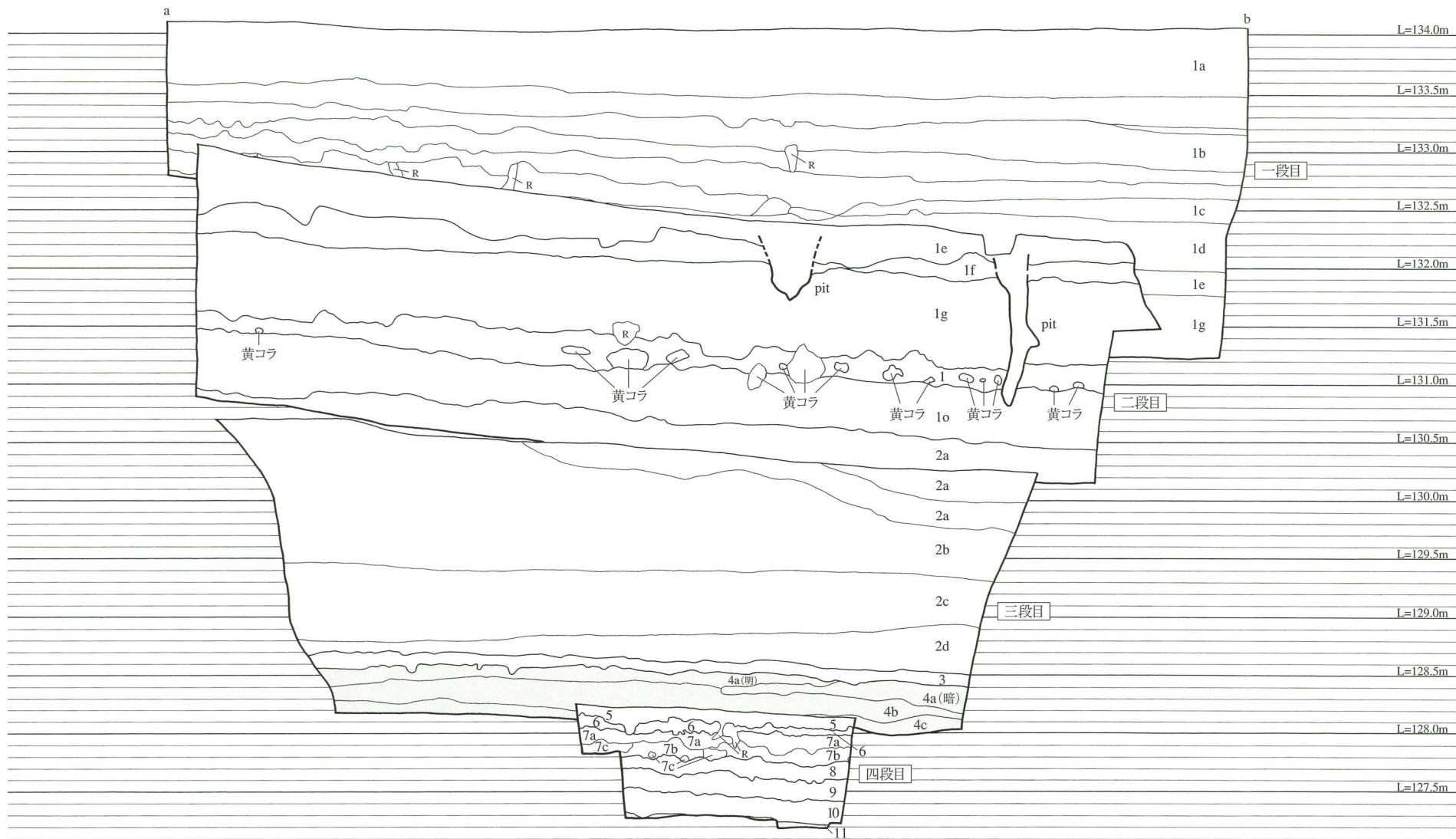


Fig.25 14トレンチ西壁層位断面図 (S=1/50)

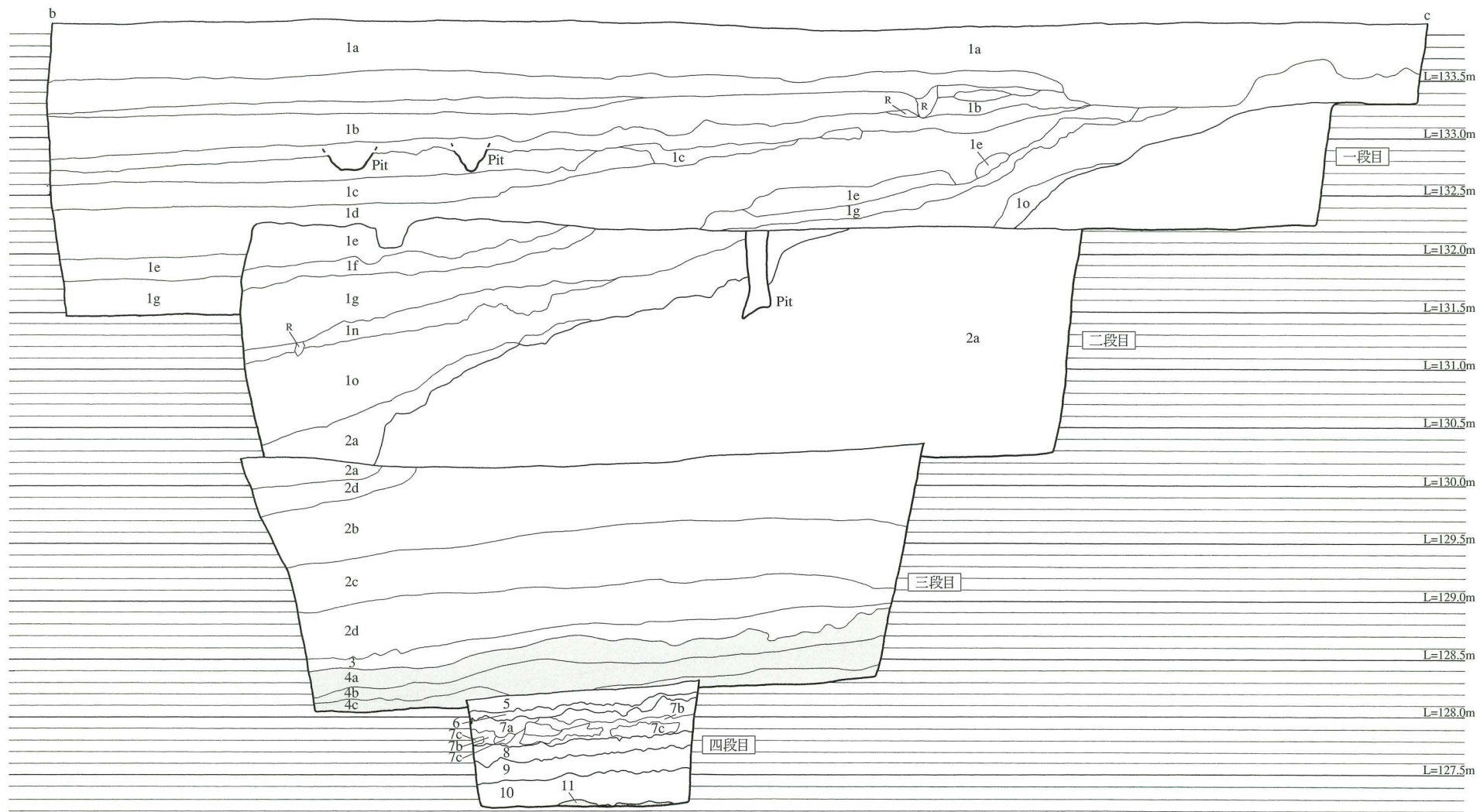


Fig.26 14レンチ北壁層位断面図(S=1/50)



Pl.36 14トレンチ東壁層位断面(一～三段目)状況写真①



Pl.37 14トレンチ東壁層位断面(一・二段目)状況写真②



Pl.38 14トレンチ北壁層位断面(一～三段目)状況写真①



Pl.39 14トレンチ北壁層位断面(四段目)状況写真②

確認できた。第4層は、層厚約50cmで、第5層を直接被覆している。第7層は、層厚約20cmで、第8層を被覆している。第8層は、層厚約10cmで比較的安定して堆積している。第9,10層はともに層厚約20～25cmを測り、AT、あるいは岩本火山灰を起源とするブロックが混在する。

(2) 遺構

①第1層dの遺構 (Fig.26～29)

第1層g上面において、第1層dを埋土とするピット17基を確認した。また西壁断面において2基確認した。ピットは、埋土から、中世の時期のものと考えられる。確認した範囲では、埋土中に遺物は見られなかった。ピットの詳細はTab.28の通りである。

②第1層gの遺構 (Fig.30～34)

i) ピット

第1層o上面または、2層a上面において、第1層gを埋土とするピット25基を確認した。ピットは、第1層gから第2層に対して掘り込まれていた。ピットは、埋土から、弥生時代中期に帰属するものと考えられる。ピットの詳細はTab.29の通りである。

ii) 炭化物 (Fig.35)

第1層gの遺物を取り上げ、第2層を平面的に検出する段階において、トレンチ北隅から炭化物が検出された。炭化物は、西壁・北壁内に延びる状況から、炭化物の全体的な検出を行うため、第1層gの掘削範囲を拡張した。炭化物はその形状から、板状のものと細い枝状のものであり、何らかの加工材であることも考えられた。板状の炭化物と枝状の

炭化物の周辺に細かな炭化物が散在しており、これらの炭化物がなぜこのような場所から検出されたのかという理由を探る上で参考になると思われる。炭化物の周辺では焼土や変色した土壌は認められなかった。

板状の炭化物は、欠損があるものの、最大長約260cm、最大幅約48cm、最大厚約3.5cmで平均約2cmを測る。断面観察から看取できるように、土圧のためか歪曲している。加工痕ではないかと想定できる部分は、側面展開図で看取できるように凸状になっている。また、中央付近に長さ7.5cm、幅6.5cmのほぼ長方形の穴が認められる。直径4cm前後の枝状の炭化物は、検出範囲の左隅で2本、中央下に1本確認された。炭化物は、自然化学分析・年代測定用のサンプルを採集後、埋め戻しを行い現地保存を行った。

(文責 鎌田)

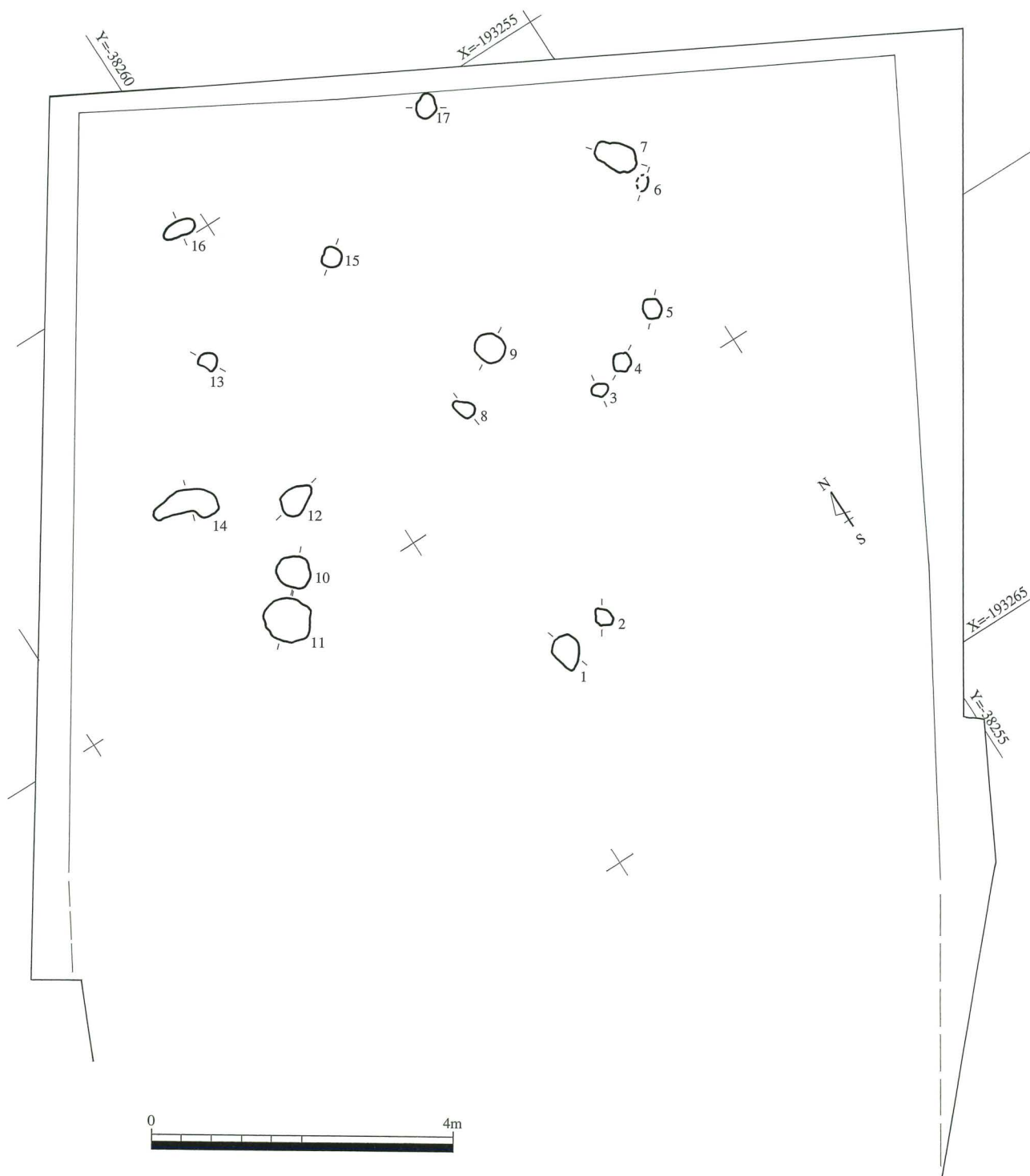


Fig.27 14トレンチ中世ピット検出状況図(S=1/80)

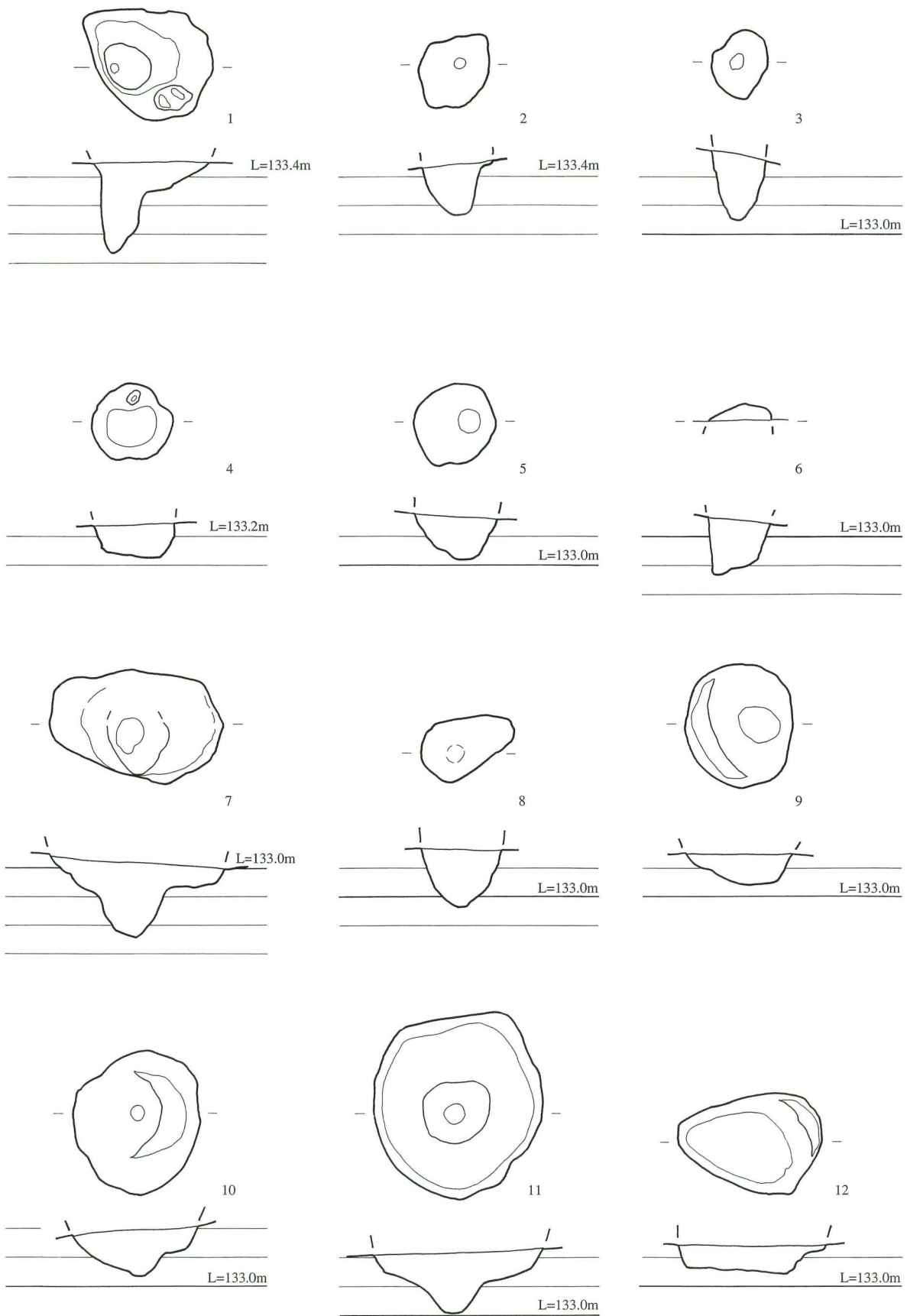


Fig.28 14トレンチ中世ピット平面・断面図①(S=1/20)

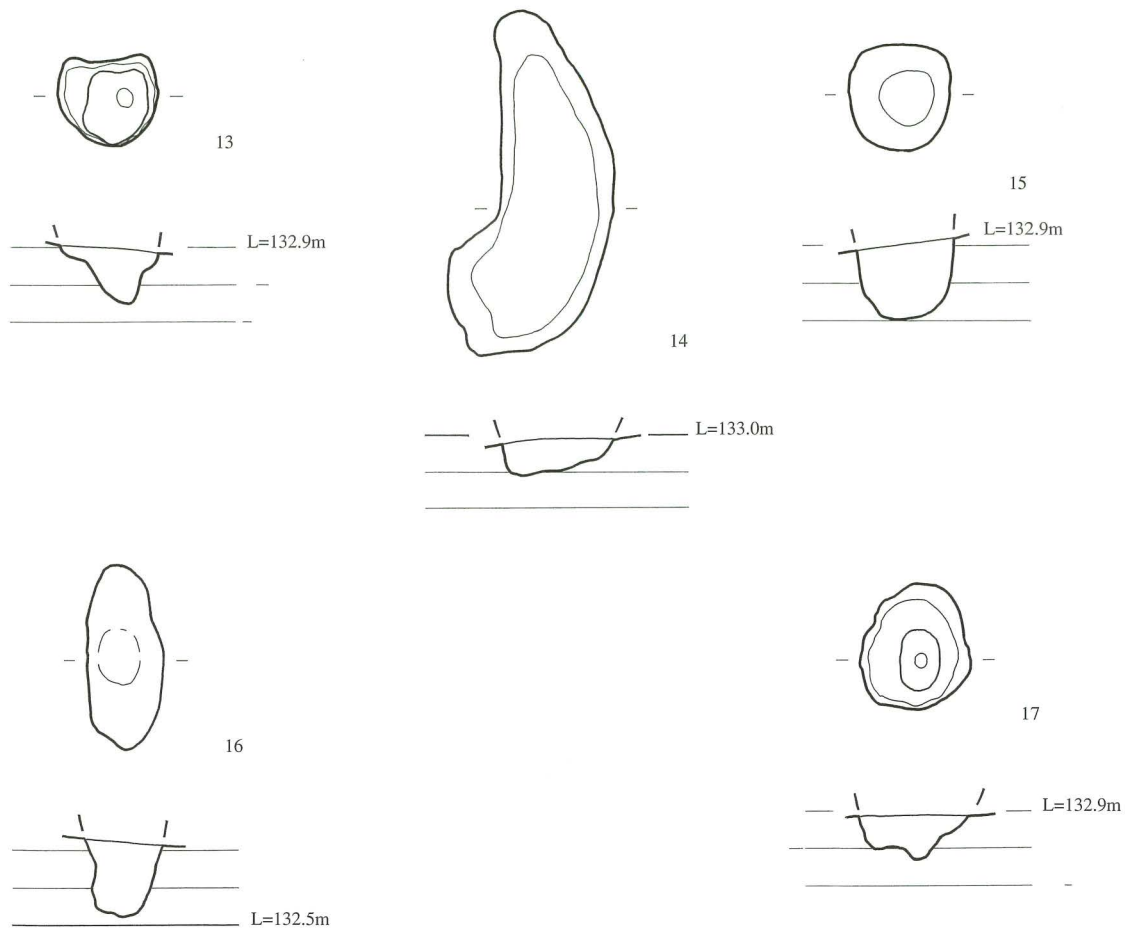


Fig.29 14トレンチ中世ピット平面・断面図②(S=1/20)

ピットNo.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	49	22	31.5
2	31	22	17.5
3	22.5	17	23.5
4	28	26.5	11.3
5	31.5	21.5	15
6	21.5+ α	5.5+ α	19.5
7	60	36.5	26
8	34	20.5	20
9	43	37.5	10.5
10	49.5	43.5	16.5
11	63.5	58	21
12	50	34.5	8.5
13	23	21.5	15
14	90.5	30	9.5
15	28	27	21
16	49	20.5	20
17	34.5	29	11.5

Tab.25 14トレンチ中世ピット法量表



Pl.40 14トレンチ中世ピット6号検出状況写真①



Pl.41 14トレンチ中世ピット17号検出状況写真②



Pl.42 14トレンチ中世ピット10・11号検出状況写真③



Pl.43 14トレンチ中世ピット15号検出状況写真④

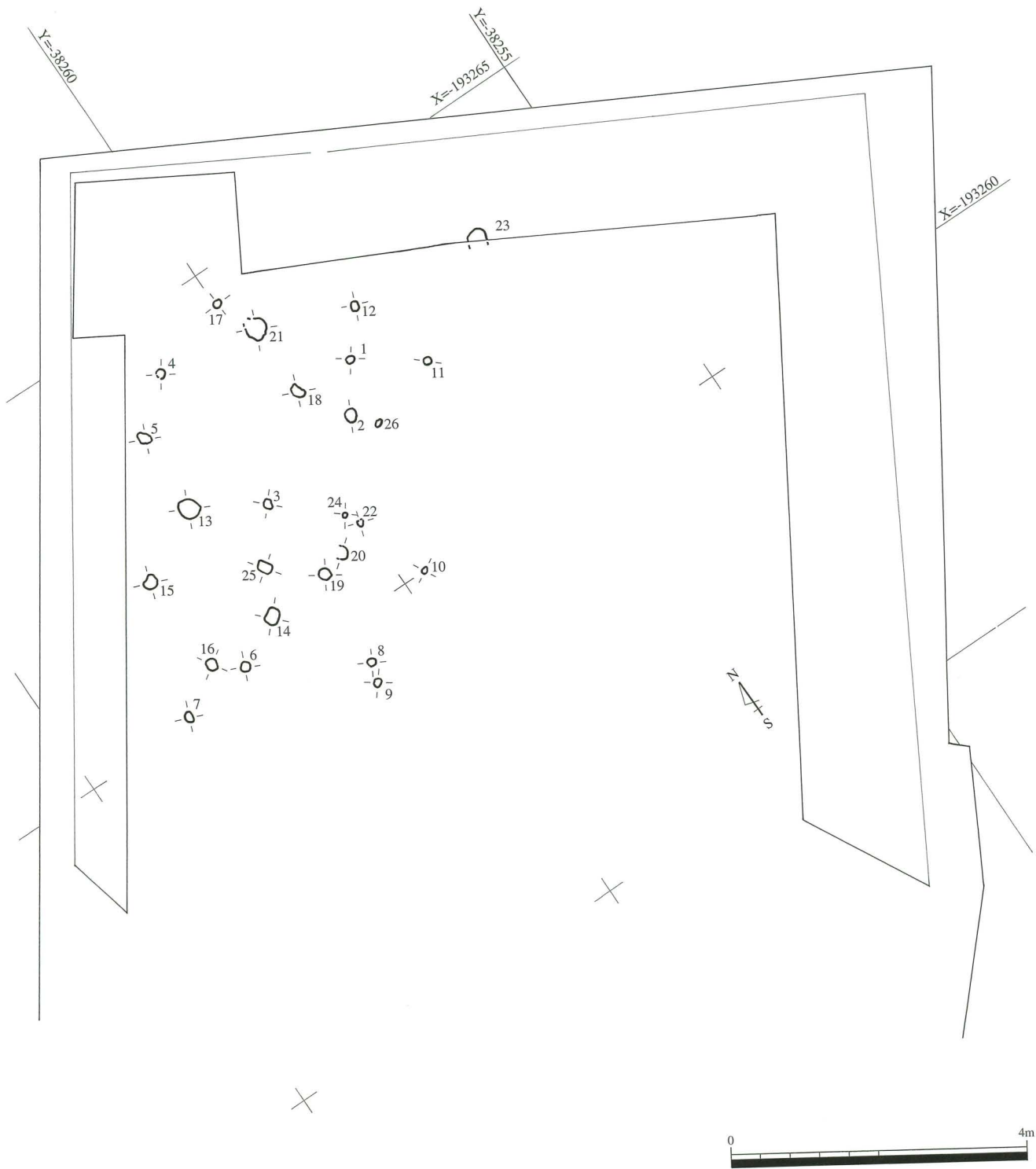


Fig.30 14トレンチ弥生時代ビット検出状況図(S=1/80)

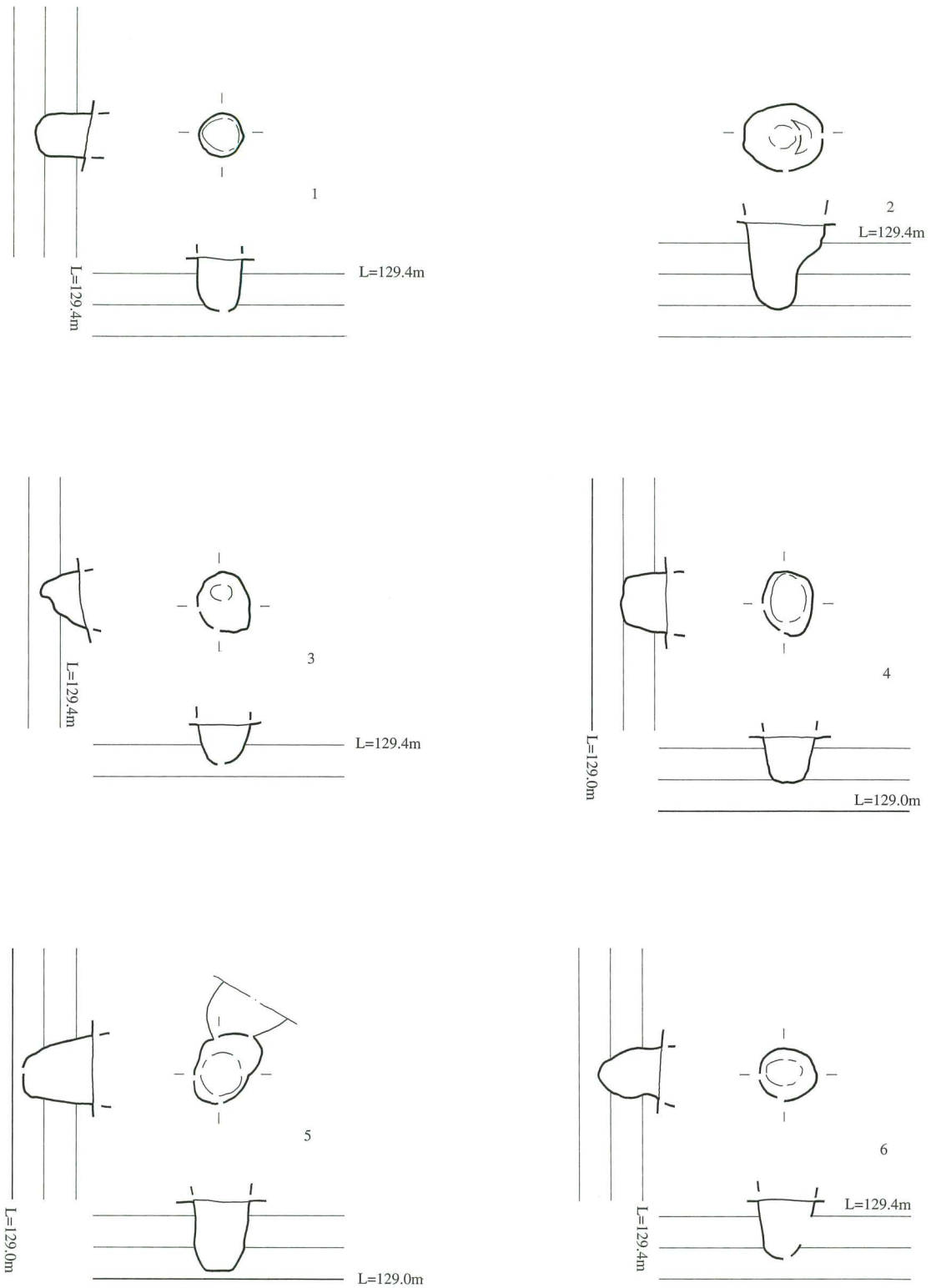


Fig.31 14トレンチ第1層g帰属ピット平面・断面図①(S=1/20)

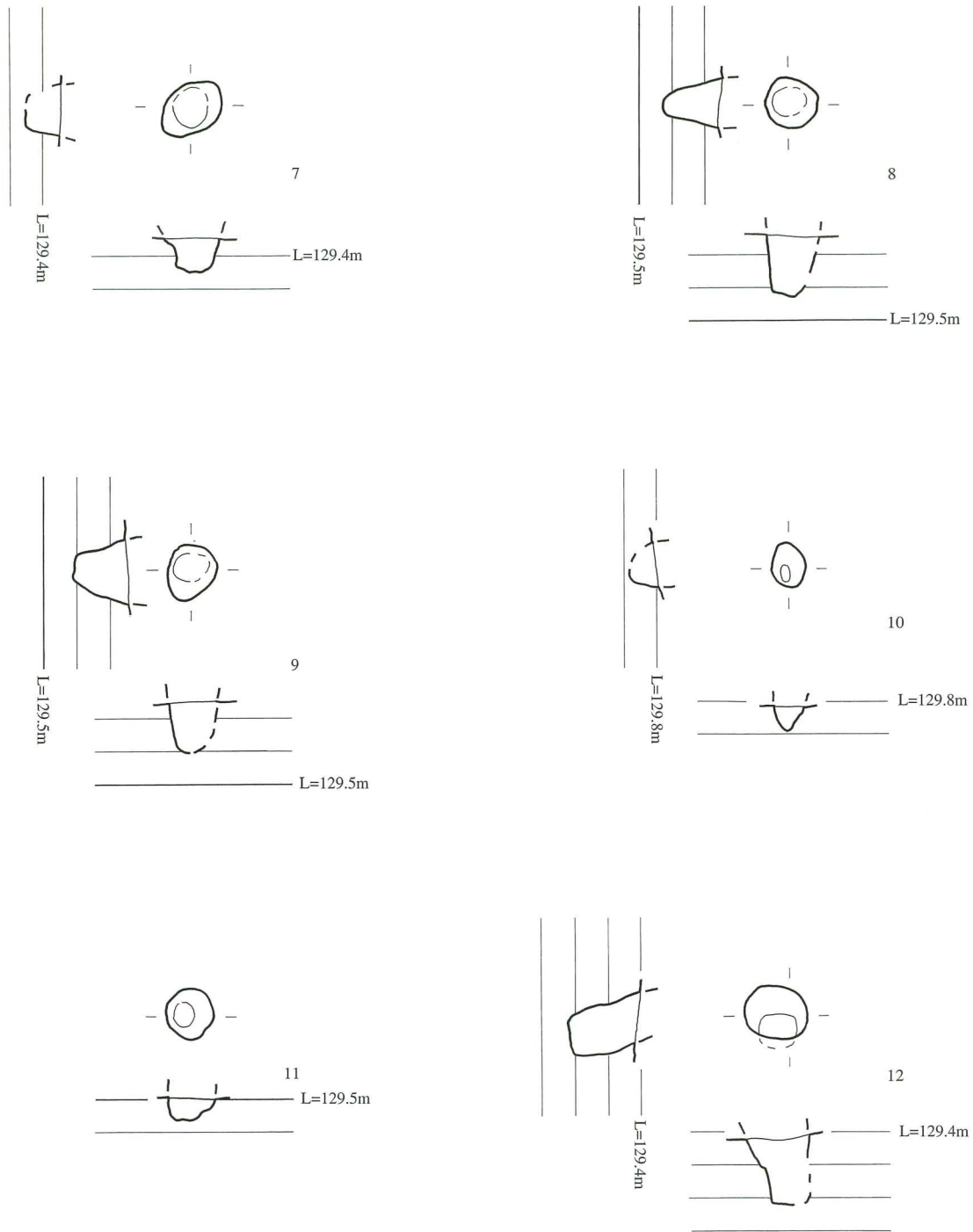


Fig.32 14トレンチ第1層g帰属のピット平面・断面図②(S=1/20)

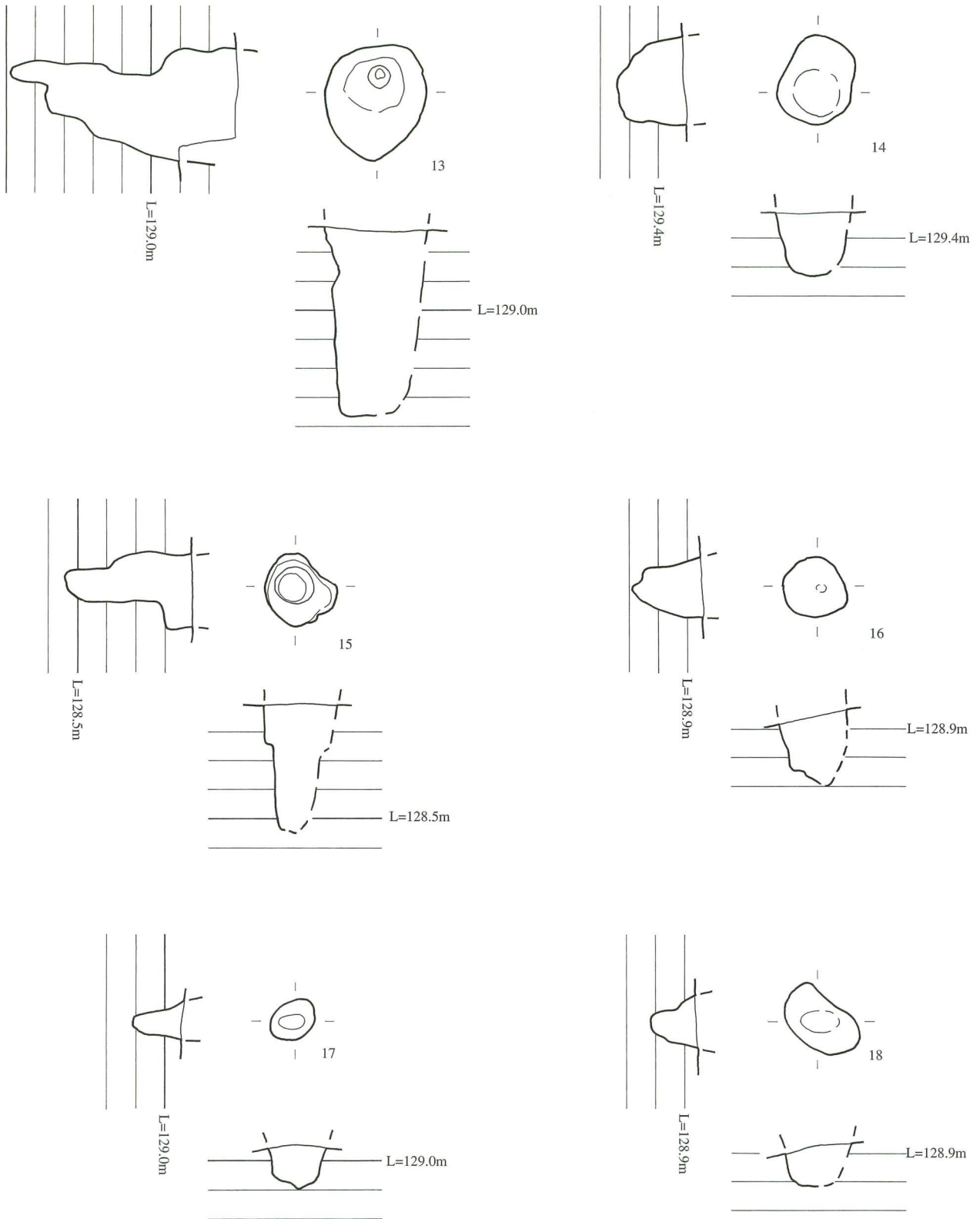


Fig.33 14トレンチ第1層g帛属のピット平面・断面図③(S=1/20)

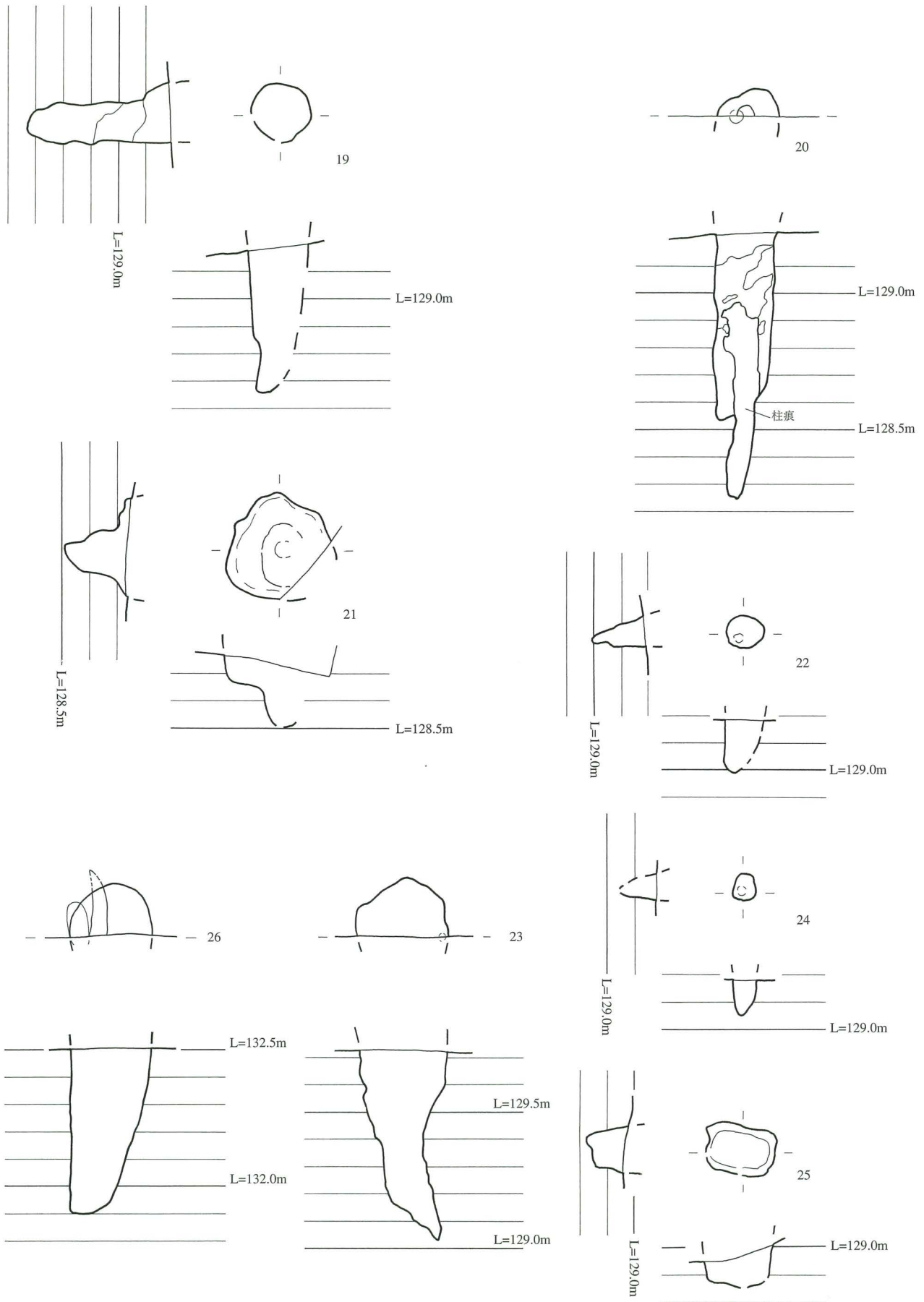


Fig.34 14トレンチ第1層g帰属のピット平面・断面図④(S=1/20)

ピットNo.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	15	14	17
2	25	21.5	27.5
3	21.5	16.5	12
4	21.5	16.5	15
5	26.5	17	22
6	19	17	19.5
7	21.5	15.5	10.5
8	16	16	14.5
9	18	14.5	16
10	14	11	7.5
11	16	15	6.5
12	19	16	21
13	40	34.5	78
14	31	25.5	22.5
15	25	25	43.5
16	22.5	20	24
17	17	13	17
18	29	17.5	16
19	22	22	52.5
20	23+ α	9+ α	97
21	41	30+ α	19.5
22	14	12	19.5
23	34	21+ α	69
24	10	9	13
25	25	13	14

Tab.26 14トレンチ弥生時代ピット法量表



Pl.44 14トレンチ弥生時代ピット13号検出状況写真



Pl.45 14トレンチ弥生時代ピット4号検出状況写真



Pl.46 14トレンチ弥生時代ピット20号検出状況写真



Pl.47 14トレンチ弥生時代ピット26号検出状況写真



Pl.48 14トレンチ弥生時代ピット15号検出状況写真



Pl.49 14トレンチ弥生時代ピット14号検出状況写真



Pl.50 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真①



Pl.51 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真②



Pl.52 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真③



Pl.53 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真④



Pl.54 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真⑤



Pl.55 14トレンチ弥生時代炭化物検出状況写真⑥

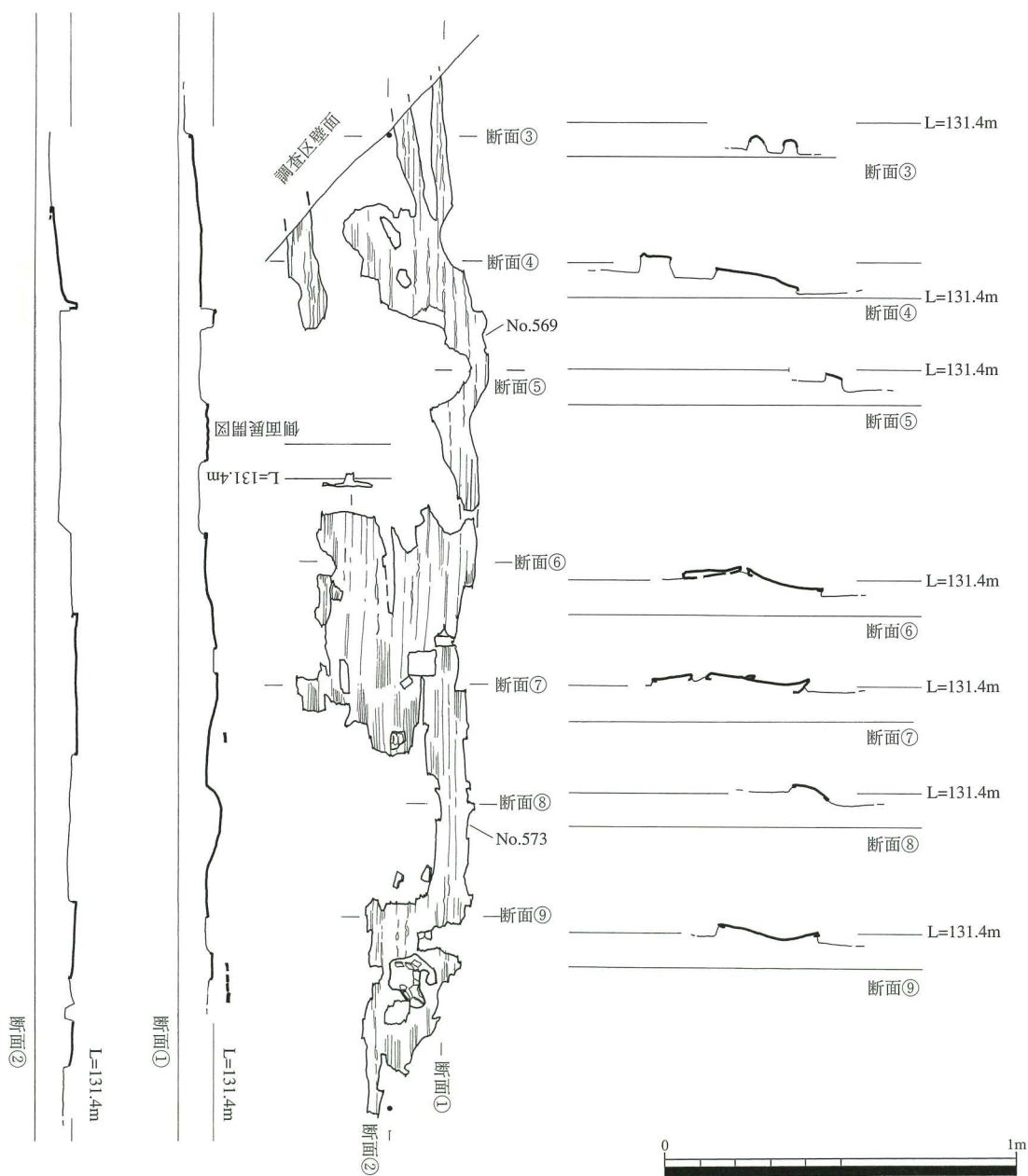


Fig.35 14トレンチ弥生時代炭化物平面・断面図(S=1/20)

(3) 遺物

14トレンチからは、第1層dより3点、第1層gからは、弥生時代中期に該当すると思われる合計545点の遺物が出土した。遺物の種類別の内訳は土器424点、石器3点、礫器7点、礫41点、炭67点、土塊2点、鉄塊と考えられる3cm角程度の塊（但し、メタルチェッカーでの反応はない）1点等である。なお、41点の礫の中には、石器素材や自然礫等が含まれている可能性がある。

遺物は、旧地形の谷部の傾斜面に散在した状態で、谷部に廃棄された可能性と上位の平坦面にあったものが流れ込んだ可能性の2通りが考えられる。



Pl.56 14トレンチ弥生時代遺物出土状況写真(北東側より)

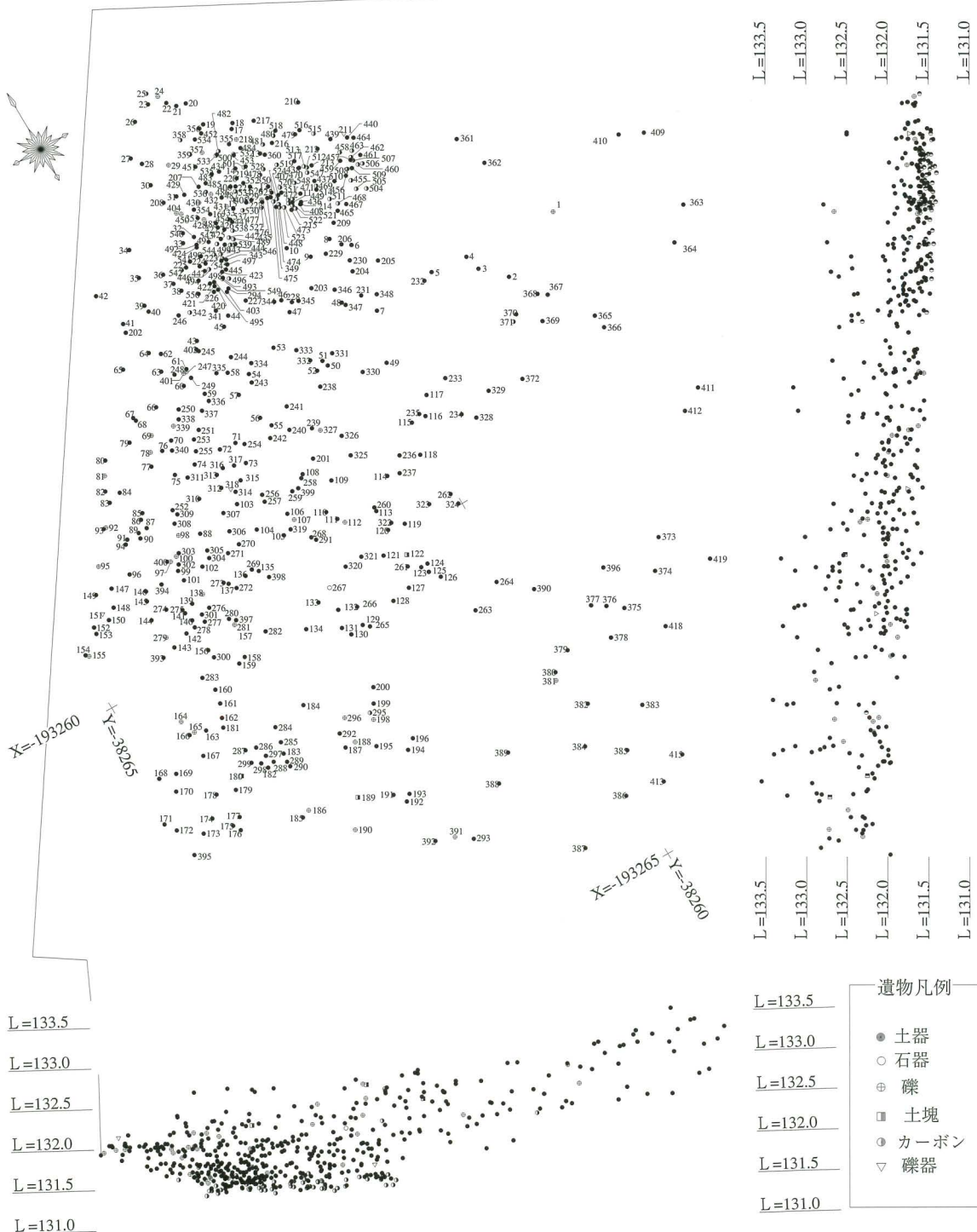
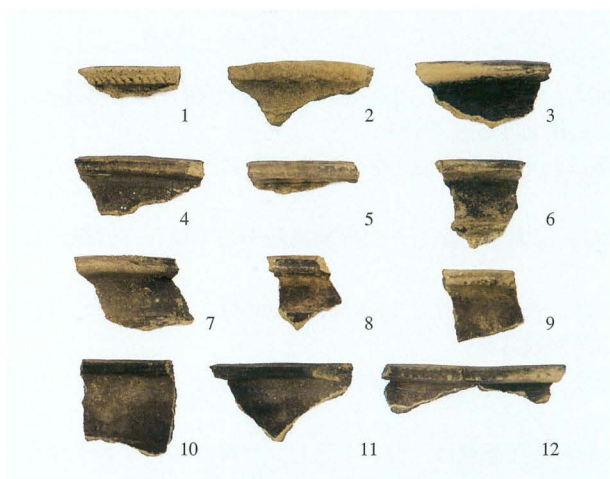
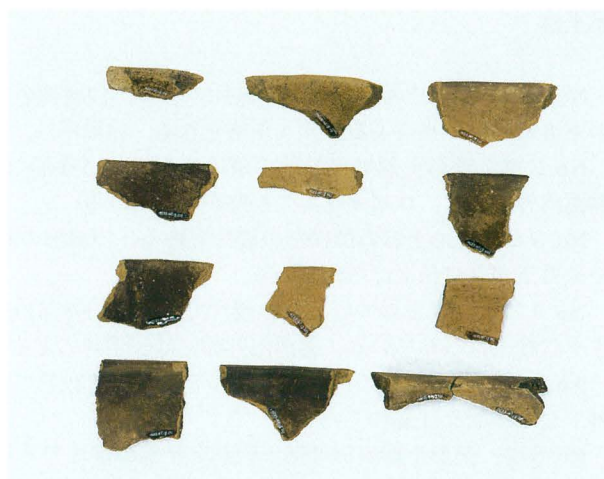


Fig.36 14トレンチ第1層g出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)



PI.57 14トレンチ弥生時代出土土器①写真(外面)



PI.58 14トレンチ弥生時代出土土器①写真(内面)

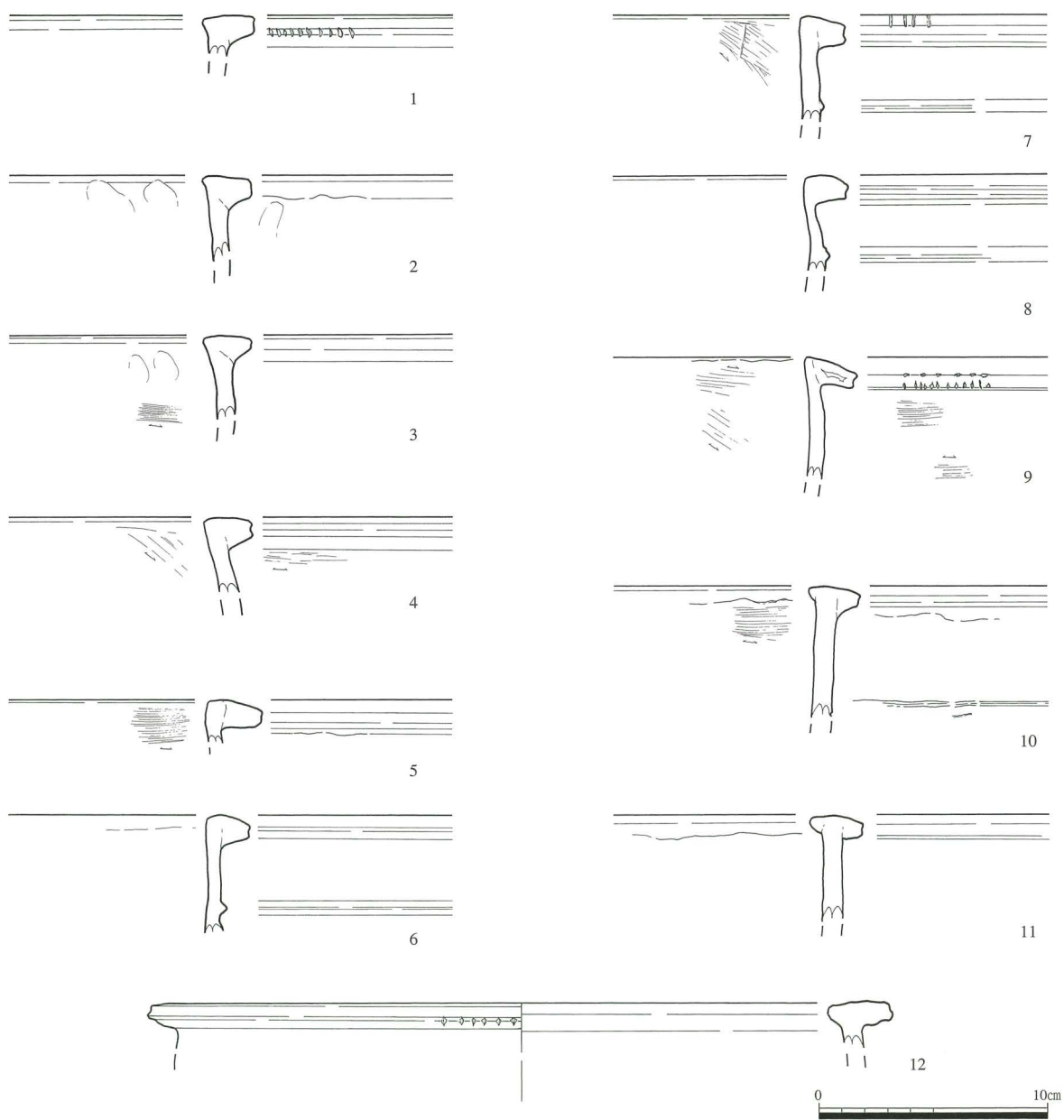


Fig.37 14トレンチ弥生時代出土土器実測図①(S=1/3)

①土器

No.1は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部端部の下方には、工具によるキザミが施される。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。

No.2は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、やや外下がりには仕上げられている。器面内外面には、ユビオサエの痕跡が認められる。

No.3は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は、やや外下がりには仕上げられている。

No.4は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が窪む。口縁部は、ほぼ水平に仕上げられている。器面内外面には、工具によるナデの痕跡が残る。

No.5は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が窪む。口縁部は、やや外下がりには仕上げられている。

No.6は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は若干外下りに仕上げられ、口縁部上面は丸みを帯びる。残存する胴部には1条の三角突帯がめぐる。

No.7は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は若干外下りに仕上げられ、口縁部端部上方には、工具によるキザミが施される。残存する胴部には1条の三角突帯がめぐる。器面内面には、ハケメの痕跡が認められる。

No.8は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部端部は若干外下りに仕上げられている。残存する胴部には1条の三角突帯がめぐる。器面内面には、工具によるナデの痕跡が認められる。

No.9は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は外下りに仕上げられ、端部には工具によるキザミが施されている。器面外面には、ハケメの痕跡が若干残る。

No.10は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、T字状を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は若干外下りに仕上げられている。残存する胴部には2条の沈線がめぐる。

No.12は、甕形土器の口縁部の破片である。復元口径は、32.6cmを計る。口縁部の断面形態は、T字状を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部は若干外上に仕上げられ、端部下方には工具によるキザミが施されている。

No.13は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈し、口縁部は若干外上に仕上げられている。器面内面には工具によるナデの痕跡が残る。

No.14は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が若干窪む。口縁部はほぼ水平に仕上げられ、器面内面にはユビオサエの痕跡が、外面には工具によるナデの痕跡が残る。

No.15は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈する。口縁部は外下がりには仕上げられ、器面内面にはユビオサエの痕跡が残る。

No.16は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈する。口縁部は外下がりには仕上げられている。

No.17は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈し、口縁部上面が若干窪み、外下がりには仕上げられている。残存する胴部には、1条の三角突帯がめぐる。器面内面は、口縁部と胴部と接合痕が残る。

No.18は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、三角形を呈し、端部付近に段を有する。口縁部は外下がりには仕上げられている。口縁部端部には工具によるキザミが施されている。器面内外面にハケメの痕跡が残り、外面にはカーボンの付着が見られる。

No.19は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部が若干窪む。口縁部は外下がりには仕上げられている。器面内面は、工具によるナデの痕跡が残る。

No.20は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が窪む。口縁部は外下がりには仕上げられ、上面にはキザミ状の沈線が施されている。

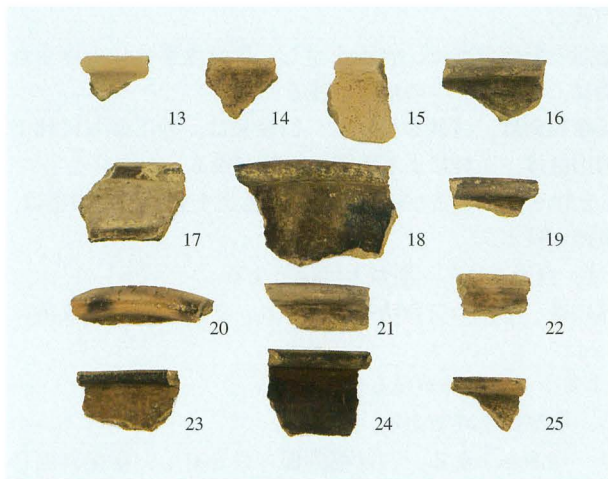
No.21は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、口縁部端部が窪む。口縁部は外下がりには仕上げられている。

No.22は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、外側への迫り出しが短い。口縁部端部は窪む。口縁部は外下がりには仕上げられている。

No.23は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈する。口縁部はほぼ水平に仕上げられている。

No.24は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈する。口縁部は水平に仕上げられている。器面内面にはハケメの痕跡が若干残る。

No.25は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、端部が若干窪む。口縁部は若干外下



Pl.59 14トレンチ弥生時代出土土器②写真(外面)



Pl.60 14トレンチ弥生時代出土土器②写真(内面)

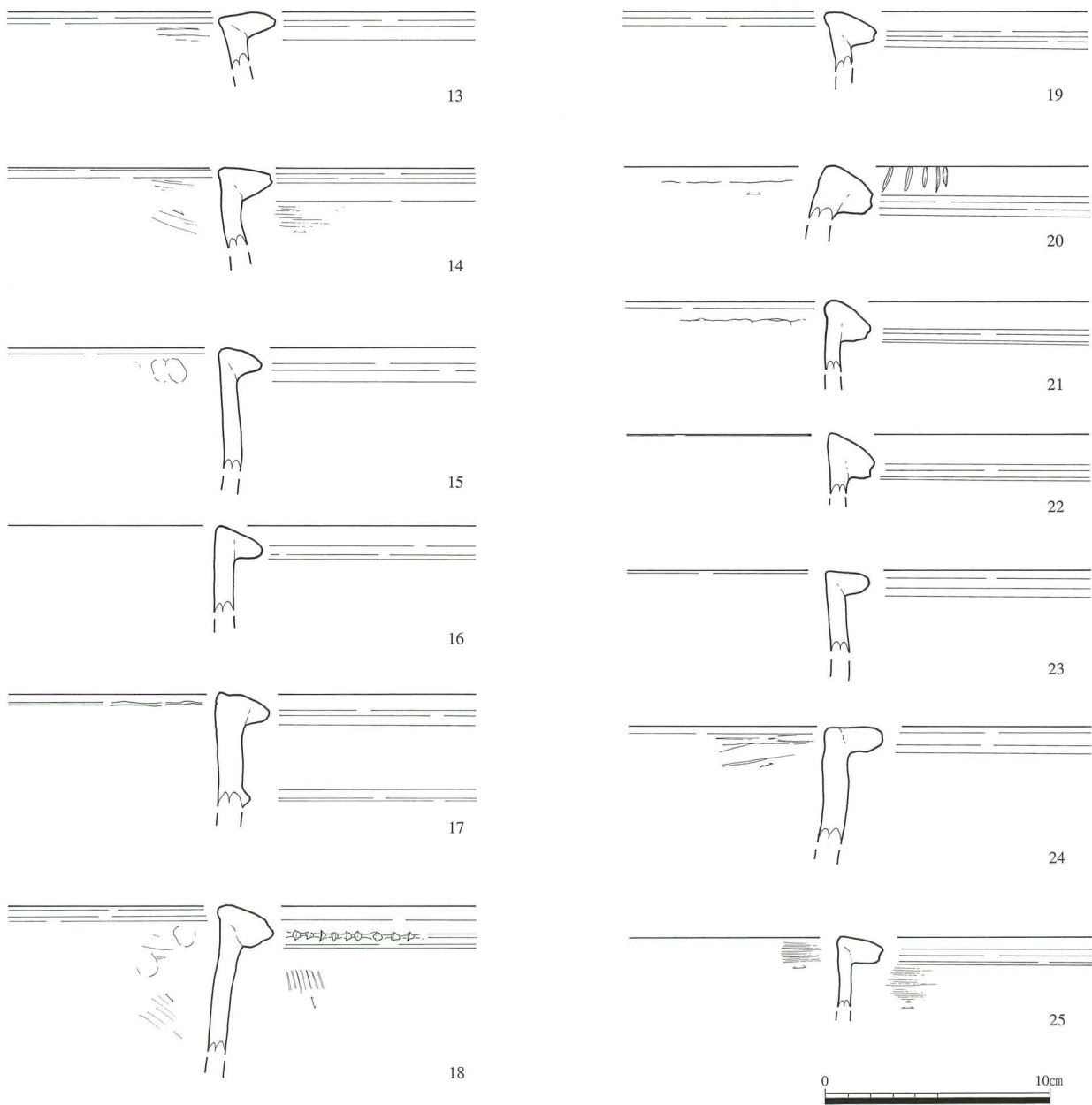


Fig.38 14トレンチ弥生時代出土土器実測図②(S=1/3)

がりに仕上げられている。器面内面には工具によるナデの痕跡が残る。

No.26は、甕形土器の口縁部～胴部突帯部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、ほぼ水平に仕上げられている。残存する胴部には、1条の絡状突帯がめぐり、器面内面は、ユビオサエの痕跡が残る。

No.27は、甕形土器の口縁部～胴部の破片である。口縁部の断面形態は、舌状を呈する。口縁部は、外下がりに仕上げられ、端部には、棒状工具によるキザミが施されている。器面内面は、工具によるナデの痕跡が残る。

No.28は、甕形土器の口縁部の破片である。復元口径は、32cmを計る。口縁部の断面形態は、舌状を呈し、口縁部は、外上がりに仕上げられている。器面内面は、工具によるナデの痕跡が残る。

No.29は、甕形土器の口縁部の破片である。口縁部の断面形態は、台形を呈し、跳ね上げ状となる。

No.30は、甕形土器の胴部突帯部の破片である。残存する胴部には、1条の三角突帯がめぐり、その上方に焼成後に穿孔が施されている。補修孔の可能性はある。

No.31は、甕形土器の底部の破片である。器面内外面には工具によるナデの痕跡が残る。

No.32は、甕形土器の底部の破片である。底径は、9.1cmを計る。底部は平底である。

No.33は、壺形土器の口縁部～頸部の破片である。復元口径は、13.8cmを計る。口縁部内面に段を有し、器面外面には、縦方向の暗文が施されている。

No.34は、壺形土器の口縁部～頸部の破片である。復元口径は、19cmを計る。口縁部は外反し、断面形態は台形を呈する。また、端部が窪む。頸部の外面には、ハケメの痕跡が若干残る。

No.35は、壺形土器の口縁部～頸部の破片である。復元口径は、19.2cmを計る。口縁部は外反し、頸部の内面には、工具によるナデの痕跡が残る。

No.36は、壺形土器の口縁部の破片である。口縁部は外反し、端部が若干窪む。

No.37は、壺形土器の肩部突帯部の破片である。残存する頸部には4条の三角突帯がめぐり、

No.38は、壺形土器の肩部突帯部の破片である。残存する肩部には4条の三角突帯がめぐり、最下部の突帯の接続部分は、片方の端部が大きくカーブしている。

No.39は、壺形土器の肩部突帯部の破片である。残存する肩部には4条の三角突帯がめぐり、

No.40は、壺形土器の肩部突帯部の破片である。残存する肩部には2条の沈線がめぐり、

No.41は、壺形土器の肩部突帯部の破片である。残存する肩部には1条の三角突帯がめぐり、

No.42は、壺形土器の底部の破片である。復元底径は、6.2cmを計る。底部は平底である。

No.43は、壺形土器の底部の破片である。底部は平底である。

No.44は、鉢形土器の口縁部の破片である。器面内外面には工具によるナデの痕跡が残る。

(文責 渡部)

②石器

No.45は、頁岩製の平基式の石鏃である。a面・b面とも調整が著しいため、素材剥片の剥離面は認められない。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から石鏃への調整過程が推定できる。まず、b面左側縁において、a面側からの加撃によって周辺加工が施されている。その後は、概ね次のような工程と考えられる。a面右側縁→a面左側縁→b面右側縁→a面基部→b面基部の順で調整が施されている。

a面・b面の両側縁は、調整段階の押圧剥離によって鋸歯状を呈している。

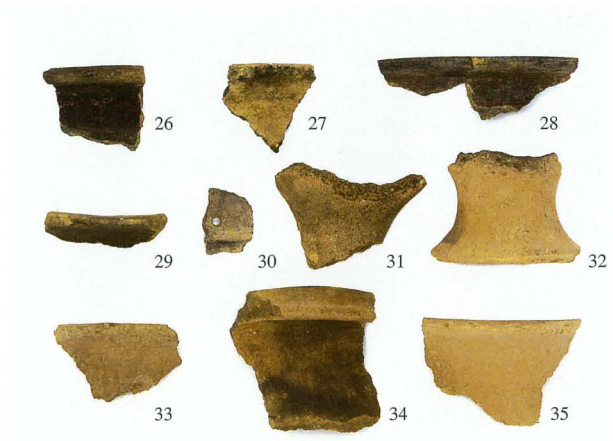
先端部は、やや丸みを帯びており、鋭利性が乏しい。

No.46は、頁岩製の凹基式の石鏃である。平面形態的には、先端部の中心線と基部の中心を結ぶと、a面右脚が同面左脚より若干短くなっている。短くなっている理由は、使用による欠損ではなく、調整段階によるものと考えられる。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から石鏃への調整過程が推定できる。a面右側縁→b面左側縁→b面右側縁→a面左側縁→b面基部→a面基部へと、概ね調整工程が考えられる。

③礫器

No.47は、半円形を呈した軽石製加工品である。a面中央部に凹部が認められる。凹部の平面形は、約3.5cm×約2.2cmを測り不整形を呈し、深さは約1.8cmを測る。凹部は、e面の観察からも判断できるように、軽石断面の半分ほどで留まっており、意図された穿孔なのかあるいはその目的性については不明である。e面やb面の一部には、磨面が認められることから、何らかの工具あるいは、ある目的を持って加工されたものであると考えられる。

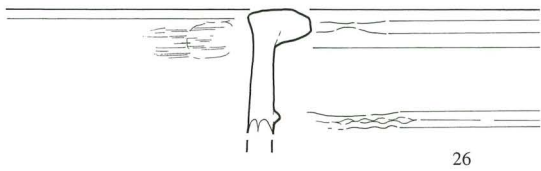
(文責 鎌田)



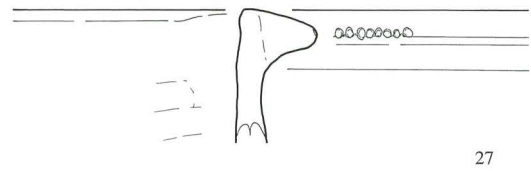
Pl.61 14トレンチ弥生時代出土土器③写真(外面)



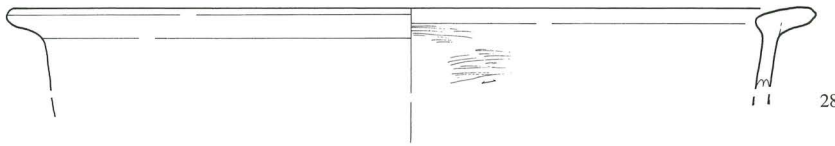
Pl.62 14トレンチ弥生時代出土土器③写真(内面)



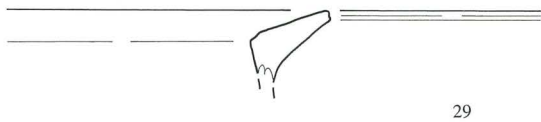
26



27



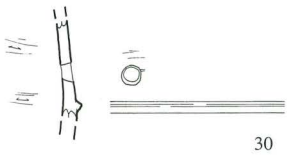
28



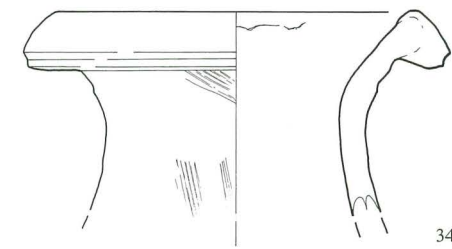
29



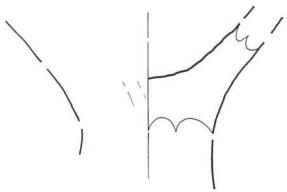
33



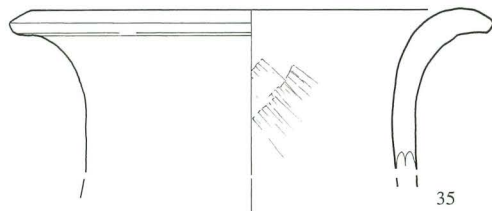
30



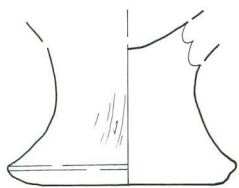
34



31



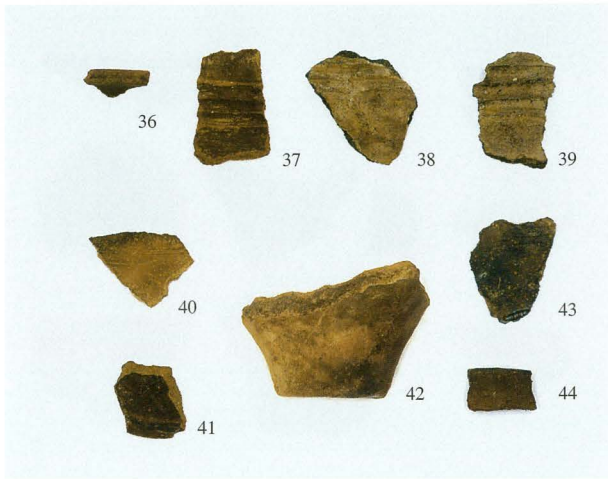
35



32



Fig.39 14トレンチ弥生時代出土土器実測図③(S=1/3)



Pl.63 14トレンチ弥生時代出土土器④写真(外面)



Pl.64 14トレンチ弥生時代出土土器④写真(内面)

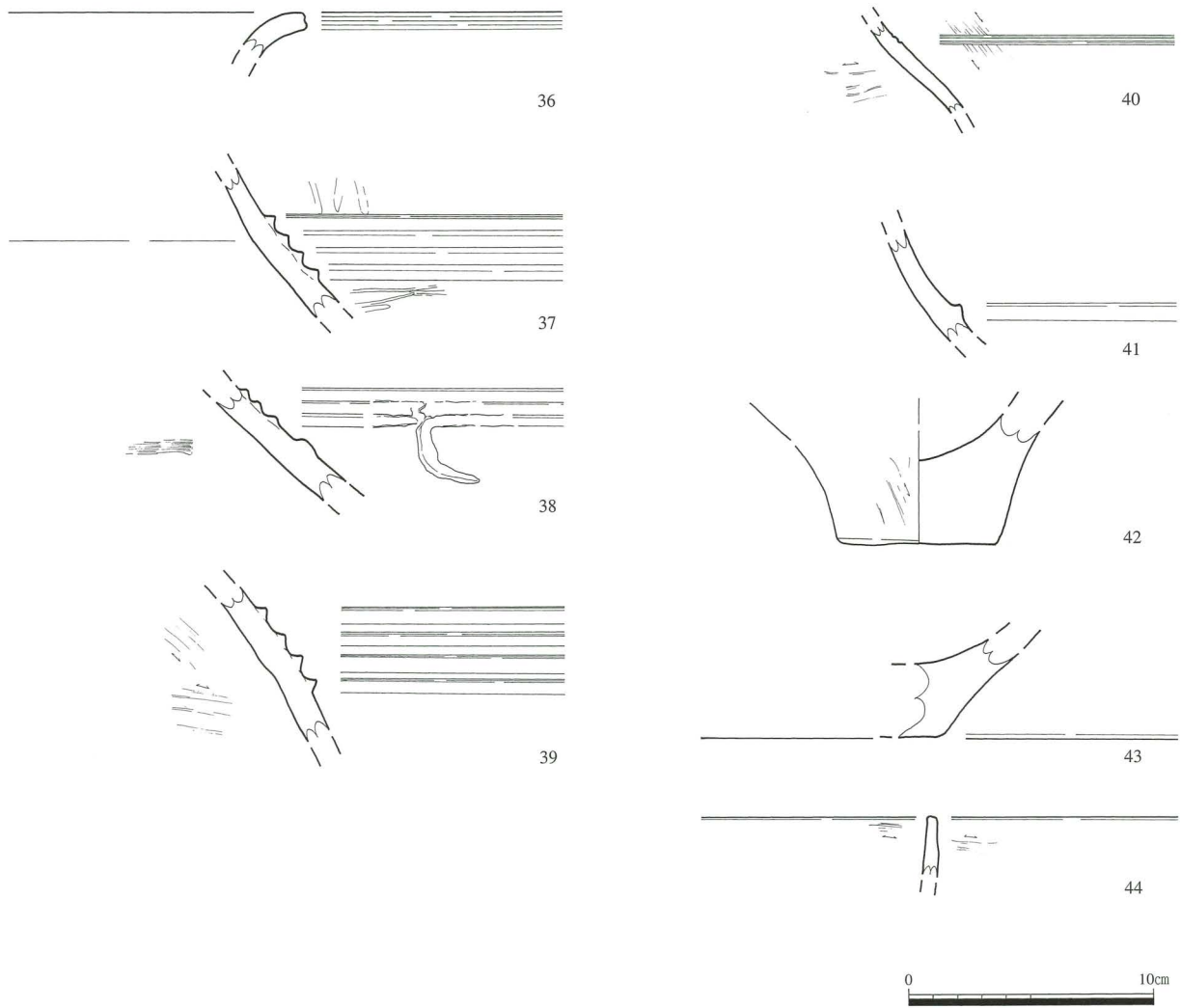


Fig.40 14トレンチ弥生時代出土土器実測図④(S=1/3)

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和材	調整	その他	出土層位	接合
1	178	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2	7.5YR4/3	7.5YR4/1	口縁 7.5YR6/6	細砂粒・微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 端部にヨコナデのちキサミ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
2	103	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR6/3	10YR5/3	2.5Y4/1	口縁 10YR5/3	細砂粒・微砂粒をわずかに含む	カ・セ・白・黒・他	内・ユビオサエのちナデ 外・ナデ一部ユビオサエ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
3	220	甕形土器	破片	口縁部	5P6/1 10YR3/1	7.5YR5/3	7.5YR3/1 5YR6/4	口縁 7.5YR4/1	細砂粒・微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ 工具によるナデのちナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
4	228	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR3/1	7.5YR4/1	7.5YR6/4	口縁 7.5YR4/2 5YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・金ウソ モ・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・工具によるナデのちナデ ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
5	461	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3	7.5YR5/4	10YR4/3	口縁 5YR5/3	砂粒を含む細砂粒を含む	カ・セ・白・ウソ モ	内・ヨコナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ 工具によるナデのちナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	484
6	422	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2 10YR3/1	7.5YR4/2 7.5YR4/1	10YR6/3	口縁 2.5Y4/1 7.5YR5/3	砂粒を若干含む	セ・白・黒	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 端部に凹線 突・2条線	傾き疑問 焼成良好	1 g	444
7	370	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR5/2 2.5YR3/1	10YR4/1	10YR5/3	口縁 7.5YR5/3 2.5Y3/1	細砂粒を含む	白・黒・赤・金 ウソモ	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口縁・ヨコナデ 沈線 端部に4条沈線 突・はり付き	傾き疑問 焼成良好	1 g	
8	221	甕形土器	破片	口縁部	2.5YR5/4 7.5YR3/1	7.5YR5/3	7.5YR7/6	口縁 5YR5/3	細砂粒・微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ 工具によるナデのちナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
9	341	甕形土器	破片	口縁部	5YR5/4 2.5Y4/1	5YR6/6	7.5YR7/6	口縁 5YR6/6	細砂粒を多く含む	セ・白・黒・金 ウソモ	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ 工具によるナデのちナデ 端部にキサミ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
10	271	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2 10YR3/1	7.5YR4/2 10YR4/1	2.5YR4/1 5YR6/6	口縁 10YR4/1 7.5YR4/1	細砂粒を多く含む	セ・白・黒	内・ナデ 外・ヨコナデ 沈線 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
11	361	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR3/1 2.5Y3/1	10YR3/1	7.5YR3/1 7.5YR7/4	口縁 10YR4/1	細砂粒を含む	セ・白・黒	内・ヨコナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 端部にカーボン付着	傾き疑問 焼成良好	1 g	
12	275	甕形土器	破片	口縁部	10YR3/1 2.5Y4/1 10YR5/2	7.5YR5/3	7.5YR4/1	口縁 10YR5/3 2.5Y4/1	細砂粒を含む	カ・セ・白	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 端部にキサミ	傾き疑問 焼成良好	1 g	333
13	214	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR5/4	10YR5/1 7.5R4/3	10YR4/1	口縁 7.5YR6/3 7.5R2/1	砂粒を若干含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口縁・ヨコナデ ナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
14	111	甕形土器	破片	口縁部	10YR4/2	10YR4/1	5Y5/1	口縁 10YR5/3	細砂粒・微砂粒を若干含む	カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ ユビオサエのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ナデ ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
15	67	甕形土器	破片	口縁部	5YR5/4 7.5YR6/4	10YR5/3	10YR4/1 10YR5/3	口縁 7.5YR5/4	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を多く含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ ユビオサエのちナデ 外・ナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
16	437	甕形土器	破片	口縁部	5YR5/3 10YR4/2	7.5YR5/3	10YR6/3	口縁 7.5YR5/3 10YR4/2	微砂粒を含む	カ・白・黒	内・ナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	459

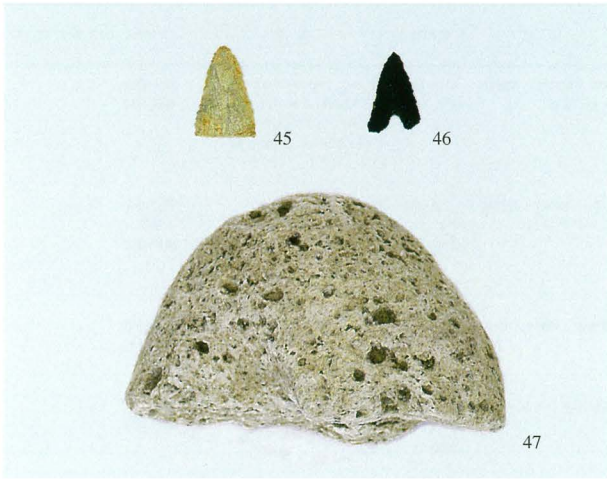
Tab.27 14トレンチ弥生時代出土遺物観察表①

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和材	調整	その他	出土層位	接合
17	236	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR5/2 2.5Y4/1	10YR5/2	5PB5/1	口縁 10YR5/3	砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒	内・ナデ 外・ヨコナデ 口縁・ヨコナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
18	208	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2 10YR4/1	7.5YR3/1 7.5YR4/2	10YR4/2	口縁 7.5YR4/1	砂粒を若干含む 細砂粒・微砂粒を若干 含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 一部ユビオサエ 外・ハケメのちナデカーボン附着 口縁・ナデ 端部にヨコナデのちキ ザミ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
19	215	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR5/3	10YR5/2	10YR5/3	口縁 7.5YR3/1 7.5YR5/3	細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
20	492	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3	5YR5/3	2.5Y4/1	口縁 7.5YR3/3 2.5YR5/6	細砂粒・微砂粒を含む	カ・白・ ウンモ	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 沈線文 端部に凹線	傾き疑問 焼成良好	1 g	
21	362	甕形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2	7.5YR5/3	2.5Y6/2	口縁 7.5YR5/2	微砂粒を若干含む	セ・白・黒	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 端部に凹線	傾き疑問 焼成良好	1 g	
22	424	甕形土器	破片	口縁部	5YR5/3	7.5YR5/4	10YR5/2	口縁 7.5YR5/4	細砂粒を含む	白・黒	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 端部に凹線	傾き疑問 焼成良好	1 g	
23	7	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3	7.5YR5/3	2.5Y5/1 5YR6/3	口縁 5YR5/4	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ウ ンモ・他	内・ナデ 外・ナデ 口縁・工具によるナデのちナデ ヨ コナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
24	312	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3 10YR3/1	7.5YR5/3	7.5YR5/4	口縁 7.5YR5/3 7.5YR4/1	細砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 口縁・ヨコナデ 工具によるナデの ちナデ 突・痕跡あり	傾き疑問 焼成良好	1 g	
25	526	甕形土器	破片	口縁部	5YR4/3	7.5YR5/4	10YR6/3	口縁 7.5YR5/3	細砂粒を若干含む	白・黒・ 金ウ ンモ	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
26	514	甕形土器	破片	口縁部	10YR2/1 5YR5/2	7.5YR4/2	10YR2/1	口縁 7.5YR4/2	砂粒を多く含む	カ・セ・白・ 黒	内・指頭圧痕のちナデ ナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 突・ナデ はり付け	傾き疑問 焼成良好	1 g	
27	451	甕形土器	破片	口縁部	10YR4/2	7.5YR5/3	2.5Y4/2	口縁 10YR5/3 2.5Y5/1	小礫・砂粒を若干含む	カ・セ・白・ 黒	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 口縁・ナデ 端部にキ ザミ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
28	329	甕形土器	破片 1/4残存 復元口径32	口縁部	10YR4/1 7.5YR3/1	2.5Y5/1 10YR4/2	10YR5/2 2.5YR3/1	口縁 10YR5/2 7.5YR5/2	細砂粒を含む	カ・セ・白	内・ユビオサエ 工具によるナデの ちナデ 外・工具によるナデのちナデ カー ボン附着 口縁・ヨコナデ 工具によるナデの ちナデ カーボン附着	傾き疑問 焼成良好	1 g	390
29	440	甕形土器	破片	口縁部	10YR3/1	5YR5/4	7.5YR6/3	口縁 7.5YR5/4 10YR5/3	砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ウ ンモ	内・工具によるナデ 外・工具によるナデのちナデ カー ボン附着 口縁・ナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
30	54	甕形土器	破片	胴部突帯 部	7.5YR5/2	7.5YR5/2	5Y5/1		細砂粒・微砂粒を若干 含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ ナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	補修孔
31	34	甕形土器	破片 1/2残存	底部	7.5YR5/2	7.5YR4/2	5YR4/3		細砂粒・微砂粒を多く 含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
32	154	甕形土器	破片 1/1残存 復元底径9.1	底部	2.5YR6/8 7.5YR5/1	10YR4/1	5YR4/4 5YR4/1	底 5YR5/4 7.5YR5/3	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・金ウ ンモ・他	内・工具によるナデ 外・工具によるナデのちナデ ヨコ ナデ 底・ナデ	焼成良好	1 g	
33	421	壺形土器	破片 1/5残存 復元口径13.8	口縁部	7.5YR5/3	5YR5/4	10YR7/4	口縁 5YR5/4	細砂粒をわずかに含む	白・ 金ウ ンモ	内・ヨコナデ 内面に稜あり 外・タテ方向暗文 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	

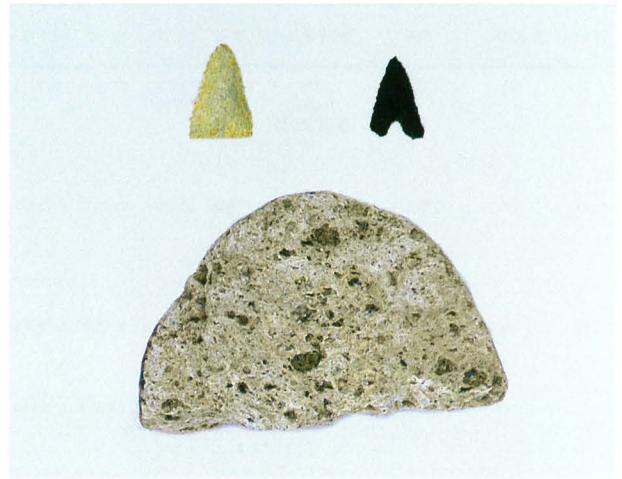
Tab.28 14トレンチ弥生時代出土遺物観察表②

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色 外	色 内	色 肉	色 他	胎土粒	混和材	調 整	その他	出土層位	接 合
34	441	壺形土器	破片 1/4残存 復元口径19.0	口縁部	5YR4/3 7.5YR4/1	5YR4/3	7.5YR5/1	口縁 7.5YR5/4 5YR5/4	砂粒・細砂粒・微砂粒 を多く含む	セ・白・黒・ 金ウンモ	内・ナデ 外・ハケメのちナデ タテ方向のハケメのちナデ ヨコナデ ケズリのちナデ 口縁・ヨコナデ 端部に沈線	傾き疑問 焼成良好	1 g	
35	258	壺形土器	破片 1/4残存 復元口径19.2 高さ6.3	口縁部	5YR5/4	5YR5/4	10YR5/3	口縁 5YR5/4	砂粒・細砂粒・微砂粒 をわずかに含む	白・黒・赤・ セ・ 金ウンモ	内・工具によるナデ ナデ 外・ヨコナデ 口縁・ナデ ヨコナデ	傾き若干 疑問 焼成良好	1 g	
36	176	壺形土器	破片	口縁部	7.5YR4/2	5YR5/4	2.5YR6/6		微砂粒・細砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・赤・他	内・ナデ 外・ナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
37	259	壺形土器	破片	胴部上半 部	5YR4/2	2.5YR5/4	2.5YR5/4		砂粒を多く含む	カ・セ・白・ 黒・ 金ウンモ	内・ナデ 外・ケンマ 突・ナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
38	256	壺形土器	破片	胴部上半 部	10YR5/3	10YR6/3	2.5Y3/1		砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 突・ナデ はり付け	傾き疑問 焼成良好	1 g	
39	40	壺形土器	破片	胴部突帯 部	10YR5/2	10YR6/3	2.5Y4/2 7.5YR7/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を若干 含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
40	8	壺形土器	破片	肩部	7.5YR5/4 7.5YR4/1	10YR6/3	10YR6/3		砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を若干 含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデのちナデ 沈線	傾き疑問 焼成良好	1 g	
41	52	壺形土器	破片	頸部突帯 部	7.5YR4/1 5YR5/4	5YR5/4	5YR5/4		砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・ナデ 外・工具によるナデ ナデ 突・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	
42	22	壺形土器	破片 1/2残存 復元底径6.2	底部	5YR5/3 7.5YR4/1	5YR4/3	5YR3/1 7.5YR4/1	底 7.5YR5/3 10YR4/1	砂粒を若干に含む 細 砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・ナデ 底・ナデ	焼成良好	1 g	
43	45	壺形土器	破片	底部	10YR4/1	7.5YR4/1	7.5YR4/1	底 10YR4/1	細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・ナデ 外・ナデ 底・ナデ	焼成良好	1 g	
44	226	鉢形土器	破片	口縁部	5YR5/3	7.5YR5/3 2.5Y4/1	10Y4/1 5YR5/3		細砂粒・微砂粒を若干 含む	カ・セ・白・ 黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・工具によるナデ ナデ 口縁・ヨコナデ	傾き疑問 焼成良好	1 g	

Tab.29 14トレンチ弥生時代出土遺物観察表③



Pl.65 14トレンチ弥生時代出土石器・礫器写真(表面)



Pl.66 14トレンチ弥生時代出土石器・礫器写真(裏面)

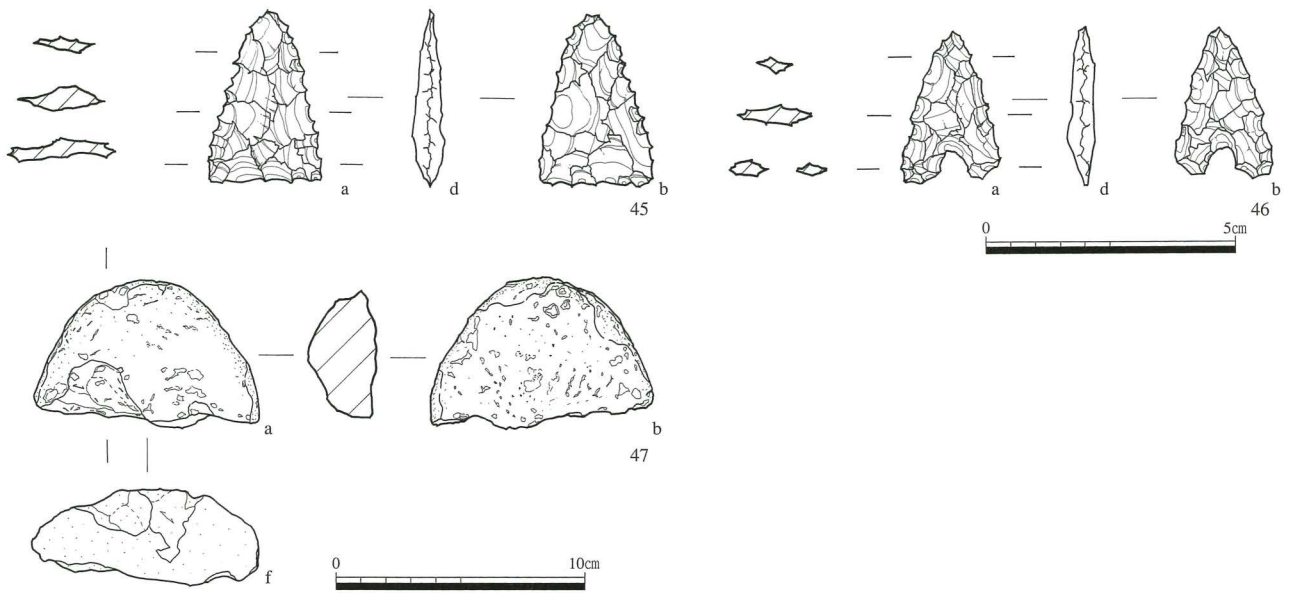


Fig.41 14トレンチ弥生時代出土石器・礫器実測図(S=1/1,S=1/2)

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考	接合
45	300	打製石鏃	白色頁岩	最大長：2.3 最大幅：1.5 最大厚：0.4	1.26	—	両面		1g		
46	263	打製石鏃	頁岩	最大長：2.0 最大幅：1.3 最大厚：0.3	0.7	—	両面		1g		
47	438	軽石製加工品	軽石	最大長：6.1 最大幅：10.0 最大厚：3.9	61	—	研磨		1g		460

Tab.30 14トレンチ弥生時代出土石器・礫器観察表

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
1			1g	礫	礫	安山岩	60.9	65.4	54.2	45.4	150	-193257.464	-38257.217	132.656			
2			1g	土器	胴部突帯部片	-						-193257.884	-38258.089	132.598			
3			1g	土器	破片	-						-193257.606	-38258.366	132.434			
4			1g	土器	破片	-						-193257.404	-38258.421	132.446			
5			1g	土器	胴部片	-						-193257.349	-38258.888	132.692			
6			1g	土器	破片	-						-193256.565	-38259.568	131.991			
7	23	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193257.422	-38259.708	132.113			
8	40	○	1g	土器	壺形土器肩部片	-						-193256.366	-38259.761	131.911			
9			1g	礫器	軽石製加工品	-	4.2	84	60.3	26.5	28	-193256.438	-38260.072	132.051			
10			1g	土器	細片	-						-193256.199	-38260.273	131.916			黒塗り
11			1g	土器	突帯部片	-						-193255.703	-38259.788	131.901			
12			1g	土器	胴部片	-						-193255.427	-38260.087	131.916			
13			1g	土器	胴部片	-						-193255.026	-38259.966	131.771			
14			1g	土器	細片	-						-193255.032	-38260.323	131.876			
15			1g	土器	胴部片	-						-193255.441	-38260.593	131.876			
16			1g	土器	破片	-						-193255.361	-38260.875	131.907			
17			1g	土器	破片	-						-193254.588	-38260.117	131.776			
18			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193254.530	-38260.071	131.741			
19			1g	土器	胴部片	-						-193254.361	-38260.391	131.741			
20			1g	土器	破片	-						-193254.031	-38260.445	131.816			
21			1g	土器	破片	-						-193253.999	-38260.562	131.666			欠番
22	42	○	1g	土器	壺形土器底部片	-						-193253.905	-38260.650	131.656			
23			1g	土器	細片	-						-193253.807	-38260.853	131.681			
24			1g	礫	軽石	軽石	4.3	56	50.6	32.5	22.2	-193253.784	-38260.700	131.671			
25			1g	炭	炭	-						-193253.682	-38260.806	131.606			
26			1g	土器	突帯部片	-						-193253.912	-38261.101	131.656			
27			1g	土器	破片	-						-193254.275	-38261.375	131.810			
28			1g	土器	破片	-						-193254.403	-38261.287	131.696			
29			1g	礫	軽石	軽石	22.8	55.1	52.9	29.3	38.79	-193254.581	-38261.013	131.753			
30			1g	土器	胴部片	-						-193254.684	-38261.327	131.786			
31			1g	土器	突帯部片	-						-193254.963	-38261.124	131.769			
32			1g	土器	突帯部片	-						-193255.503	-38261.190	131.801			
33			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193255.502	-38261.344	131.736			
34	31	○	1g	土器	甕形土器底部片	-						-193255.240	-38261.961	131.753			
35			1g	土器	破片	-						-193255.598	-38262.030	131.812			
36			1g	土器	破片	-						-193255.713	-38261.753	131.771			
37			1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193255.875	-38261.699	131.784			
38			1g	土器	胴部片	-						-193255.998	-38261.658	131.796			
39			1g	土器	破片	-						-193255.928	-38262.145	131.736			二重沈線あり
40	39	○	1g	土器	壺形土器胴部突帯部片	-						-193256.016	-38262.138	131.811			
41			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193255.990	-38262.486	131.885			
42			1g	土器	突帯部片	-						-193255.524	-38262.604	131.861			
43			1g	土器	破片	-						-193256.627	-38261.807	132.020			
44			1g	土器	口縁部片	-						-193256.553	-38261.316	131.973			
45	43	○	1g	土器	壺形土器底部片	-						-193256.645	-38261.430	131.876			
46			1g	土器	破片	-						-193256.720	-38260.654	131.956			
47			1g	土器	破片	-						-193256.898	-38260.640	131.956			
48			1g	土器	破片	-						-193257.119	-38260.030	131.986			黒塗り
49			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193258.036	-38259.930	132.286			
50			1g	土器	胴部片	-						-193257.702	-38260.568	132.092			

Tab.31 14トレンチ出土遺物台帳①

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
51		1g	土器	胴部片	-						-193257.620	-38260.596	132.676			二重沈線あり
52	41	○	1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-					-193257.692	-38260.713	132.064			
53		1g	土器	破片	-						-193257.176	-38261.034	131.966			
54	30	○	1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-					-193257.304	-38261.459	132.021			
55		1g	土器	壺形土器口縁部片	-						-193257.987	-38261.537	132.046			
56		1g	土器	細片	-						-193257.837	-38261.611	131.993			
57		1g	土器	胴部片	-						-193257.462	-38261.697	132.006			
58		1g	土器	胴部片	-						-193257.158	-38261.678	131.921			
59		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193257.239	-38262.053	132.021			
60		1g	土器	胴部片	-						-193257.026	-38262.226	131.906			
61		1g	土器	破片	-						-193256.863	-38262.094	131.904			
62		1g	土器	細片	-						-193256.543	-38262.270	131.956			
63		1g	土器	胴部片	-						-193256.733	-38262.378	131.896			
64		1g	土器	破片	-						-193256.458	-38262.395	131.783			
65		1g	土器	胴部片	-						-193256.475	-38262.771	131.782			
66		1g	土器	細片	-						-193257.078	-38262.651	131.954			
67	15	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193257.050	-38262.964	132.011			
68		1g	土器	破片	-						-193257.095	-38262.951	131.969			塗彩あり
69		1g	礫	礫	安山岩	1.1	28.5	25.5	20.8	13.41	-193257.351	-38262.877	131.941			
70		1g	土器	細片	-						-193257.525	-38262.699	131.981			
71		1g	土器	破片	-						-193257.950	-38262.031	132.066			
72		1g	土器	破片	-						-193257.922	-38262.237	132.044			
73		1g	土器	破片	-						-193258.229	-38262.044	132.056			
74		1g	土器	胴部片	-						-193257.926	-38262.599	131.953			
75		1g	土器	破片	-						-193257.915	-38262.873	132.021			
76		1g	土器	口縁部片	-						-193257.579	-38262.860	131.977			
77		1g	土器	胴部片	-						-193257.681	-38263.072	132.026			
78		1g	礫	礫	安山岩	14.1	21.3	20.8	20.2	9.44	-193257.522	-38262.994	131.986			
79		1g	土器	細片	-						-193257.288	-38263.157	131.986			
80		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193257.329	-38263.525	132.036			
81		1g	礫	軽石	軽石	25.1	66.3	48.3	40.3	52.35	-193257.490	-38263.627	131.998			
82		1g	土器	細片	-						-193257.659	-38263.718	132.071			
83		1g	土器	細片	-						-193257.806	-38263.742	131.980			
84		1g	土器	破片	-						-193257.761	-38263.573	132.033			
85		1g	土器	破片	-						-193258.119	-38263.458	132.021			
86		1g	土器	細片	-						-193258.182	-38263.514	131.926			
87		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193258.305	-38263.506	132.054			
88		1g	土器	胴部片	-						-193258.697	-38262.972	131.993			
89		1g	土器	胴部片	-						-193258.309	-38263.621	132.056			
90		1g	土器	破片	-						-193258.377	-38263.636	132.011			
91		1g	土器	破片	-						-193258.307	-38263.785	132.053			
92		1g	礫	礫	不明	25.8	23.7	25.4	17	9.01	-193258.049	-38263.937	132.046			
93		1g	土器	破片	-						-193258.049	-38263.970	131.934			
94		1g	土器	細片	-						-193258.351	-38263.831	132.026			
95		1g	礫	軽石	軽石	3.1	46.2	25.4	23.3	5.69	-193258.413	-38264.262	131.992			
96		1g	土器	破片	-						-193258.691	-38263.978	131.971			
97		1g	礫	軽石	軽石	16.1	47.6	26.7	20.6	9.33	-193258.812	-38263.460	132.006			
98		1g	礫	破損礫	安山岩	24	32.3	21.7	18.3	13.97	-193258.581	-38263.213	131.981			
99		1g	土器	口縁部片	-						-193258.956	-38263.438	132.676			内面に突帯あり
100		1g	礫	礫	安山岩	18.6	21	18	11.4	3	-193258.791	-38263.367	132.012			

Tab.32 14トレンチ出土遺物台帳②

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
101			1g	土器	破片	-						-193259.092	-38263.434	132.046			
102			1g	土器	破片	-						-193259.060	-38263.154	132.043			
103	2	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193258.611	-38262.395	132.664			
104			1g	土器	破片	-						-193259.005	-38262.343	132.701			
105			1g	土器	胴部片	-						-193259.235	-38262.090	132.288			
106			1g	土器	胴部片	-						-193259.027	-38261.919	132.121			
107			1g	礫	軽石	軽石	19.1	31.4	22.8	19	8.49	-193259.131	-38261.882	132.244			
108			1g	土器	胴部片	-						-193258.700	-38261.511	132.256			
109			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193258.945	-38261.244	132.316			
110			1g	土器	胴部片	-						-193259.250	-38261.496	132.246			
111	14	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193259.391	-38261.422	132.306			
112			1g	礫	礫	安山岩	71.5	46.2	38.3	26.3	36.91	-193259.472	-38261.363	132.338			
113			1g	土器	破片	-						-193259.547	-38260.962	132.446			
114			1g	土器	破片	-						-193259.242	-38260.627	132.416			
115			1g	土器	破片	-						-193258.826	-38260.034	132.483			
116			1g	土器	胴部片	-						-193258.841	-38259.848	132.479			
117			1g	土器	破片	-						-193258.626	-38259.707	132.446			
118			1g	土器	胴部片	-						-193259.220	-38260.145	132.376			
119			1g	土器	破片	-						-193259.858	-38260.739	132.546			
120			1g	土器	細片	-						-193259.821	-38260.954	132.496			
121			1g	土器	胴部片	-						-193260.066	-38261.162	132.544			
122			1g	土塊	土塊	-						-193260.200	-38260.910	132.521			
123			1g	土器	胴部片	-						-193260.423	-38260.835	132.676			
124			1g	土器	胴部片	-						-193260.423	-38260.746	132.596			
125			1g	土器	胴部片	-						-193260.519	-38260.783	132.593			
126			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193260.645	-38260.687	132.728			
127			1g	土器	底部片	-						-193260.564	-38261.095	132.602			
128			1g	土器	破片	-						-193260.608	-38261.340	132.633			
129			1g	土器	口縁部片	-						-193260.675	-38261.815	132.531			
130			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193260.705	-38261.994	132.480			
131			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193260.579	-38262.053	132.492			
132			1g	土器	口縁部片	-						-193260.363	-38261.979	132.421			
133			1g	土器	破片	-						-193260.163	-38262.142	132.336			
134			1g	土器	胴部片	-						-193260.371	-38262.439	132.326			黒塗り
135			1g	土器	細片	-						-193259.458	-38262.580	132.217			
136			1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193259.428	-38262.751	132.065			
137			1g	土器	突帯部片	-						-193259.406	-38262.981	132.036			
138			1g	礫	礫	安山岩	77.4	44.3	33.6	30.3	47.09	-193259.354	-38263.323	132.128			
139			1g	土器	破片	-						-193259.391	-38263.493	132.106			
140			1g	土器	口縁部片	-						-193259.569	-38263.597	132.236			
141			1g	土器	胴部片	-						-193259.450	-38263.627	132.007			
142			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193259.673	-38263.738	132.083			
143			1g	土器	胴部片	-						-193259.747	-38263.954	132.152			
144			1g	土器	破片	-						-193259.316	-38264.028	132.051			
145			1g	土器	胴部片	-						-193259.086	-38263.961	131.996			
146			1g	土器	胴部片	-						-193258.975	-38263.909	132.008			黒塗り
147			1g	土器	破片	-						-193258.730	-38264.258	132.172			
148			1g	土器	破片	-						-193258.945	-38264.355	132.021			
149			1g	土器	破片	-						-193258.700	-38264.466	132.031			
150			1g	土器	細片	-						-193259.049	-38264.481	132.046			

Tab.33 14トレンチ出土遺物台帳③

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
151			1g	礫器	軽石製加工品	軽石	23.7	73.3	53.4	39.8	49.46	-193258.945	-38264.511	132.142			
152			1g	土器	底部付近破片	-						-193259.034	-38264.689	132.046			
153			1g	土器	破片	-						-193259.116	-38264.704	132.046			
154	32	○	1g	土器	甕形土器底部片	-						-193259.279	-38264.949	131.936			
155			1g	礫	軽石	軽石	15.3	114.7	73.5	51.9	87	-193259.311	-38264.919	131.961			
156			1g	土器	胴部片	-						-193259.986	-38263.612	132.073			
157			1g	欠番		-						-193260.039	-38263.359	132.166			
158			1g	土器	胴部片	-						-193260.285	-38263.265	132.271			
159			1g	土器	胴部片	-						-193260.321	-38263.365	132.691			
160			1g	土器	突部片	-						-193260.450	-38263.782	132.712			
161			1g	土器	破片	-						-193260.626	-38263.817	132.171			
162			1g	鉄塊	鉄塊	-						-193260.791	-38263.888	132.226			
163			1g	土器	破片	-						-193260.826	-38264.135	132.211			
164			1g	礫	軽石	軽石	16.5	74.7	46.7	31.4	26.26	-193260.579	-38264.346	132.180			
165			1g	礫	軽石	軽石	29.6	82.2	78.9	64.5	141	-193260.773	-38264.270	132.172			
166			1g	土器	破片	-						-193260.773	-38264.340	132.158			
167			1g	土器	破片	-						-193261.078	-38264.323	132.318			
168			1g	土器	胴部片	-						-193261.049	-38264.934	132.163			
169			1g	土器	胴部片	-						-193261.102	-38264.722	132.189			
170			1g	土器	胴部片	-						-193261.290	-38264.834	132.263			
171			1g	土器	突部片	-						-193261.566	-38265.163	132.189			黒塗り
172			1g	土器	胴部片	-						-193261.707	-38265.069	132.301			
173			1g	土器	細片	-						-193261.907	-38264.804	132.315			
174			1g	土器	胴部片	-						-193261.801	-38264.616	132.286			
175			1g	土器	胴部片	-						-193262.007	-38264.440	132.269			
176	36	○	1g	土器	壺形土器口縁部片	-						-193262.101	-38264.387	132.393			
177			1g	土器	細片	-						-193261.954	-38264.317	132.309			
178	1	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193261.572	-38264.423	132.428			
179			1g	土器	破片	-						-193261.643	-38264.188	132.246			
180			1g	土塊	土塊	-						-193261.531	-38264.041	132.251			
181			1g	土器	胴部片	-						-193260.902	-38263.935	132.114			
182			1g	土器	破片	-						-193261.607	-38263.706	132.356			黒塗り
183			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193261.554	-38263.453	132.473			
184			1g	土器	胴部片	-						-193261.161	-38262.942	132.356			
185			1g	土器	口縁部片	-						-193262.353	-38263.647	132.458			
186			1g	礫	軽石	軽石	27.7	30.1	18.3	9.2	2.32	-193262.312	-38263.541	132.491			
187			1g	土器	胴部片	-						-193261.872	-38262.760	132.779			
188			1g	礫	礫	安山岩	72.3	24.5	25.3	25.4	18.78	-193261.872	-38262.625	132.546			
189			1g	土塊	土塊	-						-193262.477	-38262.942	132.713			
190			1g	礫	礫	不明	49.9	32.2	30.8	25.3	18.63	-193262.806	-38263.171	132.723			
191			1g	土器	破片	-						-193262.671	-38262.548	132.815			
192			1g	土器	胴部片	-						-193262.824	-38262.448	132.843			
193			1g	土器	胴部片	-						-193262.759	-38262.372	132.876			
194			1g	土器	破片	-						-193262.283	-38262.113	132.833			
195			1g	土器	破片	-						-193262.048	-38262.425	132.671			
196			1g	土器	突部片	-						-193262.189	-38261.990	132.712			
197			1g	欠番		-						-193262.071	-38261.749	132.712			
198			1g	礫	軽石	軽石	17.7	53.2	31.8	27.3	15.02	-193261.748	-38262.290	132.656			
199			1g	土器	細片	-						-193261.578	-38262.190	132.629			
200			1g	土器	胴部片	-						-193261.402	-38262.090	132.602			

Tab.34 14トレンチ出土遺物台帳④

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合 個体	備考
201		1g	土器	突帯部片	-						-193258.599	-38261.303	132.141		
202		1g	土器	胴部片	-						-193256.099	-38262.513	131.736		
203		1g	土器	口縁部片	-						-193256.778	-38260.260	131.916		
204		1g	土器	胴部片	-						-193256.852	-38259.721	131.976		
205		1g	土器	細片	-						-193256.894	-38259.385	132.026		
206		1g	土器	胴部片	-						-193256.496	-38259.670	131.926		黒塗り
207		1g	土器	胴部片	-						-193254.998	-38260.827	131.711		
208	18	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193254.950	-38261.300	131.695		
209		1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193256.219	-38259.617	131.991		
210		1g	土器	胴部片	-						-193254.717	-38259.244	131.746		
211		1g	礫器	軽石製加工品	軽石	9	126.3	57.7	46.6	79	-193255.334	-38258.957	131.729		
212		1g	土器	胴部片	-						-193255.333	-38259.327	131.653		
213		1g	礫器	軽石製加工品	軽石	5.8	81.6	62.3	29.1	25	-193255.472	-38259.493	131.639		
214	13	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193255.817	-38259.848	131.698		
215	19	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193255.822	-38259.982	131.720		
216		1g	土器	胴部片	-						-193254.987	-38259.775	131.643		
217		1g	土器	突帯部片	-						-193254.637	-38259.831	131.621		
218		1g	礫	軽石	軽石	26.6	73.2	43	35.2	28.84	-193254.728	-38260.132	131.661		
219		1g	土器	底部付近破片	-						-193255.074	-38260.200	131.622		
220	3	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193255.144	-38260.371	131.623		
221	8	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193255.224	-38260.433	131.613		
222		1g	土器	胴部片	-						-193255.467	-38260.349	131.671		
223		1g	土器	破片	-						-193255.857	-38261.232	131.624		
224		1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193255.851	-38261.312	131.617		
225		1g	土器	突帯部片	-						-193255.780	-38261.463	131.581		
226	44	○	1g	土器	鉢形土器口縁部片	-					-193256.212	-38261.319	131.680		
227		1g	土器	胴部片	-						-193256.502	-38261.035	131.671		
228	4	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193256.806	-38260.553	131.774		
229		1g	土器	胴部片	-						-193256.501	-38259.892	131.791		
230		1g	土器	胴部片	-						-193256.718	-38259.682	131.787		
231		1g	土器	破片	-						-193257.162	-38259.780	131.758		
232		1g	土器	破片	-						-193257.397	-38259.018	131.977		
233		1g	土器	突帯部片	-						-193258.562	-38259.404	132.166		
234		1g	土器	胴部片	-						-193259.047	-38259.451	132.293		
235		1g	土器	胴部片	-						-193258.780	-38259.901	132.124		
236	17	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193259.098	-38260.369	132.119		
237		1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193259.288	-38260.479	132.140		
238		1g	土器	突帯部片	-						-193257.881	-38260.779	131.898		
239		1g	土器	胴部片	-						-193258.269	-38261.125	131.858		二重沈線あり
240		1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193258.147	-38261.374	131.855		
241		1g	土器	破片	-						-193257.880	-38261.257	131.816		
242		1g	土器	胴部片	-						-193258.114	-38261.631	131.777		
243		1g	土器	胴部片	-						-193257.411	-38261.482	131.726		
244		1g	土器	胴部片	-						-193257.012	-38261.545	131.676		
245		1g	土器	突帯部片	-						-193256.747	-38261.851	131.670		
246		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193256.244	-38261.841	131.610		
247		1g	礫	礫	安山岩	26.6	110.6	86.5	56.9	545	-193256.892	-38262.112	131.614		
248		1g	土器	細片	-						-193256.848	-38262.254	131.639		
249		1g	土器	胴部片	-						-193256.985	-38262.099	131.654		
250		1g	土器	胴部片	-						-193257.241	-38262.425	131.689		

Tab.35 14トレンチ出土遺物台帳⑤

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考	
251		1g	土器	破片	-						-193257.583	-38262.340	131.703				
252		1g	土器	破片	-						-193258.276	-38263.118	131.851				
253		1g	土器	胴部片	-						-193257.655	-38262.451	131.718				
254		1g	土器	胴部片	-						-193258.018	-38261.941	131.753				
255		1g	土器	胴部片	-						-193257.793	-38262.503	131.828			二重沈線あり	
256	38	○	1g	土器	壺形土器胴部上半部片	-					-193258.668	-38262.069	131.918				
257		1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193258.757	-38262.086	131.932				
258	35	○	1g	土器	壺形土器口縁部片	-					-193258.734	-38261.550	131.905				
259	37	○	1g	土器	壺形土器胴部上半部片	-					-193258.818	-38261.726	131.883				
260		1g	土器	胴部片	-						-193259.497	-38260.960	132.086				
261		1g	土器	胴部片	-						-193260.330	-38260.975	132.307				
262		1g	土器	胴部片	-						-193259.827	-38260.066	132.271				
263	46	○	1g	石器	打製石鏃	頁岩	0.1	2	1.3	0.3	0.7	-193261.220	-38260.523	132.453			
264		1g	土器	胴部片	-						-193261.050	-38260.122	132.580				
265		1g	土器	破片	-						-193260.735	-38261.747	132.212				
266		1g	土器	胴部片	-						-193260.447	-38261.762	132.156				
267		1g	石器	剥片	粘板岩	0.4	38.2	34.4	4.5	45.5	-193260.075	-38261.932	132.185				
268		1g	土器	鉢形土器	-						-193259.426	-38261.812	131.993	291,340			
269		1g	土器	胴部突帯部片	-						-193259.399	-38262.645	131.901				
270		1g	土器	胴部突帯部片	-						-193259.050	-38262.625	131.819				
271	10	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193259.077	-38262.796	131.806				
272		1g	土器	破片	-						-193259.500	-38262.923	131.944				
273		1g	土器	胴部片	-						-193259.364	-38263.029	131.834				
274		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193259.293	-38263.805	131.758				
275	12	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193259.399	-38263.635	131.766	333			
276		1g	土器	胴部片	-						-193259.540	-38263.337	131.907				
277		1g	土器	壺形土器口縁部片	-						-193259.661	-38263.471	131.788				
278		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193259.659	-38263.613	131.760				
279		1g	礫	礫	安山岩	60.1	53.3	40.8	16.9	45.95	-193259.591	-38263.979	131.876				
280		1g	土器	破片	-						-193259.782	-38263.196	131.889				
281		1g	礫	軽石	軽石	27.6	63.4	54.2	39.8	49.95	-193259.879	-38263.174	131.964				
282		1g	土器	胴部片	-						-193260.142	-38262.884	132.024				
283		1g	土器	胴部突帯部片	-						-193260.243	-38263.847	131.885				
284		1g	土器	破片	-						-193261.222	-38263.376	132.018				
285		1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193261.416	-38263.411	132.096				
286		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193261.319	-38263.708	132.073				
287		1g	土器	破片	-						-193261.282	-38263.838	131.992	299			
288		1g	土器	破片	-						-193261.579	-38263.610	132.041	297			
289		1g	土器	胴部片	-						-193261.663	-38263.467	132.058				
290		1g	土器	破片	-						-193261.730	-38263.461	132.119				
291		1g	土器	細片	-						-193259.481	-38261.775	131.993	268,340			
292		1g	土器	破片	-						-193261.687	-38262.734	132.166				
293		1g	土器	細片	-						-193263.638	-38261.965	132.720				
294		1g	土器	破片	-						-193256.266	-38261.144	131.602				
295		1g	炭	炭	-						-193261.654	-38262.286	132.264				
296		1g	礫	軽石	軽石	23.1	56.4	44.3	34.4	32.96	-193261.551	-38262.584	132.109				
297		1g	土器	破片	-						-193261.467	-38263.656	131.992	288			
298		1g	土器	破片	-						-193261.519	-38263.752	131.972				
299		1g	土器	胴部片	-						-193261.452	-38263.853	131.961	287			
300	45	○	1g	石器	打製石鏃	白色頁岩	0.2	2.3	1.5	0.4	1.26	-193260.097	-38263.594	131.787			

Tab.36 14トレンチ出土遺物台帳⑥

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
301		1g	土器	胴部片	-						-193259.567	-38263.457	131.758			
302		1g	土器	破片	-						-193258.891	-38263.392	131.683			
303		1g	土器	細片	-						-193258.771	-38263.320	131.588			
304		1g	土器	細片	-						-193259.012	-38263.028	131.758			
305		1g	土器	胴部片	-						-193258.919	-38263.001	131.736			
306		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193258.853	-38262.645	131.764			
307		1g	土器	底部片	-						-193258.621	-38262.596	131.676			
308		1g	土器	細片	-						-193258.432	-38263.181	131.635			
309		1g	土器	胴部片	-						-193258.350	-38263.093	131.791			
310		1g	土器	胴部突帯部片	-						-193258.319	-38262.765	131.695			
311		1g	土器	口縁部片	-						-193258.022	-38262.755	131.691			
312	24	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193258.340	-38262.462	131.571			
313		1g	土器	破片	-						-193258.174	-38262.428	131.711			
314		1g	土器	突帯部片	-						-193258.471	-38262.334	131.734			
315		1g	土器	甕形土器頸部突帯部片	-						-193258.380	-38262.209	131.628			
316		1g	土器	胴部片	-						-193258.138	-38262.322	131.638			
317		1g	土器	破片	-						-193258.182	-38262.186	131.662			
318		1g	礫器	軽石製加工品	軽石	1.8	67.8	33.1	22.3	11	-193258.413	-38262.368	131.749			
319		1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193259.213	-38261.981	131.882			
320		1g	土器	破片	-						-193259.949	-38261.633	131.999			
321		1g	土器	破片	-						-193259.940	-38261.405	132.025			塗彩あり
322		1g	土器	突帯部片	-						-193259.764	-38260.876	132.102			
323		1g	土器	突帯部片	-						-193259.801	-38260.357	132.081			
324		1g	土器	胴部片	-						-193259.977	-38260.043	132.191			黒塗あり
325		1g	土器	胴部片	-						-193258.796	-38260.886	131.924			
326		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193258.533	-38260.859	131.881			
327		1g	礫	軽石	軽石	5.7	69	49.2	30.4	28.79	-193258.343	-38261.048	131.734			
328		1g	土器	破片	-						-193259.175	-38259.314	132.304			
329	28	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193258.969	-38259.017	132.356	390		
330		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193257.986	-38260.241	131.901			
331		1g	土器	破片	-						-193257.599	-38260.445	131.659			
332		1g	土器	破片	-						-193257.539	-38260.723	131.730			
333	12	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193257.344	-38260.806	131.666	275		
334		1g	土器	底部付近破片	-						-193257.202	-38261.366	131.625			
335		1g	土器	胴部片	-						-193257.092	-38261.799	131.592			
336		1g	土器	突帯部片	-						-193257.340	-38262.054	131.552			
337		1g	土器	胴部片	-						-193257.399	-38262.186	131.602			沈線あり
338		1g	土器	胴部片	-						-193257.347	-38262.487	131.551			
339		1g	礫	軽石	軽石	26.7	50.6	56.9	31.3	33.48	-193257.386	-38262.585	131.623			
340		1g	土器	鉢形土器口縁部片	-						-193257.637	-38262.752	131.632	268,291		
341	9	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193256.424	-38261.415	131.554			
342		1g	炭	炭	-						-193256.282	-38261.704	131.520			
343		1g	土器	破片	-						-193255.947	-38260.989	131.586			
344		1g	土器	破片	-						-193256.692	-38260.738	131.650			
345		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193256.833	-38260.476	131.763			
346		1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193256.938	-38260.023	131.724			
347		1g	土器	胴部片	-						-193257.167	-38260.003	131.839			
348		1g	土器	胴部片	-						-193257.245	-38259.608	131.798			
349		1g	土器	破片	-						-193255.694	-38260.129	131.621			
350		1g	土器	破片	-						-193255.513	-38260.087	131.592			

Tab.37 14トレンチ出土遺物台帳⑦

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
351		1g	土器	破片	-						-193255.575	-38259.983	131.605			
352		1g	土器	破片	-						-193255.237	-38260.329	131.508			
353		1g	土器	胴部片	-						-193255.324	-38261.032	131.522			
354		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193255.212	-38261.021	131.539			
355		1g	土器	破片	-						-193254.733	-38260.238	131.550			
356		1g	土器	破片	-						-193254.383	-38260.458	131.514			
357		1g	礫	礫	不明	2	16.8	9.3	6.4	1.09	-193254.655	-38260.578	131.563			
358		1g	炭	炭	-						-193254.387	-38260.731	131.459			
359		1g	炭	炭	-						-193254.601	-38260.719	131.468			
360		1g	土器	底部付近破片	-						-193255.068	-38259.924	131.597			
361	11	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193256.089	-38257.792	131.888			
362	21	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193256.516	-38257.643	131.976			
363		1g	土器	突帯部片	-						-193258.194	-38255.795	132.785			
364		1g	土器	破片	-						-193258.541	-38256.126	132.739			
365		1g	土器	胴部片	-						-193258.829	-38257.422	132.441			
366		1g	土器	破片	-						-193259.009	-38257.397	132.594			
367		1g	土器	胴部片	-						-193258.314	-38257.790	132.411			
368		1g	土器	突帯部片	-						-193258.244	-38257.891	132.364			
369		1g	土器	甕形土器胴部突帯部片	-						-193258.564	-38258.008	132.440			
370	7	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193258.328	-38258.244	132.357			
371		1g	炭	炭	-						-193258.389	-38258.320	132.307			
372		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193259.055	-38258.579	132.538			
373		1g	土器	破片	-						-193261.576	-38258.128	133.014			
374		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193261.913	-38258.376	133.135			
375		1g	土器	底部片	-						-193262.118	-38258.932	133.145			
376		1g	土器	破片	-						-193261.987	-38259.107	133.098			
377		1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193261.886	-38259.264	133.019			
378		1g	土器	胴部片	-						-193262.351	-38259.256	133.111			
379		1g	土器	突帯部片	-						-193262.217	-38259.793	132.858			
380		1g	土器	胴部片	-						-193262.377	-38260.058	132.904			
381		1g	礫	礫片	安山岩	139.4	65.4	59.3	28.5	143	-193262.468	-38260.103	132.888			
382		1g	土器	破片	-						-193262.912	-38259.912	133.159			
383		1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193263.259	-38259.346	133.238			
384		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193263.349	-38260.207	133.136			
385		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193263.649	-38259.787	133.287			
386		1g	土器	胴部片	-						-193264.126	-38260.083	133.236			
387		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193264.431	-38260.837	132.824			
388		1g	土器	口縁部片	-						-193263.209	-38261.350	132.931			
389		1g	土器	破片	-						-193262.936	-38261.061	132.935			
390	28	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193261.360	-38259.767	132.762	329		
391		1g	礫	礫	安山岩	116.4	52.7	42.4	27.3	61	-193263.502	-38262.155	132.309			
392		1g	土器	胴部片	-						-193263.421	-38262.390	132.608			
393		1d	土器	底部付近破片	-						-193259.788	-38264.135	132.394			
394		1d	土器	破片	-						-193258.996	-38263.700	132.378			
395		1g	土器	破片	-						-193262.077	-38265.035	131.967			
396		1g	土器	破片	-						-193261.558	-38258.900	132.882			
397		1g	土器	胴部片	-						-193259.840	-38263.128	131.839			
398		1g	土器	細片	-						-193259.585	-38262.509	131.749			
399		1g	土器	胴部片	-						-193258.822	-38261.645	131.855			
400		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193258.789	-38263.499	131.903			

Tab.38 14トレンチ出土遺物台帳⑧

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
401			1g	礫	軽石	軽石	23.1	46.6	36	35	21.44	-193256.892	-38262.149	131.555			
402			1g	土器	口縁部片	-						-193256.716	-38261.865	131.639			
403			1g	土器	胴部片	-						-193256.293	-38261.181	131.577			
404			1g	礫	軽石	軽石	15.3	47.2	42.1	40.7	55.21	-193255.141	-38261.228	131.599			
405			1g	土器	突帯部片	-						-193255.462	-38260.417	131.480			
406			1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193255.195	-38260.488	131.593			
407			1g	土器	口縁部片	-						-193255.582	-38260.031	131.554			
408			1g	土器	口縁部片	-						-193255.815	-38259.856	131.589			
409			1g	土器	胴部片	-						-193257.182	-38255.767	132.500			
410			1g	土器	破片	-						-193257.047	-38256.044	132.500			
411			1g	土器	細片	-						-193260.232	-38256.779	133.155			
412			1g	土器	胴部片	-						-193260.397	-38257.061	133.096			
413			1g	土器	胴部片	-						-193264.208	-38259.595	133.551			
414			1d	土器	底部片	-						-193263.471	-38258.868	133.410			
415			1g	土器	破片	-						-193264.035	-38259.230	133.398			
416			1d	土器	破片	-						-193262.931	-38258.540	133.360			
417			1d	土器	細片	-						-193262.841	-38258.540	133.356			
418			1g	土器	破片	-						-193262.568	-38258.608	133.285			
419			1g	土器	鉢形土器口縁部片	-						-193262.126	-38257.715	133.308			
420			1g	土器	破片	-						-193256.214	-38261.261	131.800			
421	33	○	1g	土器	壺形土器口縁部片	-						-193256.155	-38261.276	131.800			
422	6	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193256.099	-38261.31	131.620			
423			1g	土器	胴部片	-						-193256.05	-38261.108	131.710			
424	22	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193255.631	-38261.226	131.650			
425			1g	土器	口縁部片	-						-193255.691	-38260.917	131.780			
426			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193255.612	-38260.821	131.730			
427			1g	土器	胴部片	-						-193255.551	-38260.877	131.680			
428			1g	礫	軽石	軽石	15.2	62.5	44.6	35.2	28.1	-193255.38	-38260.976	131.630			
429			1g	土器	底部付近破片	-						-193254.995	-38261.029	131.780			
430			1g	礫	軽石	軽石	19.4	57.1	52.6	28.3	22.86	-193255.169	-38260.922	131.610			
431			1g	礫	軽石	軽石	10.2	35	29.8	22.2	7.89	-193255.381	-38260.653	131.600			
432			1g	礫	軽石	軽石	5.3	83.2	56.6	38.2	35	-193255.154	-38260.743	131.600			
433			1g	土器	破片	-						-193255.447	-38260.595	131.630			
434			1g	土器	口縁部片	-						-193254.963	-38260.516	131.610			
435			1g	土器	破片	-						-193255.545	-38260.167	131.720			
436			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193255.797	-38259.833	131.730			
437	16	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193255.656	-38259.56	131.820			
438	47	○	1g	礫器	軽石製加工品	軽石	23.8	6.1	10	3.9	61	-193255.42	-38259.642	131.620			
439			1g	土器	胴部片	-						-193255.309	-38259.13	131.740			
440	29	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193255.394	-38258.945	131.820			
441	34	○	1g	土器	壺形土器口縁部片	-						-193255.581	-38260.689	131.620			
442			1g	炭	炭	-						-193255.728	-38260.821	131.710			
443			1g	炭	炭	-						-193255.813	-38260.853	131.610			
444			1g	炭	炭	-						-193255.835	-38260.818	131.610			
445			1g	土器	胴部片	-						-193256.049	-38261.052	131.580			
446			1g	炭	炭	-						-193255.941	-38261.231	131.640			
447			1g	土器	細片	-						-193255.932	-38261.288	131.650			
448			1g	炭	炭	-						-193255.719	-38260.094	131.640			
449			1g	土器	突帯部片	-						-193255.747	-38259.926	131.680			
450			1g	礫	礫	安山岩	51.3	50.9	41.3	28.5	50.56	-193255.181	-38261.183	131.630			

Tab.39 14トレンチ出土遺物台帳⑨

取上 番号	図面 番号	実測	層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
451	27	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193254.765	-38260.738	131.630			
452			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193254.445	-38260.468	131.680			
453			1g	土器	底部付近破片	-						-193254.881	-38260.258	131.580			
454			1g	炭	炭	-						-193255.527	-38260.715	131.620			
455			1g	炭	炭	-						-193255.874	-38259.17	131.540			
456			1g	土器	胴部片	-						-193255.793	-38259.195	131.570			
457			1g	土器	胴部片	-						-193255.654	-38259.048	131.550			
458			1g	炭	炭	-						-193255.507	-38259.114	131.600			
459			1g	土器	口縁部片	-						-193255.599	-38259.163	131.600			
460			1g	炭	炭	-						-193255.747	-38258.999	131.600			
461	5	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193255.661	-38258.915	131.550			
462			1g	炭	炭	-						-193255.627	-38259.027	131.560			
463			1g	炭	炭	-						-193255.563	-38258.976	131.580			
464			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193255.435	-38258.88	131.570			
465			1g	土器	破片	-						-193256.116	-38259.5	131.600			
466			1g	土器	破片	-								131.560			
467			1g	土器	突帯部片	-						-193256.097	-38259.368	131.610			
468			1g	炭	炭	-						-193256.039	-38259.451	131.550			
469			1g	炭	炭	-						-193255.72	-38259.571	131.550			
470			1g	礫	破損礫	安山岩	76.3	30.3	27.7	26.1	31.55	-193255.498	-38259.797	131.550			
471			1g	炭	炭	-						-193255.714	-38259.905	131.540			
472			1g	炭	炭	-						-193255.696	-38259.956	131.540			
473			1g	炭	炭	-						-193255.734	-38259.974	131.530			
474			1g	炭	炭	-						-193255.683	-38260.082	131.550			
475			1g	炭	炭	-						-193255.621	-38260.122	131.530			
476			1g	土器	破片	-						-193255.557	-38260.246	131.550			
477			1g	礫	破損礫	安山岩	24.5	33.8	18.9	16.8	12.82	-193255.529	-38260.238	131.540			
478			1g	炭	炭	-						-193255.254	-38260.099	131.520			
479			1g	土器	突帯部片	-						-193255.039	-38259.475	131.600			
480			1g	炭	炭	-						-193254.919	-38259.714	131.570			
481			1g	炭	炭	-						-193254.947	-38259.88	131.550			
482			1g	炭	炭	-						-193254.742	-38260.395	131.610			
483			1g	炭	炭	-						-193254.952	-38260.619	131.570			
484			1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193254.846	-38260.142	131.600			
485			1g	土器	口縁部片	-						-193255.004	-38260.731	131.550			
486			1g	土器	破片	-						-193255.256	-38260.65	131.560			
487			1g	炭	炭	-						-193255.348	-38260.539	131.580			
488			1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193255.493	-38260.869	131.550	491		
489			1g	炭	炭	-						-193255.773	-38260.782	131.530			
490			1g	土器	破片	-						-193255.751	-38261.237	131.510			
491			1g	土器	壺形土器頸部片	-						-193255.647	-38261.065	131.550	488		
492	20	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-						-193255.603	-38261.211	131.520			
493			1g	土器	胴部片	-						-193256.118	-38261.137	131.560			
494			1g	土器	胴部片	-						-193255.997	-38261.413	131.530			
495			1g	土器	胴部片	-						-193256.109	-38261.256	131.580			
496			1g	炭	炭	-						-193256.164	-38261.075	131.530			
497			1g	土器	胴部片	-						-193256.003	-38261.006	131.530			
498			1g	土器	細片	-						-193255.927	-38261.047	131.590			
499			1g	土器	破片	-						-193255.776	-38260.911	131.550			
500			1g	土器	破片	-						-193254.769	-38260.432	131.570			

Tab.40 14トレンチ出土遺物台帳⑩

取上 番号	図面 番号	実測 層位	種類	部位・器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
501		1g	炭	炭	-						-193255.071	-38260.224	131.550			
502		1g	礫器	軽石製加工品	軽石	36.8	95.8	64.6	54.8	156						
503		1g	礫	軽石	軽石	36.2	81.6	82.5	50.8	142						
504		1g	炭	炭	-						-193256.056	-38259.057	131.530			
505		1g	炭	炭	-						-193255.996	-38259.168	131.470			
506		1g	炭	炭	-						-193255.765	-38258.944	131.470			
507		1g	炭	炭	-						-193255.674	-38259.025	131.590			
508		1g	炭	炭	-						-193255.73	-38259.139	131.580			
509		1g	土器	胴部片	-						-193255.749	-38259.086	131.620			
510		1g	土器	突帯部片	-						-193255.781	-38259.348	131.580			
511		1g	炭	炭	-						-193255.942	-38259.509	131.580			
512		1g	炭	炭	-						-193255.465	-38259.556	131.450			
513		1g	炭	炭	-						-193255.435	-38259.58	131.420			
514	26	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193255.76	-38259.592	131.480			
515		1g	炭	炭	-						-193255.146	-38259.274	131.470			
516		1g	土器	突帯部片	-						-193255.021	-38259.403	131.470			
517		1g	土器	破片	-						-193255.32	-38259.65	131.500			
518		1g	土器	突帯部片	-						-193254.878	-38259.66	131.470			
519		1g	炭	炭	-						-193255.25	-38259.858	131.480			
520		1g	炭	炭	-						-193255.511	-38259.965	131.480			
521		1g	炭	炭	-						-193255.78	-38259.945	131.450			
522		1g	炭	炭	-						-193255.831	-38259.931	131.470			
523		1g	炭	炭	-						-193255.749	-38260.045	131.470			
524		1g	炭	炭	-						-193255.615	-38260.069	131.460			
525		1g	土器	壺形土器頸部突帯部片	-						-193255.557	-38260.126	131.440			
526	25	○	1g	土器	甕形土器口縁部片	-					-193255.318	-38260.279	131.490			
527		1g	炭	炭	-						-193255.611	-38260.289	131.490			
528		1g	炭	炭	-						-193255.213	-38260.028	131.480			
529		1g	炭	炭	-						-193255.452	-38260.418	131.410			
530		1g	炭	炭	-						-193255.522	-38260.506	131.460			
531		1g	炭	炭	-						-193255.276	-38260.464	131.450			
532		1g	炭	炭	-						-193254.868	-38260.253	131.500			
533		1g	炭	炭	-						-193254.773	-38260.449	131.530			
534		1g	土器	底部片	-						-193254.471	-38260.573	131.440			
535		1g	土器	破片	-						-193254.944	-38260.609	131.490			
536		1g	炭	炭	-						-193255.098	-38260.783	131.400			現地にて保存
537		1g	炭	炭	-						-193255.547	-38260.696	131.480			
538		1g	炭	炭	-						-193255.676	-38260.738	131.450			
539		1g	炭	炭	-						-193255.836	-38260.795	131.500			
540		1g	土器	口縁部片	-						-193255.395	-38261.284	131.490			
541		1g	土器	突帯部片	-						-193255.74	-38261.385	131.460			
542		1g	炭	炭	-						-193255.781	-38261.527	131.460			
543		1g	炭	炭	-						-193255.721	-38260.987	131.430			現地にて保存
544		1g	炭	炭	-						-193255.816	-38261.084	131.480			
545		1g	炭	炭	-						-193255.852	-38261.012	131.470			
546		1g	炭	炭	-						-193255.91	-38261.022	131.480			
547		1g	炭	炭	-						-193255.522	-38259.584	131.460			現地にて保存
548		1g	炭	炭	-						-193255.552	-38259.783	131.450			
549		1g	炭	炭	-						-193256.126	-38261.149	131.460			
550		1g	土器	胴部片	-						-193256.138	-38261.496	131.480			

Tab.41 14トレンチ出土遺物台帳①

第6節 11トレンチの調査

(1) 調査の経緯

後期旧石器時代の遺構群の広がりと内容確認を目的として、第I調査区の南西側、約20mの地点に調査区を設定して、平成13・14年度と2ヶ年の継続した確認調査を実施した。以下、平成13年度と平成14年度毎に確認調査の経緯と成果の概要について記す。

平成13年度調査

平成13年度は、約2.4m×約7mの規模の調査区を設定した。11トレンチの範囲の概ね北側半分にあたる。

表土層である畑地の耕作土を除去すると、第2層が認められた。第2・3層と4層上半分までは重機を用いて除去した。4層上半分までの深さは、現地表面から約3.3mであり、2段の段差を設けて掘り下げた。第4層下半分の除去作業から作業員による手掘りに切り替えた。調査区西側部分の第5層上面において、鬼界カルデラ噴火に伴う幸屋火砕流（第4層c）による横転が確認された。横転部分に先行トレンチを設定し観察した結果、第5層から第7層部分までが影響を受けており、主に第5・6層が横転していることが確認された。

第5・6層からは、縄文時代早期の遺物が出土した。第7層からも若干ながら遺物が出土した。第9層からは黒曜石・頁岩製の石器が出土した。第10層面で遺構探査した結果、遺構と考えられる土色が異なる範囲を検出した。遺構と考えられる土色の異なる範囲の平面形状は、方形プランを呈していた。先行トレンチを設定し、立ち上がりの有無や底面の形状について確認を行なったが、期間的な制約もあり、詳細な記録については次年度とした。

平成14年度調査

平成14年度は、平成13年度に遺構と考えられる土色の異なる範囲を確認していたため、同様の状況が広がっている可能性を考慮し、調査区の南側を拡張した。拡張した結果、第4層以下を掘り下げた広さは、約7.2m×約5.2mとなった。しかし、火山灰等の層厚が厚く後期旧石器時代の包含層までが深かったため段掘りを余儀なくされた結果、後期旧石器時代の遺構探査を行なえたのは、約3.4m×約2.4mの範囲で、面積的には11トレンチ全体の約20%弱に留まる。

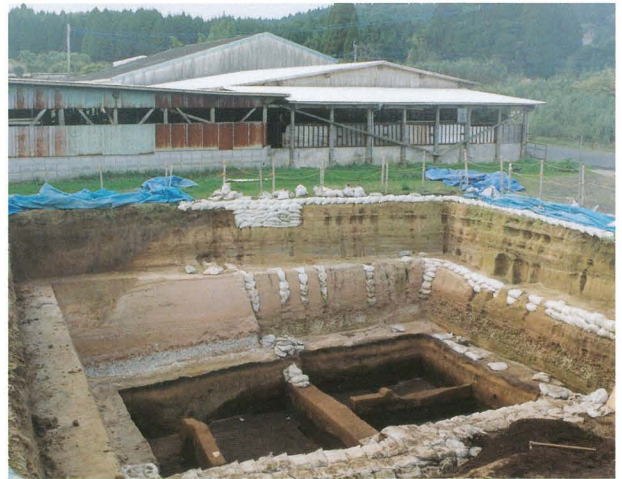
なお、11トレンチの東側半分は、調査区全体が深くなるためスロープをつけて排土置き場として用いた。最終的には、最深部で現地表面より約4.8mの深さとなった。

14年度調査区の西壁付近の第5層上面において、13年度調査区同様、鬼界カルデラ噴火に伴う幸屋火砕流（第4層c）による横転が確認された。横転の規模は、13年度に検出したものより大きく、部分的には第11層まで影響を受けている。また、横転によって出来た窪みの部分には、幸屋火砕流（第4層C）と降下軽石（第4層b）が入り込んでいた。平成13・14年度に検出された横転については、Fig.47に図示している。また、平成14年度の横転による地層の乱れについては、Fig.43の三段目南半分とFig.44の三段目西半分に図示している。横転範囲の周辺でも地層が沈みこんでいる部分も見られることから、図示した横転範囲の周辺にも、横転の影響が及んだと考えられる。

第5・6層からは、縄文時代早期の遺物が出土した。特に、北壁付近では、黒曜石製の剥片・破片が比較的まとまって出土している。また、平成13年度調査区から出土した土器と同一個体のもも出土している。

第7層からも若干ながら遺物が出土した。第9層からは黒曜石製や頁岩製の石器が出土している。

第10層上面で遺構探査した結果、平成13年度と同様に、土色が異なる範囲を数ヶ所確認したが（東西ベルトより南側）、期間的な制約もあり検出段階で掘り下げを止め、平成13年度に検出した土色の異なる範囲（東西ベルトより北側）の調査を優先した。結果として、この範囲に複数の遺構があることが確認されたが、その詳細については、後述する。



Pl.67 11トレンチ調査終了時状況写真(南側より)

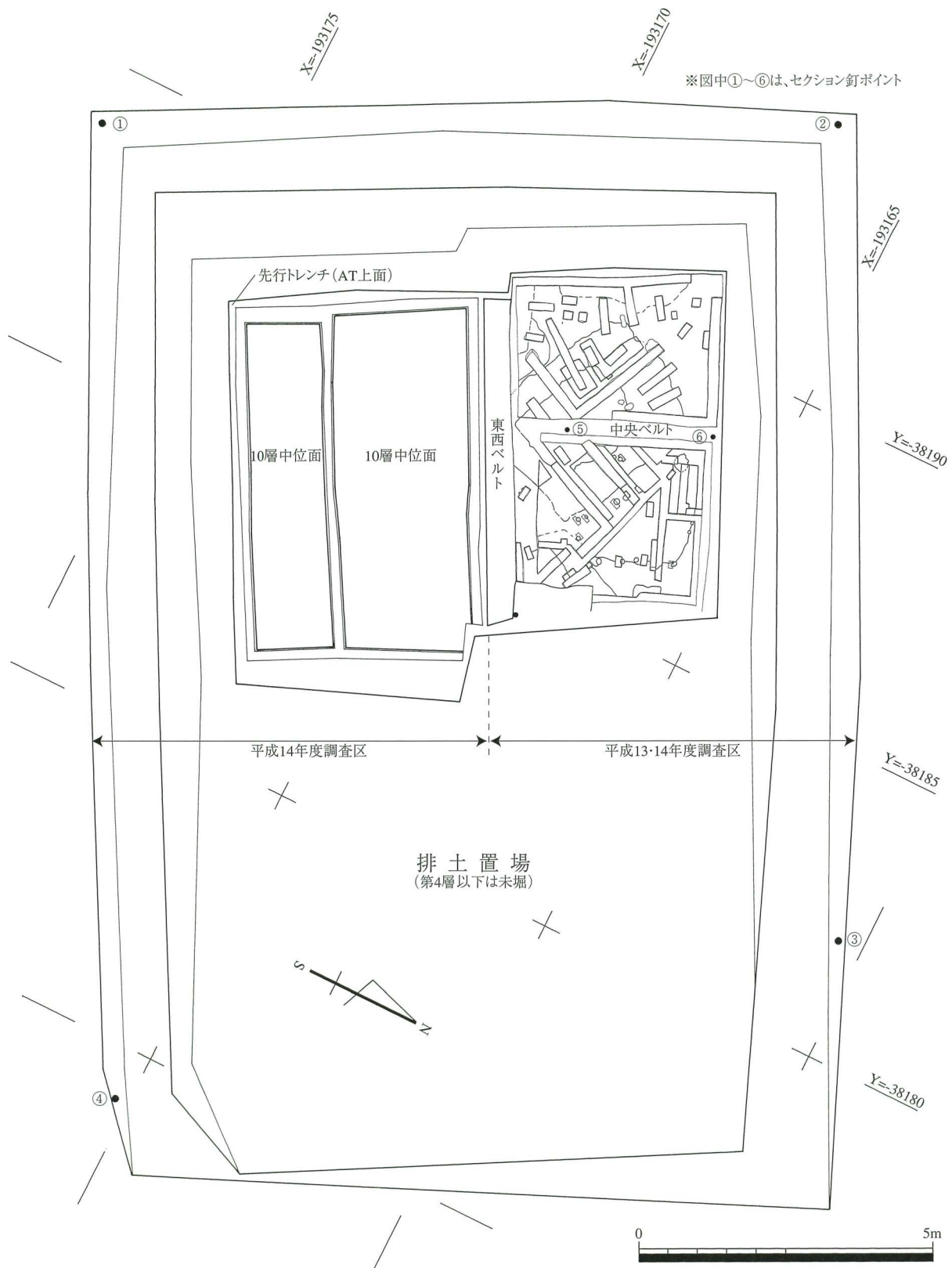


Fig.42 11トレンチ調査終了時状況図・セクション釘位置図(S=1/100)

(2) 層位

11トレンチでは、下記の層位を確認することができた。

地層の堆積状況は、Fig.43～45を参照すると、概ね次のような内容になる。

11トレンチで最も層厚が厚いのは、第2層であり、約4mを測る。全体としては、北東から南西方向へ緩やかに傾斜している。Fig.43・44の第2層上部の観察から、第2層は、北東から南西方向へ向かって侵食されており、その上に第1層が堆積している。第1章でもふれたが、11トレンチや第I調査区・西側拡張区周辺の地形は、もともとは丘状を呈しており後世の削平によって平坦地になっていることが確認できた。なお、9トレンチの東壁地層断面でも第2層の北側の侵食が確認されている。

－第1層－

現在の耕作土である第1層a以下、第1層f・第1層g・第1層h・第1層i・第1層m・第1層oを確認した。耕作土である第1層aは1a-②、③の3層に細分でき、水田土壌のようなグライ土壌を呈している。遺物は出土していない。第1層gからは、12・13・14トレンチと同様に弥生時代中期に該当する土器片が出土しているが、層厚が薄いため、出土点数も少ない。

－第2層－

約5,500年前に池田カルデラから噴出された火山灰や軽石、二次堆積層で構成されている火山性噴出物堆積層である。先述したとおり、11トレンチで最も層厚が厚い。第2層の最深部に堆積している池崎火山灰には、炭化した植物が混在している部分も確認できた。

第2層の下位には、第3層・第4層・第5層・第6層・第7層・第8層・第9層・第10層・第11層を確認した。第2層以下の地形の傾斜方向は、基本的には北東方向から南西方向で、その傾斜勾配は、下層にいくに従って緩やかになっていく。

－第3層－

第2層の池田カルデラ火山性噴出物堆積層と第4層の鬼界カルデラ火山性噴出物堆積層の間に堆積している黒色の腐土である。無遺物層である。

－第4層－

第4層は、鬼界カルデラの火山性噴出物堆積層であり、基本層序と同じように、幸屋火砕流・降下軽石・アカホヤ火山灰に細分が可能である。幸屋火砕流に含まれる細粒は、第5層上部に混在している部分も認められる。

－第5層－

第5層は、縄文時代早期遺物包含層である。明るい褐色を呈し、10～20cm程度の層厚を測る。

－第6層－

第5層と同じく縄文時代早期遺物包含層である。第5層と比較して褐鉄鉱床のような黒褐色あるいは褐色を呈した部分が認められる。『水迫遺跡I』で記しているとおおり、第5層と第6層の遺物出土状況から、本来は同質層であったと考えられる。

－第7層－

第7層は、サツマ火山灰層である。テフラが密に堆積しプライマリーな状態を呈していると考えられる部分を第7層b、その上位のルーズな堆積となっている部分を第7層aとした。

－第8層－

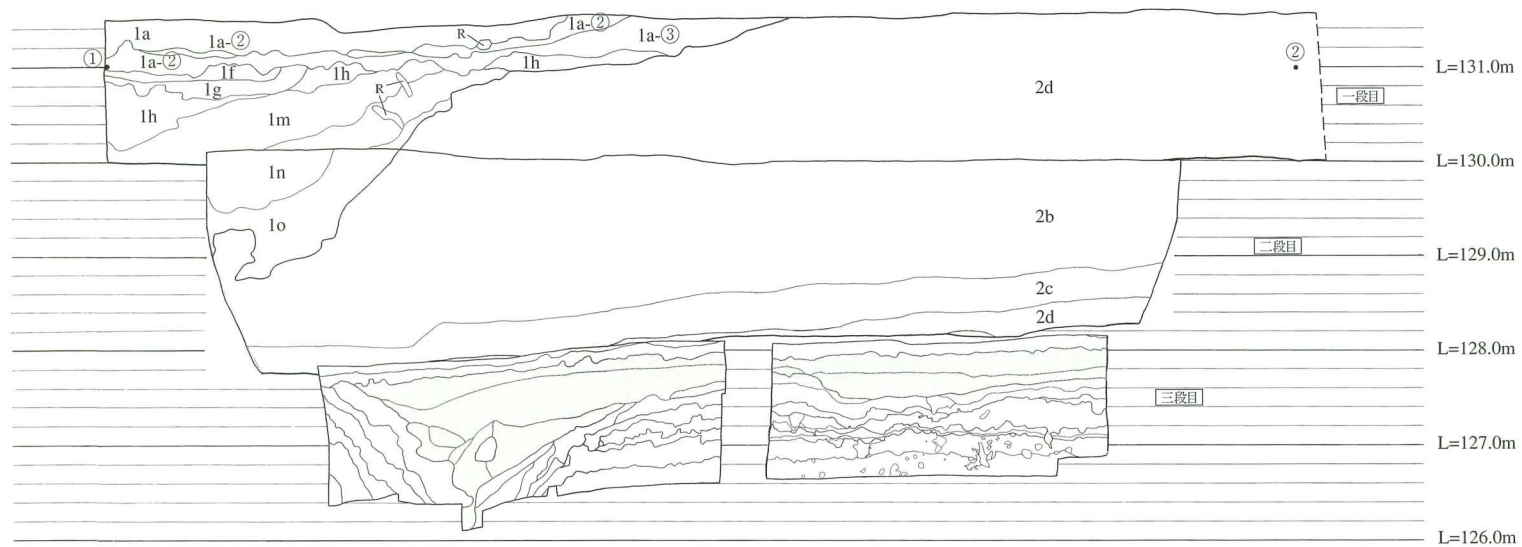
第8層は、黒色の無遺層であり、土色とその混在物の有無からa・b・cに細分が可能である。第8層aは、黒色を呈し土層本体は8層土であるが、上層に堆積しているサツマ火山灰やそれに伴う軽石片が若干混在している地層である。第8層bは、第7層の火山灰や軽石が混在していない地層である。第8層cは、bに比べ淡い色調を呈す。

－第9層－

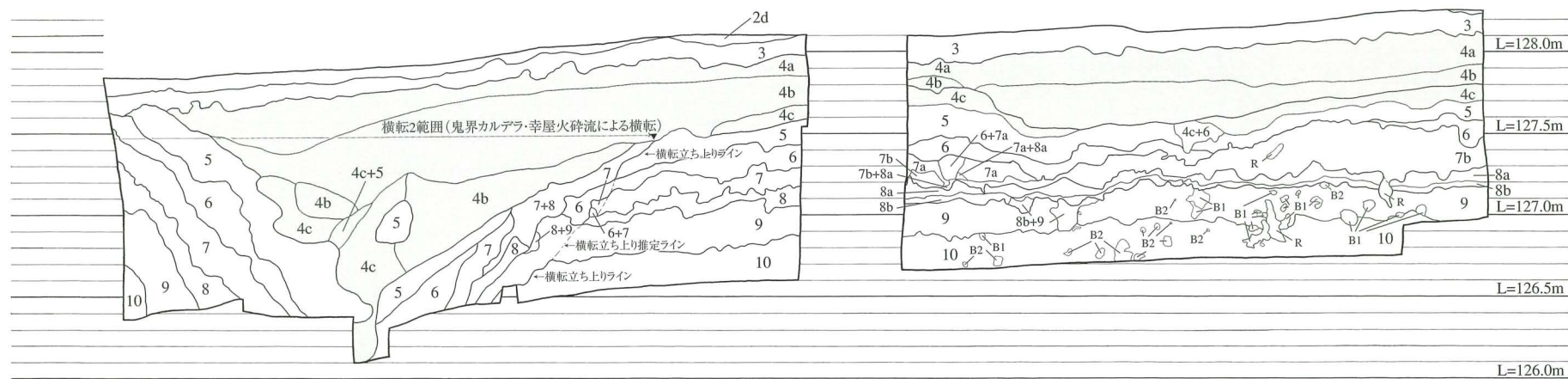
第9層の堆積状況は、北東から南西方向へ緩やかに傾斜している。遺構が検出されなかった範囲での層厚は平均して約25cm程度である。

第9層には薄い色のブロック「B1」が含まれ、第10層bには黄色いブロック「B2」が含まれている。理化学分析の結果、「B1」には岩本火山灰起源の火山ガラスが、「B2」にはAT起源の火山ガラスがそれぞれ含まれることが明らかになった。ところで、第9層中に含まれる「B1」は厳密には単一色ではなく、薄い色から明るい色まで様々な色合いがあり、「B2」に類似したものもある。11トレンチセクション図の注記は、肉眼観察でブロックを判別し記載したものであり、全てのブロックについて内容物の分析を行なった結果ではないことを断っておく。

なお、11トレンチでは、今回報告したもの以外に遺構の可能性が想定された部分があった。具体的には土層断面において、「岩本火山灰中の白色粒」が第10層に落ち込む部分や、「B2」が第9層に上がっている部分である。しかしながら、時間的な制約で、十分な検証に至らなかったことから、断面図や平面図には特に明示をしていない。



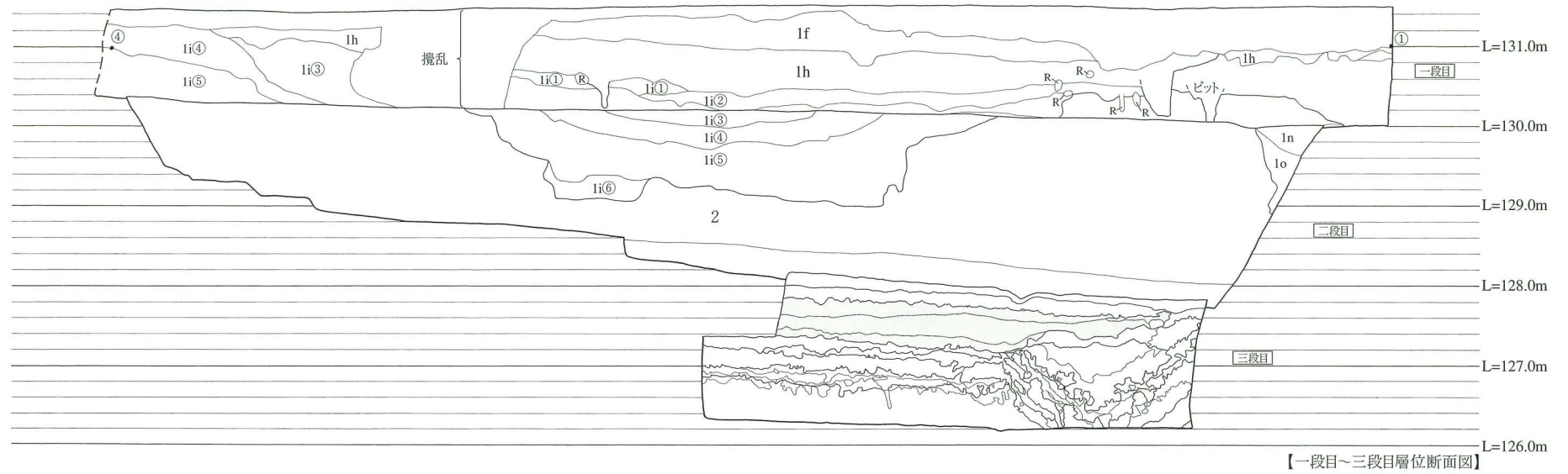
【一段目～三段目層位断面図】



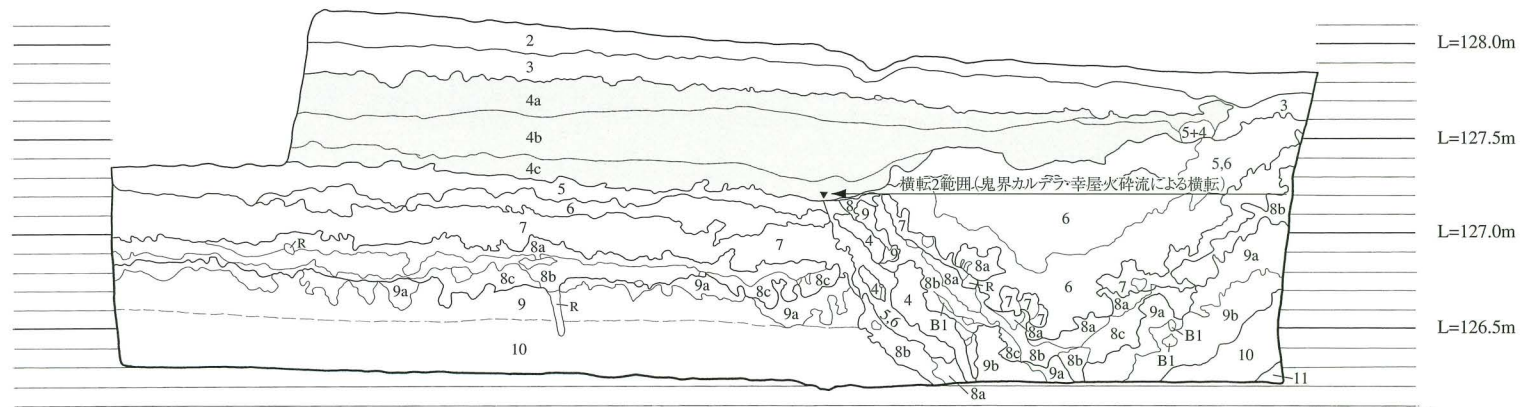
【三段目層位断面図】

Fig.43 11トレンチ西壁層位断面図(S=1/80・1/40)

Fig.44 11トレンチ東壁層位断面図(S=1/80・1/40)

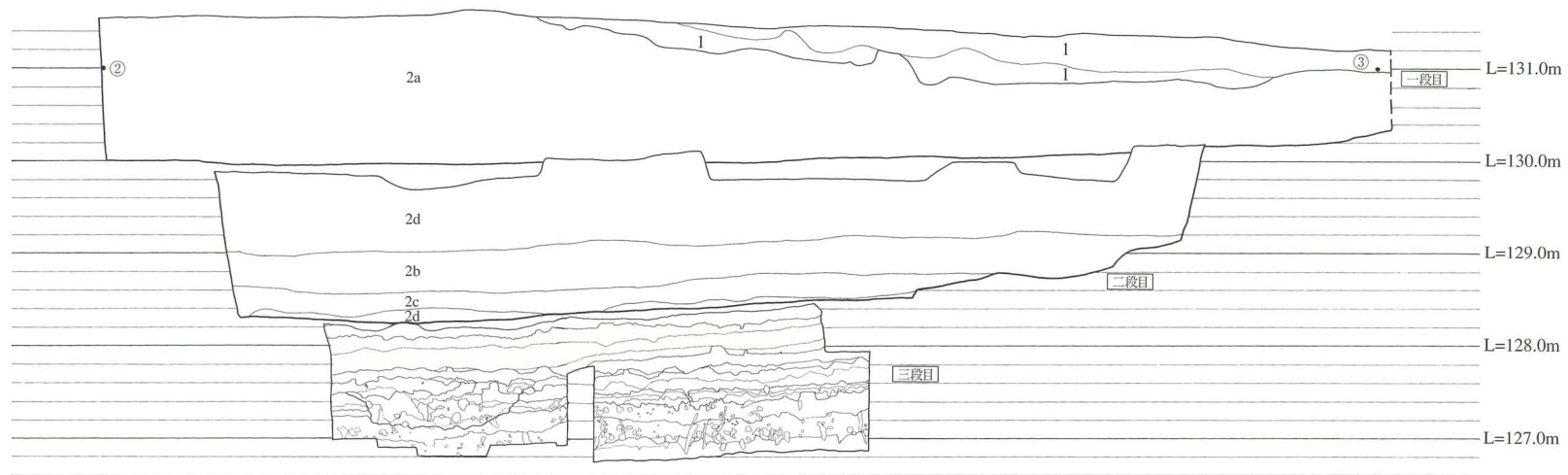


【一段目~三段目層位断面図】

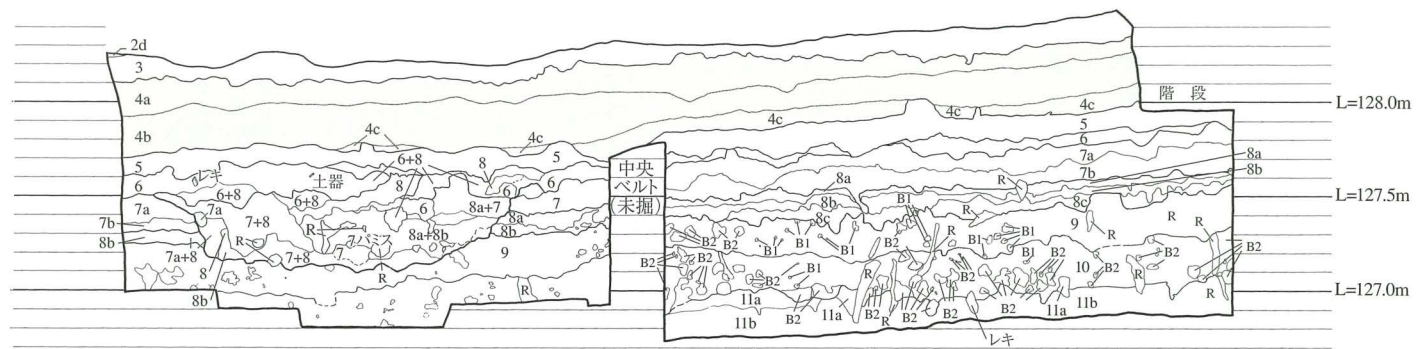


【三段目層位断面図】

Fig.45 11トレンチ北壁層位断面図(S=1/80・1/40)



【一段目～三段目層位断面図】



【三段目層位断面図】

－第10層－

第10層も基本的には、第9層同様な堆積状況であり、層厚は平均して約30cm程度である。

第9層には岩本火山灰を起源とする薄い色のブロック『B 1』が混在している。第10層下位（第10層b）には、第11層を起源とする黄色のブロック（『B 2』）が混在している。11トレンチの第10層からは、剥片などの遺物が出土しているが、第10層上面で遺構を検出し、記録保存をしている関係上、第10層を完掘してはいない。よって、今回第10層から出土した遺物全てが、第10層石器群の様相を表しているものではない。

－第11層－

第11層は、始良カルデラ噴出物堆積層である。11トレンチでは、堆積状態が良好と考えられる。第11層は、上部に堆積している入戸火砕流と、下部に堆積している大隅降下軽石層に細分が可能である。前者を第11層 a と後者を第11層 b と呼称している。第9層から掘り込まれている遺構は、第11層 a に達している。よって、第11層 a まで面的に下げると、遺構の平面ラインをより明瞭に確認することができる。

11トレンチでは、後期旧石器時代の遺構探査面が第10層上面または第10層 b 面であり、先行トレンチも第11層の大隅降下軽石層中ほどで止めている。よって、11トレンチでは、第12・13層の A T 下位の後期旧石器時代の遺物包含層や、第14層の宿利原火山灰ローム層は未検出である。

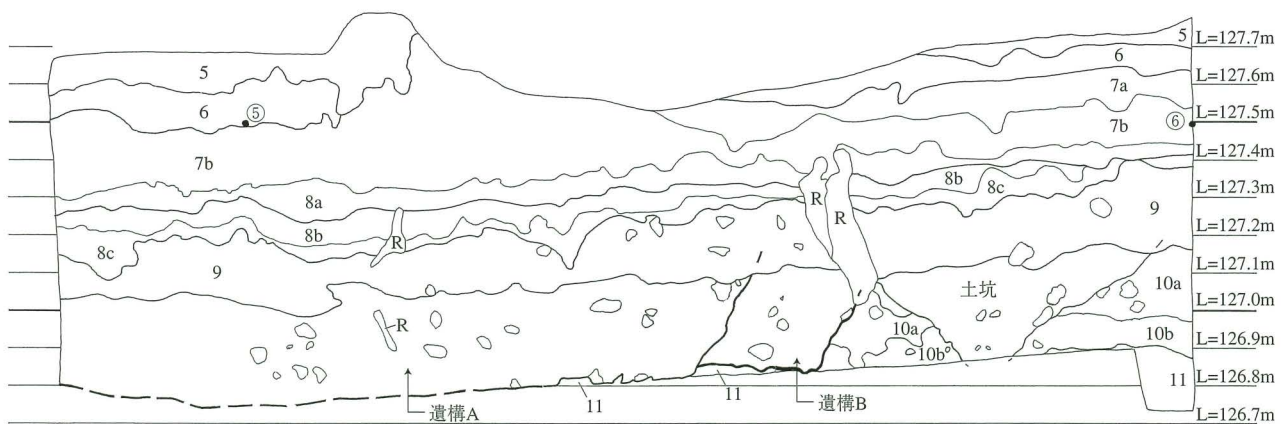


Fig.46 11トレンチ中央ベルト層位断面図(S=1/20)



Pl.68 11トレンチ北壁・西壁層位断面状況写真
(平成13年度・東側より)



Pl.69 11トレンチ西壁・南壁層位断面状況写真
(平成14年度・北側より)



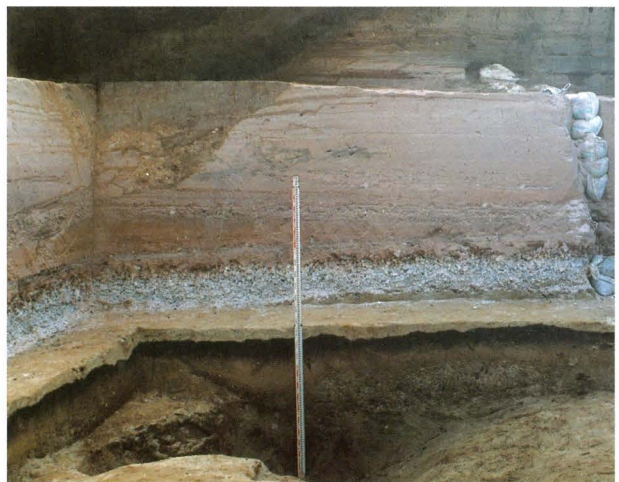
Pl.70 11トレンチ南壁層位断面(一段目)状況写真



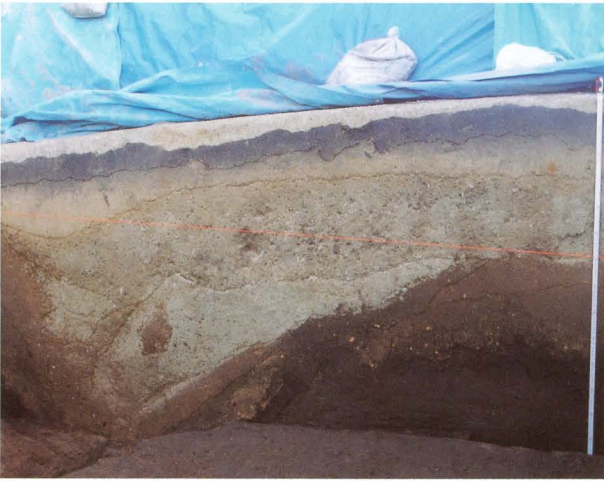
Pl.71 11トレンチ西壁層位断面(一段目)状況写真



Pl.72 11トレンチ南壁層位断面(二段目)状況写真



Pl.73 11トレンチ南壁層位断面(二段目)状況写真



Pl.74 11トレンチ南壁層位断面(三段目)状況写真



Pl.75 11トレンチ西壁層位断面(三段目)状況写真①



Pl.76 11トレンチ西壁層位断面(三段目)状況写真②



Pl.77 11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真①



Pl.78 11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真②



Pl.79 11トレンチ北壁層位断面(三段目)状況写真③

(3) 横転

11トレンチでは、2ヶ所の横転を確認している。経緯については、先に記したとおりである。

確認された横転は、いずれも第4層の鬼界カルデラの火山性噴火に伴うもので、第4層aに細分された幸屋火砕流により樹木が倒れた結果であると考えられる。

規模的には、北側（平成13年度調査）のものより南側（平成14年度調査）のものが大きい。

横転に伴って、第5層以下、第6層・第7層・第8層までが影響を受けており、南側の横転では、第11層まで影響があることが認められる。

横転の範囲から出土した遺物については、その旨を台帳で明記している。



Pl.80 11トレンチ横転1 検出状況写真(東側より)



Pl.81 11トレンチ横転2 検出状況写真(北側より)

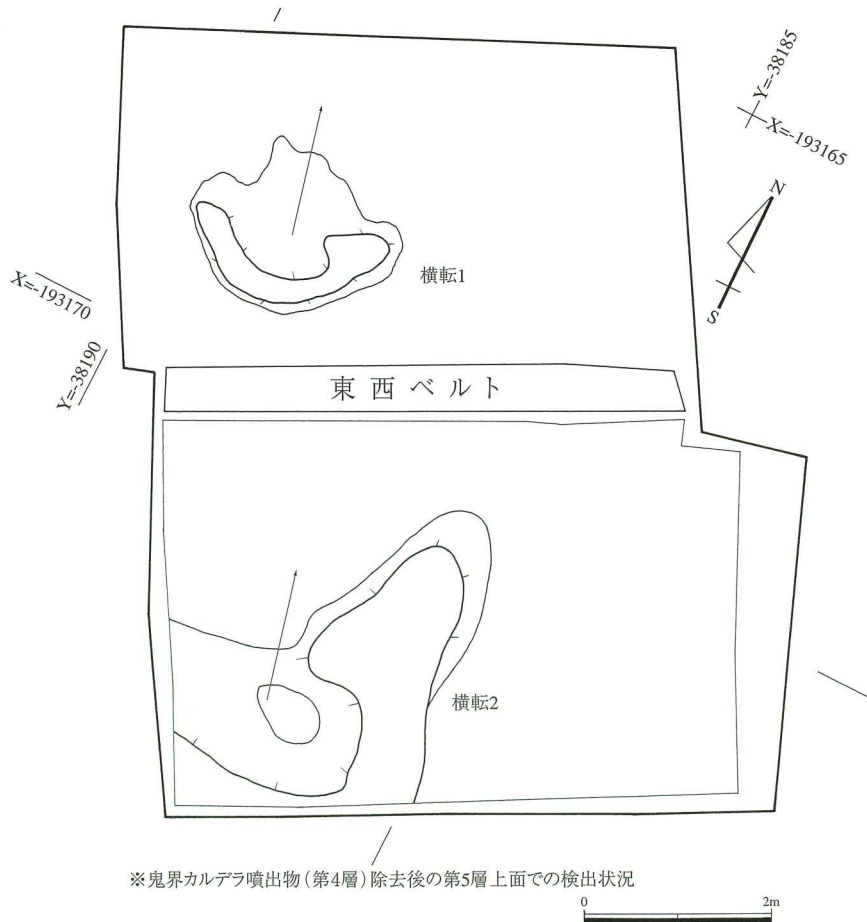


Fig.47 11トレンチ横転1・2 検出状況位置図(S=1/80)

(4) 縄文時代(第5・6層)の遺物

①分布状況

11トレンチの第5層と第6層から出土した遺物は、総点で145点である。内訳は、土器片37点、石器79点、礫29点である。145点の遺物の取り上げ層位は、「第5層」・「第6層」・「第5・6層」の三種類である。

なお、遺物が含まれている層位が、第5層と第6層であるものの、先に記した横転の範囲内出土遺物は含めていない。なお、横転範囲の第5・6層から出土したものは12点である。内訳は、土器3点、石器5点、礫4点である。

遺物の分布状況は、横転範囲を含めずに考えると、概ね散在している状況といえる。その中でも、縄文土器片の掲載番号4, 6, 7は、平成13・14年度調査区の北側(北壁付近)からお互い隣接した状態で出土している。

また、平成14年度調査区の南側付近では、黒曜石を素材として剥片・破片が比較的まとまって出土した。製品はあまり見られなかったが、掲載番号20や23のような比較的大型な剥片や微細な破片があることから、石核やハンマーなどの関連遺物や、全体像が明らかではないものの、黒曜石を素材とした石器製作を行なった場であると想定できよう。



Pl.82 11トレンチ第5・6層出土遺物状況写真(東側より)

②土器 (Fig.48~50)

No1は、岩本式土器の口縁部片である。口唇部の断面形状は、内面に稜を有し三角形を呈し、工具によるキザミが認められる。口縁部直下には、貝殻腹縁部による横位の連続する刺突が2条施されている。口唇部には器厚は6mmを測る。

No2からNo7とNo10からNo13の10点は、貝殻文系円筒形土器の破片である。外面に施文されている文様を、便宜上、下記①~⑥の属性に分け、その属性の組み合わせ毎に観察していく。

- ①縦位の押し引き文：No2の外面のみに認められるもので、長さ約1cm、幅約1.3cmを測り、6本の貝殻腹縁端が確認できる。
- ②縦位の刺突文：No3やNo4などで認められるようなもので、貝殻腹縁部を縦位に連続する刺突によるものである。間隔が1mm程度と狭いものや5mm程度の広いものが確認できる。
- ③斜位の刺突文：No2で認められるようなもので、貝殻腹縁部押圧による連続する刺突によって施されている。概ね2.5cmの長さを測り、間隔も0.5~2mm程度である。
- ④横位の刺突文：No4の上部で認められるようなものである。⑥の羽状文や縦位の刺突文と斜位の刺突文の文様帯を区分けする目的で施された可能性がある。
- ⑤刺突による綾杉文：No7やNo10で認められるようなもので、斜位の刺突文の組み合わせによって施文されている。右位に頂点がくるものと左位に頂点がくるものがあり、その両者のものもある。
- ⑥ヘラ等の工具による羽状文：No4やNo6で認められるようなもので、カタカナの「ハ」の字、あるいは上下逆さまの「ハ」の字を呈している。概ね、土器の口縁部から底部に向かって施されている。

まずは、①~⑥で単独の文様属性の土器片を見ていく。単独で施文されているものは⑤のみである。

⑤(刺突による綾杉文)のみは、No7・No10・No11・No13の4点である。

No7は、外面中央部で綾杉文の「>」が認められる。連続した斜位の刺突文の切り合い関係によると、右斜め下方向の刺突(＼)が施されてから、左斜め下方向の刺突(/)が施されている。内面は、混和材の石英や白色粒が顕著に認められるためか、横位方向のナデが施されているものの剥落が認められる。

No10は、4点の資料の内、最も器厚が厚い土器片である。最大厚の部分で1.4cmを測り、底部付近の可能性もある。外面文様は、綾杉文の「>」と「<」が認められる。斜位の刺突の切り合い関係を見ると、口縁部側から底部に向かって文様が施されている。この個体の外面文様は、少なくとも2条の綾杉文が観察される。内面には、棒状の工具あるいは指による丁寧なナデが施されている。

No11は、基本的な文様施文方法は、No10と同じである。少なくとも2条の綾杉文が観察される。器厚は、4点の中で比較すると最も薄く7mmを測る。

No13は、底部と底部付近の胴部片が接合したものである。綾杉文は、「>」のみ確認できる。底部との接合から、外面底部端から胴部に向かって2~3cmの範囲は、文様が施文されておらず、丁寧なナデが施されているのみである。底部外面も丁寧なナデが施されているのみである。推定復元による底部での直径は、約14.6cmを測る。また、底部中央付近の器厚は、1.7~1.85cmを測るが、底部から胴部への立ち上がり部分での器厚は、0.6~0.7cmと薄く仕上げられている。

次に、①~⑥の文様で、複数の文様属性の組み合わせによって構成される土器片を見ていく。

②+⑤(縦位の刺突文+刺突による綾杉文)は、No5である。



Pl.83 11トレンチ縄文時代出土土器①写真(外面)



Pl.84 11トレンチ縄文時代出土土器①写真(内面)

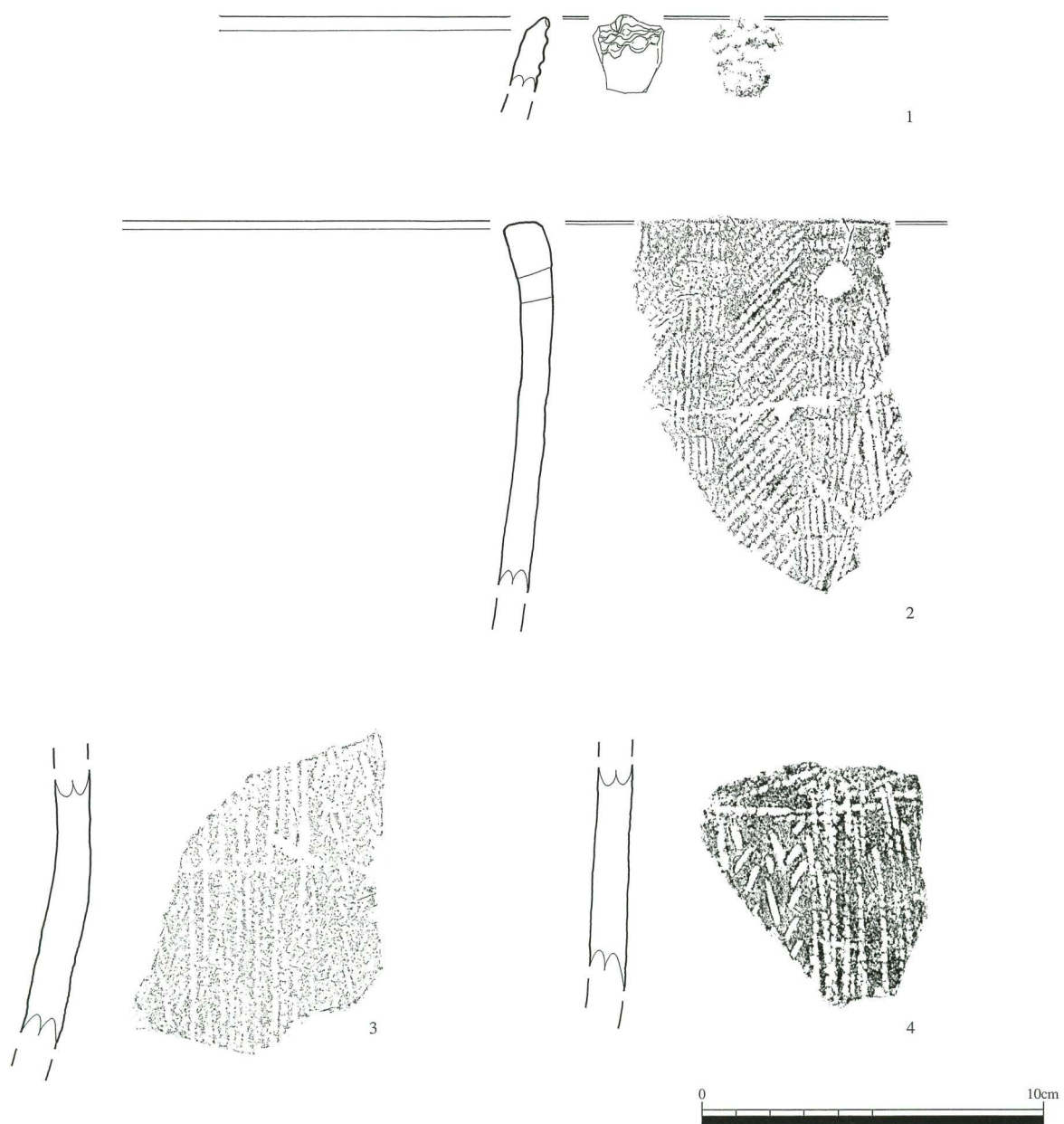


Fig.48 11トレンチ縄文時代出土土器実測図①(S=1/2)

No5は、胴部片であり、残存する外面の文様の基本構成は、綾杉文と縦位の刺突文である。外面右半分では認められる綾杉文が外面左半分に移るにつれ、右斜め下方向の刺突（＼）と左斜め下方向の刺突（／）が接する角度が鋭角になる。この綾杉文を施す前に、縦位の刺突文が幅1.2cmほど施されている。文様的には、綾杉文と縦位の刺突文の切り合いであるが、基本的な文様構成は、先述した⑤（刺突による綾杉文）のみで構成されているものと同じであると考えられる。

②+⑥（縦位の刺突文+ヘラ等の工具による羽状文）は、No3とNo6の2点である。

No3は、並行する羽状文との間に、縦位の刺突が施されている土器片である。羽状文は、カタカナの「ハ」の字状を呈し、長さ約5mm、幅約1mm未満で浅く細かいものと、長さ約1.2cm、幅約2mmで深く大きなものが認められる。羽状文は、口縁部から底部へ向って施されている。羽状文の施し方は、No6のものより密である。縦位の刺突文の施されている範囲の幅は、約3.5cmを測る。羽状文の施されている範囲は、少なくとも2.5cm以上はあったと窺える。

No6は、縦位の刺突との間に、羽状文が施されている文様構成をもつ。縦位の刺突部分を観察すると、直線的な刺突とやや円弧状を呈した刺突によって構成されている。羽状文は、縦位の刺突文と比較すると荒く見える。羽状文の施されている範囲の幅は約3cmで、縦位の刺突文の施されている範囲の幅は、少なくとも4cm以上であることが窺え、羽状文の範囲より広いことが判る。内面は、No10のように丁寧なナデが施されている。

①+②+③（縦位の押し引き文+縦位の刺突文+斜位の刺突文）は、No2である。

No2は、口縁部片である。口唇部は肥厚された上で平坦に整え、丁寧にナデ調整が施されている。外面の文様構成は、左側より斜位の刺突文-押し引き文-斜位の刺突文-押し引き文-斜位の刺突文+縦位の刺突文である。基本的には、斜位の刺突文と押し引き文が交互に施されているものと考えられる。文様帯の幅は、約2cm間隔であり、規格に基づいて施文されていると考えられる。刺突文も押し引き文も緻密に施されている。口唇部から1.1cmほど下に、補修孔が認められる。補修孔は、ドリル状の道具を用いて、外面・内面の両面側から穿孔している。外面での補修孔の直径は、長軸1.2cm、短軸1cmで楕円形を呈している。それに比べ内面での補修孔の直径は小さく、長軸0.7cm、短軸0.6cmを測る。補修孔の内径は、長軸0.5cm、短軸0.4cmであり、横方向に若干長い楕円形を呈している。

②+③+④+⑤（縦位の刺突文+斜位の刺突文+横位の刺突文+刺突による綾杉文）は、No4とNo12である。

No4は胴部片である。外面に残されている文様は、中央付近から下部では、左側から縦位の刺突文-羽状文-縦位の刺突文が施されており、それらの上位には、連続した横位の刺突が施されている。その上位には、斜位の刺突文が施されている。横位の刺突文を挟んで上下の文様が異なっていることから、横位の刺突文は、文様帯の区画のためと考えることもできる。文様の切り合い関係は、横位の刺突文が施された後で、羽状文が施され、その後外面右半分にある縦位の刺突文が施されていることが看取できる。なお、各文様帯の幅は、羽状文の幅が約2~2.3cm、縦位の刺突文が3.5cm以上を測る。なお、内面は、丁寧なナデ調整が施されている。

No12は、胴部片で、残存している文様構成は、基本的にはNo4と同じである。約5mm程度の間隔を持って、横位の刺突文が施されている。その上位では、斜位の刺突が施されている。下位では、羽状文と縦位の刺突文が施されている。切り合い関係がない為、施文の前後関係は不明である。なお、各文様帯の幅は、羽状文の幅が約1.4cm以上、縦位の刺突文が4.7cm以上を測る。なお、内面は、丁寧なナデ調整が施されている。基本的な文様構成や内面調整のあり方は同じであるが、内・外面の色調で別個体と考えられる。ただし、混和材は石英や白色粒が顕著に認められることが類似している。

以上、第5・6層から出土した10点の貝殻文系円筒形土器を文様属性毎に6つに細分した。各土器片の文様属性の組み合わせは5種類であった。組み合わせを主たる文様構成で見ると、3つに集約できよう。

- ・A：主たる文様構成が、刺突による綾杉文で構成されるもの：No5・No7・No10・No11・No13
- ・B：主たる文様構成が、縦位の刺突文とヘラ等の工具による羽状文で構成され、部位によっては横位の刺突文で区画し、斜位の刺突文が追加されるもの：No3・No4・No6・No12
- ・C：主たる文様構成が、押し引き文と斜位の刺突文で構成されているもの：No2

これらの分類によると、AやBは、辻タイプと呼称されるものに、Cは下剥峯式土器に含まれると考えられる。よって、これらの遺物は、縄文時代中期中葉に位置づけられるものと考えられる（註）。

No8は、いわゆる山形押型文の土器片である。指宿市内での押型文土器の発見例としては小牧ⅢA遺跡に次いで2例目であり、指宿地域も他地域と同様に押型文土器の影響を受けていたことが窺える。これと共伴する土器を特定することで、南九州においてこのような山形押型文土器を受け入れた段階の時期を語る上で貴重な資料と成りえるだろう。

No9は、胴部から底部付近の破片である。外面は摩滅により有文なのか無文なのか不明である。内面には斜め方向のナデが認められる。内面の形状は底部付近のため弧状を呈し、推定される内面の直径は約6.4cmを測る。また、器厚を換算すると外面での直径は約9.6cmを測るものと考えられる。水迫遺跡の第Ⅰ調査区や第1トレンチの第5・6層出土の底部直径を見ると、7.6~10.7cmを測り遜色は感じない。No13と比較すると、直径が小さいと言える。

（文責 鎌田）

（註）今回、11トレンチから出土して土器については、新東晃一、前迫亮一、乗畑光博、黒川忠広、金丸武司、遠部慎の各諸氏からご教示を頂いた。また、下記文献を参考とした。南九州縄文研究会『南九州貝殻文系土器Ⅰ～鹿児島県～』2002



Pl.85 11トレンチ縄文時代出土土器②写真(外面)



Pl.86 11トレンチ縄文時代出土土器②写真(内面)

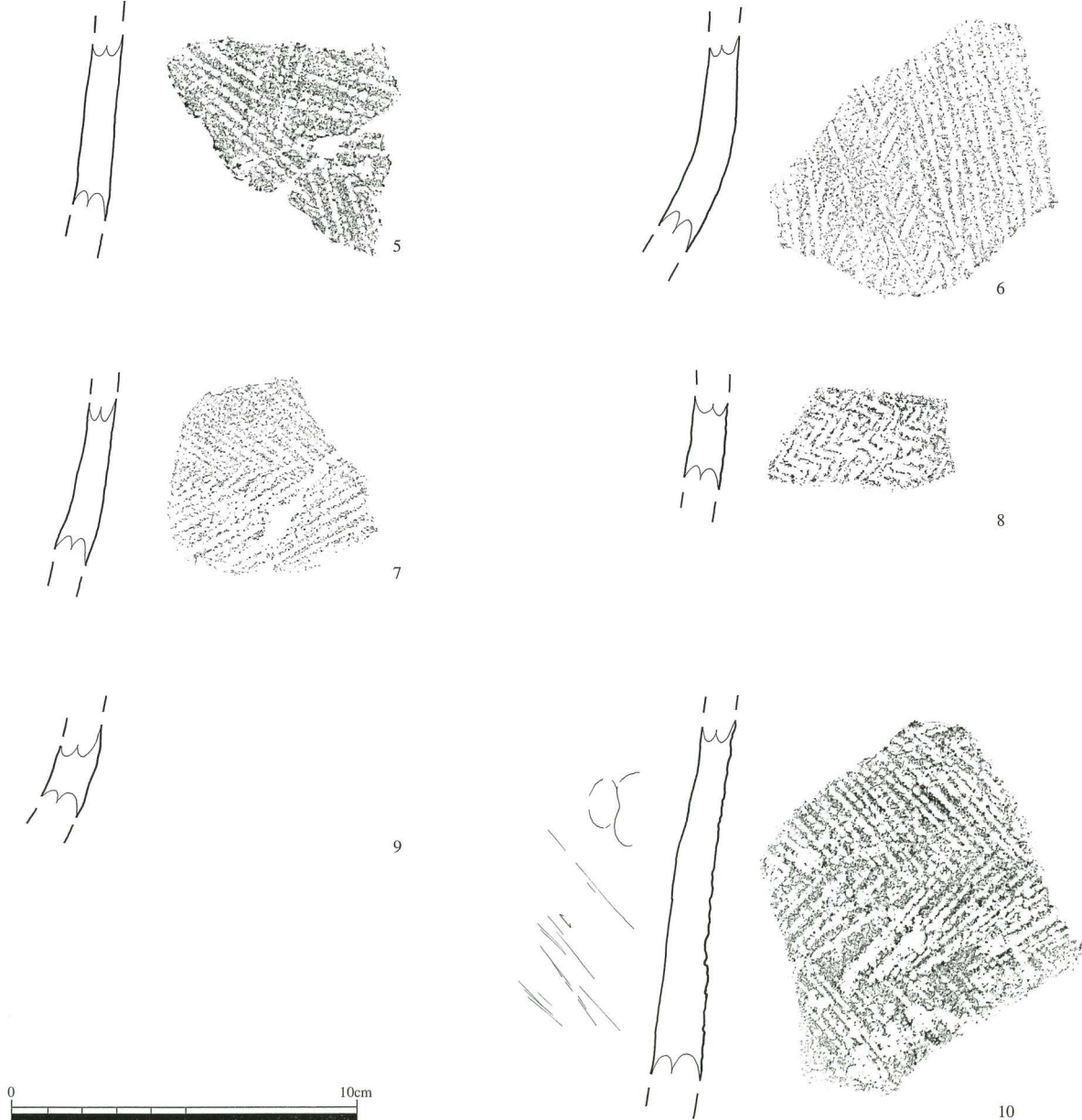


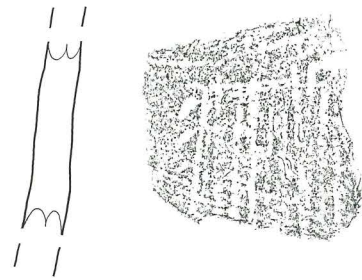
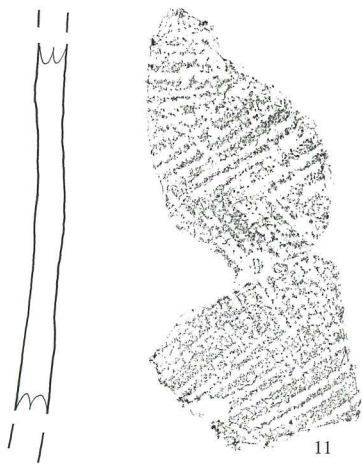
Fig.49 11トレンチ縄文時代出土土器実測図②(S=1/2)



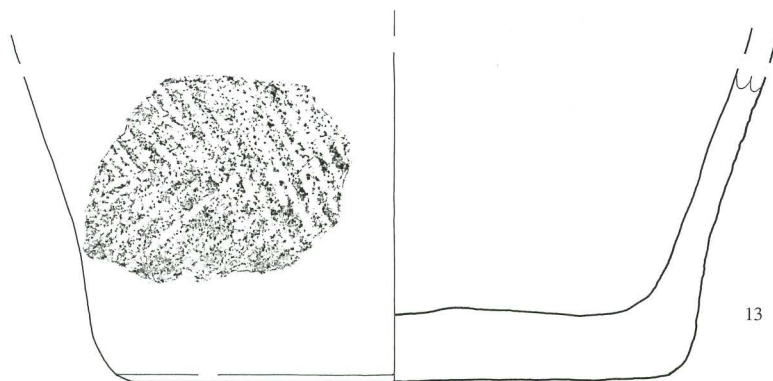
Pl.87 11トレンチ縄文時代出土土器③写真(外面)



Pl.88 11トレンチ縄文時代出土土器③写真(内面)



12



13



Fig.50 11トレンチ縄文時代出土土器実測図③(S=1/2)

図番No.	取上げNo.	器種	残存法量(cm)	部位	色外	色内	色肉	色他	胎土粒	混和材	調整	その他	出土層位	接合
1	21	縄文土器(岩本式土器口縁部)	破片	口縁部	7.5YR5/3	7.5YR5/3	7.5YR4/1	口縁: 7.5YR5/3 7.5YR5/3	微砂粒を若干含む	白・黒・他	内・ナデ 外・貝殻腹縁部による横位の押圧のちマメツ キザミ 口縁・ナデ	傾き疑問 焼成良好	5	
2	149	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	口縁部	7.5YR4/2	7.5YR4/2	7.5YR4/2	口縁: 5YR3/1 7.5YR5/2	砂粒をわずかに含む 細砂粒・微砂粒を多く含む	カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・貝殻腹縁部による斜位の刺突 貝殻条痕 口縁・ヨコナデ	焼成良好	5	150
3	170	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	胴部	7.5YR5/3	7.5YR4/1	10YR3/1	2.5Y4/1	砂粒を含む 細砂粒・微砂粒を含む	カ・セ・白・黒・他	内・マメツ 外・貝殻腹縁部による斜位の刺突 ヘラ状具によるハの字のキザミ	傾き疑問 焼成良好	5・6	171 172
4	26	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	胴部	10YR5/2	7.5YR4/2	7.5YR3/1	7.5YR4/2 5YR4/1	砂粒をわずかに含む 粒・微砂粒を多く含む	細砂 カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・貝殻腹縁部による縦位、横位、斜位の刺突 ヘラ状工具による羽状の刺突	傾き疑問 焼成良好	6	
5	166	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	胴部	7.5YR4/2	7.5YR4/1	7.5YR4/1	7.5YR4/1	砂粒をわずかに含む 粒・微砂粒を含む	細砂 カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・貝殻腹縁部による斜位の刺突	傾き疑問 焼成良好	5・6	243
6	27	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	胴部	10YR5/2	10YR4/1	10YR3/1	7.5YR3/1 7.5YR5/3	砂粒をわずかに含む 粒・微砂粒を含む	細砂 カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・貝殻腹縁部による縦位の刺突 ヘラ状具によるハの字のキザミ	傾き疑問 焼成良好	6	
7	28	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	胴部	7.5YR5/2	5YR5/3	10YR6/3	7.5YR4/2 7.5YR3/1	砂粒を含む 粒を多く含む	細砂 カ・セ・白・黒・他	内・ナデ マメツ 外・貝殻腹縁部による斜位の刺突	傾き疑問 焼成良好	6	
8	228	縄文土器(山形押型文土器)	破片	胴部	10YR6/3	10YR5/2	2.5Y2/1	5YR6/6 5YR6/6	砂粒をわずかに含む 粒・微砂粒を若干含む	細砂 カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・貝殻腹縁部による斜位の刺突、 ややマメツ	傾き疑問 焼成良好	5・6	
9	223	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	胴部～底部付近	7.5YR5/3	7.5YR5/2	5YR4/1	10YR5/4	砂粒をわずかに含む 粒・微砂粒を含む	細砂 カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・マメツ	傾き疑問 焼成良好	5・6	
10	5	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	胴部	7.5YR5/3	10YR4/1	7.5YR3/1	2.5Y4/1 5YR6/3	砂粒をわずかに含む 粒・微砂粒を含む	細砂 カ・セ・白・黒・他	内・ナデ一部ユビオサエ ナデのちナデ 工具による 外・貝殻腹縁部による斜位の刺突	傾き疑問 焼成良好	5	
11	180	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	胴部	7.5YR7/3	7.5YR4/1	10YR3/1	10YR5/2 7.5YR6/3	砂粒を若干含む 粒・微砂粒を含む	細砂 カ・セ・白・黒・他	内・ナデ 外・貝殻腹縁部による斜位の刺突	傾き疑問 焼成良好	5・6	221
12	46	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片	胴部	7.5YR5/3	10YR4/1	N4/0		砂粒を含む 粒を多く含む	細砂 カ・セ・白・黒・他	内・工具によるナデのちナデ 外・貝殻腹縁部による横位、縦位の刺突	傾き疑問 焼成良好	5	
13	37	縄文土器(貝殻文系円筒形土器)	破片 1/4残存 復元底径 146	底部	10YR5/2	7.5YR5/2	7.5YR4/1	底 5YR6/6 7.5YR5/3 7.5YR4/2	砂粒を含む 砂粒を多く含む	細砂粒・微カ・セ・白・黒・他	内・ナデのちマメツ 外・貝殻腹縁部による斜位の刺突のちマメツ 底・ナデ	焼成良好	6	38 222 8(同一個体)

Tab.42 11トレンチ縄文時代出土土器観察表

③石器 (Fig.51~53)

11トレンチの第5層・第6層から出土した石器は79点である。石器組成は、尖頭状石器、石鏃、使用痕のある剥片、スクレイパー、剥片、碎片、石核などである。石材は黒曜石が66点と最も多く、頁岩9点、赤色頁岩3点、瑪瑙1点である。黒曜石の大部分は、11トレンチの南側付近から出土したものが大部分を占めており、肉眼観察から同一個体のもと考えられる。ただし、接合はできなかった。

尖頭状石器 (Fig.51)

No14は、頁岩製の尖頭状石器である。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から尖頭状石器への調整過程が推測できる。まず、複剥離打面を有する幅広の剥片が素材として獲得されている。

まず、素材剥片のa面全縁に調整が施され、全体的な形状の整形がされている。調整は、素材剥片の中央部まで伸びるものではなく、縁辺周辺に留まっている。a面の調整は、奥行き1cmのものと奥行き0.3~0.5cm程の細かなものとの2種類が認められる。切り合的には、まず前者の調整が施され、大まかな形状の整形がなされている。その後、後者の調整によって縁辺が整えられている。

a面での調整後、b面左側縁上部と下部に調整が施されている。a面・b面では、先端部や基部を意識した細かな調整が認められず、形状を三角形に整形しているのみと判断することもできることから、未製品とも考えられる。

打製石鏃 (Fig.51)

No15は、平基式の石鏃である。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から石鏃への調整過程が推定できる。厚みのある素材剥片を用いて、まずa面の側辺に周辺から調整を施している。その後、b面のほぼ全周に調整が施されている。石鏃の両側縁は円弧状を呈している。先端部は、b面に認められるように一枚の剥離によって整形されているが、鋭利ではない。

No16は、基部がやや丸みを持つ石鏃である。a面・b面に認められる調整痕の切り合い関係から、概ね次のような素材剥片から石鏃への調整過程が推定できる。まず、b面に周辺から調整が施されている。b面右側面下部に、素材剥片の剥離面が認められる。b面に施されている調整は、b面中央部付近まで延びている幅広の調整である。その後、a面において周辺から全体的な形状整形を目的とした調整が施されている。a面の周辺調整後、再度b面左側縁上部において調整が施されている。基部の調整は、両側縁での調整後に施されているが、やや丸みを帯びた凸状に整形されている。先端部は若干欠損しているが、使用時による欠損なのか、あるいは整形段階でのものなのかは不明である。

使用痕のある剥片 (Fig.51・52)

No17は、打面部と下端部、左側縁を切断した剥片を用いた使用痕のある剥片である。素材剥片の打面部は、主要剥離面側(b面)からの最低2回の加撃によって切断している。下端部は、左側部からの加撃によって切断している。また、左側部は、主要剥離面側からの加撃によって切断している。その切断面の一部を、使用部として用いている。使用痕には、4枚ほどの微細な小剥離痕が認められる。

No18は、黒曜石製の縦長剥片を用いた使用痕のある剥片である。素材剥片は、a面の剥離面の状況から、素材剥片と同様な縦長剥片を数枚剥離した石核から剥離されたものと考えられる。素材剥片の打面部の一部は、主要剥離面と接する部分において少なくとも2枚の剥離によって除去されている。素材剥片の下端部は使用部として用いられ、b面側からの加撃による微細な使用痕が認められる。

Fig.52のNo20は、頁岩製の幅広の剥片を用いた使用痕のある剥片である。a面の剥離痕の状況から、この剥片を剥離した石核では、同様な剥片を少なくとも5枚は剥離していると想定できる。素材剥片の打面部は、a面側からの加撃によって作出された単剥離打面である。a面上端部には、少なくとも4枚の頭部調整痕が認められる。使用痕は、a面下端部の両端部にわずかに認められる。

スクレイパー (Fig.51)

No19は、頁岩製のスクレイパーである。素材剥片の打面部を将来のスクレイパーの刃部側に設定し、周辺に調整を施している。剥離面の切り合い関係から、次のような整形工程が想定できる。素材剥片の下端部は、e面・b面上部で認められるような切断によって整形されている。a面右側部は、d面でも確認できるように平面的な調整によって整形されており、その調整痕は素材剥片の中央部まで伸びている。a面左側部は、b面側からの加撃によって整形されており、少なくとも2枚の調整痕が認められる。c面上部には、e面で行なわれた素材剥片の下端部の切断痕が伸びている。スクレイパーの刃部は、素材剥片の打面部に設定されており、b面側からの加撃によって作出されている。作出された刃部は、幅約1.2cm、奥行き3.5cmを測る。刃部を作出する際の調整痕は、幅が短く長さが長いものである。刃部には、微細な使用痕が認められる。



Pl.89 11トレンチ縄文時代出土石器①写真(表面)



Pl.90 11トレンチ縄文時代出土石器①写真(裏面)

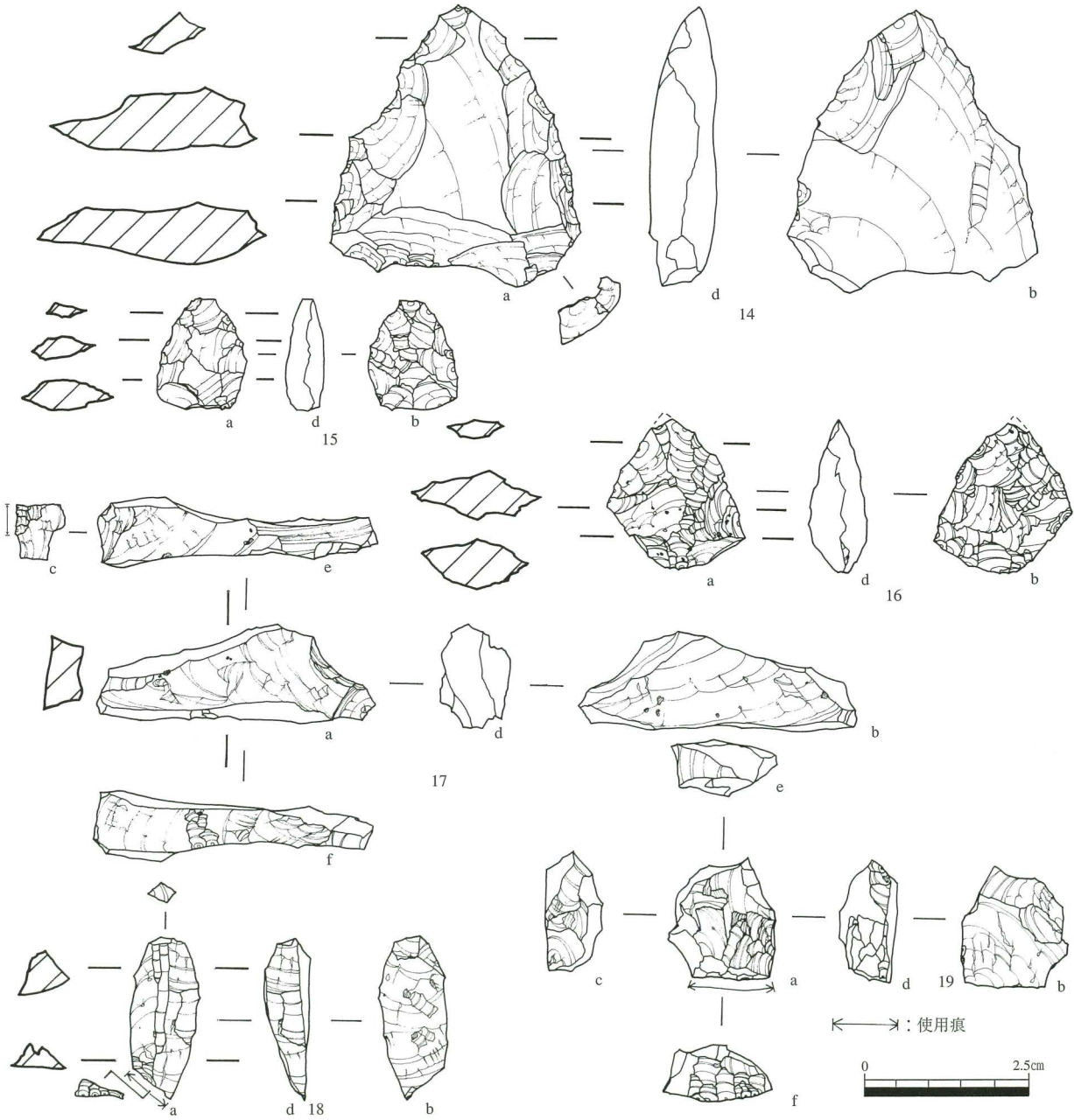


Fig.51 11トレンチ縄文時代出土石器実測図①(S=1/1)

二次加工のある剥片 (Fig.52)

No21は、黒曜石製の剥片に二次加工を施したものである。素材剥片の打面は、点状打面であり、顕著な頭部調整痕が認められる。素材剥片の下端部には、a面左側面方向からの加撃による切断が行なわれている。その後、細かな二次加工が施されている。

切断剥片 (Fig.52)

No22は、黒曜石の剥片を素材とした切断剥片である。c面とd面が切断面である。素材剥片の打面部も、この段階の切断によって除去されている。切断の目的については、利器の製作に伴うものと考えられるが、特定はできない。比較的厚みがあり、断面が三角形を呈していることに特徴が見出せる。

剥片 (Fig.53)

No23は、黒曜石製の大型な不定形な剥片であり、最大厚が2.4cmを測る。石器製作に伴う二次加工や切断は認められない。a面の観察から、これを石核から剥離する以前に、多方向からの加撃によって多くの剥片が剥離されていることが看取できる。すなわち、打面を複数保持する大型な石核から剥離されたものと考えられる。

No24は、頁岩製の剥片である。厚みが薄く、打面部と下端部が欠損している。a面の観察によると、多方向からの加撃による剥離痕が認められることから、打面を複数保持する石核から剥離されたものと考えられる。

No26は、横転範囲の第6・8・9層の混在する地層から出土したものである。帰属時期は不明であるが、最も新しい時期の第6層として、ここで掲載する。形状は、末細り状を呈した剥片である。打面には、a面側からの加撃による打面調整が顕著に認められる。断面は、三角形を呈して縁辺もほぼ直線的であるが、肉眼観察による使用痕は認められない。

石核 (Fig.53)

No25は、上下に打面を設定し、2面の剥片剥離作業面を有する石核である。a面の剥片剥離作業面には、3枚の剥片の剥離痕が、また、b面には2枚の剥離痕が認められる。いずれもf面側の打面を用いたものである。f面の打面は、面としては残存していない。e面には、a面からの加撃によって作出した打面と打面調整痕が認められる。しかし、a面とb面の剥片剥離作業面には、e面の打面を用いた剥片の剥離痕は認められない。石核の作業面長は2cm、幅は1.5cmを測ることから、剥離された剥片も小形であると考えられる。

水迫遺跡の第5・6層出土の石器組成について

水迫遺跡の第I調査区、西側拡張区、1トレンチの第5・6層からは、縄文時代早期初頭に位置付けられている岩本式土器が出土している。11トレンチからは、縄文時代早期中葉に位置付けられている下剥峯式土器と、辻タイプが出土している。また、第II調査区からは轟式土器も出土している。これらのことから、水迫遺跡の第5・6層は、縄文時代早期初頭から後葉にかけての遺物包含層であることが確認されている。

ここで、岩本式土器段階の石器組成について、若干、概観を述べておく。これまで第5・6層の岩本式土器段階においては、打製石鏃、槍先形尖頭器、(局部)磨製石斧、打製石斧、スクレイパー、剥片、石核、台石、石皿、磨石、敲石、ハンマーなどの石器類が出土している。他の時期の型式土器に比べて、石器組成もバラエティーに富み、点数的にも比較的まとまって出土している。

打製石鏃

打製石鏃については、石材と形態について概観してみる。指宿市小牧に所在する岩本遺跡や小牧3A遺跡では、縄文時代早期初頭の岩本式土器に伴い磨製石鏃が出土しているが、水迫遺跡では未だ出土例がない。磨面のある剥片や磨製石斧が組成中に含まれていることから、技術的には研磨技術を保持しており、本来の石器組成中には、磨製石鏃の存在も想定できよう。打製石鏃の素材剥片の石材は、頁岩と黒曜石が主体を占めており、1点であるが姫島産黒曜石製の石鏃がある。岩本式土器段階に生活を営んでいた集団が製作していた石鏃の形態は、大きく3つに分けることが可能である。

①両面加工品で、いわゆる平基式に近いが基部に若干抉りが入る形態のもの。

②両面加工品で、凹基式のもの。

③整形が素材剥片の縁辺のみに僅かに施されているのみの、いわゆる剥片鏃のもの。

なお、姫島産黒曜石製の石鏃は、抉りが深い基部を有しており、製作工程も含めても他の石鏃と異なる。推測の域を出ないが、他の集団により製作された石鏃が製品の形として持ちこまれた搬入品と考えられる。石鏃の長幅比や詳細な製作工程の違いについては、『水迫遺跡II』を参照願いたい。

槍先形尖頭器

先端部と基部が欠損し全体的な形態を留めていないが、岩本遺跡などで出土している木葉形の尖頭器とほぼ同じ形態のものが出土している。ハリ質安山岩製の剥片を素材としている。その石材は、他の石器素材としては用いられておらず、他集団あるいは別の生活空間からの搬入品と考えられるものである。



Pl.91 11トレンチ縄文時代出土石器②写真(表面)



Pl.92 11トレンチ縄文時代出土石器②写真(裏面)

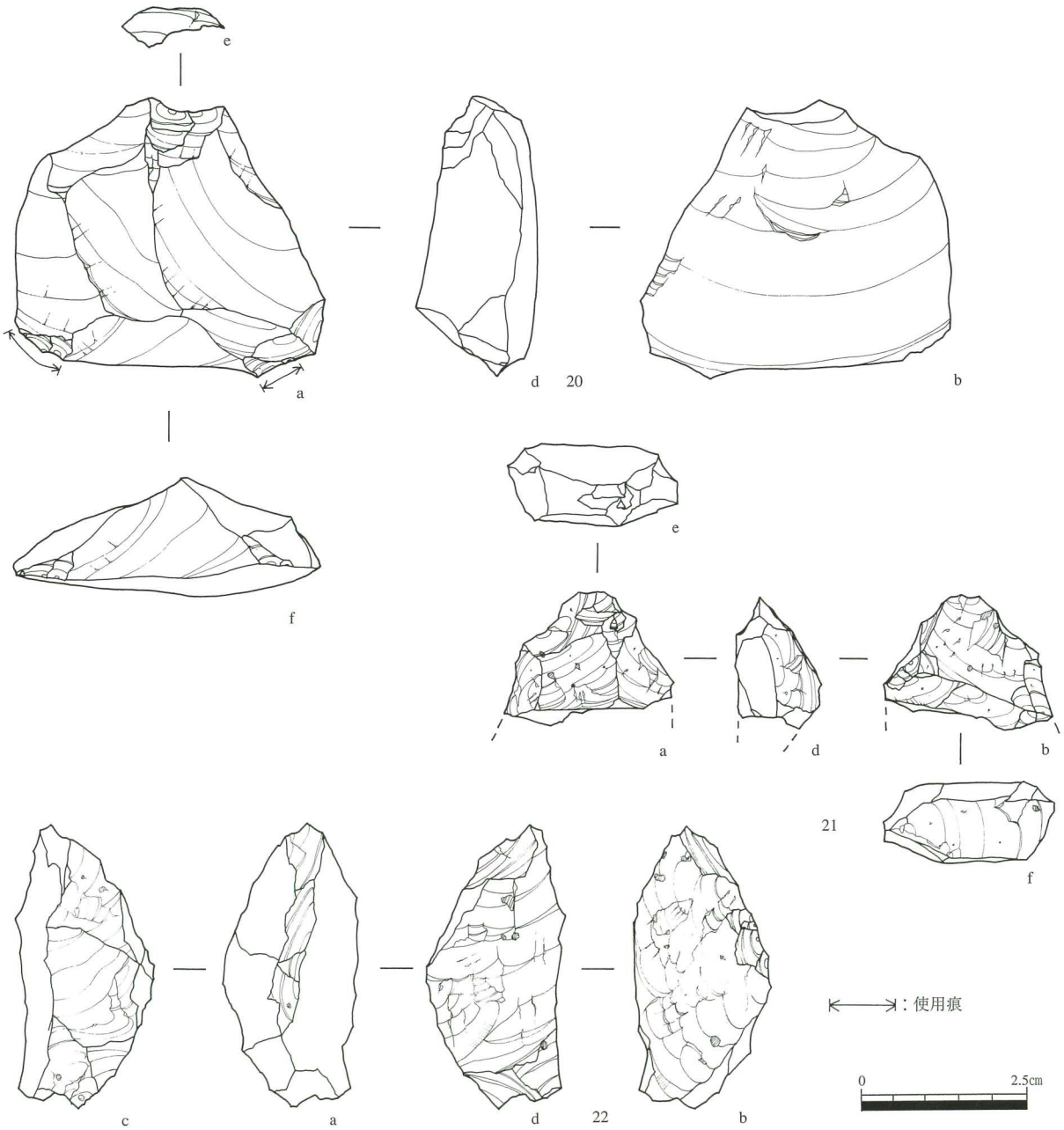


Fig.52 11トレンチ縄文時代出土石器実測図②(S=1/1)

石斧

第I調査区・西側拡張区内からは、磨製石斧3点、打製石斧1点の合計4点出土している。

磨製石斧は、いわゆる全面研磨ではなく、基部・縁辺を除いた両面で、特に刃部側に顕著に研磨が施されている。これを踏まえれば、局部磨製石斧と呼称したほうが良いかもしれない。3点の磨製石斧は、研磨後の使用に伴う再調整が著しいため、本来の研磨範囲の全ては残存していない。また、同一層から磨製石斧から剥落したと考えられる「磨面をもつ剥片」があることから、集落内で石斧を利用したか、あるいは、石斧の刃部再生を行なったと考えられる。このことから、磨製石斧は、使用していく中で再整形・刃部再生を繰り返し施され、形態や大きさが変化していったことが推定できる。

上記した主要な石器の他に、台石、石皿、磨石、敲石などの礫核石器なども、第5・6層の岩本式土器段階の石器組成中に含まれている。

11トレンチの第5・6層出土石器

11トレンチの第5・6層出土の土器型式から、土器とほぼ同レベルから出土している石器類は、縄文時代早期中葉に帰属するものと考えられる。先述したとおり、製品としては、尖頭状石器、石鏃、スクレイパー、使用痕のある剥片、二次加工剥片、切断剥片、分割剥片も認められる。また、石核、剥片、碎片もほぼ同レベルから出土している。これらのことから、11トレンチでは石器製作に伴う、石核整形作業・剥片剥離作業・石器製作作業（剥片を切断・分割、二次加工）の一連の作業が行なわれていたと推測することができる。特に、11トレンチ南半分の調査区東側では黒曜石製の剥片、碎片、分割剥片などがまとめて出土していることから、石器製作の「場」としての空間利用状況が推測できる。

11トレンチの縄文時代早期中葉に位置づけられる石器群の石器組成は、出土点数が少ないため、その全容は不明である。今後、指宿地区内での追加資料によって、当該時期の石器組成の様相をより詳細に分かることができよう。

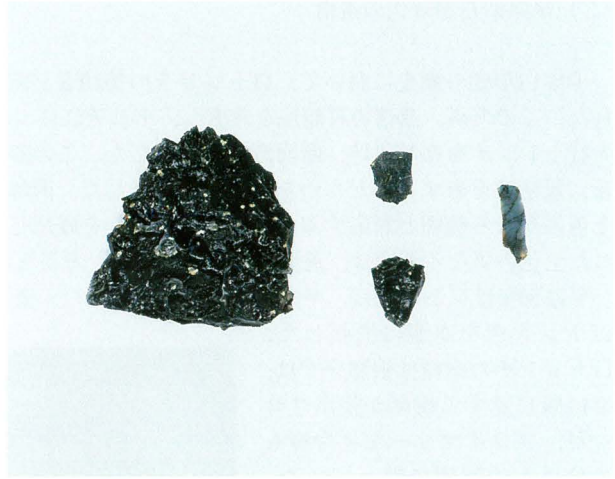
(文責 鎌田)

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
14	15	尖頭状石器	頁岩	最大長:4.3 最大幅:3.8 最大厚:1.05	12	複剥離	両面	不明	5	
15	213	打製石鏃	赤色頁岩	最大長:1.7 最大幅:1.4 最大厚:0.6	1.03	-	両面	不明	6	平基式
16	22	打製石鏃	黒曜石	最大長:2.35 最大幅:2.1 最大厚:0.95	2.98	-	両面	先端部欠損	5	
17	235	使用痕のある剥片	黒曜石	最大長:1.5 最大幅:4.3 最大厚:1.1	2	-	切断	小剥離痕	5・6	
18	232	使用痕のある剥片	黒曜石	最大長:2.5 最大幅:1.1 最大厚:0.7	1.23	単剥離	b面上部	微細	5・6	
19	178	スクレイパー	黒曜石	最大長:1.9 最大幅:1.6 最大厚:0.9	2.45	-	a面	微細	5	
20	216	使用痕のある剥片	頁岩	最大長:4.3 最大幅:4.7 最大厚:1.9	25	単剥離	-	小剥離痕	6	
21	49	二次加工のある剥片	黒曜石	最大長:2.0 最大幅:1.5 最大厚:1.3	3	点状	切断	-	5	
22	187	切断剥片	黒曜石	最大長:4.3 最大幅:2.0 最大厚:1.5	12	-	切断	-	5	
23	188	剥片	黒曜石	最大長:6.6 最大幅:6.7 最大厚:2.4	72	点状	-	-	5・6	
24	175	剥片	頁岩	最大長:1.7 最大幅:1.4 最大厚:0.3	0.52	-	-	-	5・6	
25	199	石核	黒曜石	最大長:2.3 最大幅:1.7 最大厚:0.9	2.48	複剥離	打面調整	-	5・6	
26	268	剥片	チャート	最大長:1.55 最大幅:1.0 最大厚:0.45	0.81	単剥離	打面調整	-	6・8・9(横転範囲)	

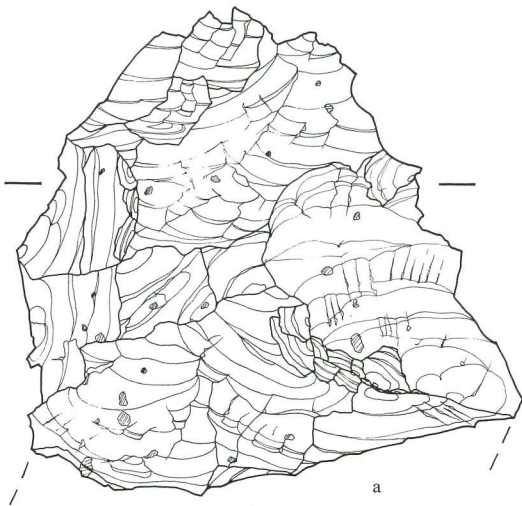
Tab.43 11トレンチ縄文時代出土石器観察表



Pl.93 11トレンチ縄文時代出土石器③写真(表面)



Pl.94 11トレンチ縄文時代出土石器③写真(裏面)

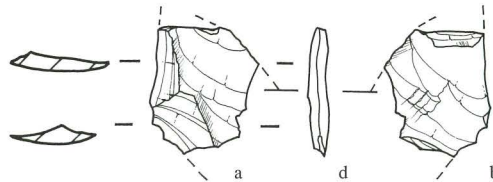
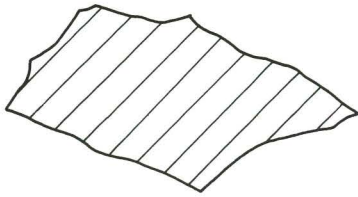


a



b

23



a

d

b

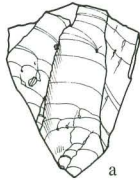
24



e



c



a

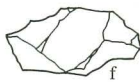


d

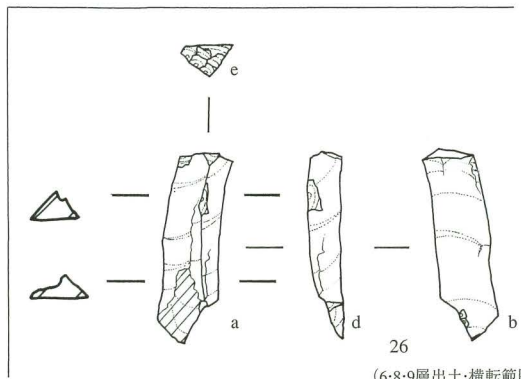


b

25



f



a

d

b

26 (6・8・9層出土・横転範囲)

Fig.53 11トレンチ縄文時代出土石器実測図③(S=1/1)

(5) 後期旧石器時代の遺構

平成13年度の調査において、11トレンチの第10層上面付近で、第10層とは異なる土色の範囲が複数あることが認識された。このため、遺構の可能性を考慮し、それぞれについて調査を実施した。調査方法は、平面形状の確認と記録の後、先行トレンチを複数設け、断面形状を確認した。この際、複数の先行トレンチの断面において、立ち上がりの形状が相互に規格性を有するかどうかを確認しようとした。同時に、下位層である第11層上面に、第10層上面付近で検出された土色の異なる範囲と対応する部分があるか否かを確認しようとした。その作業の結果、第10層上面付近において検出された土色の異なる範囲は、遺構の可能性が高いと考えられるものがあることが明らかになってきた。

平成14年度においては、平成13年度に検出された、遺構の可能性の高い土色が異なる範囲の広がりを確認するために、11トレンチを南側に拡張した。

11トレンチの南側拡張部分では、第11層に達する横転が検出されたが、プライマリーな包含層も半分以上の範囲で残っていた。第10層上面付近においては、異なる土色の範囲が複数あるように見えた。これに対して、先行トレンチを複数箇所設け、平面と断面、そして下位層上面（第11層上面）においても土色の異なる範囲が検出されるかどうかの確認作業を実施した。結果的にかなり多数の遺構が所在するとともに、相互に切り合っている可能性が考えられた。遺構の可能性のある部分すべての掘り下げは、調査の日程上困難であったため、平成13年度に検出された遺構の可能性のある部分の掘り下げを先行させ、遺構か否かの確認を調査の最優先事項とした。

本書は、検出された遺構と考えられるものに関して、できるだけ詳細な情報を提示することが刊行の目的でもあるので、記述にあたり、検出された遺構と考えられるものを、まず下記のように平面形状に従い分類し、それぞれについて詳述していく。その上で、それぞれの遺構と考えられるものに関しては、遺構としての認定根拠や、場合によってはその機能に関して各項で述べていきたい。

11トレンチ北側において検出された土色が異なる範囲は、その平面形状から以下のように分類できる。

- (1) 他の調査区で発見された「**縦穴建物跡**」の縦穴に平面形状が類似する。つまり、直線的な

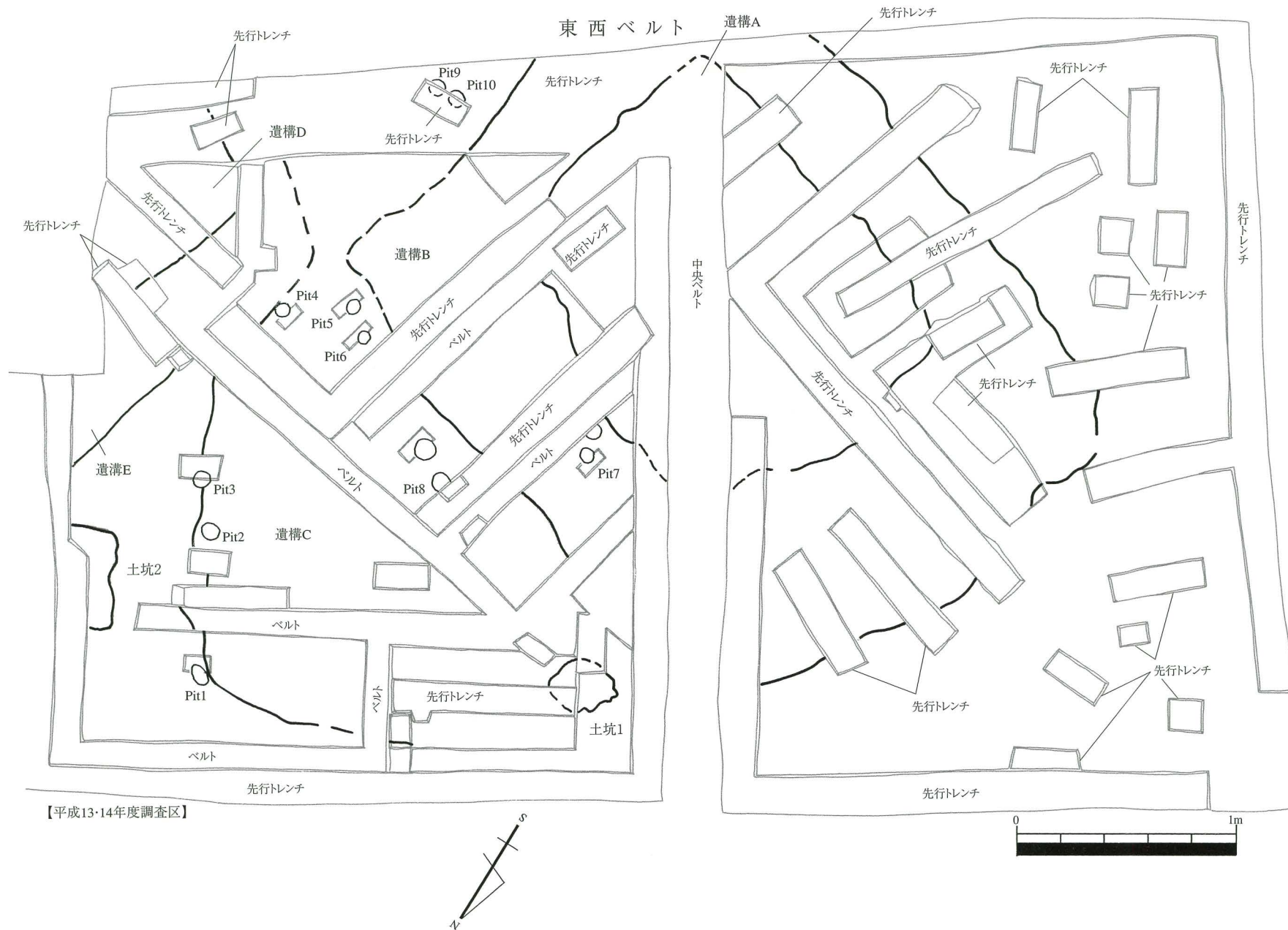


Pl.95 11トレンチ後期旧石器時代遺構検出状況写真①



Pl.96 11トレンチ後期旧石器時代遺構検出状況写真②

Fig.54 11トレンチ後期旧石器時代の遺構配置図(S=1/25)



【平成13・14年度調査区】

- ラインと直角に近いコーナーにより構成された「方形」平面を呈するもの、またはその一部と考えられるもの
- (2) 円形・楕円形・隅丸方形などで最大径が概ね1m程度のもの
- (3) 平面形が概ね円形を呈し、最大径が10cm前後のもの
- 上記のそれぞれについては、以下のように仮称して報告していく。

(1) については、遺構A～遺構E、(2) については、土坑①、土坑②、(3) については1号ピット～10号ピット。

①遺構A

調査内容の詳述に先立ち明記すべき事項がある。11トレンチの調査は、平成11年度に検出された後期旧石器時代の遺構群の広がりとその内容を確認することを目的として行なった。特に、平成12年度に実施された、西側拡張区における調査結果では、各遺構の平面形の把握は第9層下面から第10層の上面付近で行なわれていた(指宿市教育委員会2001)。このことから第10層上面付近においては、常に土色の変化に注意が払われ調査が実施された。同時に、「方形または、それに類した平面形を呈する土色の異なる範囲」や、その一部と考えられるものが検出された場合は、「堅穴建物跡」である可能性を考慮し、従来検出された「堅穴建物跡」との類似点があるか否かを確認していった。確認する点は以下のようなものである。なお、水迫I・IIで提示した各仮説との関係は()内のようになり、各項目の確認の方法は水迫I・IIで提示した方法論で行なった。

- ・落ち込みと自然堆積層または、切り合い関係にある落ち込みと埋土との遺構境界面があるか(仮説A)(仮説G)
- ・埋土は自然堆積層と異なる堆積状況であるか(仮説B)
- ・底部に掘削痕跡と見なせる部分があるか(仮説C)
- ・埋土は同一の層から落ち込んでいるか(仮説D)
- ・平面形が方形と言える形状であるのか、つまり直線的な4辺と4コーナーを持つ形態と見れるか(仮説E)
- ・立ち上がり形状が、落ち込みの複数箇所類似するという規格性を有するか(仮説F)
- ・堅穴の底面のレベルがある程度そろっており平坦に近い形状をなすのか(仮説I)
- ・堅穴の平面から規則性のある距離をもってピットが検出されるか(仮説J)

水迫I・IIでは、上記に加え、遺構の切り合いの認定のための仮説も提示した。その中の「遺構が切り合っているなら、・・・(中略)・・・遺構の底面の高さは異なることがある」という仮説については(仮説H)、検出状況を述べているものであることから、切り合い関係を裏付ける必要十分条件とはならないと考えられ、これを割愛した。

さて、11トレンチ北側には、平面が方形と見られる落ち込みが検出された。これらは、遺構A～遺構Eと呼称した。それぞれの位置関係はFig.54に示した。5基検出された落ち込みは、AとB、DとEとが切り合い関係にある。また、CはBによって切られていると考えられる。AとB、DとEとはそれぞれ軸がほぼ揃っており、「AとB」と「DとE」とはそれぞれに軸が揃っている。

遺構A平面 (Fig.55, Pl.95, Pl.96)

遺構Aは、11トレンチ北側の中央付近で、周囲の遺構B埋土より黒味が強い土色の範囲として認識された。中央ベルトの東側では、第10層上面付近で検出された平面ラインが、局所的な土色の変異ではないことを確認しようとした。このために、複数のベルトを残しながら埋土と周辺の第10層を第11層上面付近まで平面的に掘り下げた。この結果、第10層上面付近で確認した平面ラインに対応する土色の異なる範囲が第11層の上面付近でも確認できた。つまり、土色差の範囲は第11層上面に達するまでの一定の深さを持っていたことが明らかとなった。第11層上面での検出状況は、Pl.97のようである。このことで特に重要なのは、土色が異なって見える範囲がまず平面で確認され、同一位置の下位に掘り下げて



Pl.97 遺構A東辺検出状況スナップ写真

てもなお、土色の変異が連続する点である。このことは、土色が異なる立体的な範囲が、11トレンチ北側に存在し、その垂直分布範囲は、少なくとも第10層上面付近から、第11層上面付近であるということを示している。

さて、土色の異なる範囲の平面形は、略東西南北の4辺を有し、4コーナーを有すると見られる。南辺と西辺はほぼ直線的な形状であり、北辺と東辺はやや膨らみを持つ形状となる。北辺と西辺が作るコーナーの角度は113°であり(コーナー角度の計測方法は、指宿市教育委員会 2001, P283を参照)、西辺と南辺が形成するコーナーの角度は103°である。

遺構Aの法量は、長軸最大1.80m、短軸最大1.46mとなる。

次から、上記のように平面で検出されたものの断面形状の詳細について記述する。遺構Aにおいては8本の先行トレンチと1ヶ所のベルトで断面を確認し、記録作業を実施した。

(文献) 指宿市教育委員会 2001 『水迫遺跡I』

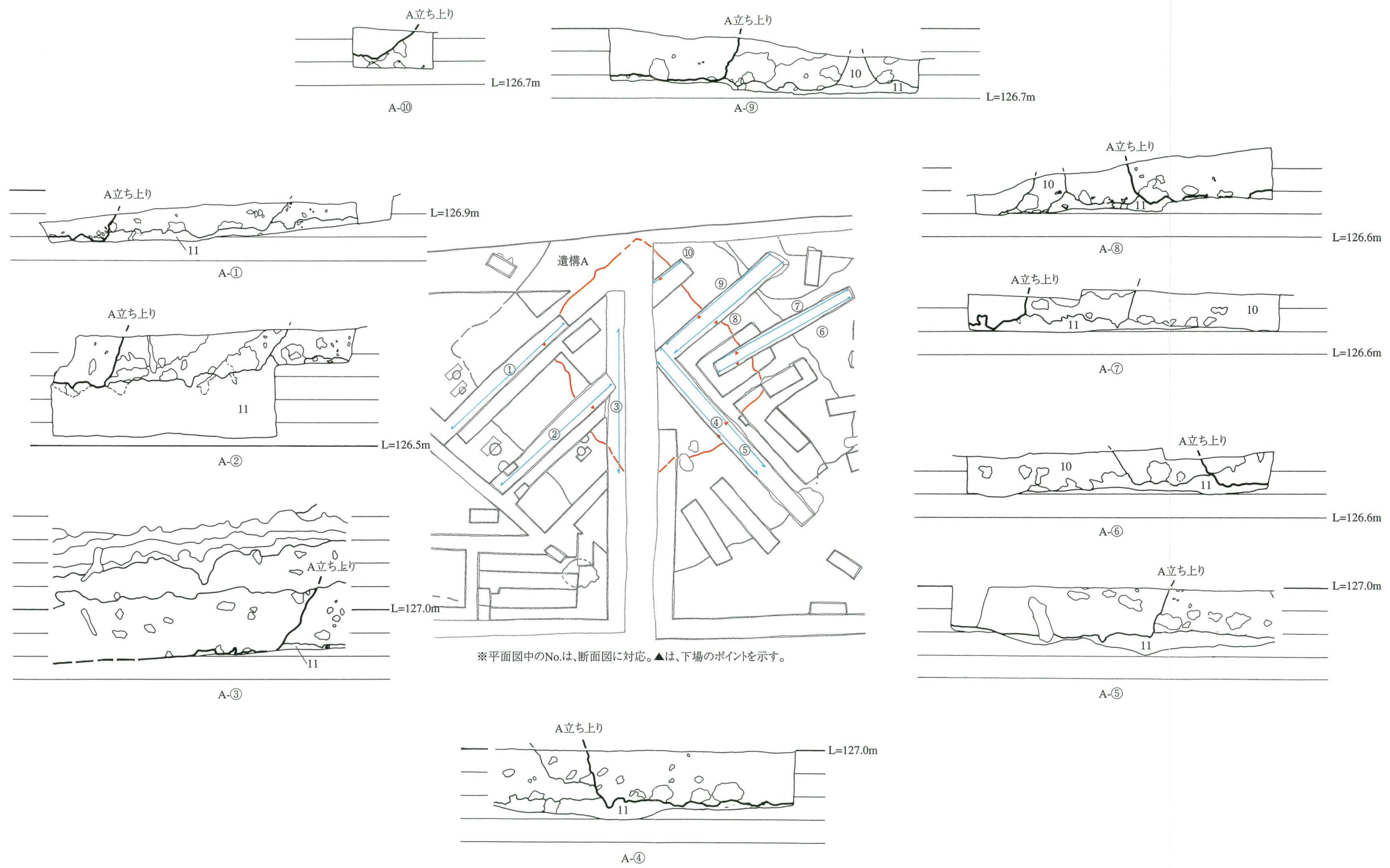


Fig.55 遺構A全体図・インデックス (Section:S=1/20, 中央平面図:S=1/40)

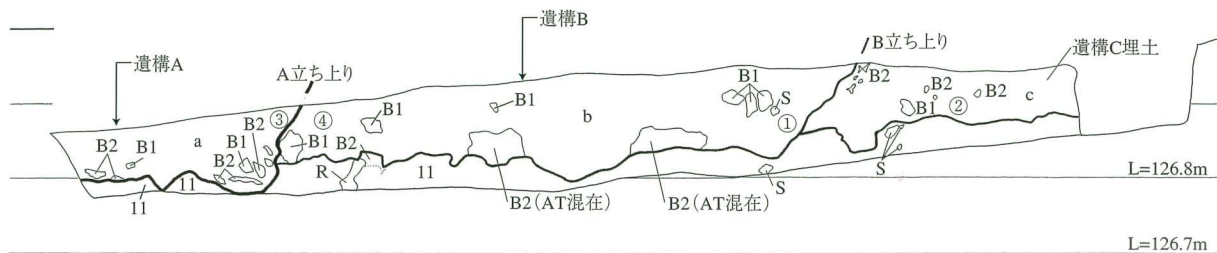


Fig.56 遺構A-①層位断面図(S=1/10)



Pl.98 遺構A-①層位断面写真

遺構A先行トレンチ①断面 (Fig.56, Pl.98, Tab.44)

平面的に検出された土色差がある範囲の断面を確認するために設けた先行トレンチの北側断面である。Aの埋土は第11層上面に達しており、第11層上面は落ち窪んでいる。埋土色はPl.98に見えるように、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できる。埋土Aは遺構Bの埋土を切り、第11層に達する。遺構B埋土との土色差は、測色データにおいてもL値の差となって表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。一般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から23°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.83mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-①断面	b	①	29.3	4.6	8.3
		②	28.5	5.1	9.1
		③	27.5	5.2	8.7
		④	29.1	6.4	11.2

Tab.44 遺構A-①測色データ

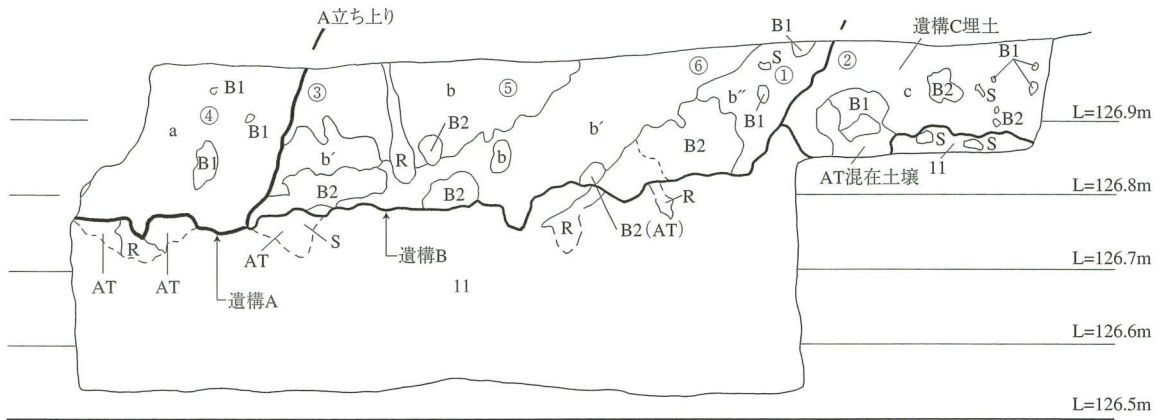


Fig.57 遺構A-②層位断面図(S=1/10)



Pl.99 遺構A-②層位断面写真

遺構A先行トレンチ②断面 (Fig.57, Pl.99, Tab.45)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できた。先行トレンチの断面においては、Pl.99に見えるように、A内部と外部における土色差があり、黒味が周囲より強い。これは、測色データにも現れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた土色のブロック「B1」が混入している。「B1」は「B2」と比較して、暗い色である。ブロックの混入量は少量であるため、埋土の上下に関らず土色は黒く見える。埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から21°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80m~129.83mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-②断面	b''	①	36.5	3.4	8.6
	c	②	35.7	3.9	8.4
	b	③	31.9	2.4	4.9
	a	④	31.0	1.7	3.7
	b	⑤	33.5	2.1	5.3
	b'	⑥	34.5	4.3	6.0

Tab.45 遺構A-②測色データ

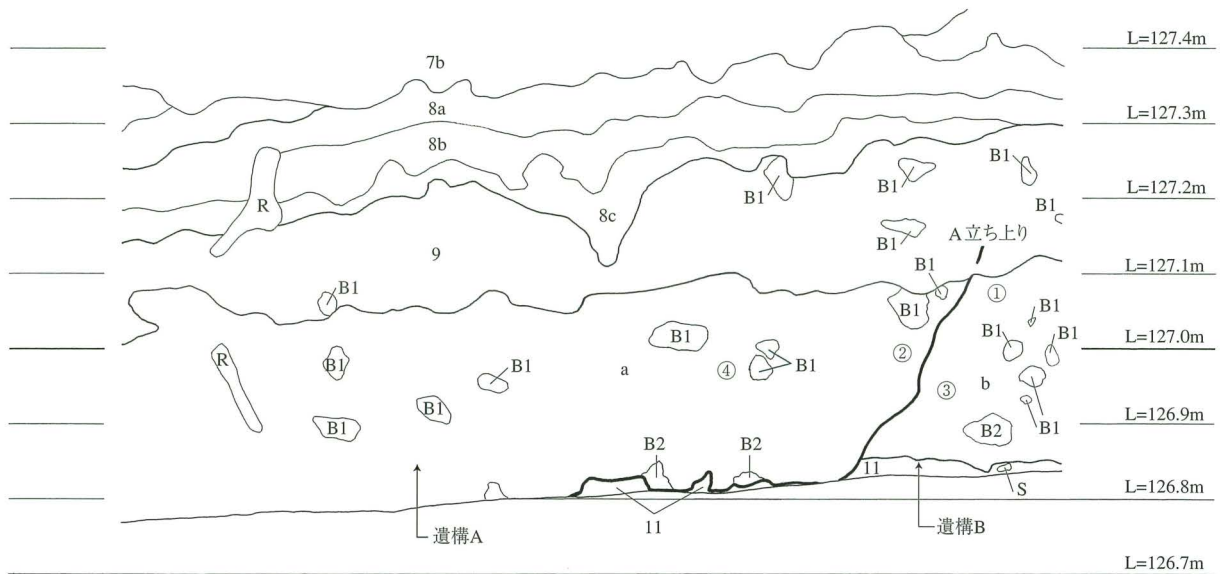


Fig.58 遺構A-③層位断面図 (S=1/10)



Pl.100 遺構A-③層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-③断面	b	①	29.8	2.3	3.5
	a	②	29.2	2.6	3.9
	b	③	31.4	2.8	4.6
	a	④	29.2	2.3	3.0

Tab.46 遺構A-③測色データ

遺構A中央ベルト③断面 (Fig.58, Pl.100, Tab.46)

平面的に検出された土色差がある範囲の連続性を中央ベルトの東面で確認した。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強い。ベルトの断面においては、Pl.100に見えるように、A埋土はB埋土より土色が暗く見え、測色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが若干混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.77m~126.82mの範囲に入るが、底部は南に向かってやや傾斜している。立ち上がり角度は鉛直から39°振れている。

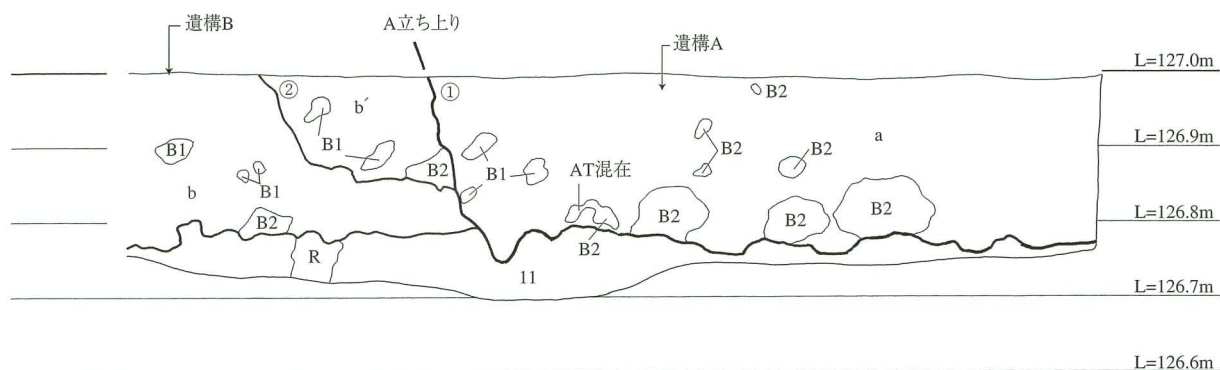


Fig.59 遺構A-④層位断面図(S=1/10)



Pl.101 遺構A-④層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-④断面	a	①	29.7	2.5	3.6
	b'	②	33.4	4.4	4.6

Tab.47 遺構A-④測色データ

遺構A先行トレンチ④断面 (Fig.59, Pl.101, Tab.47)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの西側断面である。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できた。ベルトの断面においては、Pl.101に見えるように、A埋土はB埋土より土色が暗く見え、測色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入している。各ブロックの内、「B1」がの包含量が少ない。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から39°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.77m~126.79mに達する。

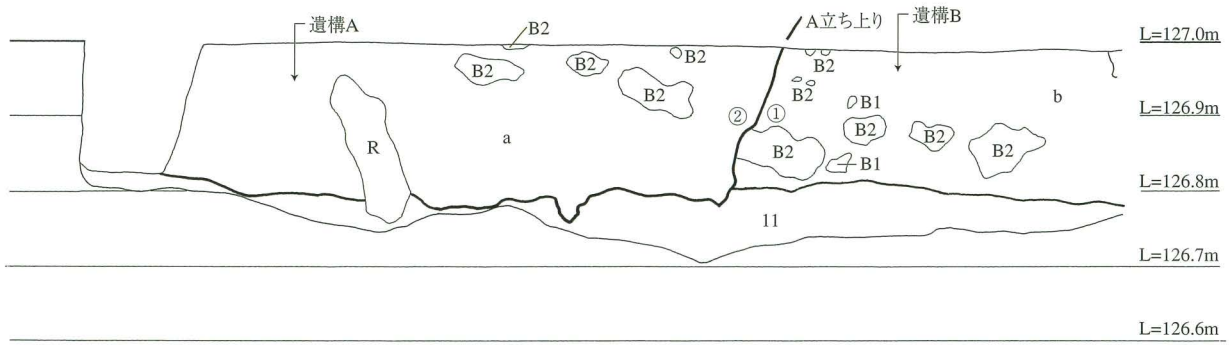
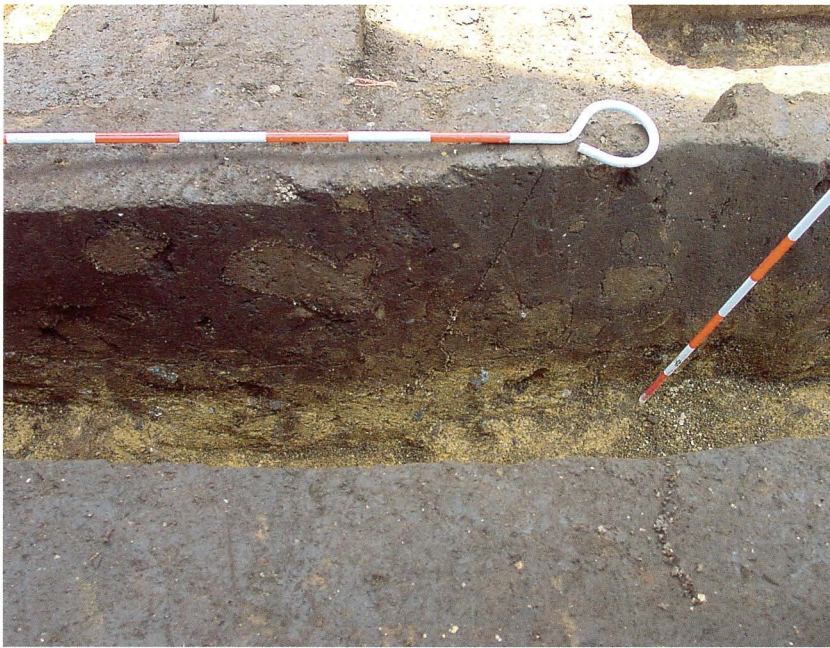


Fig.60 遺構A-⑤層位断面図(S=1/10)



Pl.102 遺構A-⑤層位断面写真

遺構A先行トレンチ⑤断面 (Fig.60, Pl.102, Tab.48)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。断面においては、Pl.102に見えるように、A埋土はB埋土より土色がやや暗く見え、測色データのL値にもこれが表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入しているものもある。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から23°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は2cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-⑤断面	b	①	31.1	3.3	4.0
	a'	②	30.4	2.8	3.9

Tab.48 遺構A-⑤測色データ

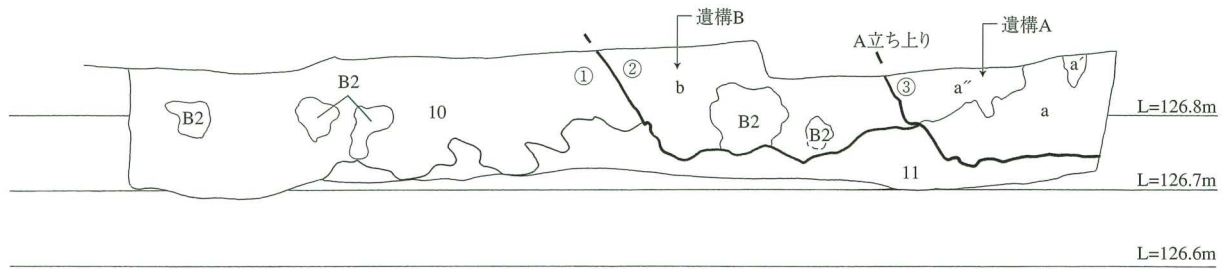


Fig.61 遺構A-⑥層位断面図 (S=1/10)



Pl.103 遺構A-⑥層位断面写真

断面名称土層名称	色測位置	L	a	b	
A-⑥断面	10	①	29.6	4.3	4.4
	b	②	31.6	4.1	4.2
	a''	③	30.6	4.5	4.9

Tab.49 遺構A-⑥測色データ

遺構A先行トレンチ⑥断面 (Fig.61, Pl.103, Tab.49)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Aの埋土色は、Pl.103に見えるように、B埋土より土色が暗く見え、測色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には、「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり部分で底部が一旦若干くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から23°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は1cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.75mに揃っている。

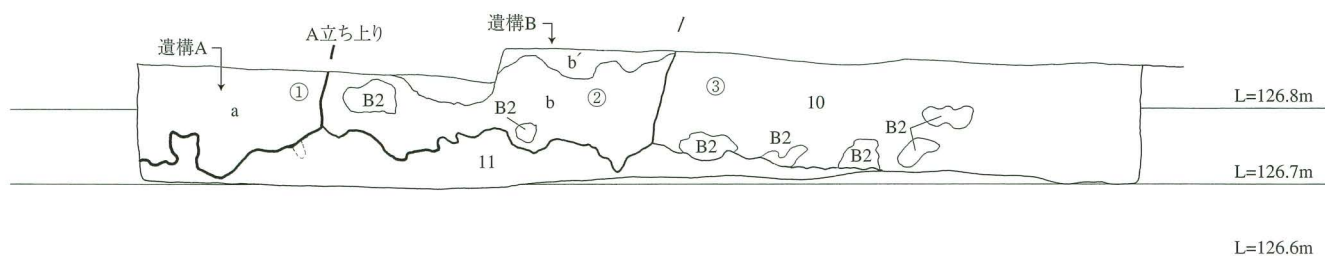


Fig.62 遺構A-⑦層位断面図 (S=1/10)



Pl.104 遺構A-⑦層位断面写真

遺構A先行トレンチ⑦断面 (Fig.62, Pl.104, Tab.50)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Aの埋土色は、Pl.104に見えるように、B埋土より土色の黒味が強くみえ、測色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は、他の断面と若干異なり立ち上がり直下の窪みはない。立ち上がり角度は鉛直から11°振れている。底部は第11層に接して凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.77mに達する。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-⑦断面	a	①	30.3	4.0	2.2
	b	②	31.1	3.5	3.1
	10	③	28.8	4.0	3.3

Tab.50 遺構A-⑦測色データ

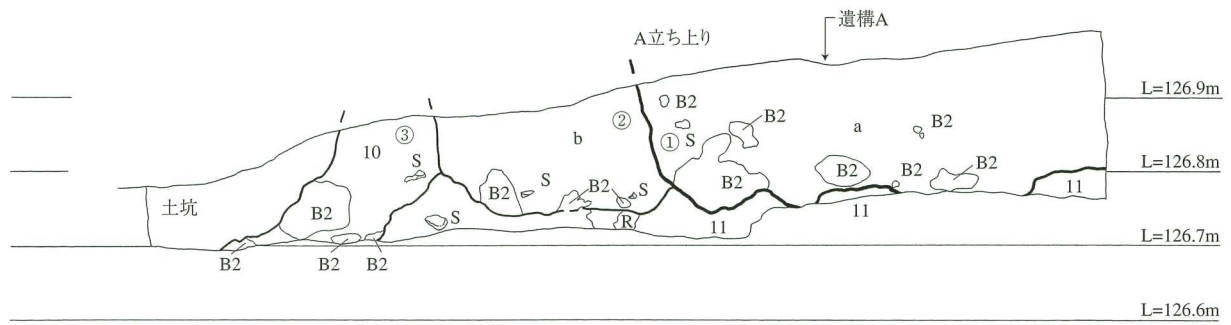


Fig.63 遺構A-⑧地層位面図(S=1/10)



Pl.105 遺構A-⑧層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-⑧断面	a	①	30.1	2.2	1.6
	b	②	29.4	2.5	2.0
	10	③	32.7	2.1	1.8

Tab.51 遺構A-⑧測色データ

遺構A先行トレンチ⑧断面 (Fig.63, Pl.105, Tab.51)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できた。先行トレンチの断面においては、Pl.105に見えるように、A埋土はB埋土より土色が暗く見える。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にブロックは細かく砕けたような状態のものもある。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり部分で底部が一旦若干くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から50°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80mに揃っている。

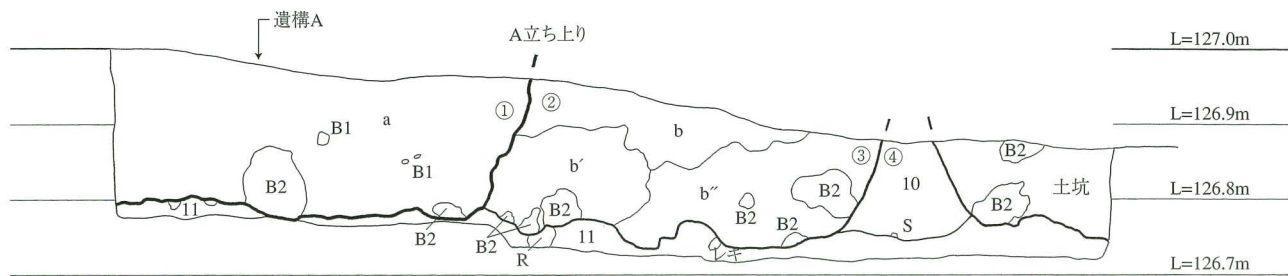


Fig.64 遺構A-⑨層位断面図 (S=1/10)



Pl.106 遺構A-⑨層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-⑨断面	a	①	30.0	2.8	1.8
	b	②	30.6	2.9	2.1
	b''	③	31.1	2.4	1.4
	10	④	28.0	3.6	2.1

Tab.52 遺構A-⑨測色データ

遺構A先行トレンチ⑨断面 (Fig.64, Pl.106, Tab.52)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Aの埋土色は、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが確認できた。先行トレンチの断面においては、Pl.106に見えるように、A埋土はB埋土より土色が暗く見え、測色データにもこれが表れている。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。一般的にブロックは細かく砕けたような状態のものがある。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり部分で底部が一旦若干くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から27°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は1cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.79m~126.80mに揃っている。

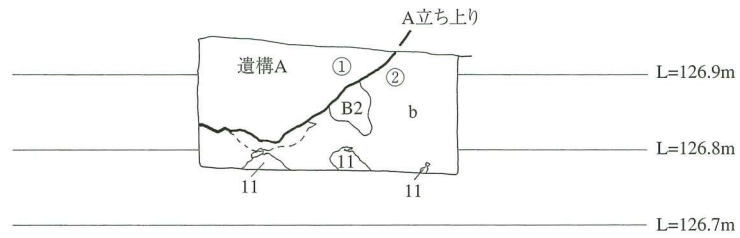


Fig.65 遺構A-⑩地層断面図 (S=1/10)



Pl.107 遺構A-⑩層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
A-⑩断面	a	①	29.7	8.7	1.7
	b	②	25.4	2.9	2.6

Tab.53 遺構A-⑩測色データ

遺構A先行トレンチ⑩セクション (Fig.65, Pl.107, Tab.53)

平面的に検出された土色差がある範囲である遺構Aに設けた先行トレンチの南側断面である。Pl.107に見えるように、遺構Aの土色は肉眼視でもB埋土よりも明るく、また、土質も粘性が高かった。測色データもAとBの土色差を示し、Bの埋土がより暗いことを示す。

遺構Aの埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。底部は標高126.83mに達する。立ち上がり角度は鉛直から55° 振れている。

遺構Aのまとめ

遺構境界面の有無

肉眼観察によってAの埋土とBの埋土の平面と断面における遺構境界面が確認できた。肉眼観察での土色差の認識については、各先行トレンチ及び中央ベルトにおいて測色計を用い肉眼観察の結果を追証した。

自然堆積層と異なる埋土状況

第9層中の岩本火山灰中の白色粒と斑状ブロック（B1・B2）が、落ち込み内の埋土中に混入していることが認められた。これらは、埋土中に、層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層とは異なる状況と言える。

平面プランにおける規格性の有無

遺構Aはコーナーを4ヶ所持つ方形プランを呈する。コーナーの角度計測値は、113°、103°となり、概ね100°に近似した角度であり、規格性があると考えられる。

落ち込みの帰属層位

各先行トレンチ及びベルトで検出された立ち上がり上場は第9層に達するかまたは、埋土中に第9層で特徴的な岩本火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層であると考えられる。

立ち上がり形状における規格性の有無

立ち上がり角度は23°・21°・39°・39°・23°・23°・11°・50°・27°・55°と概ね相互に近似した値を示すものが9ヶ所ある。また、立ち上がり直下の形状を確認した10ヶ所のうち7ヶ所について直下にくぼみがあり、形状には規格性があると判断できる。

掘削痕の有無

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められた。ただし、断面形状が尖底状になる凹凸は、①②④⑤断面で認められた。

ピットが共伴するか

ピットと縦穴の平面ラインとの位置関係から、遺構Aと関連すると考えられるピットは、7号ピットの1基のみである。ピットの検出は、遺構Bの埋土除去後第11層上面で行なわれた。これはピットの埋土と遺構Bの埋土との土色差が微妙であったためと考えられる。中央ベルトの西側については、遺構Bの埋土を除去していないため、他にも検出される可能性も考えられる。

平坦に近い底面であるか

遺構Aの底面は概ね126.80m±3cmの範囲に収まっており、概ね平坦であると考えられる。

以上のことから、遺構Aと仮称して調査を実施した土色差のある範囲に関しては、平面と断面の形状において規格性を持ち、底部の形状は若干の凹凸を持ちつつ、平坦に近い形状を呈し、規格性があると考えられる。これらのことから、人為的に掘削された遺構とするのに矛盾はないと考えられる。

また、埋土色は第9層よりは暗く、第10層により近くなるが、第9層の構成物である岩本火山灰中の白色粒や薄い色のブロックであるB1が混入するなど、第10層と異なる特徴が見てとれる。さらに、遺構Bの項でも触れるが、全般的に第10層よりも埋土色が暗い特徴が見られる。同時に、第10層の下位に堆積している第10層b中に包含されるブロック「B2」が上位に上がるなど、自然堆積層とするには不自然な点が多い。このことは、Aの埋土が周囲の第10層とは異なる堆積環境で形成された可能性が考えられる。

なお、遺構Aについては、上部構造が構築されたことを示すピットが共伴する可能性が考えられることと、底面が平坦である点から考慮すると、「水迫遺跡Ⅰ」「水迫遺跡Ⅱ」で示した、縦穴建物跡の要件に近いものであると言える。ここでは、ピットの全てが検出されていないために、形状的に第Ⅰ調査区・西側拡張区で検出された縦穴建物跡と類似した遺構との記述に止めたい。

Pit No.	関連する遺構	縦穴からの距離(cm)
1	遺構C	5
2	遺構C	-10
3	遺構C	0
4	遺構D	5
5	遺構B	13
6	遺構B	14
7	遺構A	18
8	遺構B	18
9	遺構B	22
10	遺構B	28

Tab.54 ピットと平面ラインとの距離

② 遺構B

遺構B平面 (Fig.66, Pl.95, Pl.96)

遺構Bは、11トレンチ東西ベルト北側の中央付近で検出された。当初、周囲の第10層と土色が異なる範囲として認識された。同時に、埋土は第10層よりも粘性が高い範囲であることが特徴であった。

遺構Bは略東西南北の4辺を有し、4コーナーを有する。東辺と西辺はほぼ直線的な形状であり、北辺はやや膨らみを持つ形状となる。北辺と西辺が作るコーナーの角度は113°であり、東辺と南辺が形成するコーナーが作り出す角度は108°と近似した角度となる。これらのことから、遺構Bの平面形は方形であると言える。遺構Bの法量は、長軸最大3.00m、短軸最大2.41mとなる。

中央ベルトの東側では、第10層上面付近で検出された平面ラインが、局所的な土色の変異ではないことを確認するために、埋土及びその外側の第10層を第11層上面付近まで掘り下げた。この結果、第10層上面付近で確認した平面ラインに対応する土色の異なる範囲が第11層の上面付近でも確認することができた。つまり、第10層上面で確認した土色差は、第10層中に連続して存在し、第11層上面まで達するという一定の深さを持っていたことが明らかとなった。

特に重要と考えられるのは、土色が異なって見える範囲がまず平面で確認され、同一位置で下位に掘り下げても、土色の違いが連続することである。このことは、土色が異なる範囲は、シミなどではなく、立体的な範囲であることを示している。また、土色が異なる範囲は、少なくとも第10層上面付近から、第11層上面付近までの範囲に広がっているということである。

通常の遺構検出は、平面形の確認と断面形の確認のみで行なわれるが、今回は平面と断面に加えて、下位の平面形状も確認し、肉眼で確認したものに有意性があるか否かを確認しようとした。同時に多数のベルトを残し、断面形はもちろんのこと、第10層上位において検出された平面ラインをベルト上面に残そうとした。

さて、遺構Bについては、遺構の可能性が強いと考えられたため、遺構の要件を満たすか否かの確認を行なう目的から、7本の先行トレンチと5ヶ所のベルトで断面を確認し、記録作業を実施した。次から、断面の詳細を記述する。

遺構B東西ベルト①断面 (Fig.67, Pl.108, Pl.109, Tab.55)

遺構Bの南側コーナーは東西ベルトの更に南側に位置すると考えられ、平面的に検出されたラインは東西ベルトに伸びる。東西ベルトではBの立ち上がりが2ヶ所検出されている。位置関係から東立ち上がりと呼ぶ。Pl.108に見えるように、東立ち上がりは、第10層aと第10層bを切っている。特に、第10層bはより明瞭に断絶している。測色データでは、埋土bと第10層土とのb値における相違が出ている。東立ち上がり周辺のデジタル画像を画像解析すると、第10層bが断絶し埋土が入り込む様子が更に明らかに示せた (Pl.109)。

西立ち上がりは第10層を切っている。土色は埋土が明るい。Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが若干混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は概ね標高126.75m近くになるものと考えられる。立ち上がり角度は、左側で鉛直から40°、右側で30°振れている。

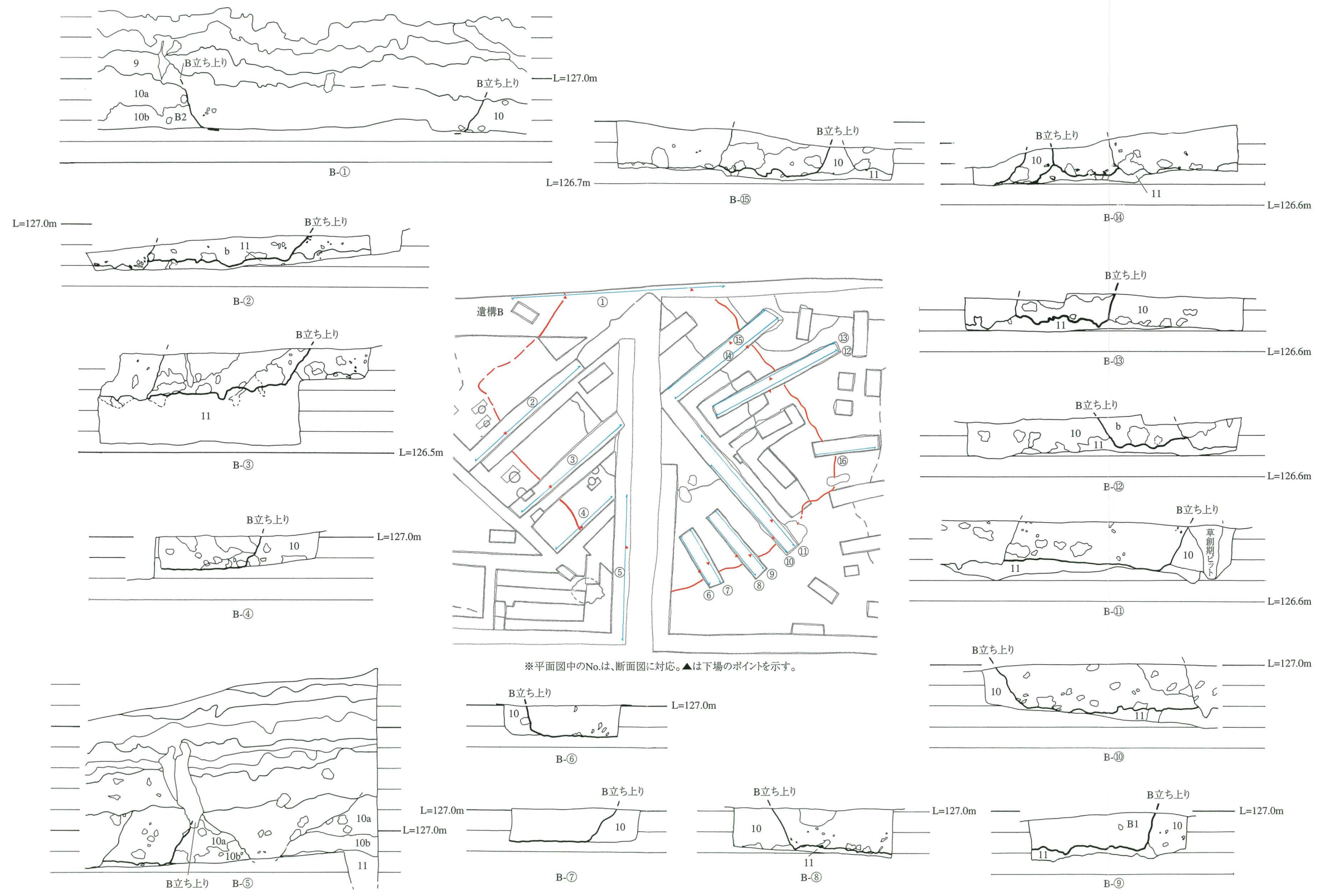


Fig.66 竖穴建物跡B全体図・インデックス (Section : S=1/20, 中央平面図 : S=1/40)

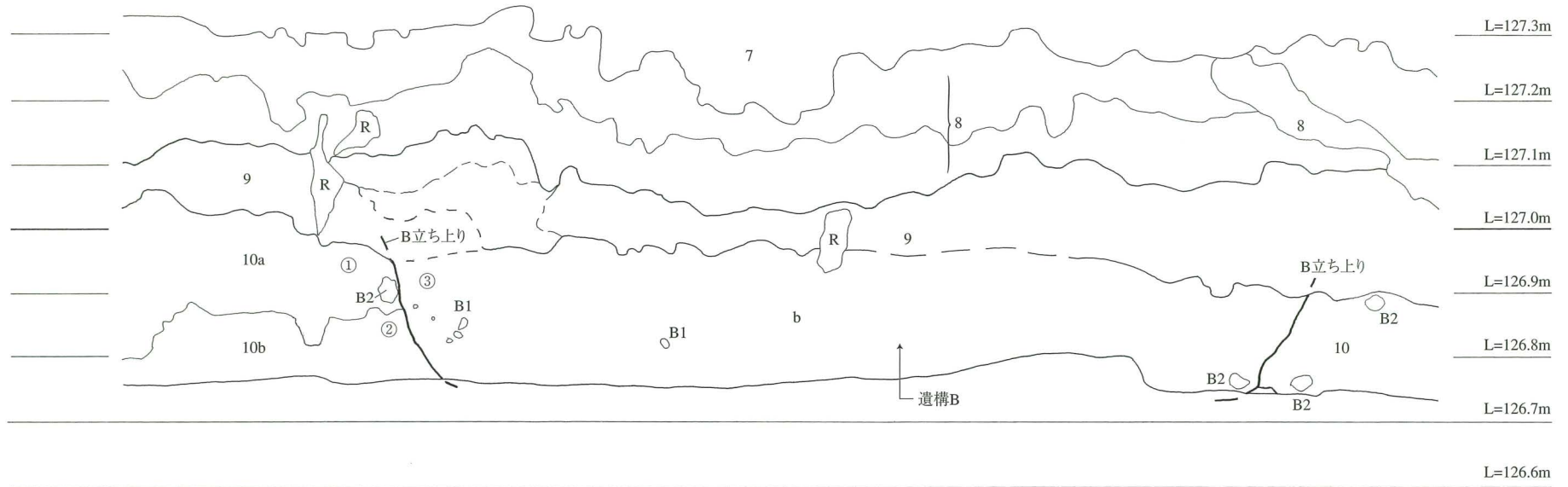


Fig.67 遺構B-①層位断面図(S=1/10)

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-①断面	10a	①	26.1	2.6	3.8
	10b	②	29.9	2.3	3.8
	b	③	28.6	2.8	4.6

Tab.55 遺構B-①測色データ



Pl.108 遺構B-①層位断面写真
(左は東立ち上り, 右は西立ち上り)



PI.109 遺構B-①層位断面解析画像

左の写真はPI.108に見える遺構Bの東立ち上り部分の解析画像である。画像解析はimage++2.60を用い、デジタルカメラで撮影した画像をトリミングし、カラー抽出を実施した。カラーモデルは「RGB」を選択、抽出したのはRed115-184, Green119-255, Blue0-255の範囲である。抽出結果はマスク画像(8ビット)で出力した。これを見ると、肉眼で認識した、第10層aと第10層bが断絶して落ち込みが明瞭に表れている。特に、第10層bの断絶は明瞭であり、自然堆積層と異なる土壌が画像右側にあることが示されている。



PI.110 遺構B-②層位断面写真

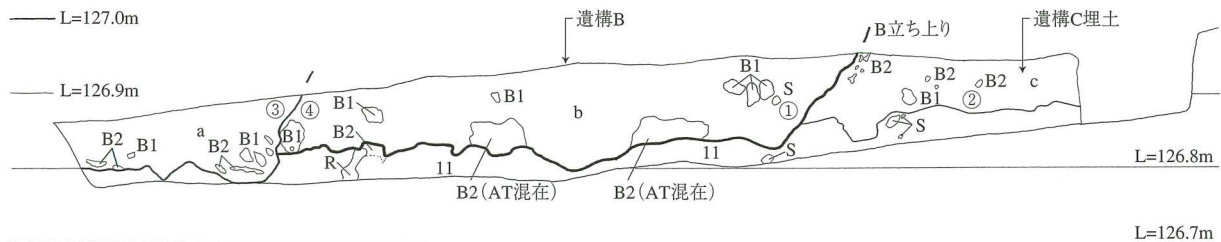


Fig.68 遺構B-②層位断面図(S=1/10)

遺構B先行トレンチ②断面 (Fig.68, PI.110, Tab.56)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Bの埋土色は、PI.110に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは遺構Cの埋土を切り入り込み、第11層にも達している。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にB1は細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から44°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.84mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-②断面	b	①	29.3	4.6	8.3
	c	②	28.5	5.1	9.1
	a	③	27.5	5.2	8.7
	b'	④	29.1	6.4	11.2

Tab.58 遺構B-④測色データ

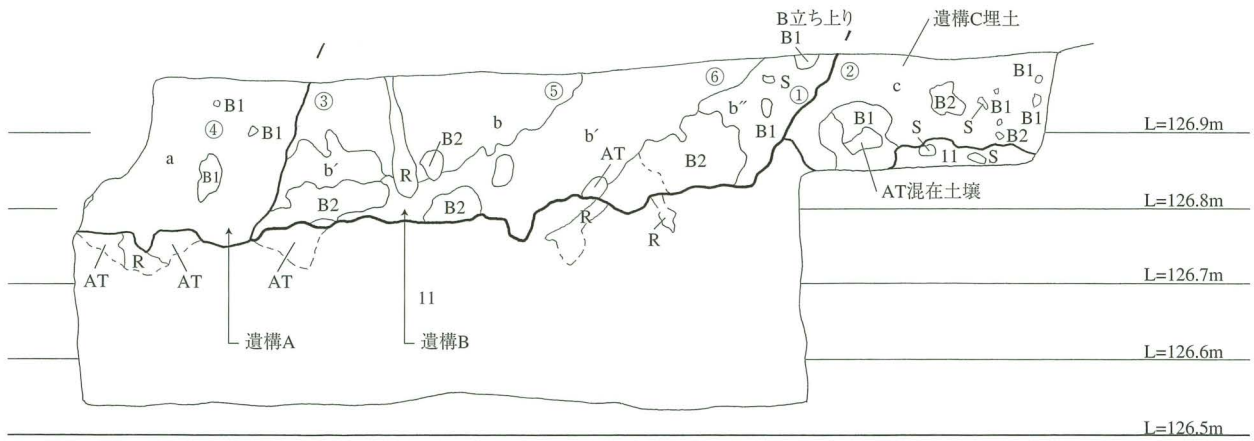


Fig.69 遺構B-③層位断面図(S=1/10)



Pl.111
遺構B-③層位断面写真

遺構B先行トレンチ③断面 (Fig.69, Pl.111, Tab.57)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Bの埋土色は、Pl.111に見えるように全体的に肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。

埋土bは遺構Cの埋土を切り入り込み、第11層にも達している。埋土は土色によって3層 (b・b'・b'') に分層した。埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。また、「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。一般的にB1の混入量は少ないが、混入したものは何れも長径5cmに満たない小形のものである。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

落ち込みの底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、概ね標高126.80mと126.78mほばに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から36°振れている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-③断面	b''	①	36.5	3.4	8.6
	c	②	35.7	3.9	8.4
	b	③	31.9	2.4	4.9
	a	④	31.0	1.7	3.7
	b	⑤	33.5	2.1	5.3
	b'	⑥	34.5	4.3	6.0

Tab.57 遺構B-③測色データ

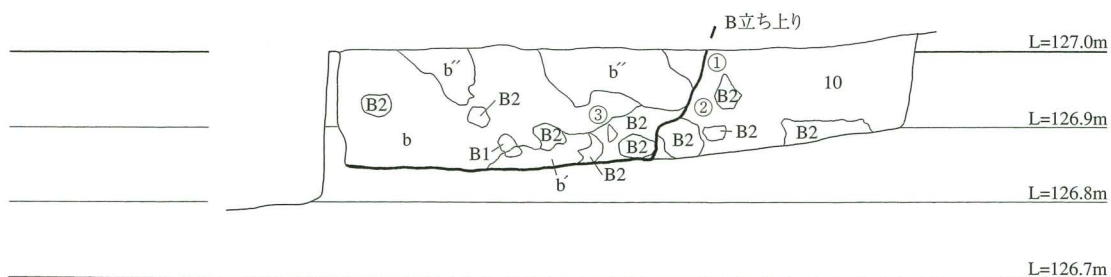


Fig.70 遺構B-④層位断面図(S=1/10)



Pl.112
遺構B-④層位断面写真

遺構B先行トレンチ④断面 (Fig.70, Pl.112, Tab.58)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Bの埋土色は、Pl.112に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。埋土は土色によって3層 (b・b'・b'') に分層した。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。B1の混入量は少ない。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、概ね標高126.85mに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から22°振れている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-④断面	10	①	31.6	3.5	7.4
	10	②	31.8	3.7	7.6
	b	③	32.8	3.7	7.4

Tab.58 遺構B-④測色データ

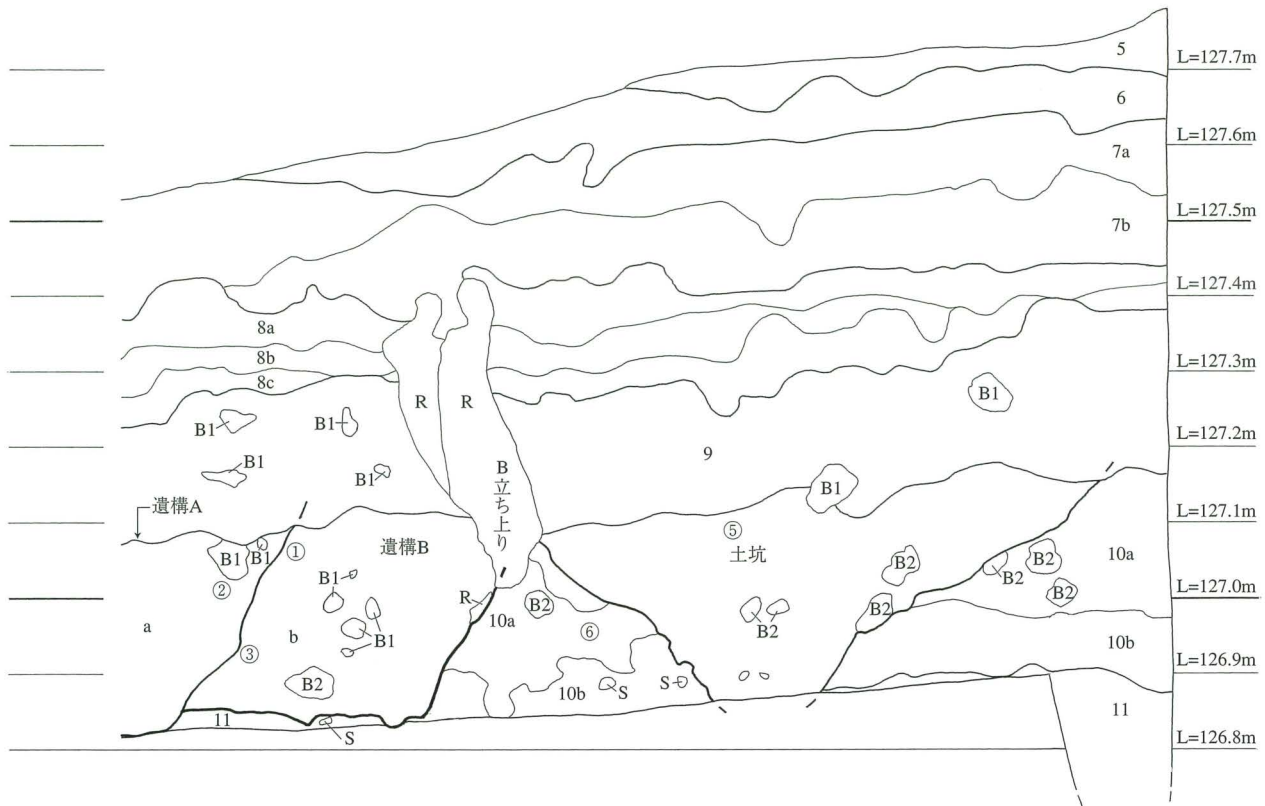


Fig.71 遺構B-⑤層位断面図 (S=1/10)



Pl.113 遺構B-⑤層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑤断面	b	①	29.8	2.3	3.5
	a	②	29.2	2.6	3.9
	b	③	31.4	2.8	4.6
	土坑埋土	⑤	31.4	2.9	3.9
	10a	⑥	32.4	3.4	4.7

Tab.59 遺構B-⑤測色データ

遺構B中央ベルト⑤断面 (Fig.71, Pl.113, Tab.59)

平面的に検出された土色差がある範囲の連続性を中央ベルトの東面で確認した。Bの埋土色は、Pl.113に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層 aと第10層 bを切り入り込み、第11層にも達している。特に、第11層の漸移層と考えられる第10層 bが、明確に切れる層位境界線が見られた。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが若干混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から24°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は数cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.85mに揃っている。

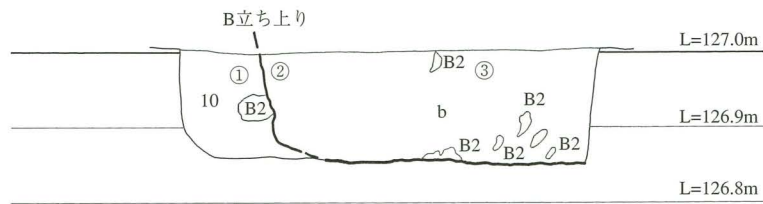


Fig.72 遺構B-⑥層位断面図(S=1/10)



Pl.114 遺構B-⑥層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑥断面 (Fig.72, Pl.114, Tab.60)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの東側断面である。Bの埋土色は、Pl.114に見えるように、肉眼でも第10層よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込んでいる。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B2」と呼称した。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第11層に接してやや凹凸を見せるが、概ね標高126.85mに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から11°振れている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑥断面	10	①	32.7	3.2	3.6
	b	②	30.8	4.1	6.1
	b	③	31.8	3.6	4.2

Tab.60 遺構B-⑥測色データ

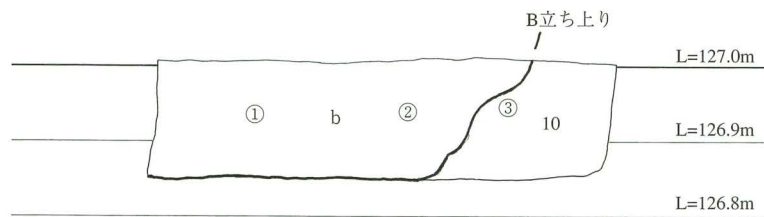


Fig.73 遺構B-⑦層位断面図(S=1/10)



Pl.115
遺構B-⑦層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑦断面 (Fig.73, Pl.115, Tab.61)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの西側断面である。Bの埋土色は、Pl.115に見えるように、肉眼でも第10層よりも黄色味が弱く見える。この差は、測色データのb値の相違となっている。埋土Bは第10層Cに切り入り込んでいる。

埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は概ね標高126.85mに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から35°振れている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑦断面	b	①	28.7	4.2	5.5
	b	②	29.3	4.4	5.6
	10	③	29.5	5.0	7.1

Tab.61 遺構B-⑦測色データ

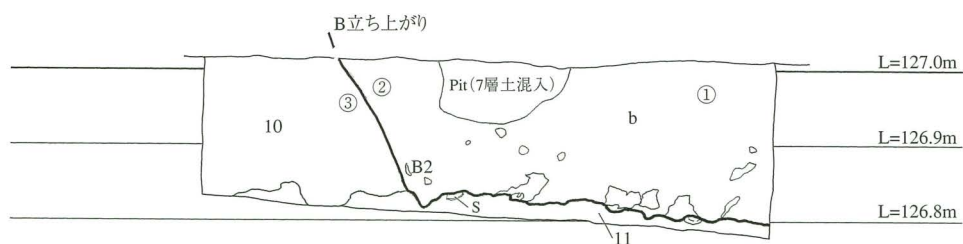


Fig.74 遺構B-⑧層位断面図 (S=1/10)



Pl.116
遺構B-⑧層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑧断面 (Fig.74, Pl.116, Tab.62)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの東側断面である。Bの埋土色は、Pl.116に見えるように、肉眼でも第10層よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色の小ブロックが混入している。図面に「B2」と明記したものなどである。全般的にB2は細かく砕けたような状態で混入し、形状があまり明瞭ではない。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から37°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せる。凹凸の頂部は概ね標高126.83mに揃い、落ち込み内側に向けて3cm程落ち込む。

遺構B埋土上面に、ピットが見られる。このピット内部にはサツマ火山灰が混入することから、第7層に帰属するピットであると考えられる。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑧断面	b	①	30.4	4.6	6.6
	b	②	31.1	5.1	7.5
	10	③	28.4	4.2	5.5

Tab.62 遺構B-⑧測色データ

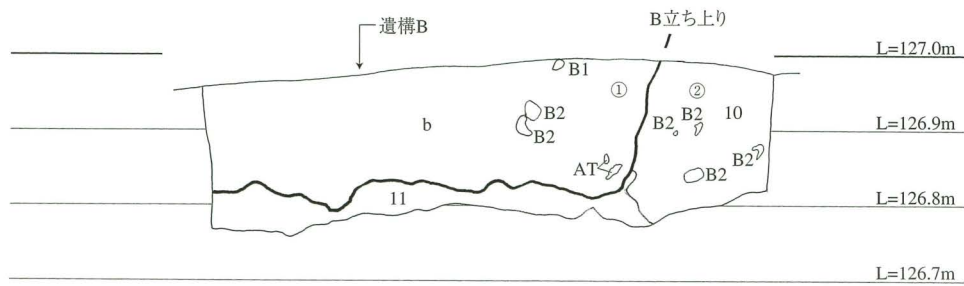


Fig.75 遺構B-⑨層位断面図 (S=1/10)



Pl.117
遺構B-⑨層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑨断面 (Fig.75, Pl.117, Tab.63)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの東側断面である。Bの埋土色は、Pl.117に見えるように、肉眼でも第10層よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。

Aの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色の小ブロックが混入している。図面に「B1」「B2」と明記したものである。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。また、「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。このような明るい色のブロックは埋土中には極めて少なく、第10層中により多く含まれている。

立ち上がり形状は底部において一旦ややくぼむ。立ち上がり角度は鉛直から15°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せる。凹凸の頂部は概ね標高126.83mに揃う。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑨断面	b	①	30.7	4.7	6.2
	10	②	29.5	5.0	7.1

Tab.63 遺構B-⑨測色データ

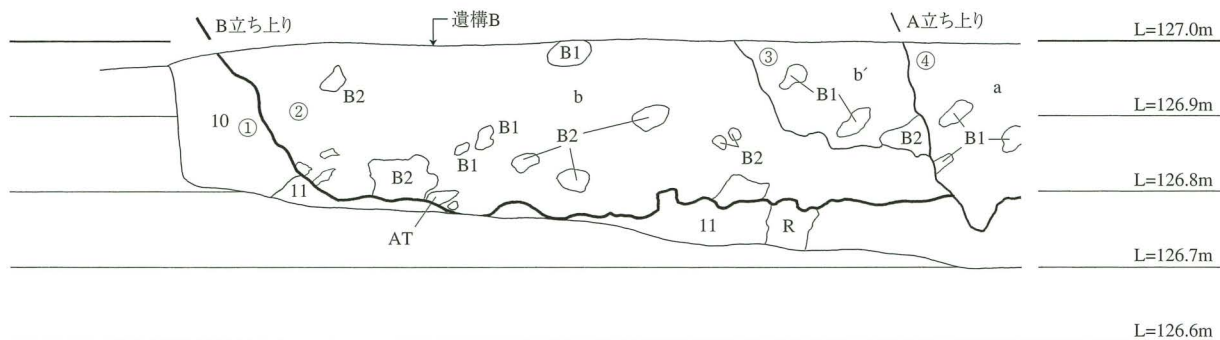


Fig.76 遺構B-⑩層位断面図(S=1/10)



Pl.118
遺構B-⑩層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑩断面 (Fig.76, Pl.118, Tab.64)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Bの埋土色は、Pl.118に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にB1の混入量は少ない。また、第11層のブロックも混入している。これは土色からB2とは区別できる。埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80mに揃っている。立ち上がり角度は鉛直から41°振れている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑩断面	10	①	33.0	3.6	3.2
	b	②	32.2	3.8	3.9
	b'	③	28.3	2.2	3.4
	a	④	29.7	2.5	3.6

Tab.64 遺構B-⑩測色データ

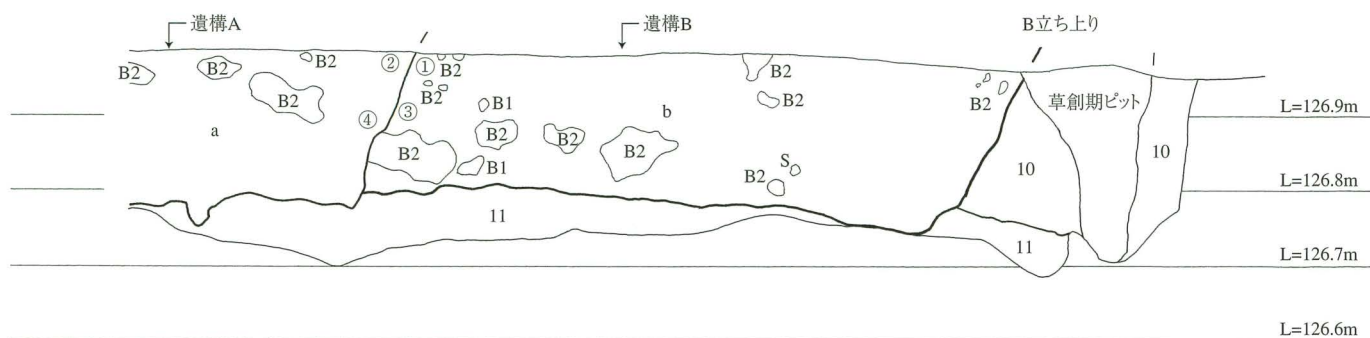


Fig.77 遺構B-⑪層位断面図 (S=1/10)



Pl.119
遺構B-⑪層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑪断面 (Fig.77, Pl.119, Tab.65)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの西側断面である。Bの埋土色は、Pl.119に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。測色データでは、L値に若干の差があり、埋土bがより明るいことを示している。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。Bの立ち上がりの一部は、第7層を埋土とするピットの一部を切られている。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。全般的にB1は細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から34°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.80mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑪断面	b	①	30.7	2.5	3.5
	a	②	30.2	2.4	3.2
	b	③	31.1	3.3	4.0
	a	④	30.4	2.8	3.9

Tab.65 遺構B-⑪測色データ

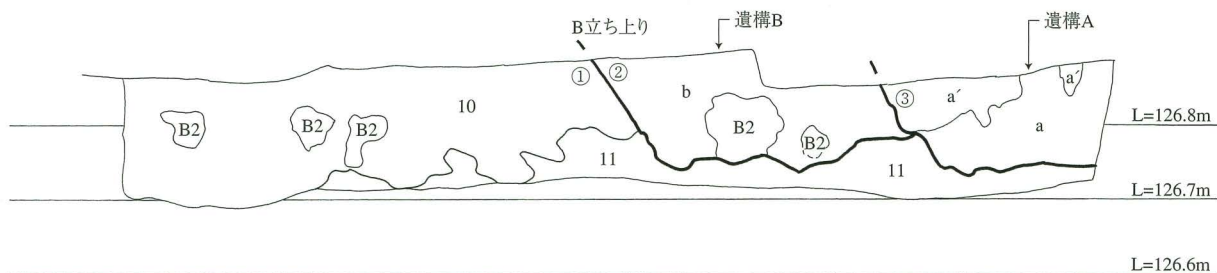


Fig.78 遺構B-⑫層位断面図(S=1/10)



Pl.120
遺構B-⑫層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑫断面 (Fig.78, Pl.120, Tab.66)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Bの埋土色は、Pl.120に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも切り込み入り込んでいる。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から40°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.75mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑫断面	10	①	29.6	4.3	4.4
	b	②	31.6	4.1	4.2
	a'	③	30.6	4.5	4.9

Tab.66 遺構B-⑫測色データ

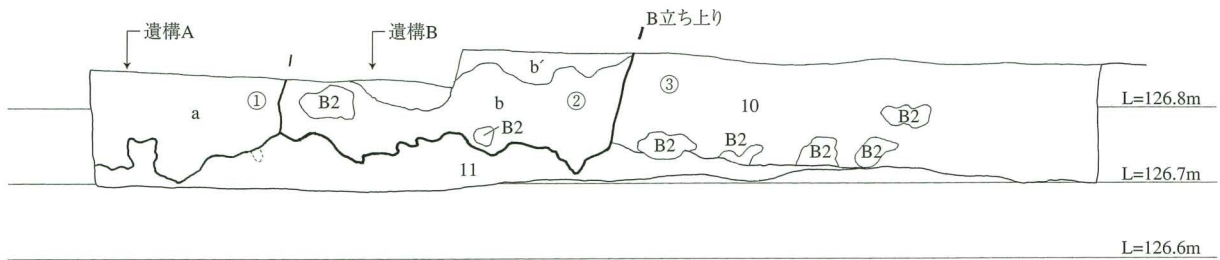


Fig.79 遺構B-⑬層位断面図 (S=1/10)



Pl.121 遺構B-⑬層位断面写真

遺構B先行トレンチ⑬断面 (Fig.79, Pl.121, Tab.67)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの南側断面である。Bの埋土色は、Pl.121に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも切り込み入り込んでいる。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が若干混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から13°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は3cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.75mに揃っている。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑬断面	a	①	30.3	4.0	2.2
	b	②	31.1	3.5	3.1
	10	③	28.8	4.0	3.3

Tab.67 遺構B-⑬測色データ

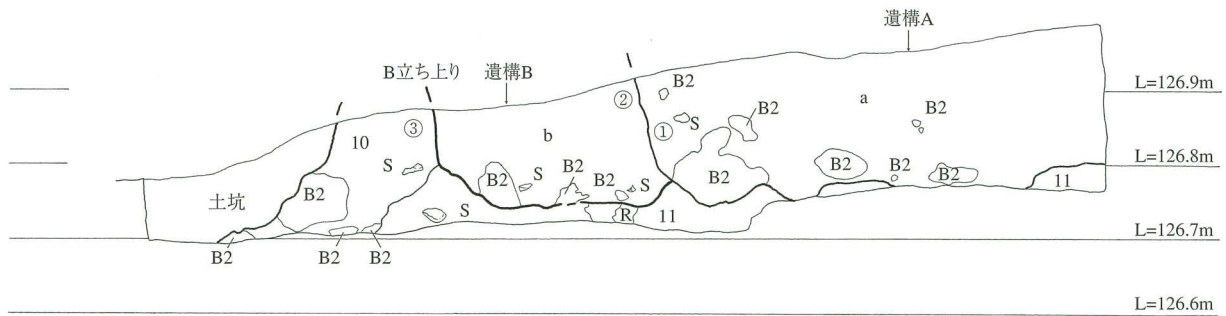
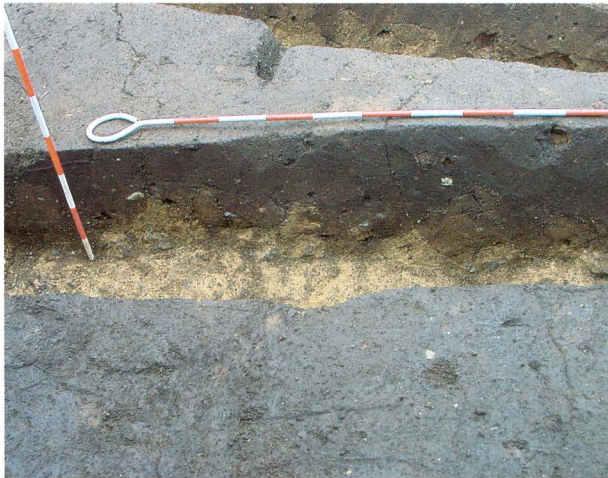


Fig.80 遺構B-⑭層位断面図 (S=1/10)



Pl.122 遺構B-⑭層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑭断面	a	①	30.1	2.2	1.6
	b	②	29.4	2.5	2.0
	10	③	32.7	2.1	1.8

Tab.68 遺構B-⑭測色データ

遺構B先行トレンチ⑭断面 (Fig.80, Pl.122, Tab.68)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Bの埋土色は、Pl.122に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層に達している。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、概ね標高126.78m程度となる。立ち上がり角度は鉛直から36°振れている。

遺構B先行トレンチ⑮断面 (Fig.81, Pl.123, Tab.69)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた先行トレンチの北側断面である。Bの埋土色は、Pl.123に見えるように、肉眼でも周辺よりも茶色味が強く見える。この差は、測色データにも見える。埋土Bは第10層を切り入り込み、第11層にも達している。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が若干混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。埋土は、土色差から3層に細分した(b・b'・b")。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、2cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.78m程度となる。立ち上がり角度は鉛直から24°振れている。

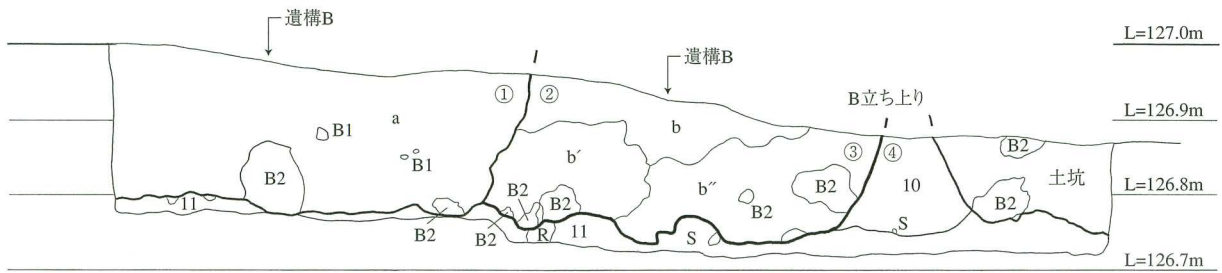


Fig.81 遺構B-⑮層位断面図(S=1/10)



Pl.123 遺構B-⑮層位断面写真



Pl.124 遺構B-⑯層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
B-⑮断面	a	①	30.0	2.8	1.8
	b	②	30.6	2.9	2.1
	b''	③	31.1	2.4	1.4
	10	④	28.0	3.6	2.1

Tab.69 遺構B-⑮測色データ

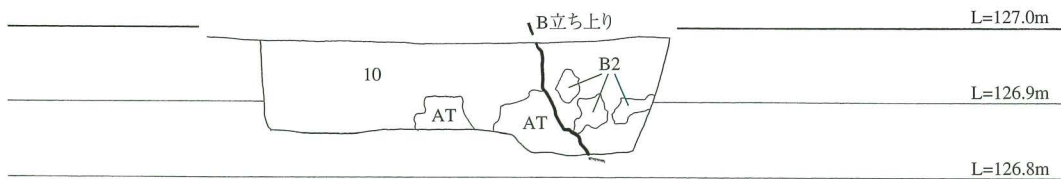


Fig.82 遺構B-⑯層位断面図(S=1/10)

遺構B先行トレンチ⑯断面 (Fig.82, Pl.124)

平面的に検出された土色差がある範囲の断面形状を確認するために設けた先行トレンチの北断面である。Bの埋土色は、Pl.124に見えるように、肉眼でも第10層よりもやや黒味が強く見える。埋土bは第10層と第11層を切り入り込んでいる。

Bの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B2」が混入している。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

先行トレンチでは、第11層まで掘り抜いていないが、第11層上面にも落ち込みの平面ラインが確認されている。立ち上がり角度は鉛直から35°振れている。

遺構Bのまとめ

遺構境界面の有無

肉眼観察によって遺構Bの埋土と第10層との平面と断面における遺構境界面が確認できた。肉眼観察での土色差の認識については、各先行トレンチ及び中央ベルトにおいて測色計を用い肉眼観察の結果を追証した。また、画像解析によって肉眼観察の結果を追証した。

自然堆積層と異なる埋土状況

第9層中の岩本火山灰中の白色粒と斑状ブロック（B1・B2）が、落ち込み内の埋土中に混入していることが認められた。これらは、埋土中に、層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層と異なる状況と言える。

平面プランにおける規格性の有無

遺構Bはコーナーを4ヶ所持つ方形プランを呈する。コーナーの角度計測値は、 113° 、 108° となり、概ね 100° に近似した角度であることが判明し、規格性があると判断できる。

落ち込みの帰属層位

各先行トレンチ及びベルトで検出された立ち上がり上場は第9層に達するかまたは、埋土中に第9層で特徴的な岩本火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層であると考えられる。

立ち上がり形状における規格性の有無

立ち上がり角度は 40° ・ 30° ・ 44° ・ 36° ・ 22° ・ 24° ・ 11° ・ 35° ・ 37° ・ 15° ・ 41° ・ 34° ・ 40° ・ 13° ・ 36° ・ 24° と概ね全ての立ち上がりが 40° 以内となり、また、立ち上がり直下の形状を確認した15ヶ所のうち7ヶ所について直下にくぼみがあり、形状には規格性があると判断できる。

掘削痕の有無

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められた。ただし、断面形状が尖底状になる凹凸は、③⑧⑨⑫⑬断面で認められた。

ピットが共伴するか

ピットと堅穴の平面ラインとの位置関係から、遺構Bと関連すると考えられるピットは、5号ピット・6号ピット・8号ピット・9号ピット・10号ピットの5基である。Tab.54で堅穴の平面ラインからピットへの最短距離を示した。この結果、遺構Bに関連すると考えられるピットは、堅穴から概ね30cm以内に位置するものであることが判明した。

ピットの検出は、遺構Bの埋土除去後第11層上面で行なわれた。ピットの埋土と第10層との土色差が微妙であったためと考えられる。

平坦に近い底面であるか

遺構Bの底面は、第11層上面となっている。底面は若干の凹凸を見せるが、概ね $126.80\text{m} \pm 5\text{cm}$ の範囲に収まっている。中央ベルトにおける第9層と第8層の層理境界面やさらに上層の層理境界面を見ると、北から南に向けて $15\text{cm} \sim 20\text{cm}$ ほど傾斜をもって堆積し、遺構B周辺の地形が南方向に傾斜していることがわかる。一方、遺構Bの底面は、自然地形と異なる形状を呈しており、平坦な形状であると言える。

以上のことから、遺構Bと仮称して調査を実施した土色差のある範囲に関しては、平面と断面の形状において規格性が認められ、底部も若干の凹凸を持ちつつ、平坦に近い形状を呈し、規格性があると考えられる。これらのことから、人為的に掘削された遺構とするのに矛盾はないと考えられる。

また、埋土色は第9層よりは暗く、第10層により近い土色ではあるが、第9層の構成物である岩本火山灰中の白色粒や薄い色のブロックであるB1が混入し、第10層の下位に堆積している第10層b中に包含されるブロック「B2」が上位に上がるなど自然堆積層と異なる特徴がある。さらに、全般的に第10層よりもさらに暗い土色であるとともに、第10層より粘性が高いという特徴があることから、遺構境界面を境に10層が断絶していると言える。土色が異なることや、土質が異なることは、Bの埋土が周囲の第10層とは異なる堆積環境で形成された可能性が考えられる。

なお、遺構Bについては、上部構造が構築されたことを示すピットが共伴する可能性が高いことと、底面が平坦である点から考慮すると、「水迫遺跡Ⅰ」「水迫遺跡Ⅱ」で示した、堅穴建物跡の要件に近いものであると言える。ここでは、ピットの全てが検出されていないために、堅穴建物跡の可能性が高い遺構と記述するに止めるが、形状的には第Ⅰ調査区・西側拡張区で検出された堅穴建物跡と酷似している。

③遺構C

遺構Cの検出は、第10層の下位から第11層上面付近を探索している段階で行なわれた。平面ラインは、第10層の下位の黄色味が強くなる部分において、暗い土色の範囲として認識したものである。断面形状を確認したところ第10層を切り立ち上がる状況が確認できた。検出状況では、遺構A・Bは第10層上面において土色差があることが把握されていたが、遺構Cの平面は第10層上面レベルでは十分把握されず、第10層下部、つまり黄色味の強い第14層への漸移層付近で把握された。この検出状況は、西側拡張区のベルトB南側においては、遺構の平面を第10層b上面で把握したのと状況が類似している。以下遺構Cのまとめを述べた後に、平面・断面の詳細を述べる。

遺構Cまとめ

遺構境界面の有無

肉眼観察によって遺構Cの平面と断面における遺構境界面が確認できた。肉眼観察での土色差の認識については、各先行トレンチにおいて測色計と画像解析とによって肉眼観察の結果を追証した。

自然堆積層と異なる埋土状況

第9層中の岩本火山灰中の白色粒と斑状ブロック(B1・B2)が、落ち込み内の埋土中に混入していることが認められた。これらは、埋土中に、層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層と異なった状況である。

平面プランにおける規格性の有無

直線的な2辺と、それらが直角に近い角度で交わるコーナーで形成される。コーナーの角度は115°と遺構A・Bに類似しているため、方形と考えられ、平面形状に規格性があると考えられる。

落ち込みの帰属層位

埋土中に第9層で特徴的な岩本火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層の可能性はある。

立ち上がり形状における規格性の有無

立ち上がり角度は39°・24°・39°と概ね近似した値を示すものがある。また、立ち上がり直下の形状を確認した4ヵ所のうち2ヶ所について直下にくぼみがあり、形状には規格性があると考えられる。

掘削痕の有無

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められたが、尖底断面のものは、③④断面でのみ認められた。

ピットが共伴するか

Tab.54で堅穴の平面ラインからピットへの最短距離を示した。遺構C付近に見られるピットは、平面ライン上または平面ラインの内側に位置するものがあり、ピットと遺構Cとが切り合い関係にある可能性を示している。

平坦に近い底面であるか

底部は標高126.93m±3cmであり、平坦な形状を呈していると考えられる。遺構Cが検出された中央ベルト東側地点の第11層上面の形状は、東西3mの範囲で約15cm程度の傾斜を持って西へ傾いている。遺構C底部のレベルは、上述のように、東西方向の自然地形の傾斜と無関係な形状となっており、自然地形とは異なる。またこのことは、遺構Cが自然地形の傾斜に伴い第10層土が残ったものではないことも示している。

遺構Cと仮称して調査を実施した土色差のある範囲に関しては、平面と断面の形状において規格性が認められ、底部も若干の凹凸を持ちつつ、平坦に近い形状を呈し、規格性があると考えられる。これらのことから、人為的に掘削された遺構とするのに矛盾はないと考えられる。

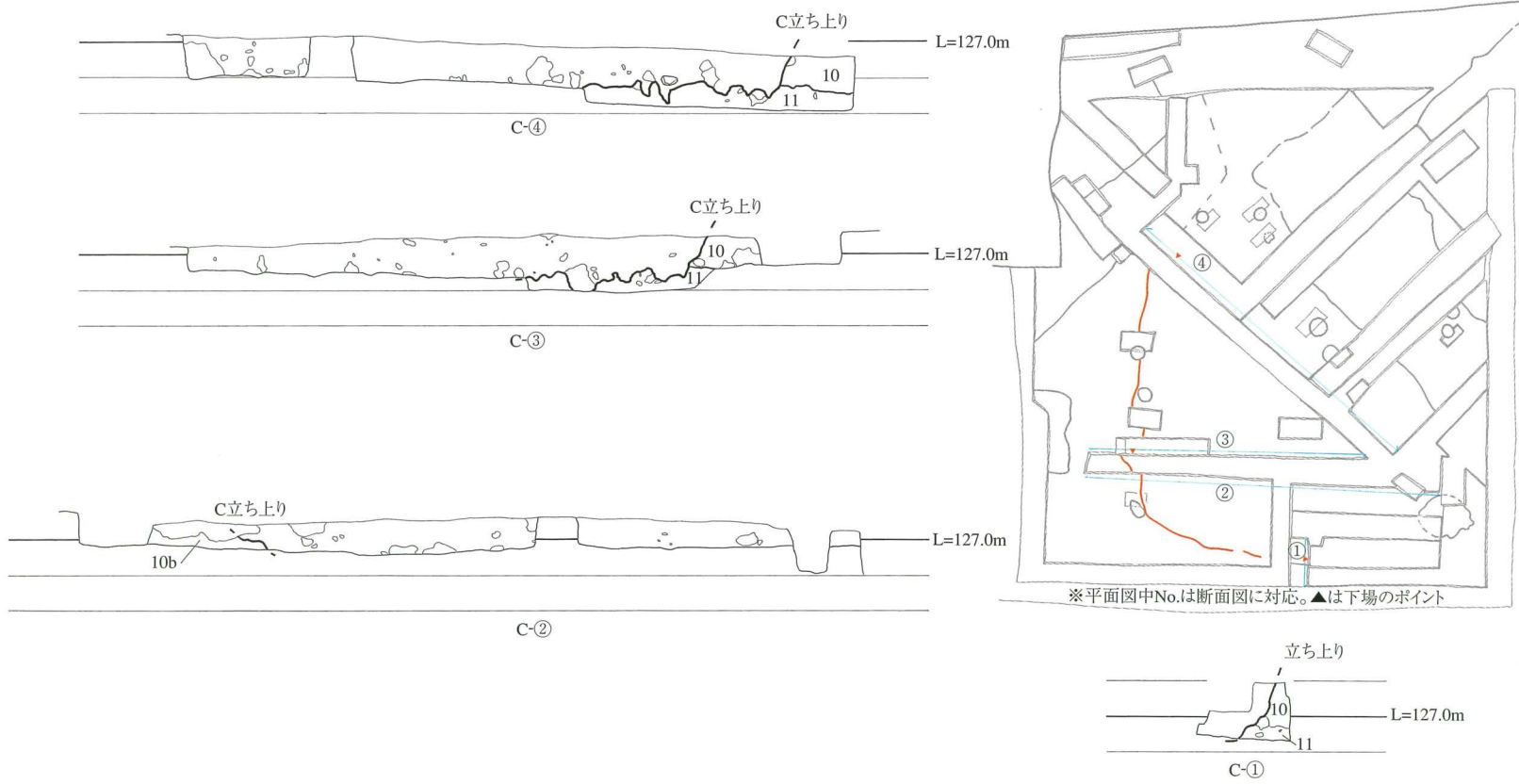
また、埋土色は第9層よりは暗く、第10層により近い土色ではあるが、第9層の構成物である岩本火山灰中の白色粒や薄い色のブロックであるB1及び、第10層b中に包含されるブロック「B2」が混在するなど、自然堆積層と異なる特徴がある。さらに、埋土は全般的に第10層よりもさらに暗い土色であるという特徴があることから、遺構境界面を境に10層が断絶していると言える。土色が異なることは、Bの埋土が周囲の第10層とは異なる堆積環境で形成された可能性を示すものとする。

遺構Cの用途に関しては、堅穴建物跡の要件である平坦な床面を持つことは満たしているが、上部構造を構築するためのピットが伴うとは断言できないため、堅穴建物跡に類似するものであると述べるに止めたい。

遺構C平面 (Fig.83, Pl.95)

平面形状は直線的な2辺(北辺と東辺)と、それらが直角に近い角度で交わるコーナーで形成される。コーナーの角度は115°と遺構A・Bに類似しているため、方形と考えられる。南側の辺は遺構Bとの切り合いによって失われたものと考えられる。また、西辺については十分確認できていないが、Cを斜めに横切る小ベルトの④断面に立ち上がりの可能性がある部分が見えており (Fig.87)、この部分が西辺であるとする、東西約1.4mとなる。また、南辺は遺構Bによって切られているため、最低でも南北1.8m以上と考えられる。法量では第I調査区検出の1号堅穴建物跡に近いと考えられる。

Fig.83 遺構C全体図・インデックス (Section:S=1/20, 平面図:S=1/40)



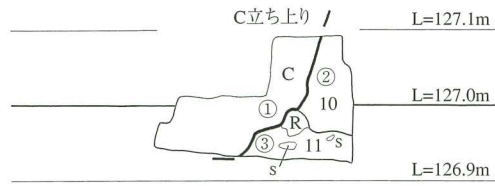


Fig.84 遺構C-①層位断面図(S=1/10)



Pl.125 遺構C-①層位断面写真

遺構C先行トレンチ①断面 (Fig.84, Pl.125, Tab.70)

平面的に検出された土色差がある範囲が、11トレンチ北壁に入り込む手前で断面を捉えるために設けた先行トレンチの西側断面である。第10層と第11層の一部が途切れて埋土cが入りこんでいる状況が検出された。Cの埋土色は、Pl.125に見えるように、肉眼でも周辺よりも黒味が強いことが認識される。これは、測色データにもL値の違いとなって表れている。

立ち上がりの一部の検出であり、断面形状の全体的な特徴はつかめないが、立ち上がり角度は鉛直から39°振れている。また、立ち上がりの底部は標高126.93mに達している。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
C-①断面	c	①	38.6	3.1	5.8
	10	②	40.1	4.5	7.9
	11	③	45.7	7.3	14.1

Tab.70 遺構C-①測色データ

遺構C先行トレンチ②断面 (Fig.85, Pl.126, Tab.71)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた小ベルトの北側断面である。南側断面(③断面)では明瞭に立ち上がりが確認されたため、北断面でも確認を行なった。立ち上がりの上半には樹根があるため、全体形状は明瞭ではない。下半部では、第10層bが切れて埋土が入り込む状況が観察できた。第10層bと埋土の土色差は、測色データにも現れている。

Cの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。一般的に「B1」は細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

底部は概ね標高126.95mに達する。立ち上がりに段がある形状で③断面と類似している。

遺構C先行トレンチ③断面 (Fig.86, Pl.127・128, Tab.72)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた小ベルトの南側断面である。Cの埋土色はPl.127に見えるように、第10層よりも黒味が強い。これは、測色データにも現れている。Pl.127について画像解析を実施した。これを見ると埋土と第10層との境界線が表れている。画像解析はimage++2.60を用い、デジタルカメラで撮影した画像をトリミングし、カラー抽出を実施した。カラーモデルは「RGB」を選択、抽出したのはRed0-255, Green0-93, Blue0-106の範囲である。抽出結果はマスク画像(8ビット)で出力した。

Cの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。一般的にブロックは細かく砕けたような状態で混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から24°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は2cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.95mに揃っている。

遺構C先行トレンチ④断面 (Fig.87, Pl.129, Tab.73)

平面的に検出された土色差がある範囲に設けた小ベルトの南側断面である。Cの埋土色は、Pl.129に見えるように、第10層よりも黒味が強いことが確認できた。これは、測色データにも現れている。

Cの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B1」と「B2」を比較すると、「B1」が暗い色である。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。「B1」は含量が少ない。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から39°振れている。底部は第11層に接して若干の凹凸を見せるが、凹凸の頂部は2cm程度の範囲に納まり、概ね標高126.90m程度である。

Fig.87左側端には茶褐色のブロックが見える。このブロックは急に断絶しており、その形状も対辺の立ち上がりに類似した形状である。このため、遺構Cの西辺の立ち上がりになる可能性も考慮する必要があるだろう。

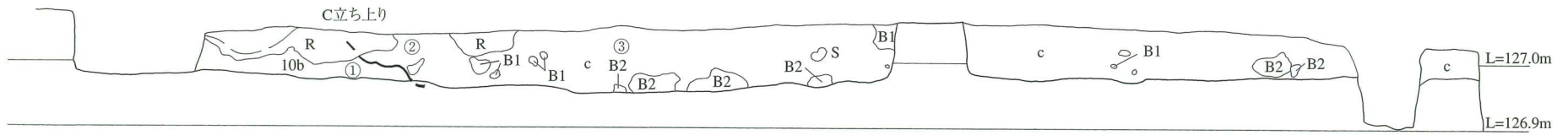


Fig.85 遺構C-②断面図 (S=1/10)

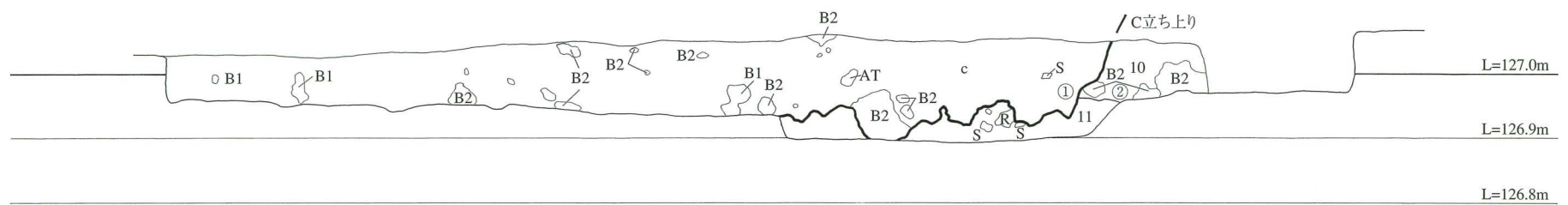


Fig.86 遺構C-③断面図 (S=1/10)

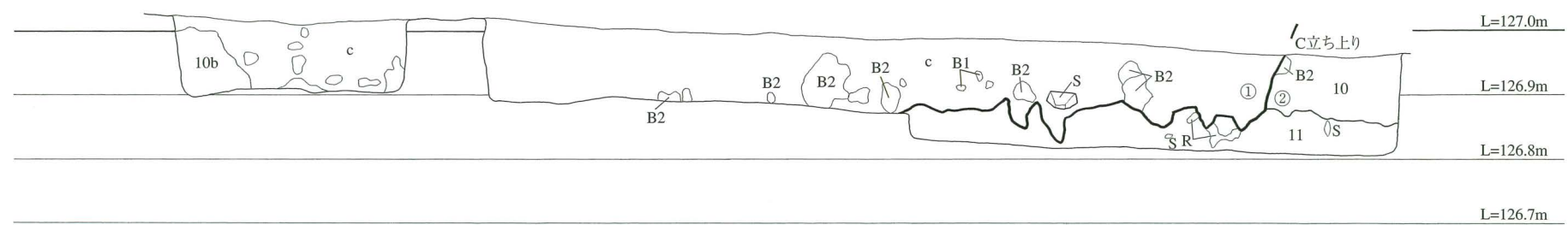


Fig.87 遺構C-④断面図 (S=1/10)



Pl.126 遺構C-②層位断面写真



Pl.127 遺構C-③層位断面写真



Pl.129 遺構C-④層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
C-②断面	10b	①	36.4	4.8	10.2
	c	②	32.6	2.3	5.2
	c	③	34.2	2.8	6.5

Tab.71 遺構C-②測色データ



Pl.128 遺構C-③解析画像

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
C-③断面	c	①	30.7	4.0	6.9
	10	②	32.0	4.2	7.2

Tab.72 遺構C-③測色データ

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
C-④断面	c	①	29.3	5.1	7.8
	10	②	31.6	4.6	7.0

Tab.73 遺構C-④測色データ

④ 遺構D

遺構D平面 (Fig.88, Pl.95)

11トレンチ南東隅において検出された。土色の異なる範囲の検出は、第10層上面で行なわれている。遺構Dは11トレンチ南東隅で検出された土色の異なる範囲の中で、更に土色が異なっていることから平面的に分離した2基（遺構Dと遺構E）の1つである。

平面形状は直線的に走る2辺（北辺と西辺）と、それらが直角に近い角度で接するコーナーで形成される形状と考えられる。コーナーの角度は105°と復元でき、遺構A・Bに類似しており、方形と考えられるが、検出された2辺ともに東西ベルトと東壁に入り込むため全体の形状は不明である。遺構Dには共伴する可能性のあるピットは検出されていない。遺構Eとの切り合い関係があり、また土色差が微妙であるため、ピットが検出されていないことも考えられる。

遺構Dは平面、断面においてE埋土との遺構境界面が確認された。これは肉眼観察で行なったが、各先行トレンチにおいて測色計を用い肉眼観察の結果を追証した。また、第9層中の岩本火山灰中の白色粒と斑状ブロック（B1・B2）が、落ち込み内の埋土中に混在していることが認められた。これらは、埋土中に層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層にない特徴を有する。

各断面で検出された立ち上がり上場は第9層に達するかまたは、埋土中に岩本火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層であると考えられる。

確認した立ち上がり角度は、19°・22°と概ね近似した値を示すため、形状には規格性があると判断できる。

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められた。いずれも断面形状は尖底状であり、掘削痕跡の可能性も考えられる。

2ヶ所の断面で確認したところ、底面は126.80mに揃っているため、水平に近い底面であると考えられ、底面形状に規格性が認められる。

このように遺構Dについては、平面形状や断面形状からは形状に規格性があると考えられ、遺構の可能性が高いと考えられるが、用途に関しては竪穴建物跡に類似しているとの記述するに止めたい。

遺構D東西ベルト①断面 (Fig.88, Pl.130, Tab.74)

平面的に検出された土色差が東西ベルトに入り込んだ部分の北断面である。Dの埋土色は、Pl.130に見えるように、肉眼でも遺構Eの埋土よりも黒味が強く見える。この差は、測色データのL値にも見える。埋土dはE埋土を切り、第11層にも入り込んでいる。Dの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B1」が混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。立ち上がり角度は鉛直から19°振れている。底部は概ね標高126.80mに達する。

遺構D東壁②断面 (Fig.88, Pl.130-2, Tab.74)

平面的に検出された土色差が11トレンチ東壁に入り込んだ部分の東断面である。Dの埋土色は、肉眼でも遺構Eの埋土よりも黒味が強く、測色データのL値の差異となって表れている。埋土DはE埋土を切り、第11層にも入り込んでいる。Dの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロックが混入している。それぞれ、「B1」「B2」と呼称した。「B2」は第11層の始良カルデラ噴出物層に土質が類似する。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。立ち上がり角度は鉛直から22°振れている。底部は概ね標高126.80mに達する。

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
D-①断面	d	①	28.8	2.6	1.9
E-①断面	e	②	29.6	2.5	3.0
		③	30.6	2.9	3.6
		④	30.3	2.1	5.3
		⑤	39.4	7.1	13.4

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
D-②断面	e	①	30.3	2.3	3.5
		②	29.2	2.1	2.1

Tab.74 遺構D-①②・E-①測色データ

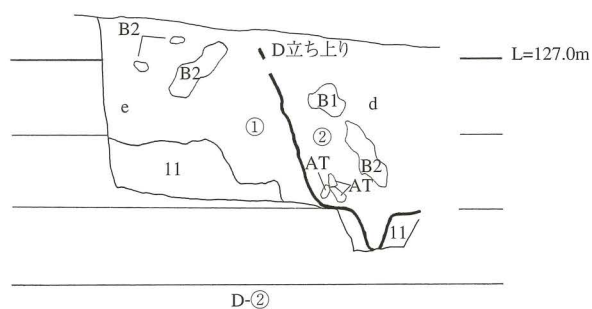
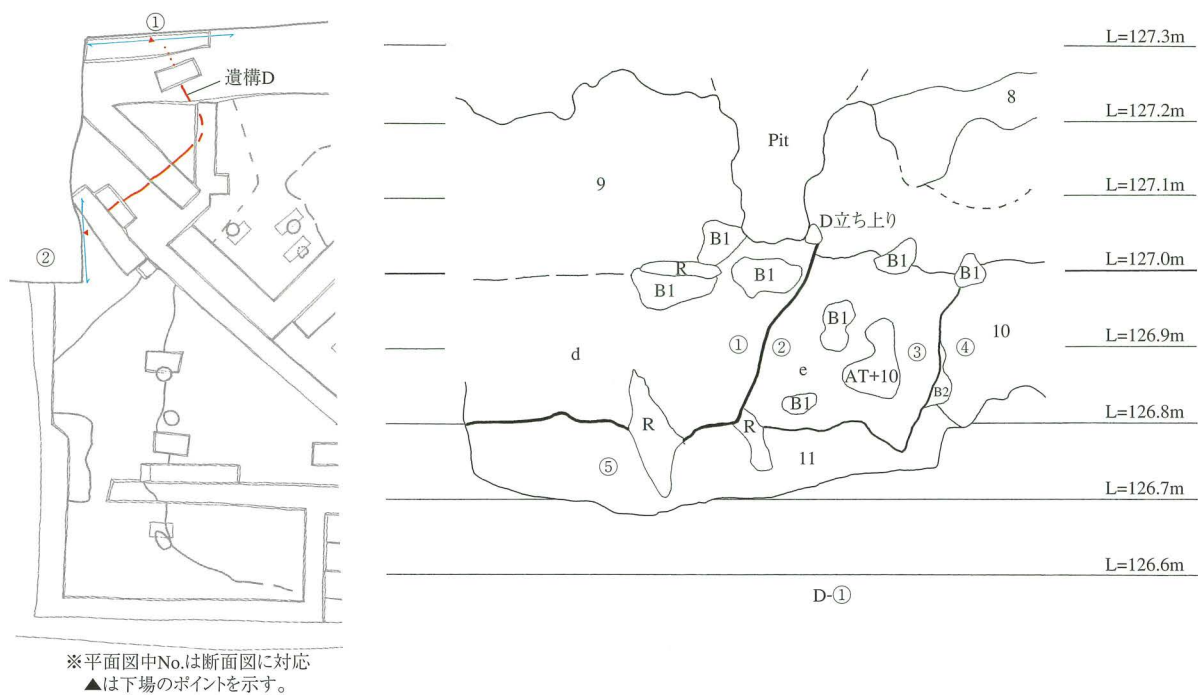


Fig.88 遺構D全体図・インデックス・各断面図 (Section:S=1/10, 平面図:S=1/40)



Pl.130 遺構D-①層位断面写真



Pl.130-2 遺構D-②層位断面写真

⑤ 遺構E

遺構E平面 (Fig.89, Pl.95)

11トレンチ南東隅において検出された。この部分での土色の異なる範囲の検出は、第10層上面の検出時点で行なわれている。遺構Eは11トレンチ南東隅で検出された土色の異なる範囲の中で、更に土色が異なっていることから平面的に分離した2基(遺構Dと遺構E)の1つである。

平面形は直線的に走る2辺(北辺と西辺)と、それらが接するコーナーで形成される。コーナーの角度は125°であり、遺構Dと比較してやや開いたコーナーとなる。検出された2辺ともに東西ベルトと東壁に入り込むため全体の形状は不明である。

遺構Eの外辺には、遺構Eに共伴する可能性のあるピットが1基検出されている(4号ピット)。

遺構Eは平面、断面において遺構境界面が確認できる。これは肉眼観察で行なったが、各断面において測色計を用い肉眼観察の結果を追証した。また、第9層中の岩本火山灰中の白色粒と斑状ブロック(B1・B2)が、落ち込み内の埋土中に混入していることが認められた。これらは、埋土中に層位の上下関係とは無関係に堆積し、自然堆積層にない特徴を有する。

各断面で検出された立ち上がり上場は第9層に達するかまたは、埋土中に岩本火山灰中の白色粒が確認されたため、掘削開始層位は第9層であると考えられる。

確認した立ち上がり角度は、40°・24°となる。

各先行トレンチにおいて、底面の断面には凹凸が認められたが、断面形状は尖底状のものを含めて様々であり、掘削痕跡か否かは不明である。

2ヶ所の断面で底面のレベルを確認したところ、①断面では126.80m、②断面では126.90mにそれぞれ揃っている。Fig.88では、第11層上面が段落ちしている状況が見られる。このため、底面が全体的に水平な形状であるとは言えない。

以上のことから、遺構Eは第9層の構成物が混在した埋土を持ち、ピットを伴う落ち込みであるものの、遺構A～遺構Dとは同列に扱い難いことから、ここでは擬似遺構(下山2000)として取り扱っておく。

(文献)

下山 寛 2000 「西多羅ヶ迫遺跡における炉跡の可能性のあるものについて-路跡擬似遺構の事例をとおして-」『水迫遺跡からのメッセージ～日本集落の源流をさぐる～』指宿市教育委員会

遺構E東西ベルト①断面 (Fig.89, Pl.131, Tab.74)

平面的に検出された土色差のある範囲が東西ベルトに入り込んだ部分の北断面である。Eの埋土色は、Pl.131に見えるように、肉眼でも第10層の埋土よりも暗く見える。この差は、測色データのb値にも見え、第10層の方が黄色味が強いことが分かる。埋土Dは第10層を切り入り込み、第11層にも切り込み入り込んでいる。



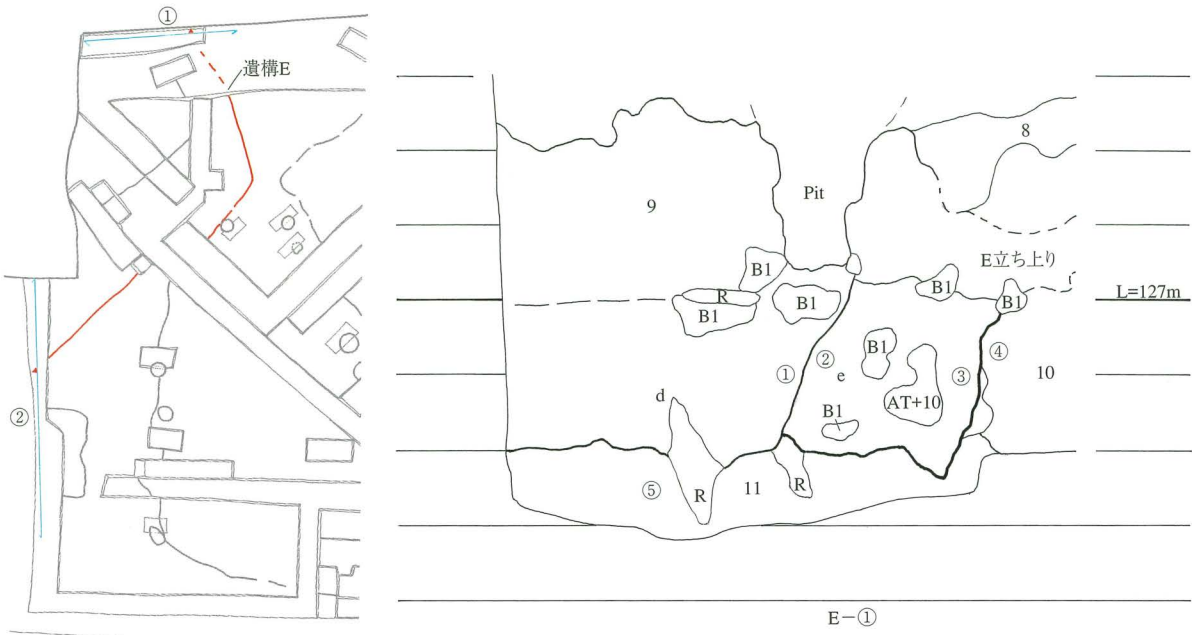
Pl.131 遺構E-①層位断面写真



Pl.132 遺構E-②層位断面写真

断面名称	土層名称	色測位置	L	a	b
E-②断面	土抗2埋土	①	30.1	2.5	2.9
		②	29.9	2.7	3.3
		③	28.6	3.0	3.6

Tab.75 遺構E-②測色データ



※平面図中No.は断面図n対応。
▲は下場のポイントを示す。

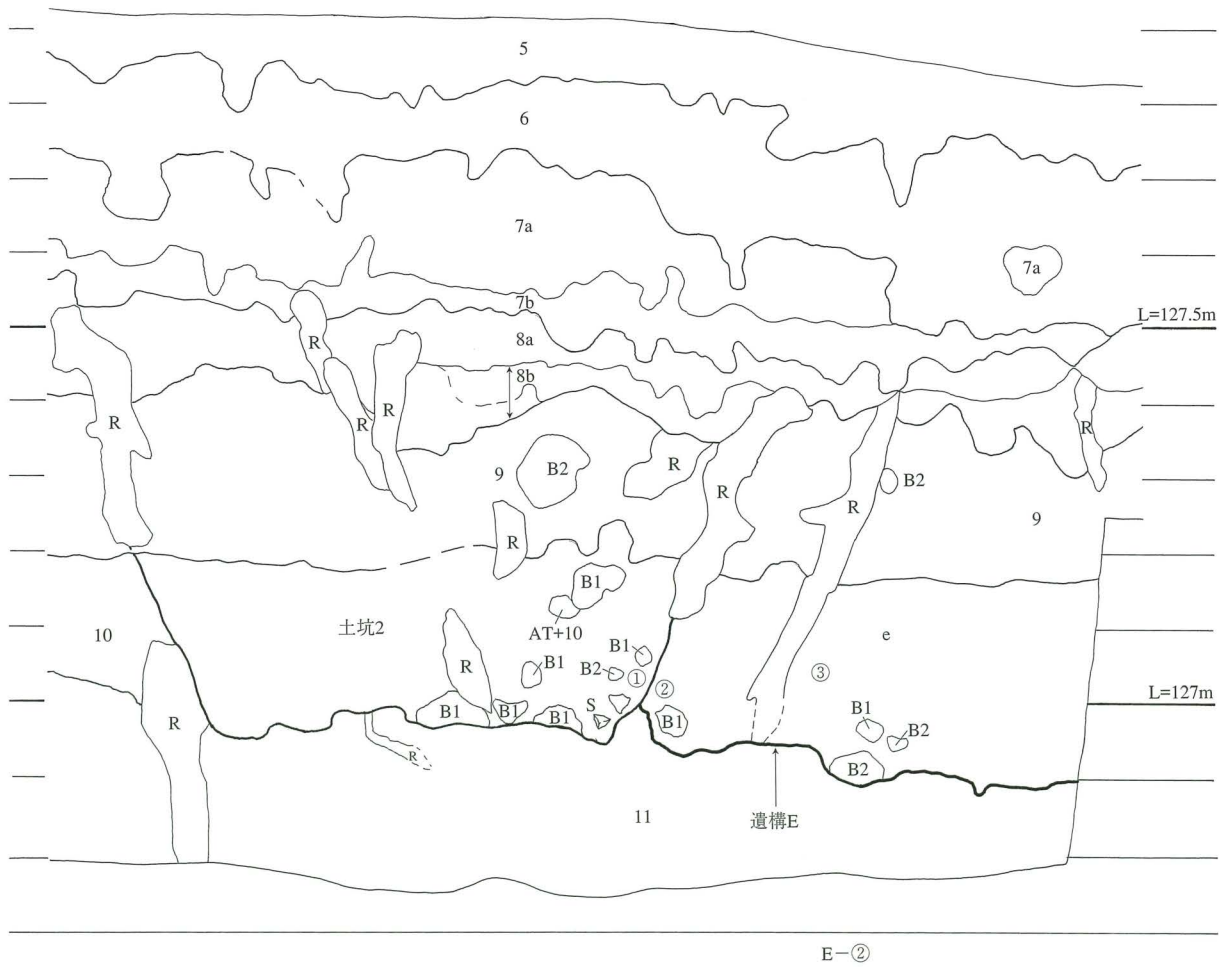


Fig.89 遺構E全体図・インデックス・各断面図 (Section:S=1/10, 平面図:S=1/40)

Eの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B1」が混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。また、埋土中には第11層と第10層が混入したブロックも見られる。

立ち上がり形状は底部において一旦くぼむ。立ち上がり角度は鉛直から24°振れている。底部は標高126.80mに達する。

遺構E東壁②断面 (Fig.89, Pl.132, Tab.75)

平面的に検出された土色差のある範囲が11トレンチ東壁に入り込んだ部分の東断面である。土色の異なる範囲の平面ラインから、東壁における立ち上がりを探査したところ、土坑2と切り合い関係にあった。この部分でのEの立ち上がりは、底部の一部を残して全体的に残っていない。埋土色は、肉眼でも土坑2の埋土よりも黒味が強く見える。この差は、測色データのL値にも見える。

Dの埋土中には黄色味を帯びた明るい土色のブロック「B1」「B2」が混入している。また、埋土中には「岩本火山灰中の白色粒」に類似した白色の粒子が混入している。立ち上がり角度は鉛直から40°振れている。底部は概ね標高126.90mに達する。

(文責 中摩)

⑥ピット (Fig.90)

11トレンチの北側半分(平成13年度調査区)においては、第10層上面の精査時点でピットの可能性のある土色の異なる範囲がいくつか検出されていた。同時に第10層上面付近で検出された遺構が下位層に落ち込んだものかどうかを確認するため、中央ベルト東側を全体的に第11層上面付近まで掘削した。この時点で、第11層上面あるいは遺構範囲内においてピットを10基検出した。

ピットの認定は、『水迫遺跡Ⅱ』で提示したが、「断面形状が不整形であるもの、断面形状が曲がるものと樹根形状に又分かれするもの、形状にかかわらず埋土が崩れやすいもの」についてはピットから除外することとした。遺構Cの北辺には断面が曲がり、埋土が崩れやすいものが2基検出されたため樹根と判断し除外している。

検出されたピットの平面形状は、円形もしくは楕円形を呈するが、10号ピットのみが不整形を呈している。ピットの断面形状は、尖底のもの・尖底だが底部形状がやや丸みを呈しているもの、逆台形のものがある。尖底のものには、1号ピット、2号ピット、7号ピット、8号ピットがある。また、尖底であるものの底部形状が丸みを呈しているものは、3号ピット、4号ピット、6号ピット、9号ピットがある。また、逆台形のは5号である。最も深いものは、2号ピットで検出面から15.7cmを測るが、本来はさらに深かったものと考えられる。

ピットの埋土は、竪穴建物跡と考えられる遺構と同様に、第9層あるいは第10層に類似した土壌が混入している。

ピットは、遺構の平面ラインとの位置関係から、概ね以下のように5ヶ所に偏在しているように看取できる。

- ・遺構Cの東辺ラインに一部重なりながら並行しており、1号、2号、3号が該当する。
- ・遺構Bの北東辺ラインに隣接しており、遺構Cの埋土中に位置している。5号、6号、8号が該当する。
- ・遺構Bの南東辺ラインに隣接するもので、9号、10号が該当する。
- ・遺構Aの北東辺ラインに隣接するもので、遺構Bの埋土中に位置している。7号が該当する。
- ・遺構Dの北西辺ラインに隣接するもので、4号が該当する。

遺構の平面ラインとピットとの関連については、中央ベルト東側で広く第11層上面を露出させたにもかかわらず、検出されたピットは遺構のライン周辺に偏在している状況がある。このことから、遺構とピットは高い相関関係にあると考えられる。11トレンチのピットの検出は、中央ベルト東のみで行なわれている。中央ベルト東側の第10層を大部分除去したため、第11層上面での検出が容易になったためであろう。中央ベルト西側でも第11層面まで掘削した場合ピットが検出される可能性が考えられる。

※図中では、○号ピットは「Pit○」と表記している。写真では、○号ピットで表記している。

(文責 中摩)

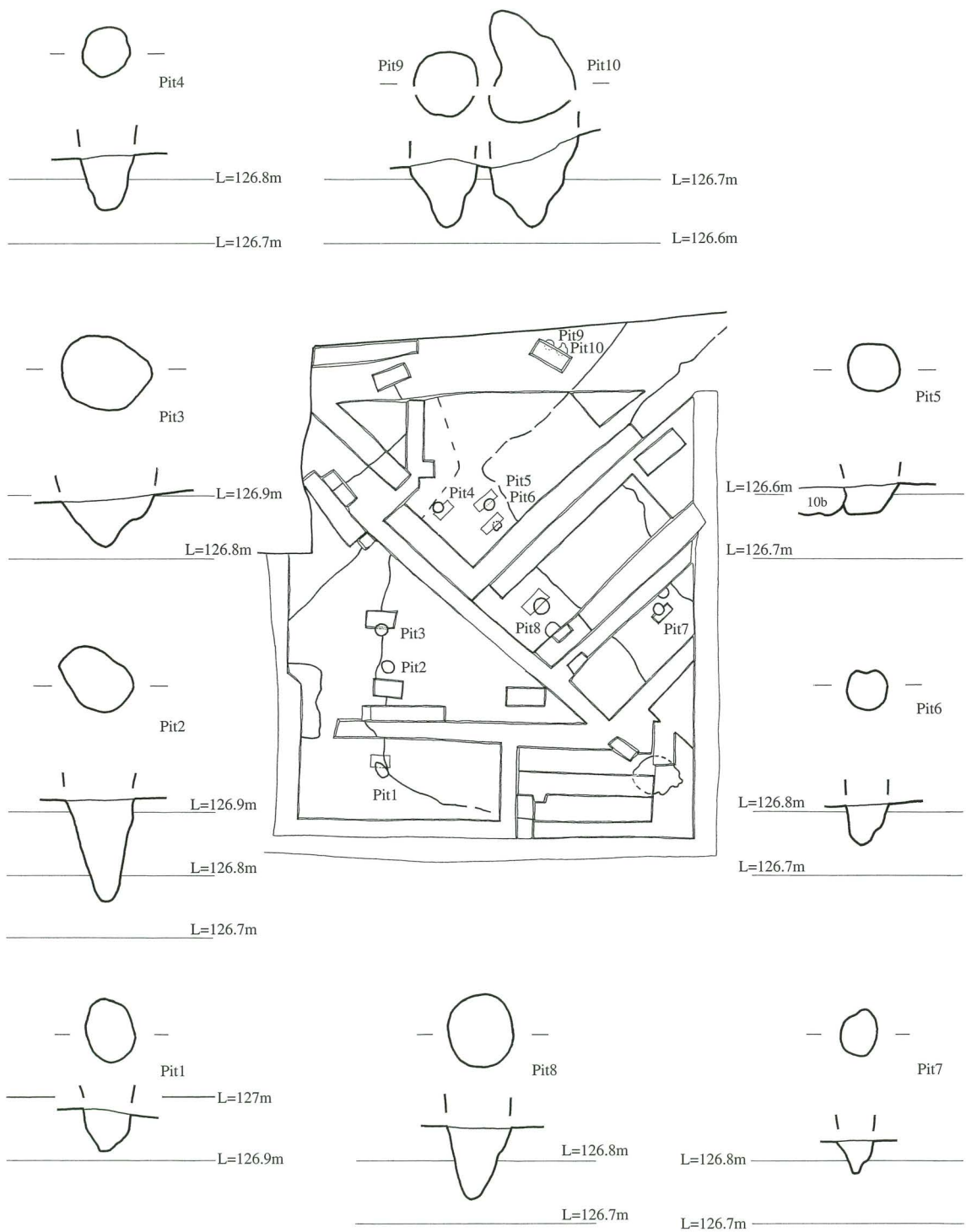


Fig.90 11トレンチピット平面・断面図(S=1/10)



Pl.133 1号ピット断面写真



Pl.134 2号ピット断面写真



Pl.135 3号ピット断面写真



Pl.136 4号ピット断面写真



Pl.137 5号ピット断面写真



Pl.138 6号ピット断面写真



Pl.139 7号ピット断面写真



Pl.140 8号ピット断面写真



Pl.141 9号ピット断面写真

ピットNo.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	10.0	7.4	6.8+ α
2	11.6	8.6	15.7+ α
3	14.2	11.2	7.2+ α
4	7.7	7.2	8.6+ α
5	8.0	7.4	4.6+ α
6	6.3	5.7	6.2+ α
7	7.0	5.6	5.2+ α
8	11.3	10.1	11.0+ α
9	10.0	10.0	10.5+ α
10	17.9	13.7	9.5+ α

Tab.76 ピット法量表

⑦土坑

(i) 土坑① (Fig.91, Pl.142, Pl.143)

土坑①は、トレンチ北側の中央ベルト東壁付近の第10層中で検出し、4分の1ずつ2ヶ所を11層上面まで掘り下げたところ、第11層上面においても平面ラインが検出された。平面は楕円形を呈し、長径31cm、短径24cm、検出面からの深さは最大15cmを測る。埋土は、周辺の第10層土に比べて黒味が強く、B2のブロックが含まれている。遺構Aと重なるものと推定されるが、遺構Aとの関連は不明である。

(文責 渡部)

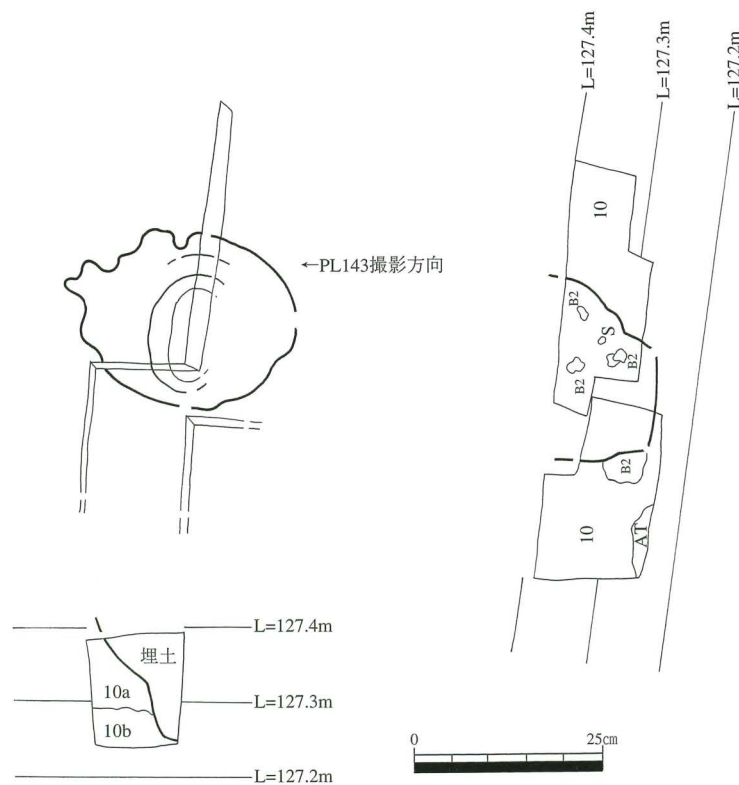


Fig.91 土坑①平面・断面図(S=1/10)

(ii) 土坑② (Fig.92, Pl.144)

土坑②は、トレンチ北側の東壁付近の第11層上面でその一部を検出した。平面は、検出した範囲では隅丸方形を呈す。東側の土層断面を精査したところ、平面に対応する位置に立ち上がりの可能性のある土色差を認識した (Fig.92)。

断面形状は逆台形を呈し、底面は第11層上面に達している。土坑の底面は概ね平坦である。

遺構Eと切り合い関係にあり、土坑②の南側立ち上がりが遺構Eの立ち上がりを切っている。また、土坑②の北側立ち上がりでは、埋土と第10層との土色差は確認できたが、立ち上がり上部が樹根跡と重なっていることから第9層からの掘削かどうかは判断できない。ただ、遺構Eとの切り合い関係からは遺構E埋没後に掘削されたものと考えられる。埋土中には11層 (AT) のブロックとB1, B2のブロックが含まれる。

(文責 渡部)

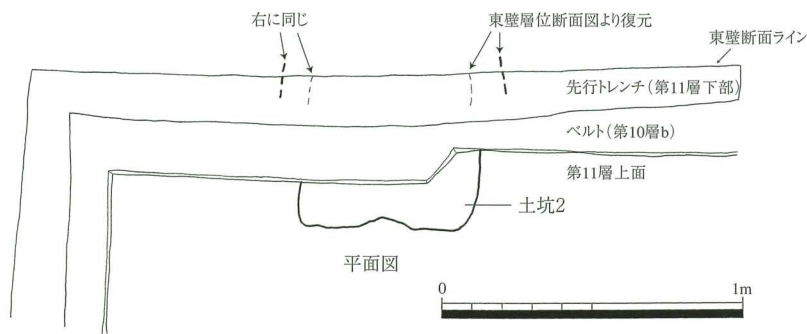
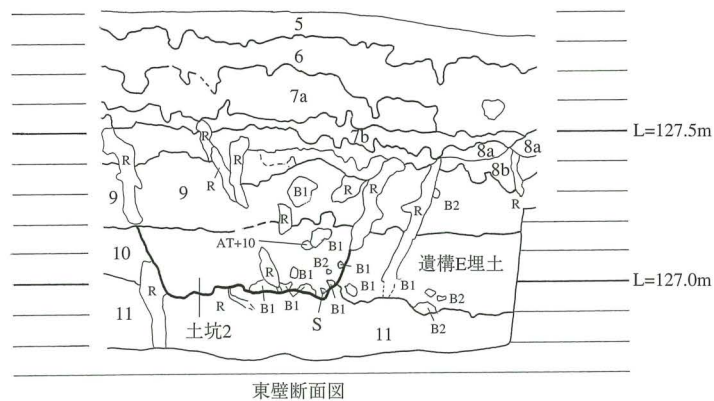
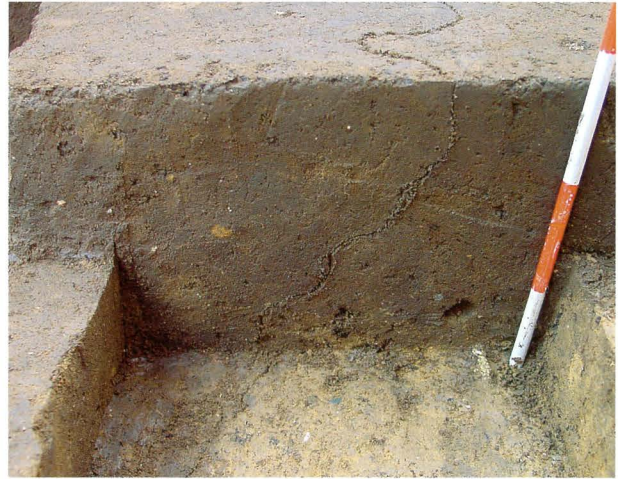


Fig.92 土坑②平面・断面図 (S=1/25)



Pl.142 土坑①平面写真



Pl.143 土坑①断面写真(東側より)



Pl.144 土坑②平面写真(東壁断面)

土坑No.	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
1	31.0	22.0	14.0+ α
2	70.0	50.0+ α	27.0

Tab.77 土坑①・②法量表

(6) 後期旧石器時代の遺物

①第9層出土遺物

(i) 分布状況 (Fig.93)

11トレンチにおける第9層出土遺物の平面・垂直分布状況は次のとおりである。

平面分布状況は、平成13・14年度調査の調査区北半分のほぼ全体と、平成14年度調査の調査区南半分の北側に散在している状態である。調査区南半分の南側で遺物分布が少ない理由のひとつとしては、第4層の幸屋火砕流による横転の影響のためである。横転範囲内でも第9層中に含まれているものは、横転遺物として取上げている。剥片や二次加工剥片、切断剥片は、調査区北半分に散在して分布している。細石刃核ブランクのNo32(取上げ番号76)は、調査区北半分付近で出土しており、その周辺で同質の細石刃・細石刃核が出土していないことから、将来的に細石刃製作の場として用いた可能性もあったであろう。

第I調査区や西側拡張区の第9層の石器群の平面分布と比較すると少ないが、「場」の機能を考えていく上で遺物の分布状況の差異は、遺構群との関連を考える際に重要な資料を提供するものと考えられる。

礫・分割礫・礫片は、調査区南半分に比較的まとまって分布しているように看取できる。

北西-東南方向の垂直分布図 (Fig.93の右端の垂直分布図)によると、11トレンチの第9層出土遺物は、北西方向から東南方向へのゆるやかな傾斜をもって堆積していることが看取できる。北東-南西方向の垂直分布図によると、若干、右側から左側へ傾斜して分布していることが看取できる。この両垂直分布図は、11トレンチでの各地層断面で確認できた第9層の堆積状況とほぼ同じである。

(ii) 石器組成 (Tab.78)

11トレンチの第9層から出土した遺物は、129点である。石器組成は、次のとおりである。

使用痕のある剥片1点、二次加工のある剥片2点、分割剥片1点、切断剥片2点、石核1点、細石核ブランク1点、剥片21点、碎片6点などである。また、礫24点、礫片66点、分割礫2点も確認できる。

これまでの水迫遺跡の発掘調査によって、第9層に包含されている石器群の組成は下記のとおりである。第9層に包含されている石器群には、大きく2つの様相が認められている。ひとつは、細石刃文化期に帰属するもので、細石刃、細石刃核と細石刃剥離作業に伴う打面再生剥片や作業面のある剥片の出土である。ふたつめは、ナイフ形文化に帰属するもので、小形なナイフ形石器と台形石器の出土である。包含されている主要な石器の素材や形態から、第9層は、ナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期にかけての遺物包含層であると判断できる。

11トレンチの第9層からは、上記した主要な石器は出土していないものの、細石刃核ブランクが出土していることから、基本的な帰属時期は同じものと判断できる。

(iii) 石材組成 (Tab.78)

11トレンチから出土した遺物の石材組成は、次のとおりである。

129点の内、石器組成的に礫、礫片等が第9層出土遺物総点数の約71%を占める関係上、礫や礫片などの素材となっている砂岩が38点と最も多い。次いで、頁岩30点、安山岩28点、黒曜石11点である。点数的には少ないが、粘板岩、凝灰岩、軽石も石材組成中に認められる。



Pl.145 11トレンチ第9層出土状況写真①



Pl.146 11トレンチ第9層出土状況写真②

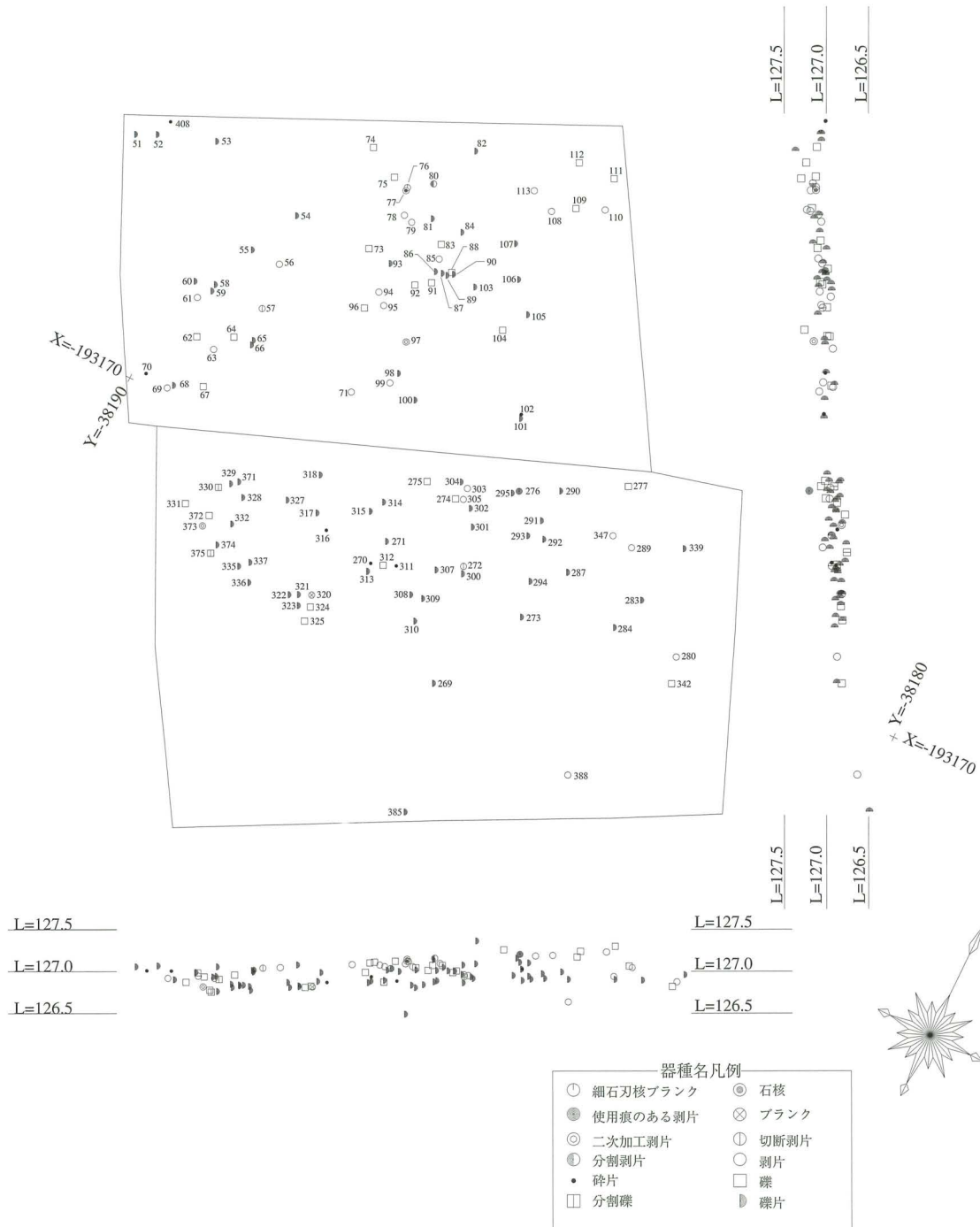


Fig.93 11トレンチ第9層石出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)

(iv) 石器

二次加工のある剥片 (Fig. 94)

No27は、砂岩製の剥片を素材とした二次加工のある剥片である。二次加工のある部位は、a面左側縁と下端部・右側縁下半分である。二次加工は、大まかな剥離によって施されている。素材剥片は不定形剥片であり、その打面部は欠損、あるいは意図的な切断によって除去されているものと考えられる。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核や、剥片剥離技術が想定できる。a面に残されている剥離痕の剥離方向は、素材剥片の剥離方向とは別で左右約90度ずれていることが認められる。このことから、素材剥片を剥離したと考えられる石核は、複数の打面を保持していたと想定できる。

また、このような石核を用いて、打面を頻繁に転移しながら、求心状に剥片を剥離している剥離技術が想定できる。素材剥片を剥離した際の打面調整や頭部調整については、打面部が欠落しているため不明である。

No29は、黒曜石の剥片を素材とした二次加工のある剥片である。二次加工のある部位は、a面右側縁とb面左側縁上部である。素材剥片の打面部は、単剥離打面であり、剥離痕はb面側（石核の背面側）からの加撃によるものである。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。a面に認められる数枚の剥離痕の加撃方向は、e面の打面が位置する方向からの加撃のみである。これらのことから、素材剥片を剥離した石核は、少なくとも単一方向に打面を保持している石核と想定できる。また、このような石核を用いて、打面調整と頭部調整を施しながら剥片を剥離する剥片剥離技術が想定できる。

b面に認められる素材剥片の主要剥離面は、ポジティブではなく、b面左側面からの加撃によるネガティブな面と、二次加工による剥離痕によって形成されている。推測の域は出ないが、b面の大部分を占めているネガティブな剥離面は、石核から素材剥片が剥離された際にポジティブな剥離面の剥落によるものか、あるいは、二次加工段階において、b面に残されている一枚の小剥離痕と同様に、二次加工による剥離面と考えることもできる。その場合、素材剥片の厚みを減らす目的があるものと想定できる。

なお、この石器の表裏面全体的に風化が認められ、稜線や縁辺も丸みを帯びており、鋭利性に乏しい。

使用痕のある剥片 (Fig. 94)

No28は、頁岩製の剥片を素材とした使用痕のある剥片である。使用痕のある部位は、a面下端部よりに認められる。

使用痕は、刃こぼれ状を呈している。使用痕のある部位のb面側には、幅広の剥離痕が認められ、推測の域を出ないが、使用による剥落と考えることができる。素材剥片の形状は、幅広の寸詰まりの剥片である。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。素材剥片の打面部は、a面側からの加撃による複剥離打面である。a面の剥離痕の剥離方向は、素材剥片の剥離方向と比較すると左右約90度と180度ずれているものが認められる。特に、a面右側面にある剥離痕の一部は階段状剥離を呈している。また、その剥離した際に用いた打面が、a面右側縁の一部に残されている。その打面は単剥離打面である。

a面の剥離痕の切り合い関係から、素材剥片を剥離した石核は、複数の打面を保持している石核と想定できる。また、このような石核を用いて、打面を頻繁に約90度転移しながら剥片を剥離する剥離技術が看取できる。

また、a面左側面に、自然面が認められることから、石核の素材は自然礫を用いた可能性が考えられる。

剥片 (Fig. 94)

No30は、頁岩製の剥片で、形状は不定形を呈している。剥片の打面は認められない。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。a面上部には、三枚の剥離痕が認められ、b面の剥離方向と同じ加撃方向によって剥離されている。このことから、この剥片とa面に認められる剥離痕は、石核の同一打面を用いて剥離されたものと考えられる。また、a面下端部には自然面が残されており、その表面の形状は曲面を呈していることから、この剥片を剥離した石核の素材が、円礫を用いていると考えられる。

使用痕あるいは二次加工は認められない。

No31は、安山岩製の剥片で、形状は不定形を呈している。剥片の打面部はa面側からの加撃によって作出された単剥離打面である。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。a面に認められる剥離面は、多方向からの加撃によって剥片が剥離された剥離痕である。このことから、この剥片は、複数の打面を有する石核から剥離されていることが考えられる。剥離角は約120度を測り鈍角である。

剥片の形状あるいは剥離面の状態から、なんらかの周辺加工石器を製作する段階で剥離された調整剥片の可能性が考えられる。

また、a面右下端部はb面側からの加撃によって剥落あるいは欠損している。



Pl.147 11トレンチ第9層出土石器①写真(表面)



Pl.148 11トレンチ第9層出土石器①写真(裏面)

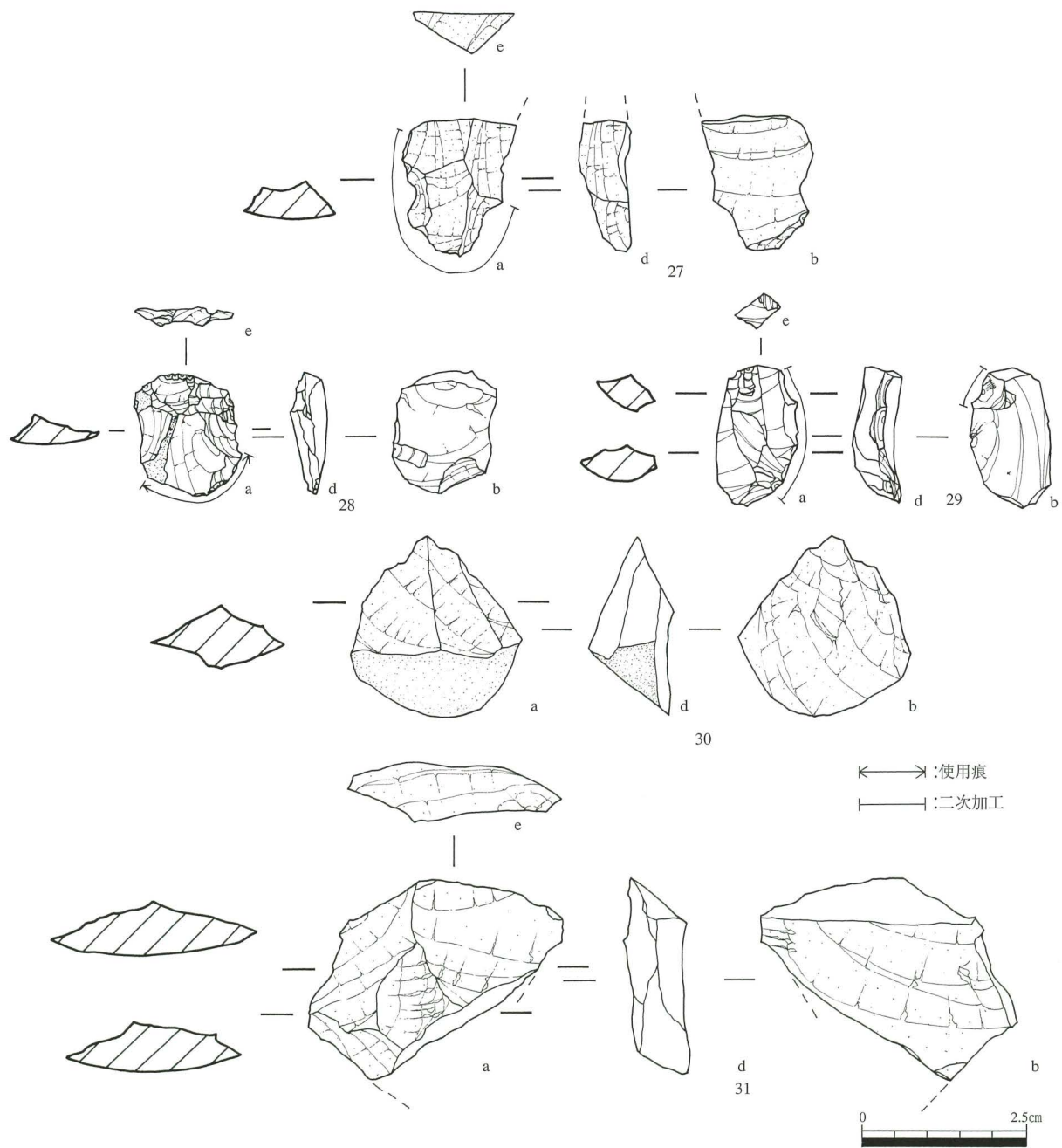


Fig.94 11トレンチ第9層出土石器実測図①(S=1/1)

細石刃核ブランク (Fig. 95)

No32は、黒曜石製の剥片を素材とした細石刃核ブランクである。細石刃核ブランクの両側面(c・d面)には、素材剥片の表面と裏面が残されている。各面の剥離面の剥離方向などから石核の素材獲得、剥片剥離技術について次のように看取できる。

(素材獲得)

細石刃核ブランクの素材は、少なくとも上下両端に打面が設定されている石核から剥離された剥片を素材としている。細石刃核ブランクの打面部を素材剥片の下端部に設定している。また、将来の細石刃剥離作業面を素材剥片の側面に設定している。

(細石刃核ブランク整形)

素材剥片の下端部に設定された細石刃核ブランクの将来の打面部は、将来の細石刃剥離作業面(a面)側からの加撃によって、素材剥片の下端部を切断することで作出されている。打面の切断・作出後、a面側からの加撃によって、さらに打面調整が行われていることが看取できる。

細石刃核ブランクの背面(b面)は、先に作出された打面からの加撃による数枚の剥離によって整形されている。

将来の細石刃剥離作業面を観察すると、打面部側からの加撃によって2枚の剥離痕が認められる。これらの剥離痕は、将来の細石刃剥離作業面の調整・整形を目的としたものと想定できる。また、いずれの剥離痕も、細石刃を剥離した剥離痕とは判断できないことから、細石刃核ブランクと器種認定を行った。

調整・整形された将来の細石刃剥離作業面の長幅は、長さ1.5cm、幅0.9cmを測る。このことから、この細石刃核ブランクから剥離されるであろう細石刃も、これらの大きさを超えるものでない。よって、仮に、細石刃が剥離した時点では、比較的小形な細石刃が剥離されたと推定できる。

なお、細石刃核ブランクの表面の風化状態から、素材として用いられている黒曜石は、上牛鼻産のものと考えられる。

石核 (Fig. 95)

No33は、黒曜石を素材とした石核である。各面に残されている剥離面などから、石核の素材獲得、剥片剥離技術について次のように看取できる。

(素材獲得)

石核の打面(e面)と背面(b面)側に、黒曜石の自然面が認められる。その自然面の形状などから、この石核は、角礫の分割礫を素材としていることが考えられる。自然面は、ほぼ90度に近い角を有しており、その角は、将来の石核の打面と背面の境界部分となっている。

(石核整形)

分割礫の分割面を将来の剥片剥離作業面に設定している。石核素材に残されている自然面は、打面部と背面に位置している。石核の調整痕は、整形後の剥片剥離作業が進んでいるため、石核の下端部(f面)と右側面(d面)にわずかに残存している程度である。その剥離痕から鑑みると、自然面である背面側からの加撃によって、石核の右側の縁辺を整形していることが窺える。また、準備された剥片剥離作業面長は、約1.9cmであり、作業面長としては比較的小さいものが、確保できたと考えられる。

打面調整は、将来の剥片剥離作業面側からの加撃によって、数枚認められる。

(剥片剥離)

自然面打面と剥片剥離作業面側からの加撃による複剥離打面を用い、剥片剥離作業面(a面・c面・d面)から剥片を剥離している。剥片剥離作業面に残されている剥離痕を観察すると、長さ約1.5cmの寸詰まりの剥片が剥離されていることが看取できる。

剥片剥離作業に伴う打面・頭部調整は、認められる部分と認められない部分があり、状況に合わせて、打面・頭部調整を行っていたと考えられる。

d面の下端部に認められる小剥離痕は、石核から剥片を剥離する際に石核を固定した痕跡と考えられる。

(v) 第9層の石器群について

これまでの水迫遺跡の第I調査区・西側拡張区・11トレンチの発掘調査によって、第9層から出土した石器群の様相を垣間見ることができた。11トレンチの狭い範囲での確認調査では、時期を特定する定形石器は出土していない。よって、平成11年度から実施した水迫遺跡の確認調査・発掘調査の成果から、水迫遺跡の第9層から出土した石器類について概要をまとめる。

第I調査区・西側拡張区の発掘調査の成果によると、水迫遺跡の第9層からは、下記のような2つの石器群が検出されている。

・細石刃文化期

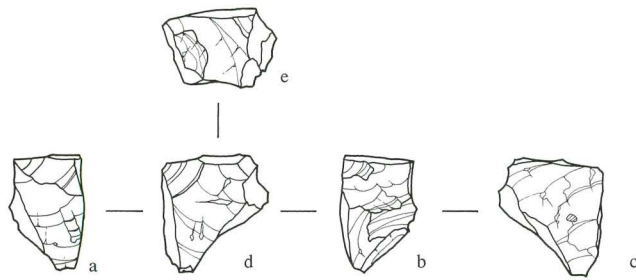
第9層から出土した細石刃文化期に帰属する遺物は、細石刃・細石刃核・打面再生剥片・作業面のある剥片である(Fig.102参照)。細石刃核は、黒曜石の小礫を素材とした野岳・休場型細石刃核が主体を占めている。これまでの数多くの遺跡の発掘調査成果と研究者の編年試案などによって、南九州においては、九州の他地域と同様に、黒曜石を素材と



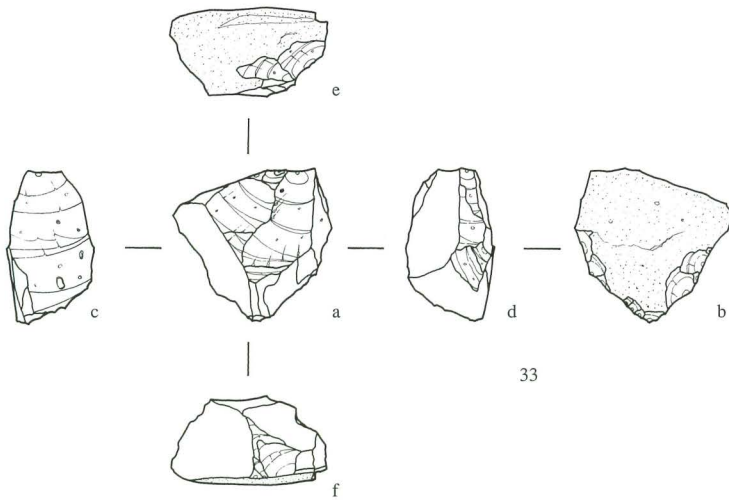
Pl.149 11トレンチ第9層出土石器②写真(作業面)



Pl.150 11トレンチ第9層出土石器②写真(打面)



32



33



Fig.95 11トレンチ第9層出土石器実測図②(S=1/1)

する野岳・休場型細石刃核は、細石刃文化の初期に位置づけられている。これまで、鹿児島県内では、鹿屋市西丸尾遺跡で、黒曜石と水晶を素材とした野岳・休場型細石刃核の出土が報告され、南九州を代表する細石刃文化初期の所産と評価されている。また、西丸尾遺跡が所在する地域の地元石材を利用していることを考慮すると、西丸尾遺跡の石器群は細石刃文化初期の段階ではあるが、地元石材を利用するなど、石材選択の規制が無い段階のものとも考えることも可能である。このことから、水迫遺跡第9層から出土した黒曜石を素材とした野岳・休場型細石刃核を主体とする石器群は、西丸尾遺跡の石器群より先行するものとも考えることも可能である。

・ナイフ形石器文化期

第9層から出土したナイフ形石器文化期に帰属する遺物は、ナイフ形石器・台形石器である。石材は、頁岩・黒曜石を素材としたもので小形のもが主体を占める。九州におけるナイフ形石器文化終末期の様相を呈しているものであり、南九州においても概ね、同時期に位置づけられるものである。指宿市内では、同様な石器群が昭和54年に露重遺跡で検出されている。宮田栄二氏により、露重遺跡で検出された石器群をナイフ形石器文化終末に位置づけるものと評価されている。ナイフ形石器や台形石器は、不定形な剥片を素材としており、素材を切断あるいは分割し、ブランディングを比較的大まかに施すのみである。特に、台形石器は、いわゆる幾何学形を呈しており、九州におけるナイフ形石器文化終末の様相のひとつである、小形化・幾何学化の要素が看取できる。

ナイフ形石器文化終末期の研究について若干、振り返ってみる。

九州におけるナイフ形石器文化の終末期の様相については、数多くの研究者によって、様々な視点で検討されてきている。その中でも、「小形化」・「幾何学化」・「細石器化」などの視点から、当該時期の特徴を抽出し、編年案が提示されている。これまでの九州のナイフ形石器文化研究によって、各研究者が提示している九州におけるナイフ形石器文化終末期の様相は、大きく2つに分けることができよう。

- a. これまでの調査でナイフ形石器と細石刃・細石刃核の共伴事例は無く、小形のナイフ形石器が主体を占める石器群を代表とする様相。
- b. 共伴事例を積極的に評価し、ナイフ形石器と細石刃文化の過渡期を一時期設定したことによる、ナイフ形石器と細石刃・細石刃核が共伴する石器群を代表とする様相。

a・bの石器群の様相を語る上で提示される石器群としては、大分県前田Ⅲ遺跡第X層石器群・XⅡ層石器群、岩戸遺跡第6層上部石器群、長崎県堤西牟田遺跡第Ⅳ文化層石器群、鹿児島県露重遺跡、床並B遺跡などが挙げられている。これらの地域の石器群の中で確認されるナイフ形石器文化終末期のナイフ形石器は、素材剥片の形状やブランディングのあり方が異なっていると考えられる。

大分県や長崎県などの西北九州や東九州地域でのナイフ形石器文化終末期のナイフ形石器は、末細りの縦長剥片を素材とした基部加工や部分加工を施したものである。鹿児島県などの南九州でのナイフ形石器は、不定形な剥片を素材とした基部加工、部分加工、二側辺加工を施したものである。このことは、ナイフ形石器文化終末期の地域性とも言える。

南九州におけるナイフ形石器文化期の終末の様相や、細石刃文化期初期への変遷についての編年案については、宮田栄二をはじめ、木崎康弘、桑波田武志、鎌田などの各諸氏が提示している。

これらの研究成果やナイフ形石器文化終末期と評価されている各遺跡の石器群の様相と比較すると、先述したとおり、第9層から出土したナイフ形石器は、ナイフ形石器文化終末期の所産ものであると言える。このことから、水迫遺跡第9層石器群は、ナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期への文化的変遷を研究する上で貴重な資料になると考えられる。(文責 鎌田)

	使用痕のある剥片	二次加工剥片	分割剥片	切断剥片	細石刃核ブランク	石核	ブランク	剥片	砕片	礫	礫片	分割礫	欠番	合計
黒曜石		1	1		1	1	1		4	1		1		11
頁岩	1			1				12		1	14	1		30
安山岩								3		11	14			28
砂岩		1		1				4	1	5	26			38
粘板岩								1	1	1	2			5
凝灰岩											3			3
軽石										1				1
不明										4	7		2	13
合計	1	2	1	2	1	1	1	20	6	24	66	2	2	129

Tab.78 11トレンチ第9層出土石器組成表

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
27	373	二次加工のある剥片	砂岩	最大長：2.05 最大幅：1.7 最大厚：0.8	2.03	-	a面右側縁・ 下端部・ 右側縁下半分	-	9	
28	276	使用痕のある剥片	頁岩	最大長：1.9 最大幅：1.6 最大厚：0.55	1.36	複剥離	-	刃こぼれ	9	
29	97	二次加工のある剥片	黒曜石	最大長：2.1 最大幅：1.2 最大厚：0.75	1.56	複剥離	a面右側縁・ b面左側縁	-	9	
30	280	剥片	頁岩	最大長：2.8 最大幅：2.6 最大厚：1.3	3	-	-	-	9	
31	99	剥片	安山岩	最大長：3.1 最大幅：3.85 最大厚：0.95	9	単剥離	-	-	9	
32	76	細石刃核ブランク	黒曜石	最大長：1.55 最大幅：1.4 最大厚：1.0	2.27	複剥離	-	-	9	
33	77	石核	黒曜石	最大長：2.0 最大幅：2.1 最大厚：1.2	4.22	自然面・複剥離	頭部	-	9	

Tab.79 11トレンチ第9層出土石器観察表

②遺構埋土層出土遺物

(i) 分布状況

11トレンチの北側半分では、第10層bまたは第11層上面で後期旧石器時代に帰属すると考えられる遺構が検出されている。遺構を検出後に、その遺構埋土中で出土した遺物については「遺構埋土」内として取上げた。また、南半分では同様な遺構を検出したが、期間的な制約もあり遺構確定作業まで至らなかった。しかしながら、上記と同じ状況で遺物が出土したため、「遺構埋土」内での出土遺物として取り上げた。

(ii) 石器

使用痕のある剥片 (Fig. 97)

No34は、頁製の剥片を素材とした使用痕のある剥片である。使用痕のある部位は、a面下端部(f面)とb面右側縁に認められる。いずれの使用痕も刃こぼれ状を呈している。

a面・b面の剥離痕の状況から、素材剥片の剥離された工程が次のように想定できる。

まず、使用痕のある剥片の素材剥片は、その形状とa面に認められる剥離痕の状況から、何らかの製品を製作する段階での調整剥片と推定できる。これまでに水迫遺跡での第9層ならびに遺構埋土(第10層も含む)から出土した製品の中で、調整剥片と関連のある石器としては、ナイフ形石器や三稜尖頭器が想定できよう。素材剥片が調整剥片であることから、素材剥片の打面部は、石核から剥離された剥片の主要剥離面と考えられる。また、打面の幅は、素材剥片の最大幅とほぼ同じであり、b面右側面上部から下部に認められる。

素材剥片のa面には、この剥片が剥離される以前に剥離された調整痕と微細な剥離痕が認められる。想定するに、a面の大部分は、素材剥片が剥離された剥片の側面側に残されていた調整痕で構成されているものと考えられる。

また、a面下端部(f面右側部)には、自然面が認められる。このことから、製品の素材剥片を剥離した石核の剥片剥離作業面側に自然面が残されていたと考えられることから、ある程度初期段階に剥離されたものと考えられる。

剥片 (Fig. 97)

No35は、黒曜石製の幅広の剥片である。打面部は、遺物出土段階において欠損しているため、詳細は不明である。

a面・b面の剥離痕の状況から、剥片の剥離された工程が次のように想定できる。a面に認められる剥離痕はこの剥片が剥離された方向とはほぼ90度異なっていることから、打面を移動しながら剥片を剥離する剥離技術を用い、打面が複数面ある石核から剥離されたものと考えられる。

b面に認められる主要剥離面の形状は凹面を呈している。推測の域を出ないが、アクシデントによって石核から剥落した可能性も棄却できない。

No37は、黒曜石製の剥片である。a面の大部分は、素材の黒曜石の自然面によって構成されている。

a面・b面の剥離痕の状況から、剥片の剥離された工程が次のように想定できる。

a面に残されている自然面は、ネガティブな面であり放射状裂痕が認められる。このことから、河川などに転落している黒曜石を素材としていると思われる。打面は、点状打面であるため、この剥片を剥離した石核の打面形状や剥離の状況については、全く不明である。

a面は、素材である黒曜石の自然面と、打面方向とは概ね130度や230度異なる方向からの加撃による剥離痕が2枚認められる。これらのことから、推測の域を出ないものの、石核の整形段階である打面作出段階か、あるいは、剥片剥離作業面の作出段階のものかもしれない。いずれにしろ、素材の石核から比較的早い段階で剥離された剥片と考えられる。

b面の観察では、打瘤が発達しており、d面でもその様相が看取できる。なお、b面下端部に認められる横位方向からの剥離痕は、打点が認められるが、意図された二次加工による剥離痕なのか、この剥片が剥離された際にアクシデントで剥落したものかについては不明である。

No38は、砂岩製の剥片である。a面で認められるように、両側縁はほぼ平行に伸びており、剥片の下端部ではノの字状に末細りになっている。また、下端部には自然面が認められる。

a面・b面の剥離痕の状況から、剥片の剥離された工程が次のように想定できる。

a面には、頭部調整と考えられる剥離痕以外に三枚の剥片を剥離したと考えられる剥離痕が認められる。三枚の剥離痕の加撃方向は、その剥離された軸は若干異なっているものの、概ね打面がある方向からの加撃であることが窺える。

また、剥片の打面(e面)は、a面側からの加撃によって作出された単剥離打面であり、打面調整は認められない。

これらのことから、この剥片は、自然礫を素材とし、打面を一面のみに設定した石核から剥離されたものと考えられ



Pl.151 11トレンチ遺構埋土層出土状況写真

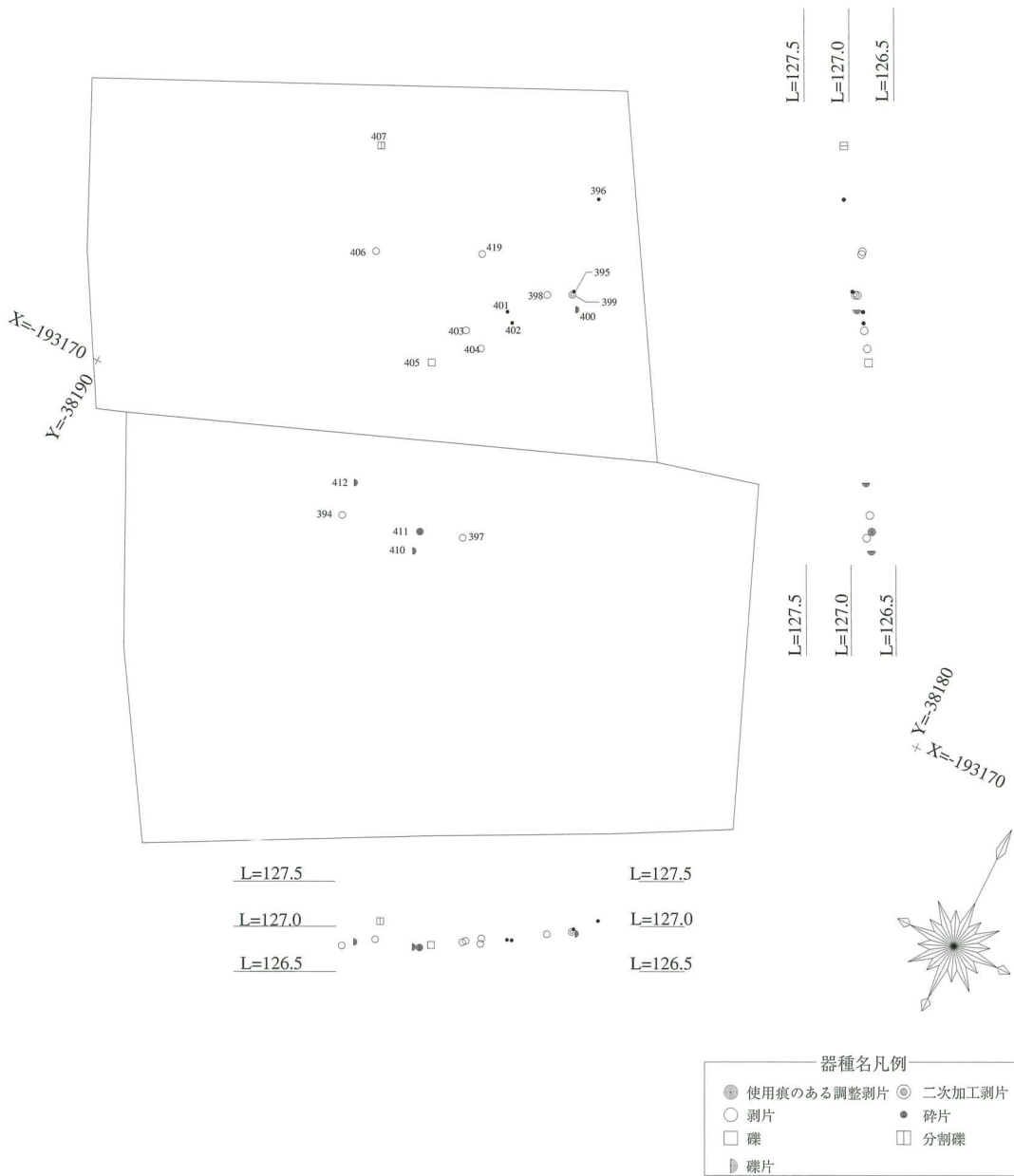


Fig.96 11トレンチ遺構埋土層出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)

る。また、剥片を剥離する際には、頭部調整は施すものの、打面調整は施さない剥片剥離技術から剥離されたと考えられる。また、a面に残されている剥片の剥離痕から、概ね3.5から4cm以上の剥片を連続して剥離されていることが窺える。なお、b面の主要剥離痕の状態から、推測の域を出ないものの、b面右側面は、剥片が剥離した際に剥落したものと考えられる。

二次加工剥片 (Fig. 97)

No.36は、黒曜石製の二次加工剥片である。平面形状は逆ノの字形を呈しており、断面形状は三角形を呈している。

a面・b面の剥離痕の状況から、剥片の剥離された工程が次のように想定できる。a面に認められる剥離痕は、b面の主要剥離面側からの加撃による二次加工段階の剥離面であり、素材剥片を剥離した段階の剥離痕は認められない。しかしながら、a面下端部に認められる幅の狭い剥離面は、主要剥離面の加撃方向とは約180度異なっている。このことから、少なくとも上下に打面を複数保有している石核から剥離されたものと考えられる。また、剥片剥離技術も、上下に打点を移動しながら片を剥離する技術が想定できる。また、剥片の打面部の観察では、単剥離打面で打面調整などは認められない。さらに、素材剥片の打面に認められる剥離痕の加撃方向は、a面左側面側からの加撃であることから、上記したような上下に打面を保持している以上に、打面を保有している石核から剥離されたと考えることもできる。

素材剥片の剥離後、主要剥離面側からの加撃によって、二次加工が施されている。d面では、大きな一枚の剥離痕が認められる。また、a面左側面では、少なくとも三枚の二次加工の剥離痕が認められる。二次加工によって、剥片自体の段面形状は三角形を呈することとなる。二次加工の最終的な目的については、二次加工段階が途中であることと、石器自体が未製品であることなどから、推測の域を出ないものの、西側拡張区の第10層から出土している三稜尖頭器の製作途中の未製品とも想定できる。(文責 鎌田)

	使用痕のある調整剥片	二次加工剥片	剥片	砕片	礫	礫片	分割礫	合計
黒曜石			3	4				7
頁岩	1		3			2		6
安山岩					1		1	2
粘板岩		1						1
砂岩			1			1		2
合計	1	1	7	4	1	3	1	18

Tab.80 11トレンチ埋土層出土石器組成表

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
34	411	使用痕のある調整剥片	頁岩	最大長：1.3 最大幅：1.1 最大厚：0.8	0.93	単剥離	—	刃こぼれ状	埋土・10	素材は調整剥片
35	406	剥片	黒曜石	最大長：0.9 最大幅：1.7 最大厚：0.85	1.05	複剥離	—	—	埋土	
36	399	二次加工のある剥片	黒曜石	最大長：1.8 最大幅：1.6 最大厚：1.25	2.77	単剥離	a面両側縁	—	埋土	
37	394	剥片	黒曜石	最大長：1.85 最大幅：2.55 最大厚：0.95	3.19	点状	—	—	埋土・10	
38	403	剥片	砂岩	最大長：4.35 最大幅：2.6 最大厚：1.5	9	単剥離	—	—	埋土・10	

Tab.81 11トレンチ遺構埋土層出土石器観察表



Pl.152 11トレンチ遺構埋土層出土石器写真(表面)

Pl.153 11トレンチ遺構埋土層出土石器写真(裏面)

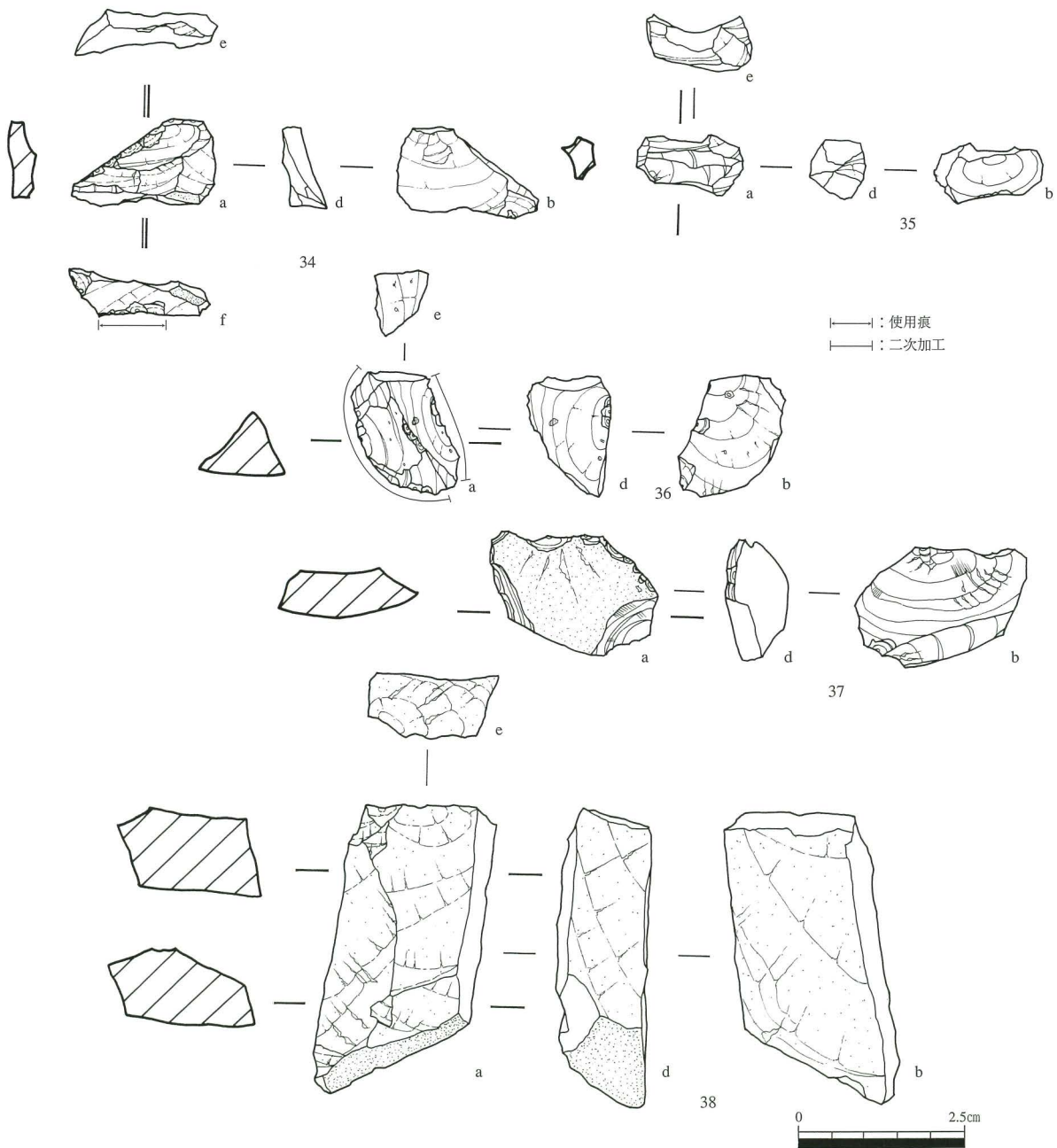


Fig.97 11トレンチ遺構埋土層出土石器実測図(S=1/1)

③第10層出土遺物 (Fig.98・99)

(i) 分布状況 (Fig.98)

11トレンチの第10層出土遺物は、調査区北側半分の北東よりと、調査区南半分の北側付近に分布している。偏在しながら分布しているものの、礫片などは南側に多く認められる。

(ii) 石器組成 (Tab.82)

11トレンチの第10層から出土した遺物は、76点である。石器組成は、次のとおりである。

使用痕のある剥片1点、二次加工のある剥片2点、石核1点、剥片13点、碎片2点、礫12点、礫片41点などである。

これまでの水迫遺跡の第I調査区・西側拡張区の第10層から出土した石器群の石器組成は下記のとおりである

石器組成は、ナイフ形石器、台形石器、三稜尖頭器、両面加工尖頭器、彫器、剥片、碎片、石核などである。剥片尖頭器が組成中に含まれないことと、ナイフ形石器と台形石器の形態と素材剥片の形状、三稜尖頭器の大きさと調整のあり方などから、ナイフ石器文化後半期と位置づけられる。さらに、AT降灰以降の石器群で、剥片尖頭器が消滅し石器組成中から姿を消した時期のものと考えられている。

11トレンチの発掘調査では、時期を確定できるような主要石器は出土していない。

(iii) 石材組成 (Tab.82)

11トレンチの第10層から出土した遺物の石材組成は、次のとおりである。

76点の内、最も組成の割合が高いのは、礫の素材となっている砂岩27点である。次いで、安山岩20点、頁岩15点、黒曜石6点である。また、点数的には少ないが、粘板岩3点、石英1点も石材組成の中に認められる。使用痕のある剥片の石材は石英であり、11トレンチ内からは同質の石材が出土していない。このことから、別の地点からの当地点に持ち込まれたものと考えられる。

(iv) 石器 (Fig. 99)

使用痕のある剥片

No39は、石英製の剥片を素材とした使用痕のある剥片である。使用痕のある部位は、a面左側縁から下端部にかけてである。使用痕は、刃こぼれ状を呈している。使用痕のある剥片の素材は、不定形剥片である。その打面部はわずかに認められるのみだが、打面調整の有無については不明である。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。a面に残されている剥離痕の剥離方向は、素材剥片の剥離方向と同一方向のものと約180度異なるものが認められる。前者の剥離痕は素材剥片の上半分、後者の剥離痕は素材剥片の下半分と左側面に認められる。このことから、上下に複数の打面を有する石核から打面を頻繁に転移しながら、剥片を剥離する剥離技術が想定できる。

b面中央部には石材の節理があるため、主要剥離の打瘤があまり発達しておらず、部分的には凹面になっているところもある。

二次加工のある剥片

No40は、頁製の剥片を素材とした二次加工のある剥片である。二次加工のある部位は、a面上端部とb面上端部に認められる。

素材剥片の打面部と側面が切断によって除去されているため、素材剥片の形状や打面の形状・調整の有無については不明である。また、b面の右側面下部には打面を除去した際の剥離面が二枚認められる。

a面・b面の剥離痕の状況から、次のような石核、剥片剥離技術が想定できる。

a面とb面に認められる剥離面の剥離方向を比較すると、約90度異なっている。石核の打面の位置は、概ね同じ面であると考えられるが、加撃方向が異なっているものと考えられる。

このことから、複数の打面を有する石核から頻繁に打面を約90度転移しながら剥片を剥離する剥離技術が看取できる。

石核

No41は、頁岩製の石核である。各面の剥離面などから石核の素材獲得、剥片剥離技術について次のように看取できる。

(素材獲得)

石核の打面部(e面)と下端部(f面)に認められる大きな剥離痕は、全て剥片剥離作業面側からの加撃によるものである。石核の打面部と下端部の剥離痕は、ポジティブな面である。また、石核の厚みが薄いことを踏まえると、推測の域をでないものの、石核の素材には、分割剥片を用いていると考えられる。

(石核整形)

素材である分割剥片の剥離面を将来の石核の下端部と打面部に設定している。また、その打面部を加撃点として、b面全体とc面左側面に認められる石核の側面の剥離痕は、明確な打点が確認できないことから、素材獲得段階ですでに

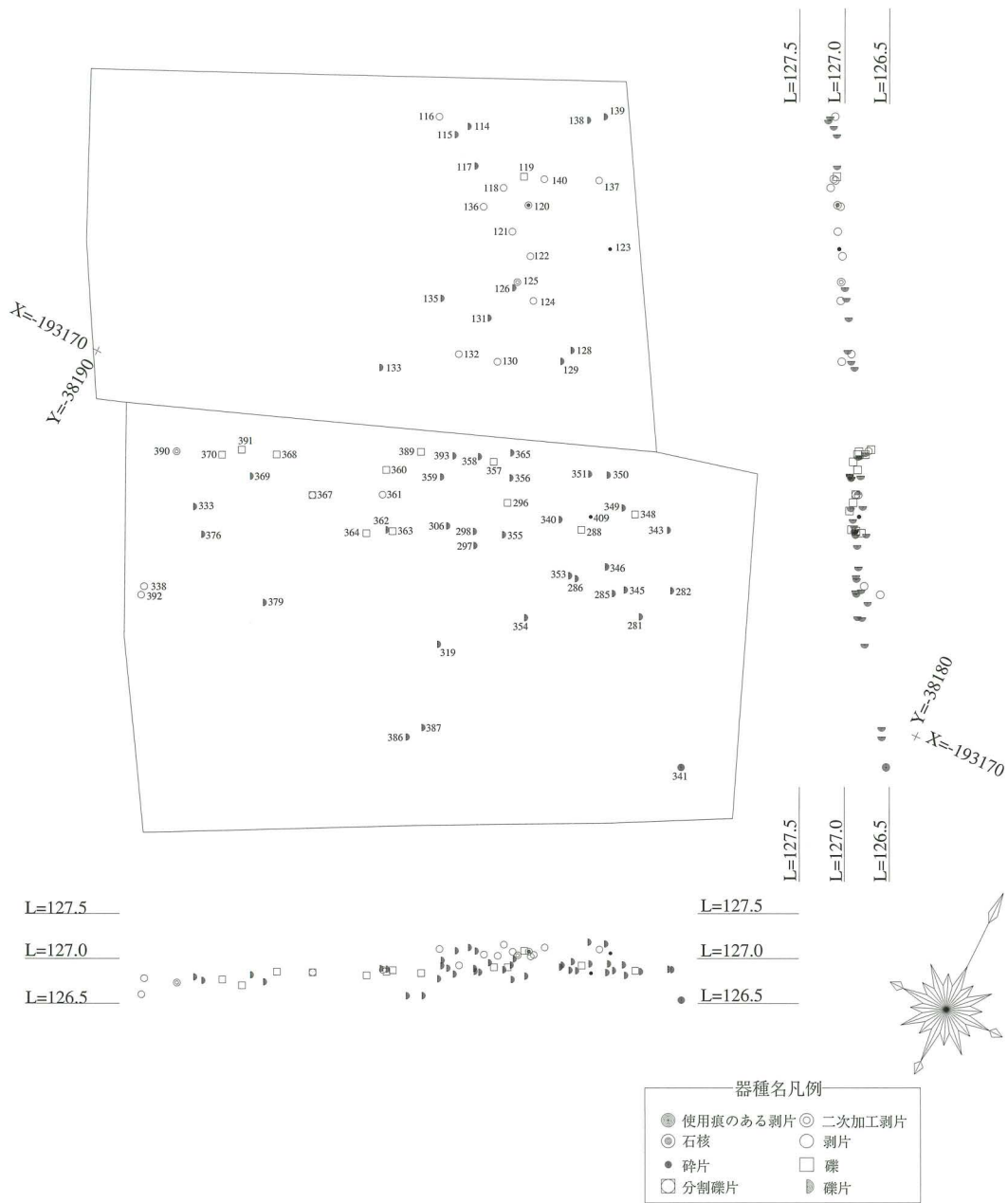


Fig.98 11トレンチ第10層出土遺物平面・垂直分布図(S=1/80)

存在していた可能性も考えられる。もしくは、打面再生が行なわれたことによって、石核の側面に認められる剥離痕の打点が除去されているとも考えられる。どちらにしろ、この側面の剥離痕によって、石核の背面（剥片剥離作業面の反対面）の形状が末細り状を呈している。

また、準備された剥片剥離作業面長は、約1.44cmであり、作業面長としては比較的短いものと考えられる。

（剥片剥離）

a面の剥片剥離作業面の観察から、少なくとも3枚の剥片が剥離されていることが看取できる。剥片の剥離痕から剥離された剥片を想定すると、最後に剥離された剥片は、長さ約1.27cm、幅約1.37cmと寸詰まりの幅広の剥片が剥離されていることが分かる。

打面調整は剥片剥離作業面側からの加撃によって、少なくとも5枚認められる。顕著に施されていることが看取できる。また、頭部調整の有無については、明確なものが剥片剥離作業面に認められないことから不明である。

石核の観察から、打面転移や剥片剥離作業面の転移は行なわれていないものと考えられる。

剥片剥離作業に伴う打面調整は、a面と接するe面端部には顕著に認められるが、c面とd面の剥片剥離作業面と接しているe面には認められない。

また、頭部調整は、d面上端部には認められるものの、a面とc面右側部には認められない。このようなことから、打面・頭部調整は、状況に合わせて行われていたものと考えられる。

なお、推測の域を出ないが、e面上端部に認められる小剥離痕は、石核から剥片を剥離する際に石核を固定した痕跡とも考えることが可能であろう。

（文責 鎌田）

	使用痕のある剥片	二次加工剥片	石核	剥片	碎片	礫	礫片	分割礫片	欠番	合計
黒曜石		1		3	2					6
頁岩		1	1	4		2	7			15
石英	1									1
安山岩				1		7	12			20
砂岩				4		3	19	1		27
粘板岩				1			2			3
不明							1		3	4
合計	1	2	1	13	2	12	41	1	3	76

Tab.82 11トレンチ第10層出土石器組成表

No.	取上げNo.	器種	石材	法量(cm)	重量(g)	打面形状	調整・加工	使用痕	層	備考
39	341	使用痕のある剥片	石英	最大長：2.3 最大幅：2.3 最大厚：0.8	3.24	単剥離	—	刃こぼれ状	10	
40	390	二次加工のある剥片	頁岩	最大長：1.8 最大幅：1.5 最大厚：1.0	2.17	—	a面下端部	—	10	
41	120	石核	頁岩	最大長：1.7 最大幅：2.7 最大厚：2.8	10	複剥離	打面調整	—	10	

Tab.83 11トレンチ第10層出土石器観察表



Pl.154 11トレンチ第10層出土石器写真(表面・作業面)



Pl.155 11トレンチ第10層出土石器写真(裏面・打面)

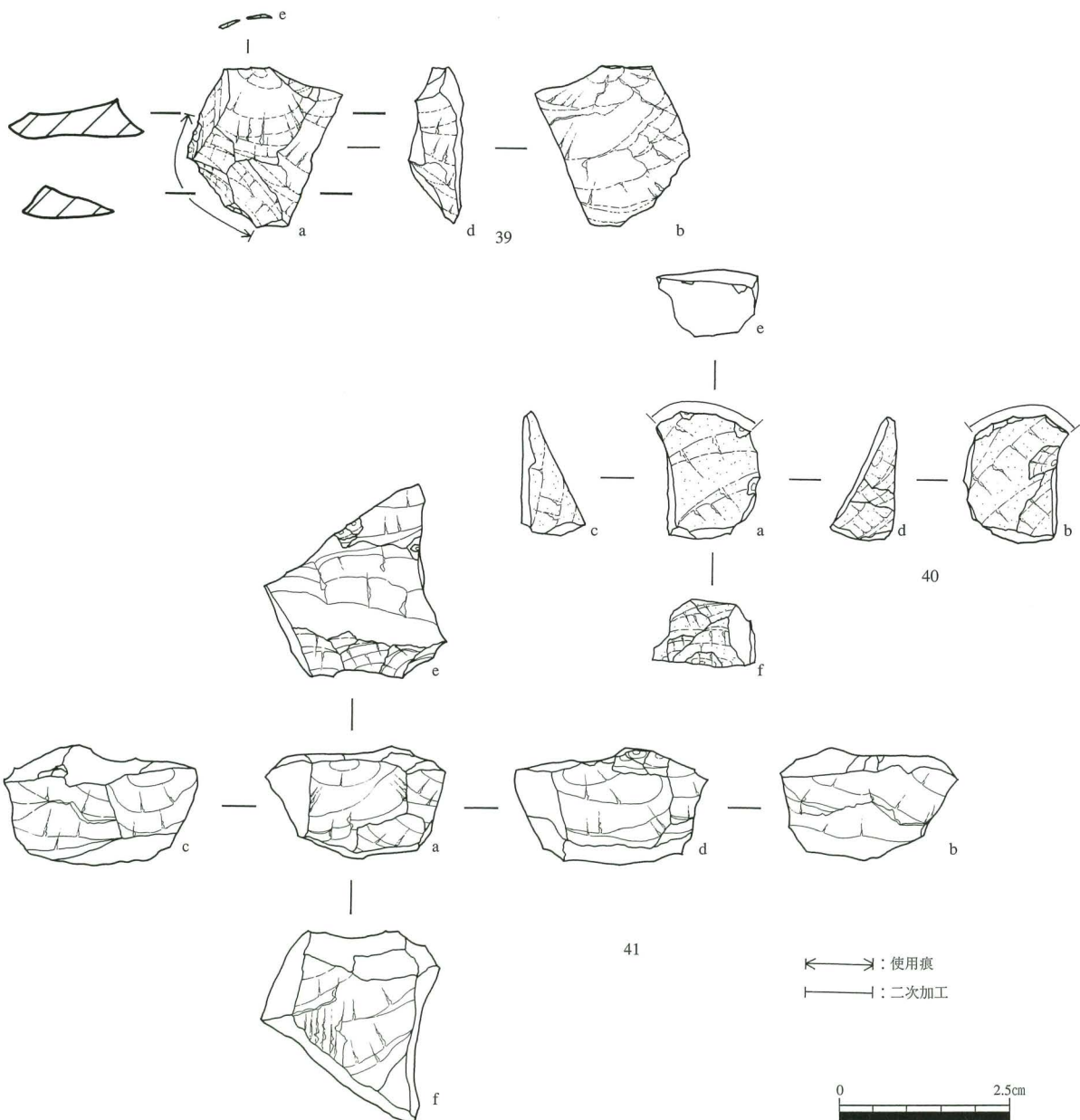


Fig.99 11トレンチ第10層出土石器実測図(S=1/1)

取上 番号	図面 番号	実測	層位	器種	器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
1			5	石器	碎片	黒曜石	0.5	9.5	6.5	3.4	0.2	-193166.036	-38185.590	127.896			
2			5	石器	碎片	黒曜石	0.2	6.3	3.9	1.8	0.05	-193166.299	-38185.626	127.871			
3			5	礫	礫	安山岩	28	31.4	29.1	17.6	11.73	-193165.159	-38186.286	127.923			
4			5	土器	胴部片	-						-193165.504	-38186.688	127.858			
5	10	○	5	土器	胴部片	-						-193165.236	-38186.651	127.862			
6			5	石器	剥片	黒曜石	0.9	8.7	17.8	6.6	0.64	-193165.365	-38186.734	127.846			
7			5	石器	碎片	黒曜石	0.3	5.5	5.8	1.9	0.04	-193166.683	-38185.389	127.814			
8	13	○	5	土器	底部	-						-193166.656	-38185.261	127.777		37,38,222	
9			5	石器	剥片	黒曜石	2.2	16.5	14.8	4.3	0.89	-193168.028	-38185.154	127.709			
10			5	石器	碎片	黒曜石	0.5	10.4	4.3	2.8	0.1	-193167.770	-38184.825	127.715			
11			5	石器	碎片	黒曜石	0.3	5.9	4.6	1.6	0.04	-193168.267	-38185.709	127.706			
12			5	土器	細片	-						-193167.957	-38185.441	127.657			
13			5	土器	細片	-						-193167.906	-38185.732	127.698			
14			5	礫	礫	安山岩	14.4	20.5	17.3	11.2	2.75	-193167.256	-38184.969	127.687			
15	14	○	5	石器	尖頭状石器	頁岩	0.3	43	38	10.5	13.71	-193167.882	-38185.987	127.708			
16			5	礫	礫	軽石	31.5					-193167.598	-38186.051	127.714			
17			5	石器	碎片	黒曜石	0.5	7.3	8.2	2.8	0.15	-193167.286	-38185.842	127.765			
18			5	石器	切断剥片	黒曜石	0.9	10.9	9.4	3.2	0.39	-193167.086	-38185.949	127.803			
19			5	土器	細片	-						-193167.639	-38186.895	127.721			
20			5	礫	礫	安山岩	56.2	44.7	35.3	26.9	60.95	-193168.847	-38186.870	127.651			
21	1	○	5	土器	口縁部片	-						-193168.649	-38187.404	127.689			
22	16	○	5	石器	石鏃	黒曜石	1.7	23.5	21	9.5	2.98	-193168.689	-38189.933	127.612			
23			5	礫	礫片	安山岩	75.8	90.5	47.4	25.7	71.5	-193167.679	-38190.956	127.662			
24			5	石器	剥片	頁岩	3.7	15	18.9	2.7	0.68	-193168.354	-38188.488	127.867			
25			5	石器	剥片	頁岩	0.1	12.2	17.9	2.9	0.65	-193168.458	-38188.676	127.722			
26	4	○	6	土器	胴部片	-						-193167.111	-38190.244	127.635			
27	6	○	6	土器	胴部片	-						-193167.170	-38190.525	127.675			
28	7	○	6	土器	胴部片	-						-193167.258	-38190.368	127.594			
29			5	石器	剥片	黒曜石	0.7	20.4	8.6	7	1.21	-193168.784	-38187.494	127.557			
30			5	石器	碎片	黒曜石	0.3	7.8	5	5.2	0.24	-193169.051	-38187.132	127.590			
31			6	石器	剥片	赤色頁岩	0	21	11.2	4.2	0.82	-193168.172	-38186.986	127.642			
32			6	礫	礫	安山岩	99.4	78	48.6	39.6	210	-193167.938	-38185.948	127.623			受熱痕
33			6	土器	細片	-						-193167.763	-38185.613	127.627			
34			6	礫	礫片	軽石	5.1	24.2	16.1	12.1	1.68	-193167.135	-38185.338	127.695			
35			6	石器	碎片	黒曜石	0.1	5.4	3	1.4	0.02	-193167.613	-38184.789	127.567			
36			6	礫	礫	安山岩	96.2	176	125	96	2250	-193166.863	-38185.508	127.784			
37	13	○	6	土器	底部片	-						-193166.931	-38185.828	127.749	38,222	8	
38	13	○	6	土器	底部片	-						-193166.187	-38185.890	127.775	37,222	8	
39			6	礫	礫片	安山岩	142.4	143.5	68.2	49.8	570	-193166.043	-38186.136	127.794			
40			6	礫	礫片	安山岩	19.2	15.4	13.1	11.4	3.08	-193165.637	-38186.085	127.824			
41			6	石器	剥片	黒曜石	0.6	13.9	10.2	2.1	0.26	-193165.701	-38186.907	127.833			
42			6	礫	礫片	安山岩	68.8	94.7	77.8	61.8	250	-193165.393	-38186.776	127.834			
43			6	礫	礫	安山岩	82.9	97.2	71.2	42.7	235	-193165.575	-38187.425	127.778			
44			6	礫	礫	凝灰岩	110.9	175	149	91	2273	-193165.782	-38187.829	127.825			
45			6	礫	礫	安山岩	0.2	18	13.8	11.5	4.36	-193169.543	-38188.952	127.470			
46	2	○	5	土器	胴部片	-						-193165.067	-38186.174	127.893			
47			5	礫	礫片	凝灰岩	193.4	133.3	104.9	53.6	890	-193164.962	-38186.043	127.904			受熱痕
48			5	石器	碎片	黒曜石	0.3	6.4	6.3	5.8	0.21	-193168.024	-38185.148	127.698			
49	21	○	5	石器	二次加工剥片	黒曜石	4.8	20	15	1.3	5.26	-193167.815	-38184.850	127.696			
50			6	石器	碎片	黒曜石	0.3	9.2	6.7	2.4	0.17	-193166.667	-38185.321	127.766			

Tab.84 11トレンチ出土遺物台帳①

取上 番号	図面 番号	実測	層位	器種	器種名	材質	帯磁率 (×10 ⁻⁴ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
51			9	礫	礫片	安山岩	50.7	45.4	29.4	19.1	21.81	-193167.393	-38191.293	127.059			
52			9	礫	礫片	砂岩	0.1	20.4	19.9	6.1	2.21	-193167.274	-38191.062	127.069			
53			9	礫	礫片	安山岩	0.6	38.9	27.2	19.5	18.55	-193167.021	-38190.399	127.059			
54			9	礫	礫片	頁岩	0.4	40.8	20.6	13	11.01	-193167.365	-38189.140	127.081			
55			9	礫	礫片	砂岩	2.1	43	21.9	17	16.64	-193167.973	-38189.423	126.997			
56			9	石器	剥片	頁岩	0.3	11.7	25.5	10	2.19	-193167.969	-38189.043	127.049			
57			9	石器	切断剥片	砂岩	0.4	30.6	9.1	9	3.26	-193168.535	-38188.984	127.043			
58			9	礫	礫片	不明	0.9	23.7	19.3	16	6.69	-193168.545	-38189.621	126.945			
59			9	礫	礫片	安山岩	0.4	16.4	16	9.4	2.24	-193168.631	-38189.622	126.937			
60			9	礫	礫片	凝灰岩	3.1	20.6	21.5	16.5	5.6	-193168.619	-38189.852	126.992			
61			9	石器	剥片	安山岩	8.1	21.1	15.9	13.8	5.5	-193168.773	-38189.728	126.947			
62			9	礫	礫	安山岩	97.3	40.3	36.4	18.5	26.22	-193169.193	-38189.516	126.987			
63			9	石器	剥片	砂岩	3.6	17.4	24.7	4.9	1.92	-193169.235	-38189.270	126.922			
64			9	礫	礫	安山岩	38.7	28.4	21.9	20.1	11.77	-193168.993	-38189.125	126.961			
65			9	礫	礫片	不明	0.7	31.3	25	17.6	15.13	-193168.927	-38188.911	127.020			
66			9	礫	礫片	凝灰岩	0.4	24.6	17.8	7.2	2.93	-193168.984	-38188.906	127.015			
67			9	礫	礫	安山岩	76.2	115	116	70	750	-193169.686	-38189.174	126.939			
68			9	礫	礫片	砂岩	0.5	46	23	15.4	14.22	-193169.842	-38189.504	126.905			
69			9	石器	剥片	頁岩	0.8	19.1	25.3	7.1	3.98	-193169.899	-38189.548	126.921			
70			9	石器	砕片	黒曜石	0.1	6.4	5.4	4.1	0.12	-193169.863	-38189.850	127.011			
71			9	石器	剥片	頁岩	0.5	19.5	8.6	6.8	1.53	-193168.929	-38187.577	127.084			
72			8	礫	礫片	凝灰岩	1.4	50.5	25.8	13.8	17.89	-193167.484	-38188.134	127.273			
73			9	礫	礫	黒曜岩	31.1	21.5	22.8	20.9	13.15	-193167.312	-38188.181	127.104			
74			9	礫	礫	砂岩	0.9	39.8	25.8	17.4	20.31	-193166.215	-38188.691	127.112			
75			9	礫	礫	軽石	51.3	23.5	17.4	7.9	4.52	-193166.414	-38188.306	127.124			
76	32	○	9	石器	細石刃核ブランク	黒曜石	3.1	15.5	14	10	2.27	-193166.452	-38188.110	127.123			
77	33	○	9	石器	石核	黒曜石	2.9	20	21	12	4.23	-193166.492	-38188.108	127.123			
78			9	石器	剥片	頁岩	1.2	28.3	27.7	10.2	7.64	-193166.761	-38187.989	127.093			
79			9	石器	剥片	頁岩	0.1	12.7	22.8	4.3	1	-193166.795	-38187.874	127.059			
80			9	石器	分割剥片	黒曜石	1	9.1	11.3	8.7	0.68	-193166.268	-38187.855	127.159			
81			9	礫	礫片	砂岩	0.3	38.8	35.3	14	19.59	-193166.650	-38187.687	127.142			
82			9	礫	礫片	砂岩	0.8	29	11.5	9.4	3.35	-193165.695	-38187.601	127.366			受熱痕
83			9	礫	礫	安山岩	67.3	39.8	22.3	20.1	22	-193166.833	-38187.456	127.110			
84			9	礫	礫片	頁岩	8.5	42.6	21.6	15.4	10.74	-193166.631	-38187.298	127.078			
85			9	石器	剥片	砂岩	8.9	18.9	23.2	4	1.84	-193167.034	-38187.381	127.096			
86			9	礫	礫片	不明	0.5	20.9	12.8	13.8	2.46	-193167.193	-38187.362	127.013			
87			9	礫	礫片	凝灰岩	0.4	26.4	8	8.7	23.9	-193167.173	-38187.281	127.050			
88			9	礫	礫	砂岩	0.1	24.5	17.5	11.9	4.03	-193167.074	-38187.191	127.026			
89			9	礫	礫片	不明	9.2	18	17.1	10.1	3.35	-193167.169	-38187.218	127.009			
90			9	礫	礫片	安山岩	8.8	14	15.5	6.9	1.4	-193167.121	-38187.155	127.006			
91			9	礫	礫	不明	35.9	29.1	24.2	21.9	16.9	-193167.326	-38187.331	127.073			
92			9	礫	礫	不明	0.2	22.9	25.7	7.8	3.47	-193167.443	-38187.494	127.046			
93			9	礫	礫片	砂岩	0.2	27.9	25.2	13	11.17	-193167.357	-38187.885	127.037			
94			9	石器	剥片	頁岩	0.3	15	14.3	3.8	0.75	-193167.716	-38187.836	127.078			
95			9	石器	剥片	頁岩	0.1	18.9	10.6	4.7	0.88	-193167.832	-38187.711	127.059			
96			9	礫	礫	砂岩	0.3	22.4	15.8	12.3	5.42	-193167.965	-38187.902	126.991			
97	29	○	9	石器	二次加工剥片	黒曜石	0	21	12	7.5	1.55	-193168.094	-38187.272	127.148			
98			9	礫	礫片	砂岩	1.1	24.1	18.1	10.7	6.29	-193168.476	-38187.191	127.003			
99	31	○	9	石器	剥片	安山岩	0.3	31	38.5	9.5	8.88	-193168.618	-38187.218	127.037			
100			9	礫	礫片	砂岩	1.5	33.7	30.4	22.3	23.65	-193168.667	-38186.868	127.020			受熱痕

Tab.85 11トレンチ出土遺物台帳②

取上 番号	図面 番号	実測 層位	器種	器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考	
101		9	礫	礫片	砂岩	12.8	37.5	23.9	16.3	10.48	-193168.281	-38185.650	127.027				
102		9	石器	碎片	砂岩	0.2	13	3.7	3	0.18	-193168.229	-38185.653	127.028				
103		9	礫	礫片	安山岩	0.6	40	26.3	11.6	9.38	-193167.140	-38186.861	127.092				
104		9	礫	礫	不明	71.9	40.4	31.8	32.3	27.65	-193167.437	-38186.315	127.259				
105		9	礫	礫片	不明	0.4	28.2	10.1	9.8	3.72	-193167.142	-38186.146	127.101				
106		9	礫	礫片	砂岩	0.1	12.3	22.5	6.2	1.58	-193166.819	-38186.437	127.109				
107		9	礫	礫片	不明	56.4	32.8	21.9	22.2	16.98	-193166.455	-38186.666	127.158				
108		9	石器	剥片	安山岩	0.7	26.5	22.5	11.8	6.55	-193165.910	-38186.454	127.190				
109		9	礫	礫	-	0.6	36.2	27.2	11.8	12.98	-193165.748	-38186.213	127.171				
110		9	石器	剥片	頁岩	0.3	34.1	25.4	12.4	10.48	-193165.602	-38185.895	127.230				
111		9	礫	礫	安山岩	38.3	44.8	31.1	22.9	30.24	-193165.222	-38185.976	127.298				
112		9	礫	礫	安山岩	74.3	41.8	25.2	16.1	14.94	-193165.245	-38186.430	127.238				
113		9	石器	剥片	頁岩	0.1	17.9	7.7	2.6	0.29	-193165.786	-38186.749	127.184				
114		10	礫	礫片	安山岩	32.9	24	15.5	9.6	2.4	-193165.875	-38187.506	127.123				
115		10	礫	礫片	安山岩	34.7	25.6	24.5	13.7	9.21	-193166.024	-38187.592	127.087				
116		10	石器	剥片	安山岩	3.6	18	23.1	7.4	3.73	-193165.926	-38187.838	127.106				
117		10	礫	礫片	安山岩	76.9	28	21.6	15.3	7.82	-193166.231	-38187.233	127.084				
118		10	石器	剥片	頁岩	0.5	12.1	22.7	4.6	1	-193166.299	-38186.837	127.156				
119		10	礫	礫	安山岩	1.1	34.8	23.1	17.8	16.22	-193166.083	-38186.691	127.086				
120	41	○	10	石器	石核	頁岩	0.4	17	27	28	11.33	-193166.342	-38186.500	127.079			
121		10	石器	剥片	頁岩	0.4	30.8	16.7	10.3	4.29	-193166.685	-38186.522	127.076				
122		10	石器	剥片	頁岩	0.8	19.6	11.6	9.6	2.1	-193166.836	-38186.218	127.024				
123		10	石器	碎片	黒曜石	0.1	2.8	2.8	1.7	0.02	-193166.357	-38185.471	127.059				
124		10	石器	剥片	黒曜石	2.2	21.1	12.7	9.5	2.14	-193167.262	-38185.957	127.042				
125		10	石器	二次加工剥片	黒曜石	1.8	14.7	11	9.5	1.3	-193167.159	-38186.213	127.037				
126		10	礫	礫片	頁岩	0.6	35.2	23.2	12.5	9.66	-193167.239	-38186.229	126.996				
127		10									-193167.278	-38186.152	126.941				
128		10	礫	礫片	砂岩	0.3	25	9.7	9.1	3.27	-193167.560	-38185.333	126.965				
129		10	礫	礫片	安山岩	51.6	54.5	44.3	31.4	70	-193167.720	-38185.375	126.926				
130		10	石器	剥片	頁岩	0.1	21.4	9.7	4.4	0.76	-193168.050	-38186.000	127.031				
131		10	礫	礫片	砂岩	0.4	21.7	15.9	8.5	2.04	-193167.666	-38186.318	126.954				
132		10	石器	剥片	黒曜石	2.4	16.1	18	5.5	1.73	-193168.174	-38186.421	126.924				
133		10	礫	礫片	安山岩	0.4	33.3	21.6	10.5	6.99	-193168.711	-38187.127	126.888				
134		10									-193169.043	-38187.014	126.915				
135		10	礫	礫片	砂岩	18.5	22.4	26.4	6.4	3.19	-193167.715	-38186.885	126.980				
136		10	石器	剥片	砂岩	2.8	18.3	14.3	8.8	1.69	-193166.588	-38186.936	127.045				
137		10	石器	剥片	砂岩	0.5	30	23.8	11.6	11.28	-193165.733	-38185.930	127.102				
138		10	礫	礫片	砂岩	0.4	35.7	31.6	13.9	20.83	-193165.198	-38186.357	127.183				
139		10	礫	礫片	砂岩	1.6	20.3	21	7.8	4.19	-193165.078	-38186.209	127.163				
140		10	石器	剥片	砂岩	5.5	29.7	18.4	4.4	3.03	-193166.002	-38186.478	127.124				
141		5・6/横転	礫	礫片	頁岩	0.2	9.4	10.2	4.2	0.4	-193171.098	-38188.566	127.459				
142		5・6/横転	礫	礫片	頁岩	0	5.5	12.6	2.7	0.22	-193171.078	-38188.495	127.449				
143		6	土器	細片	-						-193170.791	-38188.274	127.398				
144		5・6	土器	細片	-						-193170.458	-38188.335	127.471				
145		6	石器	剥片	瑪瑙	0	12.5	11.7	3.9	0.57	-193170.506	-38188.177	127.337				
146		6	土器	細片	-						-193170.242	-38188.156	127.366				
147		6	土器	細片	-						-193170.266	-38187.873	127.421				
148		5・6	土器	細片	-						-193170.749	-38187.745	127.428				
149	2	○	5	土器	口縁部片	-					-193170.074	-38187.114	127.495	150		補修穴	
150	2	○	5	土器	口縁部片	-					-193170.170	-38187.130	127.458	149			

Tab.86 11トレンチ出土遺物台帳③

取上 番号	図面 番号	実測 層位	器種	器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考	
151		5	石器	剥片	赤色頁岩	0	13	9.8	5.8	0.61	-193169.981	-38186.801	127.551				
152		5	石器	剥片	黒曜石	0.7	10.8	10.4	4.5	0.47	-193170.014	-38186.356	127.466				
153		6	土器	胴部片	-						-193169.653	-38186.490	127.423				
154		5・6	礫	礫片	安山岩	29.2	28.1	15.1	13	4.59	-193169.585	-38185.856	127.561				
155		6	土器	細片	-						-193169.411	-38185.686	127.488				
156		5・6	土器	細片	-						-193170.275	-38185.747	127.495				
157		6	礫	礫	安山岩	92.2	86.8	63.3	52.7	232	-193170.493	-38185.356	127.488				
158		5・6/横転	礫	礫片	凝灰岩	15.7	29.6	29.1	9.6	4.28	-193171.268	-38185.365	127.455				
159		5・6/横転	土器	胴部片	-						-193171.545	-38185.060	127.472				
160		5・6/横転	石器	調整剥片	頁岩	0.2	23.1	33.3	3.8	2.66	-193171.347	-38184.850	127.434				
161		5・6	石器	分割剥片	黒曜石	2	14.2	15.8	6.6	1.19	-193170.890	-38185.003	127.423				
162		5・6	礫	礫	安山岩	128.6	81.4	81	70.1	615	-193170.813	-38184.746	127.493				
163		5・6	礫	分割礫	安山岩	141.1	118.9	79.9	60.4	748	-193170.800	-38184.494	127.520				
164		5・6	礫	礫片	安山岩	7.7	28.8	22.8	19.6	5.39	-193170.014	-38185.197	127.558				
165		5・6	石器	剥片	頁岩	0.2	11.5	11.2	4	0.55	-193169.776	-38184.718	127.562				
166	5	○	5・6	土器	胴部片	-					-193170.401	-38184.300	127.459	243			
167		5・6	石器	碎片	黒曜石	0.6	12	8.3	5.6	0.42	-193170.393	-38184.042	127.504				
168		5・6	石器	碎片	黒曜石	0.3	9	5.5	2.7	0.09	-193170.503	-38183.980	127.417				
169		5・6	礫	分割礫	安山岩	149.1	116.2	72.4	78.8	895	-193170.825	-38184.069	127.465				
170	3	○	5・6	土器	胴部片	-					-193170.587	-38183.471	127.453	171.172			
171	3	○	5・6	土器	胴部片	-					-193170.796	-38183.385	127.473	170.172			
172	3	○	5・6	土器	胴部片	-					-193170.964	-38183.616	127.481	170.171			
173		5・6	石器	剥片	黒曜石	0.9	17.2	10.8	3.1	0.42	-193170.926	-38183.323	127.467				
174		5・6	石器	二次加工剥片	黒曜石	1.3	11.8	13.5	5.8	0.86	-193170.934	-38183.317	127.463				
175	24	○	5・6	石器	剥片	頁岩	0.1	17	14	3	0.51	-193170.878	-38183.101	127.390			
176		5	土器	細片	-						-193171.357	-38181.868	127.366				
177		5	石器	碎片	黒曜石	0.1	8.6	4.6	4.8	0.17	-193171.376	-38181.904	127.309				
178	19	○	5	石器	スクレイパー	黒曜石	3.3	19	16	9	2.44	-193171.577	-38182.429	127.379			
179		5・6	礫	礫片	安山岩	74.4	63.5	42.4	37.5	122	-193171.462	-38183.626	127.343				
180	11	○	5・6/横転	土器	胴部片	-					-193172.132	-38184.440	127.330	221			
181		5・6/横転	石器	剥片	黒曜石	0.7	17.8	8.3	2.7	0.37	-193172.592	-38184.182	127.242				
182		5・6/横転	石器	碎片	頁岩	0.1	8.1	6.8	1.5	0.09	-193172.099	-38184.985	127.433				
183		5・6/横転	土器	胴部片	-						-193172.781	-38184.882	127.219				
184		5・6/横転	石器	碎片	黒曜石	0.4	10	8.3	2.8	0.14	-193172.477	-38185.719	127.469				
185		5・6/横転	礫	分割礫	安山岩	28.8	45.6	55.1	34.5	70	-193172.655	-38185.798	127.443				
186		5・6	石器	碎片	黒曜石	0.1	10.1	3.2	2.8	0.06	-193170.703	-38182.640	127.358				
187	22	○	5	石器	切断剥片	黒曜石	5.6	43	20	15	13.35	-193170.194	-38182.586	127.468			
188	23	○	5・6	石器	剥片	黒曜石	13.8	66	67	24	79	-193169.928	-38182.892	127.488			
189		5	石器	パレバスカール・チップ	黒曜石	0.1	12.7	9.4	1.7	0.14	-193170.099	-38183.480	127.583				
190		5	石器	剥片	黒曜石	0.2	14.9	7.8	3.6	0.29	-193169.749	-38183.353	127.555				
191		5・6	石器	碎片	黒曜石	0.4	6.3	7.5	3.4	0.17	-193169.499	-38183.131	127.517				
192		5・6	石器	碎片	黒曜石	0.1	7.6	5.4	2.9	0.08	-193169.521	-38183.365	127.520				
193		5・6	石器	碎片	黒曜石	0.2	7.6	4.8	4.1	0.11	-193169.630	-38183.629	127.572				
194		5・6	石器	碎片	黒曜石	0.2	10.4	5.7	2.1	0.13	-193169.704	-38183.761	127.564				
195		5・6	石器	碎片	黒曜石	0.6	4.7	3.8	2.8	0.05	-193169.297	-38184.138	127.567				
196		5・6	石器	碎片	黒曜石	0	6	4.6	2.3	0.05	-193169.137	-38183.626	127.543				
197		5・6	石器	碎片	黒曜石	0.5	16.9	8.6	4.9	0.46	-193169.082	-38183.672	127.579				
198		5・6	石器	碎片	黒曜石	0	6.4	3.4	1.7	0.03	-193168.777	-38183.946	127.634				
199	25	○	5・6	石器	石核	黒曜石	1.8	23	17	9	2.48	-193168.997	-38184.606	127.593			
200		5・6	石器	剥片	黒曜石	2.4	14	18.9	9.6	2.13	-193168.911	-38184.936	127.617				

Tab.87 11トレンチ出土遺物台帳④

取上 番号	図面 番号	実測	層位	器種	器種名	材質	帯磁率 (×10-4 SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
201			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.5	6.4	4.8	4.1	0.11	-193169.043	-38184.949	127.557			
202			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.1	4.3	3.6	1.8	0.03	-193168.662	-38184.431	127.574			
203			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.2	5.3	9.7	2	0.09	-193168.481	-38184.294	127.518			
204			5・6	石器	剥片	黒曜石	1.6	16.8	10.4	6.4	0.65	-193168.479	-38184.250	127.553			
205			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.1	9.2	6.9	3.7	0.13	-193168.499	-38183.709	127.564			
206			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.1	5.3	8.2	0.9	0.02	-193168.399	-38183.781	127.571			
207			5・6	礫	分割礫	安山岩	172.1	111.2	74.8	52	385	-193168.261	-38183.604	127.615			
208			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.4	9.4	6.2	3.3	0.14	-193168.335	-38183.433	127.638			
209			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.7	13.6	9	3.1	0.29	-193169.129	-38183.018	127.611			
210			6・7	土器	細片	-						-193170.819	-38188.830	127.292			
211			6・7	土器	細片	-						-193170.500	-38188.541	127.305			
212			6・7	土器	細片	-						-193170.376	-38188.070	127.309			
213	15	○	6	石器	石鏃	赤色頁岩	0.3	17	14	6	1.08	-193170.149	-38187.399	127.376			
214			6	土器	細片	-						-193170.161	-38187.201	127.359			
215			7/横転	石器	剥片	頁岩	5.1	10.9	15.9	2.8	0.41	-193170.470	-38184.990	127.447			
216	20	○	6	石器	使用痕のある剥片	頁岩	0.1	43	47	19	27.22	-193170.159	-38185.562	127.381			
217			5・6	礫	礫片	安山岩	0.6	18.3	17.2	4.3	1.22	-193169.141	-38185.326	127.351			
218			5・6	礫	礫	軽石	19.5	21.5	17.3	13.4	4.82	-193169.217	-38184.825	127.373			
219			5・6	礫	礫片	頁岩	4.7	10.1	12.1	2.3	0.26	-193170.580	-38184.936	127.379			
220			5・6	土器	細片	-						-193171.172	-38184.872	127.364			
221	11	○	5・6	土器	胴部片	-						-193170.986	-38184.487	127.36	180		
222	13	○	5・6	土器	胴部片	-						-193170.605	-38183.856	127.349	37,38,222	8	
223	9	○	5・6	土器	底部付近破片～胴部	-						-193170.228	-38183.888	127.326			
224			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.2	6.9	7.6	4	0.13	-193170.084	-38183.763	127.406			
225			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.8	8.1	9.6	5.3	0.35	-193169.211	-38183.399	127.486			
226			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.5	5.1	11.9	4.3	0.24	-193168.996	-38183.436	127.456			
227			5・6	石器	碎片	頁岩	0.1	12.5	7.3	2.2	0.23	-193168.818	-38182.864	127.455			
228	8	○	5・6	土器	胴部片(山形押型文)	-						-193168.872	-38183.150	127.486			
229			5・6	石器	剥片	黒曜石	1.2	9.7	16.8	4	0.5	-193168.525	-38183.226	127.48			
230			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.1	7.2	5.7	1.9	0.06	-193168.622	-38182.747	127.481			
231			5・6	石器	二次加工剥片	黒曜石	0.2	13.9	12.7	3.2	0.38	-193168.768	-38182.582	127.474			
232	18	○	5・6	石器	使用痕のある剥片	黒曜石	1.6	25	11	7	1.25	-193168.933	-38182.695	127.472			
233			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.3	11.4	5	3.6	0.18	-193168.888	-38182.500	127.488			
234			5・6	石器	剥片	黒曜石	0.4	12.4	10.7	2.6	0.18	-193169.260	-38182.566	127.45			
235	17	○	5・6	石器	使用痕のある剥片	黒曜石	2.8	15	43	11	4.56	-193169.740	-38182.482	127.362			
236			5・6	石器	剥片	黒曜石	1	16.1	10.8	6.5	0.93	-193170.196	-38182.282	127.343			
237			5・6	石器	剥片	黒曜石	1.1	11.9	15.7	4.3	0.79	-193171.158	-38181.463	127.376			
238			5・6	石器	碎片	黒曜石	0.1	7.2	5.6	4.8	0.17	-193171.516	-38181.860	127.251			
239			5・6	礫	礫	安山岩	40.1	70.1	48.8	45.5	83	-193171.822	-38182.611	127.251			
240			5・6	石器	剥片	頁岩	0	9.6	11	2.6	0.29	-193171.960	-38183.290	127.252			
241			5・6	礫	礫	安山岩	93.8	62.2	53.7	36.2	110	-193172.770	-38184.250	127.141			
242			5・6	礫	礫片	安山岩	5.9	17.2	13.7	3.9	1.02	-193172.363	-38184.778	127.646			
243	5	○	5・6	土器	胴部片	-						-193170.349	-38184.067	127.306	166		
244			5・6	土器	胴部片	-						-193170.221	-38183.990	127.316			
245			5・6	石器	剥片	黒曜石	2.5	21.3	18	7	2.52	-193171.176	-38181.827	127.236			
246			5・6	石器	剥片	黒曜石	2.9	18.3	14	8.3	16.7	-193171.479	-38183.443	127.31			
247			5・6	石器	碎片	頁岩	0	10.9	10.1	3.6	0.36	-193168.078	-38182.809	127.366			
248			5・6	石器	切断剥片	黒曜石	1.9	24.2	12.5	5.9	1.43	-193169.448	-38182.598	127.301			
249			7	石器	剥片	頁岩	0.1	23.8	29.9	7.8	6.18	-193168.853	-38184.993	127.278			
250			5・6	石器	剥片	黒曜石	8.1	12.6	8.4	8.1	1.04	-193169.248	-38185.625	127.311			

Tab.88 11トレンチ出土遺物台帳⑤

取上 番号	図面 番号	実測 層位	器種	器種名	材質	帯磁率 (×10 ⁻⁴ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
251		6	石器	剥片	黒曜石	0.6	10.4	12	6.1	0.55	-193168.929	-38183.325	127.396			
252		6	埋土石器	剥片	頁岩	0	20.8	14.4	2.3	0.77	-193169.036	-38183.804	127.293			
253		7	土器	胴部片	-						-193170.281	-38184.534	127.255			
254		7	礫	礫片	安山岩	9	22.4	21.5	7.3	3.67	-193171.043	-38183.680	127.099			
255		7・8	石器	剥片	頁岩	15.5	18.1	13.8	5.7	1.36	-193169.558	-38186.580	127.221			
256		5・6	横転石器	礫	黒曜石	2.2	10.2	10.3	11.6	1.35	-193171.332	-38186.385	127.209			
257		7	横転 土器	細片	-						-193172.720	-38184.801	126.995			
258		8	横転 礫	礫片	砂岩	8.5	21.6	18	8.4	3.23	-193172.614	-38185.880	126.811			
259		8	横転 礫	礫片	砂岩	2.4	25.9	30	16.5	11.86	-193172.523	-38185.792	126.759			
260		7・8	礫	礫片	砂岩	2.8	15.9	18	17.2	6.49	-193171.150	-38182.783	126.903			
261		7・8	石器	礫片	砂岩	3.9	14.7	10.1	6.3	1.3	-193170.941	-38182.567	126.980			
262		7・8	石器	碎片	黒曜石	5.2	9.9	6.7	4.8	0.26	-193171.377	-38182.631	126.946			
263		7・8	石器	礫片	砂岩	0.9	30.9	21.5	12.7	6.88	-193169.199	-38185.457	127.267			
264		7・8	横転 礫	礫片	砂岩	6.4	31.6	24.9	14.2	11.95	-193171.635	-38185.992	126.994			
265		8・9	横転石器	二次加工剥片	砂岩	0.4	29.1	13.8	9.4	3.9	-193171.688	-38186.448	126.817			
266		8・9	横転石器	剥片	頁岩	0.3	22.2	25.6	5.6	2.21	-193171.542	-38186.825	126.855			
267		8・9	横転礫	礫片	頁岩	0.4	31.1	14.1	8.6	3.95	-193171.695	-38187.371	126.830			
268	26	○6・8・9	横転石器	剥片	チャート	0.1	15.5	10	4.5	0.82	-193171.806	-38188.530	126.895			
269		9	礫	礫片	砂岩	1.3	17	8.1	5.9	0.96	-193171.564	-38185.114	126.878			
270		9	石器	碎片	黒曜石	0.2	6	7.4	0.9	0.04	-193170.636	-38186.427	126.938			
271		9	礫	礫片	頁岩	0.4	28	32.5	12.2	11.78	-193170.322	-38186.391	127.018			
272		9	石器	切断剥片	頁岩	0.2	26.6	13.5	11.9	4.7	-193170.157	-38185.428	126.938			
273		9	礫	礫片	砂岩	1.4	13.4	9.6	4.2	0.61	-193170.378	-38184.546	126.892			
274		9	礫	礫	砂岩	0.3	21.9	15.5	10.7	4.83	-193169.485	-38185.884	127.007			
275		9	礫	礫	粘板岩	2.3	17.8	14.3	6.2	1.55	-193169.457	-38186.281	127.014			
276	28	○9	石器	使用痕のある剥片	頁岩	0.1	19	16	5.5	1.36	-193169.055	-38185.253	127.204			
277		9	礫	礫	安山岩	44.1	34.2	33.8	19.9	25.4	-193168.407	-38184.128	127.063			
278		7・8	礫	礫	不明	64.5	44.3	24.6	26	31.34	-193170.626	-38185.797	127.216			
279		7・8	土器	細片	-						-193171.173	-38182.257	126.953			
280	30	○9	石器	剥片	頁岩	0.4	28	26	13	5.88	-193169.945	-38182.683	126.874			
281		10	礫	礫片	頁岩	0.1	13.4	9.2	3.6	0.53	-193169.841	-38183.288	126.855			
282		10	礫	礫片	不明	6.4	17.1	13.4	11.1	2.77	-193169.421	-38183.114	126.877			
283		9	礫	礫片	砂岩	0.1	6	8.6	5.3	0.31	-193169.540	-38183.374	126.894			
284		9	礫	礫片	不明	0.2	16.6	8.3	6.6	1	-193169.979	-38183.511	126.903			
285		10	礫	礫片	砂岩	0.2	15.8	17.4	10.6	2.27	-193169.749	-38183.675	126.867			
286		10	礫	礫片	粘板岩	11.5	21.9	25.5	12.3	6.67	-193169.792	-38184.116	126.865			
287		9	礫	礫片	砂岩	4.7	29.4	18.4	13.3	8.67	-193169.653	-38184.307	126.904			
288		10	礫	礫	安山岩	0.1	7.6	5.8	3	0.1	-193169.279	-38184.305	126.922			
289		9	石器	剥片	頁岩	0.4	17.6	5	5.6	0.51	-193169.038	-38183.758	127.044			
290		9	礫	礫片	頁岩	0.6	41.4	33.2	7.5	11.49	-193168.830	-38184.826	126.993			
291		9	礫	礫片	粘板岩	0.3	10.6	10.9	3.2	0.38	-193169.250	-38184.866	126.972			
292		9	礫	礫片	砂岩	0.1	17.1	7.9	5.4	0.64	-193169.434	-38184.738	126.916			
293		9	礫	礫片	安山岩	0.1	6.3	4.1	1.4	0.05	-193169.483	-38184.925	126.941			
294		9	礫	礫片	頁岩	0.1	12.3	6.6	2.9	0.21	-193169.951	-38184.652	126.908			
295		9	礫	礫片	頁岩	0.2	15.8	12.4	2.6	0.45	-193169.118	-38185.326	126.952			
296		10	礫	礫	砂岩	1.6	11.1	8.2	4.8	0.42	-193169.393	-38185.172	126.903			
297		10	礫	礫片	砂岩	1.1	12.8	11	5.3	0.63	-193169.990	-38185.285	126.858			
298		10	礫	礫片	砂岩	2	11.9	19.8	7.5	1.45	-193169.853	-38185.363	126.889			
299		9	欠番								-193169.963	-38185.444	126.927			
300		9	礫	礫片	安山岩	0.3	15.4	6.4	3.4	0.35	-193170.244	-38185.409	126.866			

Tab.89 11トレンチ出土遺物台帳⑥

取上 番号	図面 番号	実測	層位	器種	器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
301			9	磔	磔片	頁岩	15	17.6	7.8	6.1	0.95	-193169.696	-38185.562	126.917			
302			9	磔	磔片	頁岩	0.5	25.1	25.5	12.7	6.6	-193169.510	-38185.686	126.936			
303			9	石器	剥片	頁岩	1.1	12.6	9.2	6.8	1.04	-193169.309	-38185.816	126.952			
304			9	磔	磔片	頁岩	0.1	15.7	13.7	4.2	0.83	-193169.280	-38185.929	126.966			
305			9	石器	剥片	砂岩	0.3	12.3	15.6	5.6	1.22	-193169.448	-38185.799	126.961			
306			10	磔	磔片	安山岩	0.6	19.8	21.6	16.2	7.31	-193169.936	-38185.656	126.893			
307			9	磔	磔片	安山岩	0	11.3	7.6	6.2	0.4	-193170.351	-38185.710	126.890			
308			9	磔	磔片	砂岩	3.9	33.2	22.4	15	8.87	-193170.749	-38185.842	126.838			
309			9	磔	磔片	頁岩	0.5	8.5	5	2.9	0.16	-193170.725	-38185.696	126.843			
310			9	磔	磔片	頁岩	2.8	19.9	18.4	12.5	3.98	-193171.008	-38185.654	126.809			
311			9	石器	碎片	粘板岩	0.3	10.8	11.7	2.3	0.3	-193170.523	-38186.142	126.887			
312			9	磔	磔	安山岩	0.9	12	5	4.9	0.26	-193170.588	-38186.284	126.875			
313			9	磔	磔片	砂岩	4.1	16.5	10.1	6.1	1.11	-193170.743	-38186.428	126.868			
314			9	磔	磔片	粘板岩	2.1	31.2	13.7	9.4	5.72	-193169.922	-38186.639	126.895			
315			9	磔	磔片	頁岩	0.2	13.1	9	5.4	0.65	-193170.093	-38186.729	126.887			
316			9	石器	碎片	黒曜石	1.3	3.8	3.8	4	0.07	-193170.530	-38187.078	126.871			
317			9	磔	磔片	砂岩	0.2	11.7	8.2	5.7	0.54	-193170.404	-38187.284	126.884			
318			9	磔	磔片	安山岩	0.2	11.8	9.3	3.9	0.36	-193169.983	-38187.460	126.990			
319			10	磔	磔片	安山岩	0.2	11.2	8	4.9	0.54	-193171.150	-38185.136	126.775			
320			9	石器	プランク	黒曜石	1.3	14.5	8.3	5.9	0.83	-193171.294	-38186.878	126.818			
321			9	磔	磔片	安山岩	0.1	11.9	6.7	2.7	0.19	-193171.367	-38187.032	126.822			
322			9	磔	磔片	砂岩	0.7	20.6	15.8	7.7	1.99	-193171.421	-38187.130	126.812			
323			9	磔	磔片	砂岩	0.5	17.8	10.5	8.4	2.07	-193171.485	-38186.973	126.830			
324			9	磔	磔	頁岩	3.5	16.1	12.7	9	1.62	-193171.428	-38186.827	126.828			
325			9	磔	磔	安山岩	0.1	13.6	5.8	5.9	0.51	-193171.610	-38186.812	126.812			
326			9	欠番								-193171.920	-38186.928	126.771			
327			9	磔	磔片	砂岩	0.4	23.3	13.2	9.3	2.24	-193170.432	-38187.672	126.871			受熱痕
328			9	磔	磔片	砂岩	0.4	17.9	19.2	8.6	3.24	-193170.650	-38188.157	126.840			受熱痕
329			9	磔	磔片	砂岩	0.2	9.3	24.7	8.2	1.52	-193170.572	-38188.361	126.850			受熱痕
330			9	磔	分割磔	頁岩	3.6	24.5	17.9	18.7	8.74	-193170.669	-38188.459	126.908			
331			9	磔	磔	安山岩	0.6	37	20.5	10.6	8.17	-193171.024	-38188.717	126.874			
332			9	磔	磔片	頁岩	0.2	19.4	6.9	4.6	0.68	-193170.992	-38188.128	126.812			
333			10	磔	磔片	砂岩	2.7	26.9	15.9	11.3	3.83	-193171.047	-38188.252	126.796			
334			9	磔	磔片	安山岩	1.8	21.1	21.2	8.9	5.48	-193171.482	-38188.313	126.877			
335			9	磔	磔片	安山岩	0.4	15.9	11.3	5.4	1	-193171.400	-38187.821	126.842			
336			9	磔	磔片	砂岩	0.4	14.1	12.7	2.9	0.54	-193171.514	-38187.625	126.824			
337			9	磔	磔片	砂岩	0.8	33.2	18	6.9	4.79	-193171.298	-38187.722	126.778			受熱痕
338			10	石器	剥片	黒曜	8.1	13.9	10	11.7	1.29	-193172.086	-38188.327	126.780			
339			9	磔	磔片	砂岩	1.1	21.1	17.8	8.9	4.32	-193168.762	-38183.206	126.960			
340			10	磔	磔片	砂岩	3.1	16.9	9.5	6.4	0.68	-193169.293	-38184.577	126.906			
341	39	○	10	石器	使用痕のある剥片	石英	0.1	23	23	8	3.25	-193171.115	-38182.100	126.537			
342			9	磔	磔	砂岩	1.3	53.3	38.3	11.4	28.12	-193170.254	-38182.584	126.819			
343			10	磔	磔片	砂岩	0.5	12	6.5	5.4	0.45	-193168.842	-38183.457	126.881			
344			10	欠番								-193169.392	-38183.403	126.847			
345			10	磔	磔片	砂岩	3.7	26.6	32.3	12.4	12.3	-193169.651	-38183.574	126.813			
346			10	磔	磔片	粘板岩	0.5	14.6	10.7	2.5	0.35	-193169.521	-38183.877	126.844			
347			9	石器	剥片	粘板岩	0.2	16.7	37.1	6.4	3.45	-193169.013	-38184.019	126.938			
348			10	磔	磔	安山岩	21.7	19.2	17.6	16.3	5.78	-193168.819	-38183.875	126.901			
349			10	磔	磔片	砂岩	3.2	14.2	23.2	9	3.46	-193168.855	-38184.016	126.930			
350			10	磔	磔片	安山岩	0.2	13.7	10.5	6.9	1.14	-193168.607	-38184.334	126.941			

Tab.90 11トレンチ出土遺物台帳⑦

取上 番号	図面 番号	実測	層位	器種	器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
351			10	礫	礫片	砂岩	1.3	11.2	19	8	1.73	-193168.692	-38184.521	126.941			
352			10	欠番								-193169.084	-38184.663	126.909			
353			10	礫	礫片	安山岩	0	10.1	12.9	4.3	0.71	-193169.796	-38184.195	126.870			
354			10	礫	礫片	砂岩	0.3	13.3	13	5	0.94	-193170.438	-38184.414	126.805			
355			10	礫	礫片	安山岩	1.5	19.6	12.7	11.3	3.11	-193169.735	-38185.058	126.876			
356			10	礫	礫片	頁岩	0.2	16.9	19.6	5.6	2.39	-193169.133	-38185.276	126.928			
357			10	礫	礫	頁岩	0.9	17.3	15	9.9	2.32	-193169.060	-38185.520	126.903			
358			10	礫	礫片	頁岩	0.7	15.7	15.4	8.4	2.05	-193169.087	-38185.698	126.848			
359			10	礫	礫片	頁岩	0.5	18	7.6	8.4	1	-193169.482	-38185.967	126.921			
360			10	礫	礫	安山岩	0.2	13.3	9.1	4.2	0.55	-193169.690	-38186.533	126.854			
361			10	石器	剥片	砂岩	0.7	14.8	13.1	6.5	1.3	-193169.953	-38186.443	126.874			
362			10	礫	礫片	砂岩	0	16.7	13.7	9	1.52	-193170.284	-38186.229	126.882			受熱痕
363			10	礫	礫	砂岩	1.1	18	11.5	13.8	2.39	-193170.264	-38186.156	126.871			
364			10	礫	礫	砂岩	0.3	28.7	24.5	6.9	4.16	-193170.417	-38186.402	126.813			
365			10	礫	礫片	安山岩	15.2	24.3	15.8	10.2	3.19	-193168.881	-38185.396	126.767			
366			10	欠番								-193170.297	-38185.738	126.835			
367			10	礫	分割礫片	砂岩	8.2	20.6	10.6	11	3.41	-193170.316	-38187.127	126.847			受熱痕
368			10	礫	礫	安山岩	34.4	39.8	23	12.5	14.58	-193170.098	-38187.689	126.855			
369			10	礫	礫片	砂岩	0.1	23.7	23.9	8.8	4.56	-193170.449	-38187.840	126.820			
370			10	礫	礫	頁岩	0	14.7	12.5	9.1	2.58	-193170.386	-38188.234	126.767			
371			9	礫	礫片	頁岩	0.2	11.1	8.4	2	0.18	-193170.505	-38188.284	126.832			
372			9	礫	礫	安山岩	19.3	19.9	21.6	6.7	2.83	-193171.019	-38188.401	126.779			
373	27	○	9	石器	二次加工剥片	砂岩	3.9	20.5	17	8	2.05	-193171.167	-38188.414	126.819			
374			9	礫	礫片	安山岩	0.2	28.9	14.1	11.8	6.22	-193171.293	-38188.168	126.765			
375			9	石器	分割礫	黒曜石	2.3	23.3	12.9	13.5	3.54	-193171.411	-38188.178	126.757			
376			10	礫	礫片	頁岩	0.6	27.6	14.2	9.5	3.27	-193171.279	-38188.027	126.757			
377			9・10	礫	礫片	頁岩	1.7	8.9	7	2.8	0.19	-193171.736	-38188.292	126.744			
378			9・10/横転	礫	分割礫	砂岩	1.7	21.9	29.5	27.4	18.31	-193171.822	-38187.803	126.704			
379			10	礫	礫片	安山岩	18.7	21	19.3	8.3	2.69	-193171.629	-38187.063	126.742			
380			9・10/横転	石器	分割剥片	頁岩	1.2	13.9	16.3	12.1	4.21	-193171.857	-38186.859	126.740			
381			9・10/横転	礫	礫片	砂岩	0.1	17.7	13	7.4	2.43	-193172.036	-38187.044	126.728			受熱痕
382			9/横転	礫	礫片	安山岩	0.1	18.3	10.7	4.1	0.82	-193172.560	-38185.858	126.678			
383			9/横転	石器	分割剥片	黒曜石	0.1	8.8	14.8	10.2	1.38	-193173.042	-38185.531	126.716			
384			9/横転	礫	礫	安山岩	0.4	27.7	19.5	8.4	4.26	-193172.765	-38185.003	126.585			
385			9	礫	礫片	安山岩	0.1	17.4	8.8	7.7	1.22	-193173.084	-38184.704	126.492			
386			10	礫	礫片	砂岩	0.9	13.8	15.5	8.8	1.68	-193172.227	-38184.964	126.586			受熱痕
387			10	礫	礫片	砂岩	9.1	18	25.4	7.6	3.54	-193172.053	-38184.860	126.587			
388			9	石器	剥片	砂岩	4.5	14.7	20	4.8	1.18	-193171.793	-38183.178	126.635			
389			10	礫	礫	安山岩	44.7	28.6	30.1	17.4	18.71	-193169.334	-38186.288	126.838			受熱痕
390	40	○	10	石器	二次加工のある剥片	頁岩	0.57	18	15	10	2.17	-193170.589	-38188.704	126.732			
391			10	礫	礫	安山岩	9.9	23.2	18.7	13	3.78	-193170.234	-38188.064	126.703			
392			10	石器	剥片	砂岩	5.4	12.7	13.5	6.5	0.87	-193172.185	-38188.311	126.601			
393			10	礫	礫片	頁岩	7.8	11.8	16.1	9.5	1.5	-193169.211	-38185.954	126.827			
394	37	○	10・埋土	石器	剥片	黒曜石	2.7	18.5	25.5	9.5	3.18	-193170.262	-38186.789	126.787			
395			10・埋土	石器	碎片	黒曜石	0.5	5.9	8.2	7.5	0.51	-193166.867	-38185.666	126.969			
396			10・埋土	石器	碎片	黒曜石	0.1	7.4	7.5	3.1	0.18	-193165.831	-38185.897	127.062			
397			10・埋土	石器	剥片	頁岩	0.2	17.7	8.7	4	0.52	-193169.869	-38185.489	126.824			
398			10・埋土	石器	剥片	頁岩	1.7	20.4	9.2	4.1	0.89	-193167.040	-38185.910	126.914			
399	36	○	埋土	石器	二次加工のある剥片	黒曜石	2.1	18	16	12.5	2.78	-193166.908	-38185.666	126.939			
400			埋土	礫	礫片	頁岩	0.4	13.2	31.9	5.9	2.65	-193167.039	-38185.555	126.919			

Tab.91 11トレンチ出土遺物台帳⑧

取上 番号	図面 番号	実測 層位	器種	器種名	材質	帯磁率 ($\times 10^{-4}$ SI)	法量長 (mm)	法量幅 (mm)	法量厚 (mm)	重量 (g)	X座標	Y座標	Z座標	接合	同一 個体	備考
401		埋土/床付近石器		碎片	黒曜石	0.1	8.4	6.7	4.5	0.21	-193167.410	-38186.216	126.852			
402		埋土/床付近石器		碎片	黒曜石	0.3	6.3	6.8	3.1	0.14	-193167.496	-38186.112	126.847			
403	38	○ 10・埋土石器		剥片	砂岩	0.9	43.5	26	15	18.51	-193167.805	-38186.525	126.839			
404		10・埋土石器		剥片	粘板岩	14.9				23.83	-193167.909	-38186.287	126.807			
405		埋土 礫		礫	安山岩	89.5	30.3	26.2	12.9	14.52	-193168.299	-38186.697	126.794			
406	35	○ 埋土 石器		剥片	黒曜石	0.2	9	17	8.5	1.05	-193167.486	-38187.820	126.857			
407		9・埋土 礫		分割礫	安山岩	7.5	42.7	37.7	28.1	50.52	-193166.417	-38188.315	127.059			受熱痕
408		9 石器		碎片	黒曜石	0.2	6.6	4.5	3.1	0.09	-193167.061	-38190.982	127.008			
409		10 石器		碎片	黒曜石	0.4	7.2	7.1	4.1	0.19	-193169.104	-38184.279	126.837			
410		10・埋土 礫		礫片	頁岩	23.2	22.1	9.1	8.4	1.97	-193170.254	-38185.911	126.771			
411	34	○ 10・埋土石器		使用痕のある調整剥片	頁岩	0.1	13	11	8	0.93	-193170.027	-38185.940	126.766			
412		10・埋土 礫		礫片	砂岩	5	17.5	18.3	4.2	1.83	-193169.881	-38186.838	126.828			
413		1g 土器		破片	-						-193176.233	-38189.726	130.849			
414		1g 土器		壺形突帯部片	-						-193176.347	-38189.646	130.743			
415		1g 土器		破片	-						-193176.362	-38185.749	130.578			
416		1g 土器		破片	-						-193176.304	-38185.641	130.727			
417		1g 土器		細片	-						-193176.416	-38185.788	130.882			
418		1 磁器		破片	-	0.4					-193177.413	-38187.764	130.917			
419		10・埋土石器		剥片	頁岩	0.7	15	15.3	5	1.39	-193166.972	-38186.764	126.866			

Tab.92 11トレンチ出土遺物台帳⑨

第7節 平成13・14年度の調査成果

平成13年度・平成14年度の重要遺跡範囲確認調査は、平成12年度からの継続調査である。その目的は、平成11年度に第Ⅰ調査区で後期旧石器時代の遺構群が検出されたことを受けて、第Ⅰ調査区周辺での当該期の遺構群の広がりとその内容とを確認することである。各トレンチの確認調査の結果、下記のような成果を得ることができた。各トレンチ毎に地層、出土遺物、遺構などについて記す。

(1) 11トレンチ（平成13・14年度実施）

①弥生時代中期：弥生時代中期の遺物包含層である第1層gは、調査区内の南西隅に一部残存している程度であり、平面的にはほとんど堆積していなかった。また、第1層gは、概ね、北側から南側へ傾斜堆積している。これまでに、第1層gの東側への傾斜面（第Ⅱ調査区）や北側への傾斜面（12・13・14トレンチ）は確認されていたが、北側から南側への傾斜面は初めて確認された。即ち、第1層g上面において、11トレンチの南側は尾根状地形の南側斜面の一部と考えられ、12・13・14トレンチで確認された北側斜面を考慮すると、狭い尾根地形であったと想定できる。

②縄文時代早期：第5・6層中から、縄文時代早期の土器・石器などが出土した。土器は、二枚貝の腹縁部を斜位に連続して刺突することで綾杉文を施す、いわゆる下剥峯式土器^(註)である。また、いわゆる、桑ノ丸式土器と下剥峯式土器との中間型式として評価されている辻タイプ^(註)に該当するものも出土している。併せて、山形押型文土器も出土しており、在地系土器との関連を探る上で貴重な資料になるものと思われる。これらの土器は、縄文時代早期中葉に帰属するものと考えられる。

③後期旧石器時代：第9層から129点の遺物が出土している。石器組成は、使用痕のある剥片、二次加工剥片、切断剥片、石核、細石刃核ブランク等である。調査区の北側半分において後期旧石器時代の遺構群を検出した。平面プランが方形の遺構が5基と土坑2基、ピット10基である。平面が方形プランの遺構については、底面が平坦であるとともに、周囲にピットが伴うと考えられるものもあり、第Ⅰ調査区と西側拡張区で検出された竪穴建物跡と同様の遺構と見られるものがあつた。今回の確認調査によって、第Ⅰ調査区と西側拡張区と同様な遺構群が広がっていることが確認できた。

(2) 12トレンチ（平成13年度調査実施）

①弥生時代中期：第1層gから弥生時代中期の遺物が出土した。遺物の出土状況は、トレンチの北側半分のみであり、南側半分は、畑地造成段階で削平を受け残存していない。第1層gの弥生時代中期の遺物包含層は、概ね南側から北側へ傾斜しており、弥生時代中期の生活空間が、尾根状の地形の北側斜面地にも広がっているものと考えられる。また、ピットと考えられる遺構を北壁断面で検出した。

(3) 13トレンチ（平成13年度調査実施）

①中世：東側壁面において、中世に帰属する土坑を1基を検出した。

②弥生時代中期：第1層gから、弥生時代中期に帰属する遺物が出土した。遺物の出土状況は、トレンチの北側に多くまとまっている。東壁・西壁の層位断面の観察から、第1層gは、概ね南側から北側へ傾斜している。包含されている遺物も傾斜方向に沿って出土し、斜面地の下のほうにまとまっている状況を呈する。遺物が、地形の傾斜に沿って、流れ込んだ可能性もある。しかしながら、ほぼ同じ範囲から柱穴5基が検出していることから、14トレンチと同様に、13トレンチの遺物分布状況が、単に流れ込みを示すものと断定することもできない。なお、調査区の南側寄りでは、第1層gは、畑地造成段階で削平を受け残存していない。

③縄文時代早期：第5・6層から、遺物の出土は見られなかったが、第5・6層を埋土とする柱穴を3基検出した。これまでの水迫遺跡の確認調査では、第5・6層から、岩本式土器、前平式土器、下剥峯式土器、轟式土器が出土している。しかしながら、13トレンチで検出された柱穴の帰属時期に関しては、第4層の鬼界カルデラの噴火以前の縄文時代早期としか言えない。なお、調査区内では、プランを確認できなかった。

④後期旧石器時代：第11層上面において、第9層を埋土の主体とするピット5基を検出した。調査区内では、プランを確認できなかった。しかしながら、少なくとも、第13トレンチの位置までは、後期旧石器時代の遺構が広がっていることが確認された。

(4) 14トレンチ（平成14年度調査実施）

①中世：東側壁面において、中世に帰属するピットを検出したが、調査区全体では検出されていない。

②弥生時代中期：第1層gから、弥生時代中期に帰属する遺物が出土した。遺物の出土状況は、トレンチの北側に多くまとまっている。遺物の出土状況は、13トレンチと同様である。13トレンチから延びる北側への傾斜面地の続きと考えられ、少なくとも13トレンチから14トレンチにかけての第1層gの北側斜面地では、遺物が同様に包含されているものと考えられる。また、14トレンチでは、第1層gを埋土とするピットが25基検出されている。ピットNo20のように、主柱痕が残るものもある。調査区内では、プランは確認できなかったが、弥生時代中期において、なんらかの構築物を伴うような生活空間があつたことが推察される。

12・13・14トレンチとも確認できた第1層gは、北側への斜堆積である。平坦地や尾根の頂上部は、畑地の造成段階で削平されており現在は残存していない。また、南側の傾斜面は、後世の谷の侵食や林道築造に伴って削平されており、残存していない。しかしながら、12・13・14トレンチでの第1層gの遺物出土状況から見ると、削平された平坦地にも遺構を伴うような生活空間があったと想定できよう。

また、第II調査区、及び2トレンチにおいても、第1層gから合計1500点を越える量の同時期の遺物が出土し、かつ29基のピットが検出されている。これらのことから、標高126mを超える丘陵上の広い範囲に、弥生時代中期前半代の生活空間が広がっていた可能性が高いと考えられる。

(5) 後期旧石器時代の遺構群の広がり

平成12年度から平成14年度までの3ヶ年の継続調査の結果、後期旧石器時代に帰属する遺構群は、Fig.100に示す範囲に存在することが分った。その面積は、約6,500m²である。

(註)

11トレンチの出土土器については、新東晃一・前迫亮一・桑畑光博・黒川忠広・金丸武司・遠部慎の各諸氏からご教示を得た。

(文献)

- 指宿市教育委員会 2001 『水迫遺跡Ⅰ』
- 指宿市教育委員会 2002 『水迫遺跡Ⅱ』
- 南九州縄文研究会 2002 『南九州貝殻文系土器1 ～鹿児島県～』

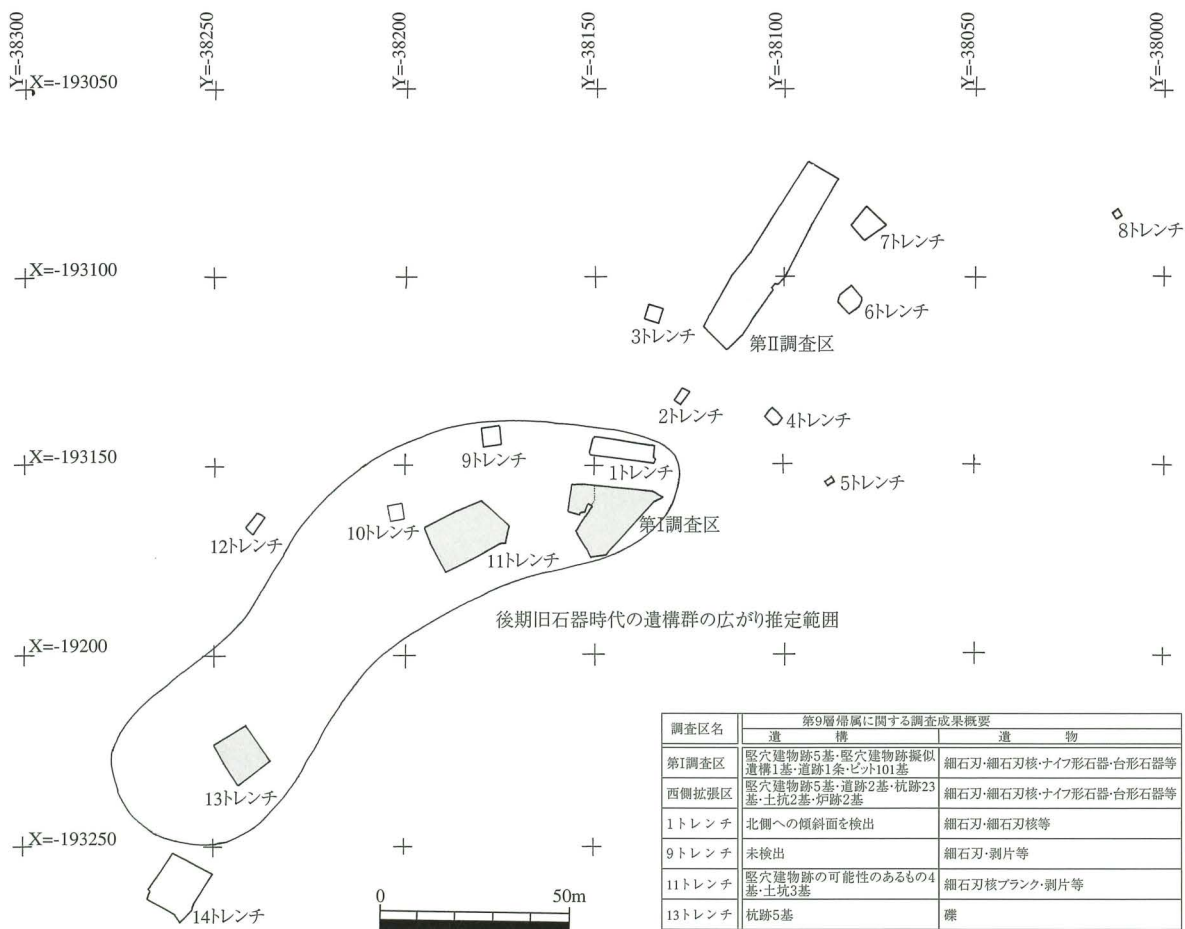


Fig.100 水迫遺跡後期旧石器時代帰属の遺構群の広がり (S=1/2,000)

第8節 第I調査区・西側拡張区検出の後期旧石器時代の遺構群について

平成11年・12年度の調査で、第I調査区、及び西側拡張区で検出された後期旧石器時代の遺構群については、当該期の今後の調査・研究をすすめていく上で、重要な情報と課題を提供するものと考え、再度、振り返っておきたい。特に、今回は次の点についてまとめておきたい。

1. 第I調査区と西側拡張区の地層堆積状況について
2. 第9層の安定性について
3. 西側拡張区における第9層の遺物分布状況と地形について
4. 竪穴建物跡の遺構としての再確認
5. 道跡の遺構としての再確認

1. 第I調査区・西側拡張区の地層堆積状況について

水迫遺跡の基本層序の詳細な説明については、本編の第3章第2節を参照願いたい。

ここでは、後期旧石器時代に関連する地層の堆積状況について再度記述しておく。後期旧石器時代に関連する地層は、第9層から第15層までである。

第9層は、ナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期の遺物包含層で、岩本火山灰が混在している。

第10層は、ナイフ形石器文化期の遺物包含層であり、第9層より黒味が強く、粘性が強い。場所によっては、第10層を土色差や硬さの違いから、黒味の強い第10層aと下層の第11層との漸移層と見られるやや明るい第10層bとに細分ができる。なお、第10層bは第10層aより硬く引き締まっており、「B2」が含まれている。

第11層は、始良カルデラ噴出物堆積層（入戸火砕流＝第11層a・大隅降下軽石＝第11層b）である。

第12・13層は、暗褐色～褐色を呈するナイフ形石器文化期の遺物包含層である。いわゆるAT下位の石器群である。

第14層は、宿利原火山灰ローム層である。第15層は、宿利原火山灰層である。

なお、遺跡の基盤層のひとつである第14層の上面は、第I調査区北側と西側拡張区では、尾根状地形の頂上部付近に位置しているため、概ね平坦である。第I調査区南半分では、尾根状地形の南側への斜面地であるため、北西方向から南東方向に緩やかに傾斜している。

(1) 第I調査区・西側拡張区の地層堆積状況 (Fig.101, 別図2を参照)

第I調査区と西側拡張区は、調査年度が異なっているため、便宜上、異なる名称を用いているが、Fig.101のとおり、一連の調査区である。第I調査区の調査成果は『水迫遺跡II』に、西側拡張区のは『水迫遺跡I』にそれぞれまとめている。

第I調査区北側と西側拡張区における後期旧石器時代に帰属する遺構群の検出面は、第14層上面あるいは、第10層bや第11層上面である。遺構検出面の層位が異なるのは、第10層・第11層・第12層・第13層の各層の堆積状況が異なり、各層が欠落している範囲が調査区内であるためである。よって、大部分の遺構の掘削開始層準である第9層の直下層は、第10層の地点もあれば、第14層である地点もある。

次に、各層の堆積状況の概要について説明する。

第14層は、水迫遺跡全体の基盤層の一部であり、遺構検出面でもある。第I調査区と西側拡張区全体内で、ある程度の層厚を持って堆積していることが確認できる。北側は層厚が薄く、南側ほど厚い傾向がある。

第13層は、第I調査区の南側半分付近からその堆積が見られ、北側の平坦面では確認できない。層厚は、南側で最も厚く、約40cmを測る。

第12層も、第I調査区の南側半分付近からその堆積が見られ、北側の平坦面では確認できない。層厚は、南西側で最も厚く、約20cmを測る。

第11層も、第I調査区の南側半分付近からその堆積が見られ、北側の平坦面では確認できない。出現し始める地点では、第11層a（入戸火砕流）のみである。南側ほど第11層aも厚くなり約30～40cmの層厚を測る。また、第I調査区南側端部では、第11層aの直下層に、第11層b（大隅降下軽石層）が堆積している。

第10層は、第9層と比較すると黒味が強く粘性に富んでいる。土色・土質ともに第9層と明確な違いが認められたため分層した。第10層は、第11層・第12層・第13層と同様に第I調査区の南半分付近からしか堆積が見られないため、第I調査区の北側平坦面での堆積は確認できない。第10層も南側に移るにつれ厚くなりながら堆積し、最も厚く堆積している部分で約20cmを測る。また、西側拡張区の中央ベルトの南西側の範囲に若干堆積し、西側拡張区北壁際付近に部分的な堆積が見られるものの、平面的にはほとんど堆積が見られない。

次に、第I調査区北側と西側拡張区の中央ベルト付近より北東側部分の比較的平坦な範囲（以下、尾根頂部と呼ぶ）での、第9層とその下位層との攪乱の有無について、その状況を述べる。

尾根頂部では、肉眼観察による第10層から第13層の堆積は認められない。仮に、第9層が下位層と混在するような攪乱を受けながら堆積した場合、下記について判断することで混在しているか否か判別が可能である。

- ①プライマリーな第9層と比較して土色差と土質変化があるかどうか

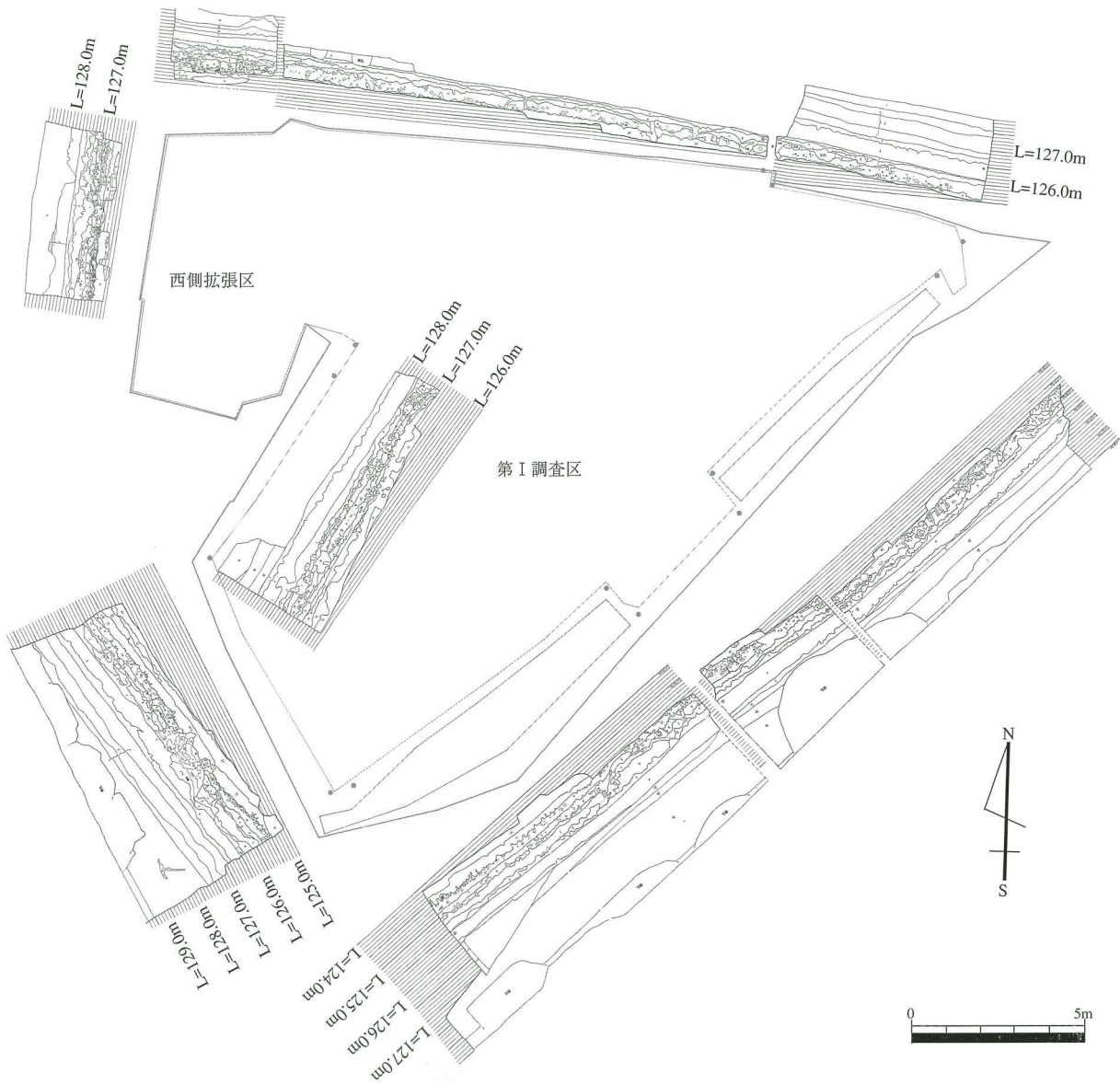


Fig.101 第I調査区・西側拡張区の地層堆積状況図 (S=1/20)

②第9層の下位層に含まれている軽石や自然礫などの混在物があるかどうか

③第9層の下位層に包含されている遺物などの混在があるかどうか

第9層中で、礫混じりで褐色を呈する入戸火砕流(第11層 a)や、橙色を呈する大隅降下軽石(第11層 b)、褐色から暗褐色を呈する第12層・第13層との混在があった場合は、容易にその判別が可能であり、実際、肉眼観察では混在している状況は確認できない。このことから、尾根頂部で第9層が生成される時点で、すでに第11層～第13層の土壌は、調査区南側の傾斜面側へ流出していたものと判断できる。

では、第10層はどうであろうか。第10層は、第11～13層と同様に、尾根頂部では堆積は認められない。第10層が認められない理由としては、以下のものが考えられよう。

①第10層が、第11層・第12層・第13層同様に何らかの自然要因で流出したため。

②第10層・第9層の堆積過程または堆積後に、何らかの二次的な攪乱を受け、第9層と第10層は混在しているため。

なお、第10層は、第9層より黒味が強く粘性に富んだ土壌であり、肉眼観察による色調や土質の差異から分別が可能である。第9層を掘り下げていく時点での第I調査区北壁の地層断面、及び、調査過程で設定したベルトの地層断面等の肉眼観察からも、第9層と第10層が混在した状況は確認できなかった。また、第10層に包含されているようなナイフ形石器や三稜尖頭器などは第9層に混在していない。しかしながら、仮に、第9層と第10層が区別がつかないほどの攪乱で再堆積した土壌であった場合は、厳密には肉眼観察のみで、両層の攪乱・混在の有無を判断することはできない。そこで、遺物分布の状況と遺構の掘り込み痕跡から第9層の安定性について考察してみる。

2. 第9層の安定性について

地層の堆積状況を踏まえ、第9層の安定性について、第9層の遺物分布状況と炉跡の立ち上がりの状況から考察してみる。まず、第9層の遺物分布状況から考察してみる。

(1) 遺物分布からみた第9層の安定性について

① 第9層と第10層との分別の蓋然性について —包含される石器群から—

まず、第9層石器群と第10層石器群の様相から、第9層と第10層の分層に、蓋然性があるか否かについて考察する。

i. 第9層石器群の様相

第9層には、細石刃・細石刃核・打面再生剥片・作業面のある剥片、ナイフ形石器・台形石器等が包含されている。

細石刃核は、黒曜石の小礫を素材とした野岳・休場型細石刃核が主体を占めており、この様相をこれまでの九州での旧石器研究成果と照らし合わせてみると、南九州における細石刃文化初期の所産のものと位置づけることが可能である。(Fig.102参照)。

ナイフ形石器・台形石器は、頁岩・黒曜石を素材としたもので小形のもので主体を占める。ナイフ形石器やその素材剥片の形態、ブランティングの施し方などから、南九州におけるナイフ形石器文化終末期の所産のものと位置づけることが可能である。

このことから、第9層の帰属時期は、南九州におけるナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期の所産のものと考えられる。両石器群については、平面・垂直分布図から分離・分層はできないと『水迫遺跡Ⅰ』・『水迫遺跡Ⅱ』で報告した。水迫遺跡第9層石器群の編年的位置付けの根拠については、第68回日本考古学協会2002年大会での発表要旨ないし、その要旨を一部再録した『水迫遺跡Ⅱ』を参照願いたい。

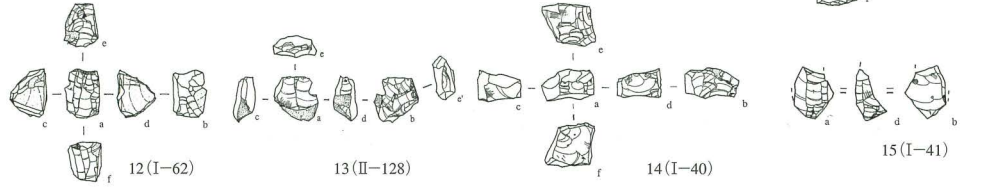
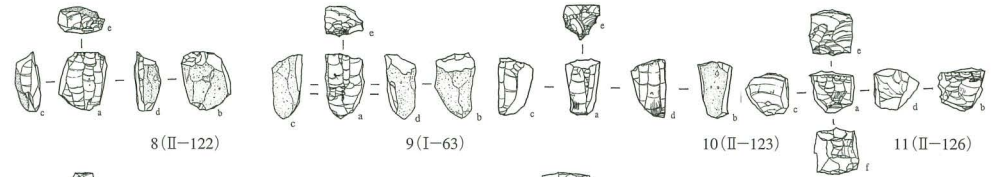
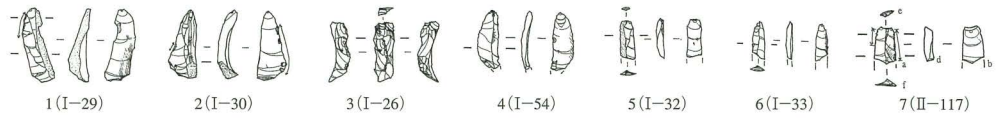
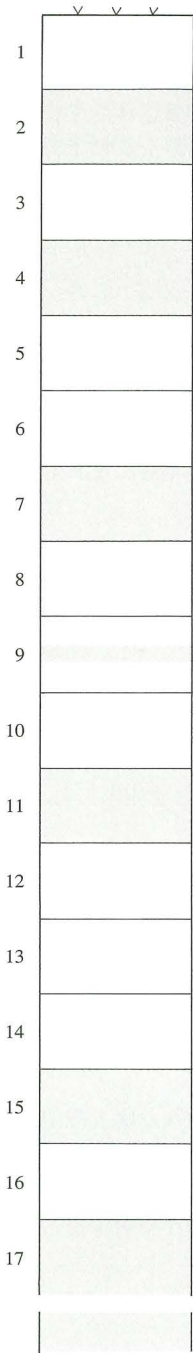
第9層の両石器群の様相と石器組成、及びそれらの出土分布状況から、下記のように解釈することが可能であろう。

- a. 南九州における細石刃文化初期とナイフ形石器文化終末期の時期の異なる石器群が、水迫遺跡第9層中で混在している。
- b. 小形のナイフ形石器・台形石器が細石刃と同様に組み合わせ石器として利用されていた可能性もあると考えられていることから、両石器群が時間的に非常に近接し、「ナイフ形石器文化期から細石刃文化期への過渡期的様相」を示すひとつの事例である。

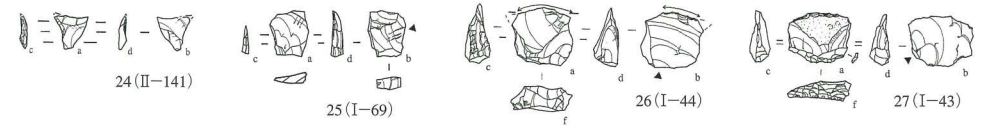
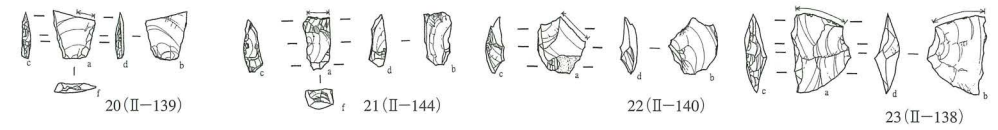
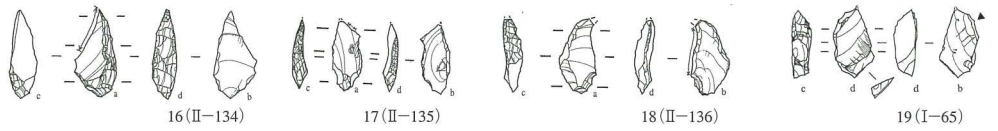
このような解釈は、石器群の変遷のあり方や石器組成の様相による個々の研究者の編年観の違いによって異なるものであり、様々な解釈が可能であろう。

さて、『水迫遺跡Ⅱ』で鹿児島県鹿屋市西丸尾遺跡のⅦb層石器群(細石刃文化初期)を取り上げて、第9層石器群での細石刃文化期の帰属時期を検討したが、若干、ここで補足説明を付け加えておく。

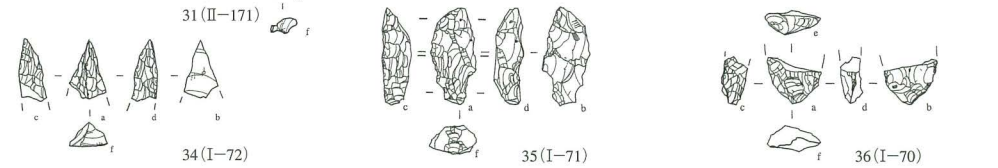
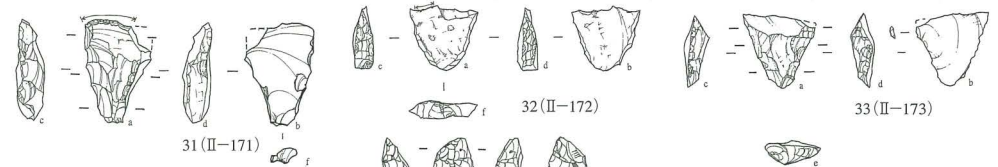
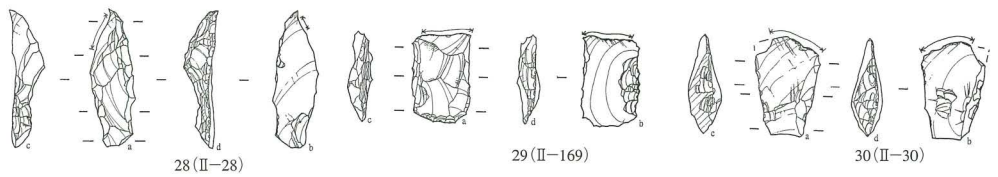
西丸尾遺跡では、2時期の石器群が確認され、明確に分離されている。岩本火山灰を含むⅦb層からは、水晶を素材の主体とする野岳・休場型細石刃核が認められ、南九州における細石刃文化初期に位置付けられている。また、桜島起源の火山噴出物のP15～P17のいずれかに対比できる軽石や小礫混じりのⅧa層を挟んで、Ⅷb層からは、剥片尖頭器、両面加工尖頭器、二側辺加工のナイフ形石器、今峠型ナイフ形石器が出土している。さらに、「西丸尾型横長剥片」と呼称される特徴的な横長剥片も組成中に含まれ、九州におけるAT上位の横長剥片剥離技術のひとつである瀬戸内技法との関連も想定されている。このようなⅧb層石器群の様相は、編年的には、南九州におけるナイフ形石器文化の中でAT降灰・堆積の時期の石器群に近く、ナイフ形石器文化終末期には帰属しないことは明らかである。両石器群は、編年



第9層石器群 [細石刃文化初期] (1~7: 細石刃, 8~13: 細石刃核, 14: 打面再生剥片, 15: 作業面のある剥片)

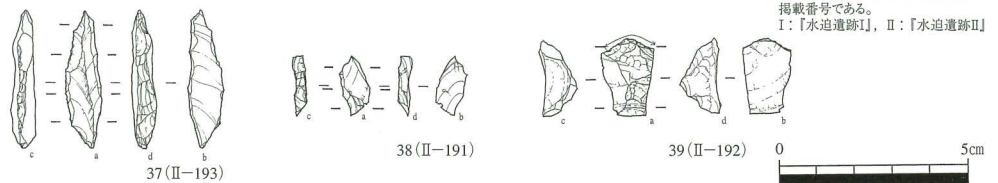


第9層石器群 [ナイフ形石器文化終末期] (16~19: ナイフ形石器, 20~27: 台形石器)



第10層石器群 (28: ナイフ形石器, 29~33: 台形石器, 34・35: 三稜尖頭器, 36: 槍先形尖頭器)

※番号横の()内数字は掲載報告書と掲載番号である。
I: 『水迫遺跡I』, II: 『水迫遺跡II』



第12・13層石器群 (37・38: ナイフ形石器, 39: 台形様石器)

Fig.102 水迫遺跡後期旧石器時代石器群の組成図

的にも、出土層位や石器組成的にも明確な時期差が認められる。

水迫遺跡の石器群と西丸尾遺跡の石器群を編年的に対比させると次のようになる。西丸尾遺跡のⅦb層石器群（細石刃文化初期）とⅧb層石器群（ナイフ形石器文化後半期）との間に、水迫遺跡第9層石器群（細石刃文化初期とナイフ形石器文化終末期）と第10層石器群（ナイフ形石器文化後半期）が入ることとなる。

ii. 第10層石器群の様相

水迫遺跡の第10層からは、西丸尾遺跡のⅧ層石器群より新しい時期に位置付けられる石器群が確認されている。第10層の石器群の平面分布状況は、第Ⅰ調査区南半分と西側拡張区の南側に偏在して分布している。第9層の平面分布図と比較すると、第9層と第10層の平面分布域が異なっていることがわかる。

第10層と第9層のナイフ形石器・台形石器を比較すると、第9層のものが顕著に小形である。第10層には、やや大振りなナイフ形石器をはじめ、台形石器・三稜尖頭器・槍先形尖頭器等が含まれている（Fig.102参照）。これまでの調査では剥片尖頭器は出土していない。また、三稜尖頭器は小形で整形も粗いものである。これらのことから、第10層石器群は、AT上位のナイフ形石器文化の中でも、剥片尖頭器が石器組成中から消滅している時期に帰属するものと考えられ、九州におけるナイフ形石器文化後半の時期に位置付けられるものである。

iii. 第9層と第10層の分別の蓋然性について

第9層石器群と第10層石器群の様相を踏まえ、両石器群の石器組成や各石器の形態などを、南九州でのナイフ形石器文化期から細石刃文化期の編年観に照らしてみると、両者には、その諸特徴から明確な時期差が認められ、しかも、層位的にも異なることから、分別することは有意であると判断できる。なお、水迫遺跡の第9層と第10層は、水迫遺跡特有の地層堆積状況ではなく、南九州に広く見られる、通称、「チョコ層」、「クロ層」と呼称されている地層にそれぞれが該当するものである。以上のことから、第9層と第10層を分別することには蓋然性があると言える。

② 第Ⅰ調査区・西側拡張区での遺物分布状況（Fig.103）

さて、上記のことを踏まえ、第Ⅰ調査区と西側拡張区での遺物の分布状況を見てみたい。

先述したとおり、第9層には、細石刃文化初期とナイフ形石器文化終末期の所産の遺物が含まれている。両時期の石器群での主要な遺物毎に色を変え、分布図を作成してみた。細石刃文化期に帰属する主要な石器として、細石刃・細石刃核・細石刃核ブランク・（細石刃核）打面再生剥片・（細石刃核）作業面のある剥片を取り上げた。また、ナイフ形石器文化期に帰属する主要な石器として、ナイフ形石器・台形石器を取り上げた。なお、第9層から出土した石器の中で、両石器群のどちらに帰属するのか確定が難しい剥片・碎片・石核・スクレイパー・片刃礫器は同色で作成した。

以下、細石刃文化期とナイフ形石器文化期の両時期毎に分布状況を見てみる。

i. 細石刃文化期に帰属する主要石器の分布状況（赤色）

細石刃文化期に帰属する主要な石器は、西側拡張区から第Ⅰ調査区西側にかけてまとまりがみられる。また、第Ⅰ調査区東側と南西側には、西側拡張区から第Ⅰ調査区西側に比べると点数が少なく散在している状況である。

西側拡張区の中央から北側に分布している石器を見ると、細石刃・細石刃核・細石刃核ブランクをはじめ、細石刃剥離作業段階に伴うと考えられる打面再生剥片や作業面再生剥片も分布している。また、細石刃の縁辺に使用痕の認められるものと認められないものがある。

これらのことから、この周辺を、細石刃核整形作業、細石刃剥離作業、細石刃の使用・廃棄が行われた場と想定することが可能である。さらに、西側拡張区の北東隅で検出した1号炉跡の周辺から出土している細石刃核には、受熱によって表面に変色があると指摘を受けているものもある⁽¹⁾。また、第Ⅰ調査区の北側（1号竪穴建物跡の北側に隣接する部分）にも、細石刃核と細石刃がまとまって分布しており、細石刃・細石刃核と同質の黒曜石製の碎片や剥片などもあることから、ここでも細石刃剥離作業が行われていたと想定することが可能である。

ii. ナイフ形石器文化期に帰属する主要石器の分布状況（青色）

ナイフ形石器文化終末期に帰属する主要な石器の分布状況は、西側拡張区中央付近から、第Ⅰ調査区の西側にかけてまとまりがみられる。また、第Ⅰ調査区東側と南西側には点数は少ないものの散在している。これらの分布状況は、先述した細石刃文化期の主要な石器の分布状況と一部重なるように看取できる。実際、調査時点において、1号竪穴建物跡の北側や1号炉跡の東側から出土しているナイフ形石器や台形石器は、細石刃・細石刃核と隣接し、ほぼ同レベルから出土している状況であった。

iii. 第Ⅰ調査区・西側拡張区での遺物分布状況からみた第9層の安定性について

以上、第10層が見られない尾根頂部における第9層帰属の石器組成と遺物分布状況から、第9層のあり方について、下記の点が看取できた。

①細石刃核整形作業、細石刃剥離作業、細石刃の使用・廃棄が行われた「場」と想定できる遺物のまとまりがある。

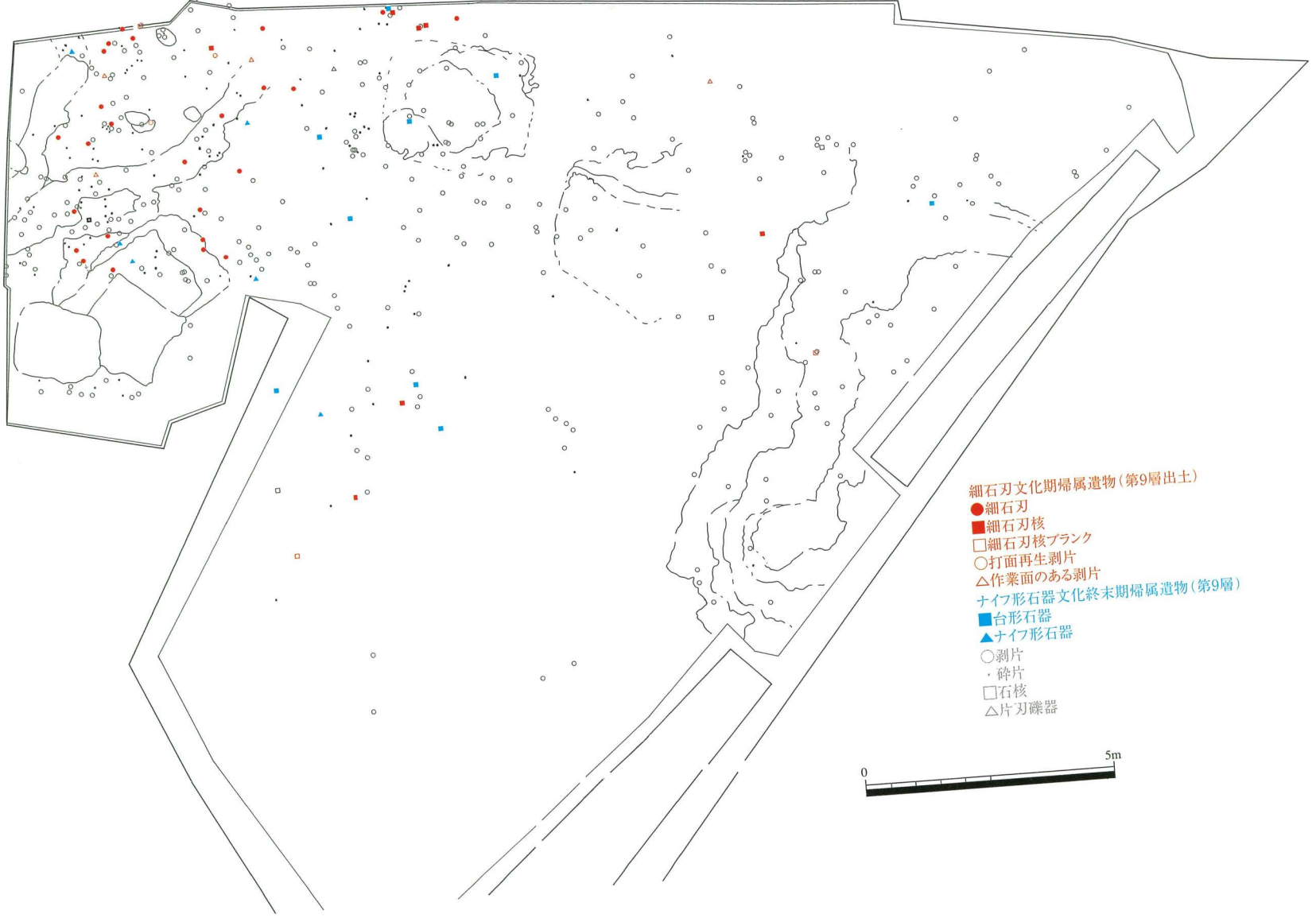


Fig.103 第I調査区・西側拡張区第9層出土遺物平面分布図(S=1/120)

②出土遺物の内容は、南九州におけるナイフ形石器文化終末期から細石刃文化初期の所産のものである。

③出土遺物の中には、第10層に帰属する製品は含まれていない。

④第9層出土遺物の個々の肉眼観察では、包含層自体の二次的な攪乱や流水等による攪乱等によって生じると言われている石器の剥離面やエッジに残される磨耗・摩滅は観察されない。

さて、先述したように、肉眼観察による土色差や土質の差異からは、第9層と第10層が混在した状況は確認できなかった。それに加え、遺物の分布状況と個々の遺物の状態を見る限り、上記①～④の状況は、第10層が見られない尾根頂部は、第9層がプライマリーな状況であることを示唆している。このことから、第10層の見られないその範囲では、第10層は、第11層～第13層同様に、第9層の生成する以前に何らかの自然現象で流出していたと考えられる。

よって、その調査区における比較的平坦な範囲の後期旧石器の遺物包含層は、第9層と10層が区別がつかないほどの二次的な攪乱を受け、再堆積した土壌とは考えにくい。このことは、第9層出土遺物に磨耗、摩滅を受けた痕跡が観察できないことから窺えられる。第9層と第10層の混在が、皆無か否かは厳密には断定できないが、少なくとも、遺物分布の状況から、ブロックが形成された以後、第9層と10層が区別がつかないほどの2次的な攪乱が起こった可能性は低く、第9層は、安定した遺物包含層と言える。

(2) 炉跡からみた第9層の安定性について (Fig.104)

続いて、第9層の安定性について、西側拡張区の北東隅で検出された1号炉跡から考察してみる。

1号炉跡は、西側拡張区を設定する以前の、平成12年3月に第I調査区北西部を拡張した際、南壁の第9層中に赤色化した土壌と赤色粒子、及びカーボンが集中する範囲を確認し、炉跡の可能性を想定した。その後、平成12年度の総合調査で西側拡張区を設定し、掘り下げていく段階で、炉跡が残存していると予想される範囲においては、南壁を併用する形で幅6cmのベルトを残し、少しでも炉跡の立ち上がりを残すために、高い位置での炉跡の平面検出を試みた。

ベルト北壁での土色を肉眼観察し、土質を確認しながら、遺構の掘り込み痕跡を探索した結果、炉跡の立ち上がりは第9層中に確認することができた (Fig.104参照)。ここで、総合調査段階での肉眼観察の記録と、測色計で計測した土壌の測色データを提示し、認識した炉跡の立ち上がりラインの妥当性について検証する。

① 炉跡左側の立ち上がりラインの検証

肉眼観察の記録

炉跡埋土内②：全体的に⑬・⑥・④に比べ茶味が少なく、黄土色が強い。赤色粒、カーボン、共に埋土中で一番多く混在している。1回目に掘り込まれた面と接し、2回目の第一埋土である。

炉跡埋土内④：⑥より若干、茶味が増し、3mm大のカーボンや赤色粒（2mm大）が含まれるが、下層の②と比べると少ない。白色粒を含む。

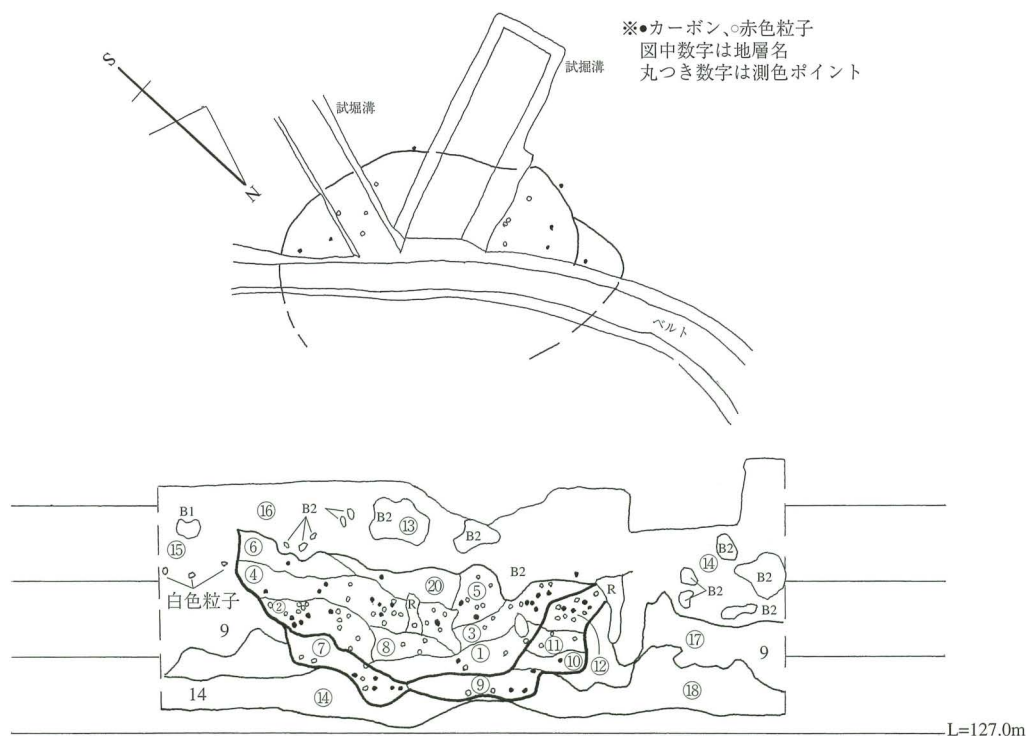


Fig.104 西側拡張区検出の1号炉跡平面・断面図(S=1/10)

炉跡埋土内⑥：⑩よりやや茶味がうすい。細かな「斑」と岩本火山灰の白色粒，カーボンを含む。

炉跡埋土外⑮：遺構外の第9層であり，3～5cm大の「斑」が含まれ，ほぼ同じレベルに2～8mm大の白色粒が点在している。遺構上面付近に14層ブロックが認められ，掘り込み面と想定される周辺に，宿利原火山灰ローム層（14層）が掘り上げられているものと考えられる。カーボンは見られない。

炉跡埋土外⑯：1号炉跡の立ち上がりライン及び埋土⑥の上に堆積している。9層土。一部炉跡の埋土の可能性も考えられ，「斑」や細かな「斑」が認められる。一部，岩本火山灰の白色粒を含む。

肉眼観察において，土壌中の赤色粒子や赤化土壌，カーボンの有無，土壌の色を指標として②・④・⑥の土壌を埋土内と判断し，Fig.104左側半分のような境界線（炉跡左側の立ち上がりライン）を引いた。

次に，肉眼観察による土色の違いを客観的に記録し，肉眼観察による土色の差異を追証するため，測色計で計測した。

なお，図中の①～⑯は，測色した位置を示している。

測色位置	L	a	b
炉跡埋土内②	27.5	9.9	13.4
炉跡埋土内④	27.4	6.5	9.2
炉跡埋土内⑥	27.0	5.6	8.4
炉跡埋土外⑮	25.3	6.5	11.0
炉跡埋土外⑯	27.3	5.3	7.9

測色計で計測したL・a・b値は，色を数値化して表示する方法である⁽²⁾。例えば，炉跡埋土内④と炉跡埋土外⑮のa値は，数値的には6.5と同じであるが，L値（④：27.4と⑮：25.3で⑮がより暗い）とb値（④：9.2と⑮11.0で⑮がより黄色が強い）に数値的に差異が認められ，異なった色であることが示されている。

測色データによると，炉跡埋土内②・④・⑥の測色値と自然堆積層と認識した炉跡埋土外⑮の測色値には，L値（炉跡埋土内②・④・⑥のL値は27前後に対して，炉跡埋土外⑮の数値25.3と低い）に差異が認められる。

② 炉跡右側の立ち上がりラインの検証

肉眼観察の記録

炉跡埋土内⑩：黄土色が強く，やや軟質である。カーボンが若干含まれる。

炉跡埋土内⑪：⑫に比べ灰色が強く，分層が可能である。若干，赤色粒が含まれる。

炉跡埋土内⑫：1回目の炉として用いられた際の埋土である。色調・混和されるものから判断して，④に類似しているが，①によって切られている。赤色粒，カーボンが若干含まれている。

炉跡埋土外⑭：遺構外の第9層であり，3～5cm大の「斑」が含まれ，ほぼ同じレベルに2～8mm大の白色粒が点在している。

炉跡埋土外⑰：第14層と第9層が混在した土壌で，第9層本体より黒味が薄い。

遺構右側の立ち上がりラインの検討と同様に，肉眼観察において，土壌中の赤色粒子や赤化土壌，カーボンの有無，土壌の色を指標として⑩・⑪・⑫の土壌を埋土内と判断し，Fig.104右側半分のように境界線（炉跡右側の立ち上がりライン）を引いた。

次に，肉眼観察による土色の違いを客観的に記録し，肉眼観察による土色の差異を追証するため，測色計で計測した。

測色位置	L	a	b
炉跡埋土内⑩	26.3	8.9	15.5
炉跡埋土内⑪	25.3	9.5	15.6
炉跡埋土内⑫	24.6	7.5	12.7
炉跡埋土外⑭	22.9	6.4	11.8
炉跡埋土外⑰	33.5	9.2	19.0

測色データによると，肉眼観察による土色の差異が，炉跡埋土外⑭・⑰と炉跡埋土内⑩・⑪・⑫のL・a・b値の数値に差異が現れている。

③ 炉跡の立ち上がりの妥当性と第9層の安定性について

炉跡土壌内の赤色粒子や赤化土壌，カーボンの有無，土壌色を指標として，炉跡の立ち上がりラインについて検討を行った。さらに，肉眼観察による土色の差異について，測色計を用い追証した結果，先述したとおり，立ち上がりラインを境界とした炉跡埋土内と炉跡埋土外には，土色に差異があることを確認した。これらのことから，第9層中には，炉跡の立ち上がりがあることを確認した。

よって，炉跡の立ち上がりが第9層中まで残存していることから，炉跡が形成された付近の第9層は，少なくとも炉跡が形成された以降は，その掘り込みラインや形状を大きく崩すほどの，下位層と混在するような攪乱，再堆積が起こった可能性は低いと思われる。すなわち，9層は安定している地層であることが言える。

(3) 遺物分布状況と炉跡からみた第9層の安定性について

これまで、第9層の遺物分布状況と炉跡の立ち上がりの妥当性からの視点で、第9層の安定性について考察してきた。その結果、次のようにまとめられる。

第9層の遺物分布状況、並びに炉跡の立ち上がりからの残存状況から、ブロックが形成された以後、そのブロックと捉えられる分布状況を崩すほどの再堆積があった可能性、また、遺構形成後、その立ち上がりラインを消失してしまうほどの攪乱・再堆積の可能性はいずれも低いと考えられる。

このことから、第9層・第10層が、区別がつかないほど攪乱され混在した地層とは考えにくく、第9層は安定している遺物包含層であると言える。

3. 西側拡張区における第9層の遺物分布状況と地形について (Fig.105・106)

これまでに刊行した『水迫遺跡Ⅰ』・『水迫遺跡Ⅱ』において、西側拡張区の地層堆積状況や遺物分布状況図を提示してきた。遺構との関連を考える上で重要な情報を提示するため、改めて西側拡張区における遺物分布状況に関する事実関係を整理し、後期旧石器時代(第9層)に帰属する遺構群が構築された第9層段階での地形について考える。

西側拡張区における第9層の遺物分布状況と第9層下部の地形を見ていく上で、2種類の第9層出土遺物の平面・垂直分布図(①西側拡張区での遺構外出土遺物の平面・垂直分布図・②西側拡張区での遺構外出土遺物と遺構埋土出土遺物の平面・垂直分布図)を用いて観察していく。

(1) 西側拡張区での遺構外出土遺物の平面・垂直分布図 (Fig.105)

ここでは、第9層出土遺物で遺構外から出土した遺物のみの南北方向の垂直分布図に、西壁層位断面図を投影し、遺物分布と西壁層位断面図での出土状況について観察していく。Fig.105を参照されたい。遺構外出土遺物の南北方向の垂直分布図①を見ると、約20~30cm程の上下の幅を持ちながらも北方向から南方向へ行くに従い、遺物の出土レベルが下がっているように看取できる。

では、この垂直分布図①に西側拡張区の西壁層位断面図を投影してみる。ただし、西側拡張区の西壁層位断面図には、道跡B・Cの断面も含まれている関係上、西壁層位断面図の南側半分は明確な第9層下部ラインは書かれていない。

西壁層位断面図に投影すると、第9層中に入る遺物と、上位層である第8層に投影されてしまう遺物と、下位層の第10層に投影されてしまう遺物、道跡B・Cの遺構内に投影されてしまう遺物があることがわかる。ここで、便宜上、西壁層位断面図に投影した結果、第9層中に入る遺物と第9層より上位、あるいは下位に投影される遺物別で、ドットの形を区別して垂直分布図を作成してみた(垂直分布図①)。区分は、下記のとおりである。

- ：西側層位断面図に投影した結果、第9層中に入る遺物を示している。
- ：西側層位断面図に投影した結果、第9層に含まれるが土坑の埋土中に入る遺物や、西壁層位断面図の実測範囲外に位置する遺物で、周辺にある第9層のラインを結ぶことで第9層に入ることに蓋然性のある遺物を示している。
- △：西側層位断面図に投影した結果、第9層の上部ラインより上位に位置する遺物を示している。投影部分の第9層は凹状を呈しており、周辺の第9層ラインを結ぶことで、第9層中に入ることに蓋然性がある遺物を示している。
- ：西側層位断面図に投影した結果、第9層の下底部ラインより2cm以内に位置する遺物を示している。
- ：西側層位断面図に投影した結果、第9層の下底部ラインより2cm以上4cm以内に位置する遺物を示している。
- ：西側層位断面図に投影した結果、第9層の下底部ラインより4cm以上に位置する遺物を示している。

併せて、平面分布図も同じドットを用いて作成し、第9層中に入る遺物とそれ以外の遺物がどの場所から出土したのかを確認してみた。以下、西壁層位断面図に投影した結果と平面図での出土位置関係について観察した結果を記す。

第9層の上部ラインより若干上位から出土した遺物(△)を、平面分布図と垂直分布図で確認してみる。平面分布図では、西側拡張区の北側半分に散在しているように見える。垂直分布図①では、第9層が部分的に薄くなっている所に投影されている。特に、垂直分布図①中央付近でまとまっている△の分布を観察すると、分布している部分は、第9層の上部ラインが落ち込んでいるところに位置しており、その結果、第9層より上位に投影されてしまうことになる。その部分の北側と南側での第9層上部のラインを結ぶことで、本来の第9層の上部ラインを復元すると、△の遺物は、第9層中から出土していることに蓋然性があると言える。

第9層の下底部から下位のもの、便宜上、2cm以内のもの(○)、2~4cm以内のもの(□)、4cm以上のもの(■)に分けた。特に、■のものをみてもみる。■の平面分布は、大きく三ヶ所に認められる。西側拡張区北半分出土のもの、西壁付近出土のもの、西側拡張区東側出土のものである。特に、多くのまとまりを見せて分布しているものは、東側から出土したものである。そこでは、2~4cm以内のもの(□)のものも比較的まとまって分布している。東側にまとまる分布理由は、西側拡張区における地形の傾斜のためである。すなわち、西側拡張区の第9層下部の地形が、北西方向から南東方向へ傾斜しているため、第9層に包含されている遺物も必然的に同方向へ傾斜分布することになる。

よって、地形的に低い地点から、かつ、低いレベルより出土した遺物を、レベル的に高い西壁層位断面図に投影したため、第9層中に投影されずに、第9層下底部より低い第10層中から出土しているかのように見える。

試しに、範囲を狭めて■がまとまって分布している西側拡張区東側が含まれる中央部〔a・b・c・d〕で範囲を指示して東西の垂直分布図を作成してみた(垂直分布図②)。すると、○や□は、西壁層位断面図の第9層中に投影されている○とほぼ同じレベルに含まれる。また、■の中にも○と同じレベルに含まれるものもある。ただし、全体的に低いレベ

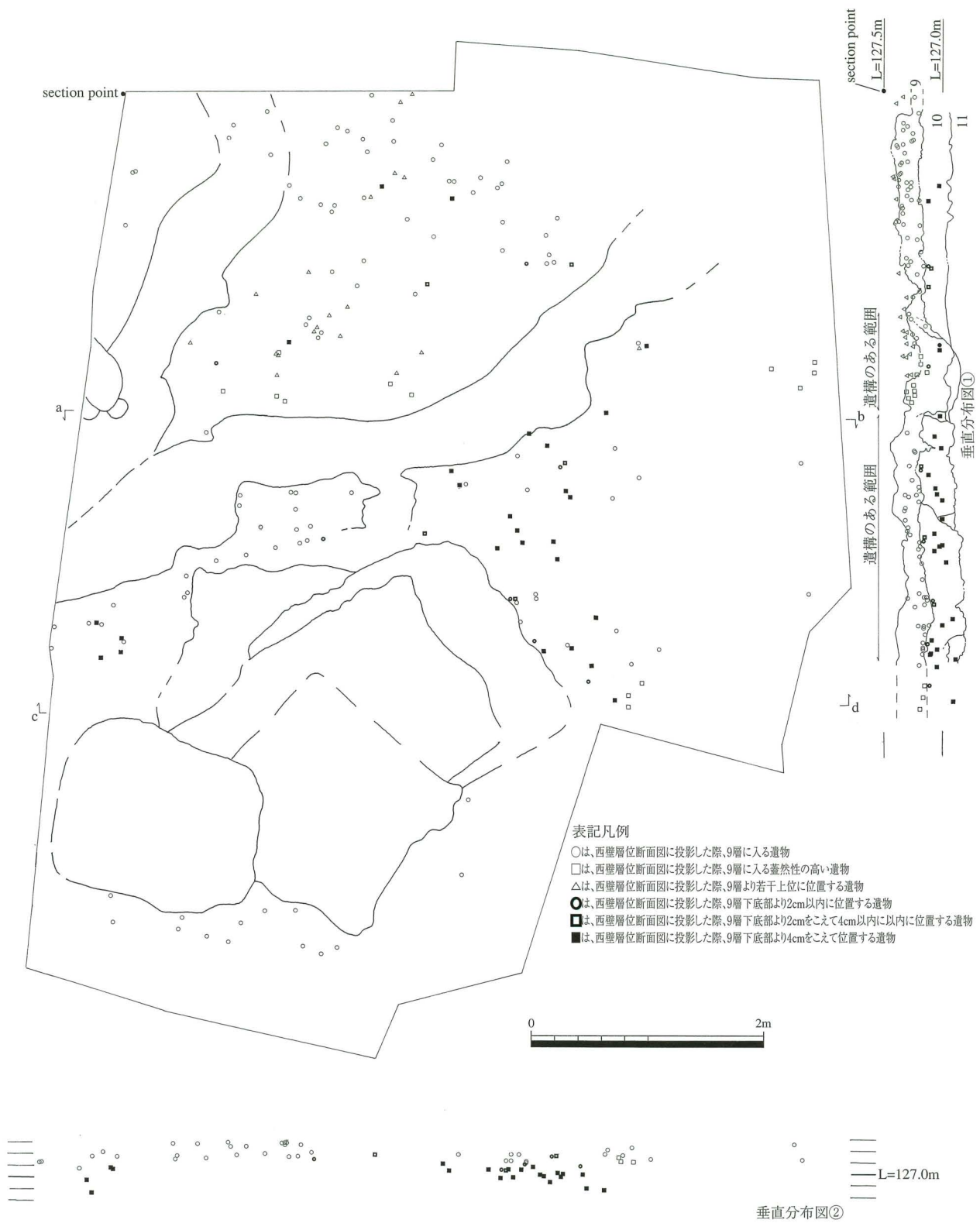


Fig.105 西側拡張区第9層遺構外出土遺物平面・垂直分布図(S=1/50)

ルから出土しているが、これは地形的に低い地点から出土している結果を投影しているためであると考え。

なお、西側拡張区の西壁付近出土の、西壁層位断面図に投影した結果、第9層下底部より4cmを超えている■については、第9層に包含されていると判断した上で第9層出土遺物として取り上げているが、第10層のものを錯誤している可能性も否定できない。

(2) 西側拡張区での遺構外出土遺物と遺構埋土出土遺物の平面・垂直分布図 (Fig.106)

次に、第9層出土遺物で遺構外出土遺物と遺構埋土出土遺物を、便宜上、出土標高別毎にドットを分けて、平面図・垂直分布図を作成した (Fig.106)。標高は10cm毎で区切り、8種類のドットを用いた。区分内容は凡例のとおりである。

この図から、出土レベルの高いものと低いものとがどのような場所から、どのような傾向をもって出土しているのか、また、第9層中に包含されている遺物が包含層中でどのような傾向をもって包含されていたかを知る手がかりを提供してくれる。すなわち、出土レベル別の垂直分布でのまとまりの様相が、当時の生活面の地形を投影しているものと考えることができる。

平面分布図から見てみる。標高的に高いレベルから出土している丸形 (○・○・●) は、西側拡張区の北半分と中央部に分布している。また、中位ぐらいのレベルから出土している三角 (△・▲) は、調査区の中央部付近で散在している。標高的に低い四角 (□・□・■) は、調査区中央部の東側と調査区南側に分布している。

垂直分布図は、遺物の分状況がより地形の傾斜方向を投影するように、2つ方向から、かつ範囲を限定して作成した。垂直分布図③は、幅1mの範囲において南北軸方向で垂直分布図を作成した。垂直分布図③では、遺構外の第9層出土遺物 (黒色) と竪穴建物跡内からの埋土出土遺物 (赤色) を重ねることで、遺構埋土出土遺物が、遺構外の第9層出土遺物とどのような関係があるのかを導き出すものである。

高いレベルから出土している○・○・●は、垂直分布図③の右側から中央にかけて分布している。これは、調査区北側から中央部にかけて丸印が多く分布していることを示している。また、中位ぐらいから出土している△・▲は、垂直分布図③中央部と左側に、レベル的に低い□は垂直分布図③左側のみに分布している。

この垂直分布図③に遺構埋土出土遺物 (赤色) を重ねてみる。遺構埋土出土遺物の遺物は、□や□が多く分布し、遺構埋土上位には、△や▲が認められる。遺構外周辺 (遺構の北側や南側の出土遺物) は、●や▲、□があり、遺構埋土出土遺物と比較すると、遺構埋土出土遺物が遺構外周辺の遺物より低いレベルから出土しているものが多いことが看取できる。

垂直分布図④は、西側拡張区の各地層断面図と第14層上面の傾斜方向から判断した本来の傾斜方向に対して遺物を投影したものである。西側拡張区内には、ほぼ地形の傾斜方向と主軸が重なって延びる道跡Bの断面観察用のベルトAがある。そのベルトA北壁に対して南北2mの範囲の出土遺物を投影させた。垂直分布図④によると若干のレベル差を持ちながらも、次のような傾向が看取できる。

出土レベルが127.300m以上の○は、垂直分布図④左側に偏在している。また、○や●は、垂直分布図全体に広がっている。中位ぐらいのレベルから出土している△・▲や、低いレベルから出土している□は、垂直分布図④右側に偏在している。この垂直分布図に、ベルトAで確認した第9層直下層の第14層上面ライン (道跡B・Cの断面の部分) は、その周辺の第9層下部ラインから破線で本来のラインを想定して復元した) を重ねると、第14層上面ラインは左側 (北西) から右側 (東南) へ傾斜しており、その傾斜方向と同様な傾斜で第9層出土遺物が分布している。

このことは、第9層で取り上げた遺物は、第9層中で北西方向から東南方向へ傾斜しながら包含されていたものであることを示している。これは、遺物が第9層に包含されてから以降、攪乱等の自然要因によって生じたものとは考えにくく、当時の生活面の傾斜方向に則った分布状況が維持されていたものであると判断するのが妥当である。

よって、垂直分布図④から、西側拡張区における第9層は、先述したとおり北西方向から東南方向への緩やかな傾斜堆積であり、同時に、第9層は安定した遺物包含層であることが追証されていると判断ができる。

(3) 西側拡張区の第9層の遺物分布状況と地形について

2種類の第9層出土遺物の平面・垂直分布図を観察した結果、西側拡張区内での、第9層の堆積状況と第9層に包含されている遺物の時期の地形は、完全に平坦ではなく、北西方向から東南方向へ緩やかに傾斜していると判断できる。

第9層出土遺物の堆積状況を再確認することで、後期旧石器時代の遺構群が検出された西側拡張区の第9層も安定した遺物包含層であることがさらに裏付けられた。

4. 水迫遺跡で検出された竪穴建物跡の再確認

前項までで尾根頂部の第9層は安定した状況であり、第10層との大きな攪乱などは認められないことを確認した。ここではそれを前提とし、かつ遺構の検出段階の状況も踏まえながら、竪穴建物跡の再確認を行っていく。

(1) 第I調査区と西側拡張区で共通して存在する落ち込み

遺構の検出と確認の第一段階は、下位層への落ち込みがあるか否かの検討からである。まず落ち込みの平面を検出し、次に断面で形状を確認する。ここではまず、確かに第I調査区と西側拡張区に落ち込みが存在することを再度確認する。そのために、まず第14層上面で落ち込みが明瞭に確認された第I調査区の状況から見直してみたい。

① 第14層上面で検出された落ち込み

i 第I調査区で検出された落ち込みの状況

第I調査区の北側部分（尾根上の平坦部）では、第9層直下は黄色味の強いローム層（第14層）となっている。第I調査区では、第14層上面付近で土色が異なる範囲が検出された。これについては以下のような調査結果を得た。

- ・土色が異なる範囲は、平面が閉じた範囲を形成していた⁽³⁾。
- ・先行トレンチを設定、断面で土色が異なる範囲に立ち上がりを確認。

これらから土色が異なる範囲は一定の深さを持つ落ち込みであることを確認した。第I調査区にはこのような落ち込みが2ヶ所あることが確認された。後に西側のものを1号竪穴建物跡、東側のものを2号竪穴建物跡と呼称した⁽⁴⁾。

落ち込みについては、その後詳細な調査を実施して形状的な特徴や埋土の状況について情報を得た。その過程でも、第14層、場合によっては第15層に対して落ちこむ形状が明らかになった。

ii 西側拡張区で検出された落ち込みの状況

西側拡張区の落ち込みの検出過程は以下のとおりである。

- a 拡張区の南壁付近では、第9層掘削途中で周囲より土色が暗いことが認識されていたが、平面形状の把握を行わず、第14層上面付近までの掘削を進めた
- b 第14層上面付近が露出した段階で、土色が異なる範囲が検出された（Pl.158）
- c 断面を確認するための先行トレンチを設定、一定の深さを持つ落ち込みの断面を確認した（Pl.159）
- d 土色の異なる範囲の一部に、方形に見える複数の部分が観察され、これが調査区南壁に入り込むように見えた
- e 遺構の可能性を考慮、調査区を南に拡張、間にベルト（ベルトB）を残した
- f 南側では第14層に達する前（第10層b上面段階）に平面形を検出するよう精査した
- g 平面形を把握、閉じた範囲であること、複数の箇所が切り合っていることを同時に確認した（Pl.160下）
- h 断面確認用の先行トレンチを設定、落ち込みの複数箇所での立ち上がりを確認した（Pl.161, Pl.162）

検出過程からは以下のことが言える。

◎ bは、西側拡張区における落ち込みの検出が、第I調査区の検出状況と同じで、第14層上面において土色が異なる範囲を検出したことを示している

◎ cは、西側拡張区南壁に接してなんらかの落ち込みがあることを示している

平面形状を確認した後、先行トレンチで断面を確認し、一定の深さをもつことが確認されたためである。ただ、全体形状が把握できていないcの段階では、土色差のある範囲は以下の2者のいずれかの可能性があった。

- α 遺構の可能性のある落ち込み
- β 南に下る谷頭の一部のような自然地形

しかし、土色が異なる範囲が方形平面である可能性を示すdから、上記のαの可能性が高まった。このため調査過程eに進んだ。

◎ eは、落ち込みが閉じた範囲であることを示している

南へ拡張した部分での落ち込みの平面形状の検出は、第10層b上面で行った（Pl.160）。西側拡張区北側と異なり、南側では第10層などの層序が現れる。第10層bは西側拡張区南側では、下位層（第14層=黄色ローム層）との漸移層であり、黄色味を帯びており、土色差の認知は容易である。検出した平面ラインは、断面においても明瞭に確認できた。

◎ hは、西側拡張区南側には、地形傾斜の下方でも立ち上がりがあることを示している

このことから、上記のβの南に下る谷頭の一部のような地形である可能性は棄却された。ベルト南側で検出された立ち上がりは、Pl.162に見えるように、第14層に落ち込んだものである（6号竪穴建物跡試掘溝L）。Pl.163はその解析画像である。これを見ると、第10層bが途切れて、第14層上面に黒色の土壌が落ち込んでいることを確認できる。

上記のように、北側から南に向けての緩傾斜地において、北側で立ち上がりを持つ落ち込みが検出され、傾斜の下の南側でも立ち上がりを持つ落ち込みが検出された場合は、落ち込みは明らかに存在すると言える。特に、この現象は、第10層の堆積範囲を超え、下位層の第14層に達している。第I調査区との相違は、下位層の堆積状況が異なっている点にのみ集約される。

以上は、西側拡張区に落ち込みが存在することを示している。そしてその検出状況は、第I調査区検出の2つの落ち込みと同様で、類似した落ち込みがあることを示す。なお、西側拡張区南北方向の第9層と遺構内の遺物の垂直分布を示したFig.106の垂直分布図③は、第9層遺物が北西方向から東南方向へ向けて緩やかな傾斜をみせ堆積するが、遺構埋土出土遺物は第9層遺物のピークより下位に分布することを示しており、落ち込みがあることを支持している。

（2）水迫遺跡で検出された遺構の埋土状況

水迫遺跡で検出された遺構の埋土には、周辺自然堆積層と異なる特徴がある。以下相違点について述べる。

① 自然堆積層と埋土の状況について



Pl.156 1号竖穴建物跡検出直後の写真
(平成11年11月末日段階)



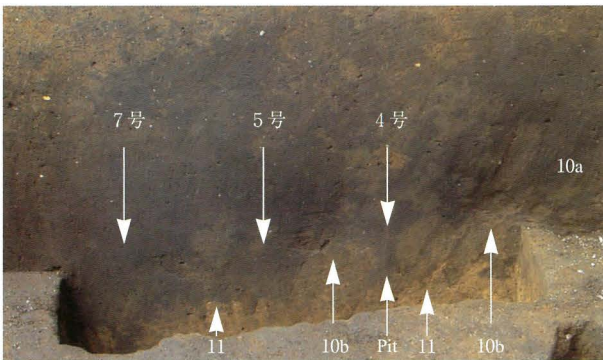
Pl.158 西側拡張区落ち込み検出直後の写真



Pl.157 1号竖穴建物跡ラインあり写真
(平成11年12月18日段階)



Pl.159 西側拡張区落ち込み断面確認写真



断面の拡大



Pl.161 6号竖穴建物跡立ち上がり状況
(試掘溝H部分, 左が南、右が北)

← Pl.160 西側拡張区南側平面確認写真及び断面写真
(7号竖穴建物跡)

自然堆積層の第10層は、上下（a・b）に分かれる。下の第10層bは下位層との漸移層となり、全体に第14層のブロックを多く含む黄色が強い層序である。『水迫遺跡Ⅰ』には、このような下位層（この場合第14層となる）起源のブロックを『B2』と呼び、第10層bに含まれると記述した。第9層・第10層a・第10層bが攪乱なしに堆積する場合においては、「B2」は大きく上層に向かって上がることは基本的にはない。一方、遺構の埋土中には、「B1」・「B2」・「岩本火山灰中の白色粒」など、本来なら上下の層にあるべきものが混入し、乱れた状況が見られることがある。第9層の安定性を述べるまでもなく、埋土の状況から人の手の介入があったと判断する妥当性があると考えられる。

さらに、遺構が第10層を掘り抜く西側拡張区では、竪穴建物跡の埋土色が、第9層より第10層aに近く、むしろ第10層aより暗い土色である傾向が強い。これは、複数の調査参加者からも指摘された事項であり、平面でも断面でも認識されている。下記の測色データはこのことを支持している。つまり、埋土は第10層aとは異なる土色であり、第10層aが断絶していることを裏付けている。

土層名称	L	a	b	測色位置	土層名称	L	a	b	測色位置	土層名称	L	a	b	測色位置
第10層a	23.6	4.4	7.7	ベルトB北	5号埋土	22.0	7.5	11.3	ベルトB北	3号埋土	22.2	4.4	7.8	ベルトB北
4号埋土	23.2	3.8	6.8	ベルトB北	7号埋土	21.5	3.9	7.2	ベルトB北	3号埋土	23.3	5.0	8.2	ベルトB北
4号埋土	22.8	4.2	7.5	ベルトB北	7号埋土	21.2	5.2	7.2	ベルトB北	第10層a	22.4	5.8	6.5	ベルトB北
5号埋土	22.7	4.9	8.3	ベルトB北	7号埋土	24.5	5.5	8.1	ベルトB北	第10層a	24.2	4.4	6.9	ベルトB南
5号埋土	20.3	4.4	8.5	ベルトB南	5号埋土	21.3	4.1	6.3	ベルトB北	第10層a	23.4	4.7	7.6	ベルトB北

また、自然堆積層が局部的にはなく、面的に途切れる状況が確認されている。Pl.160は7号竪穴建物跡の平面と断面の写真である。平面形状は、第10層bが途切れた範囲として認識し、途切れた範囲を断面でも確認できている。7号竪穴建物跡の例が意味するところは、本来貫くはずの第10層bに断絶があることを示している。このように遺構埋土によっては自然堆積層が乱れている状況が見られる。

② 白色粒混在の状況

竪穴建物跡や道跡の落ち込みの埋土には、「岩本火山灰中の白色粒」が混在している。このことは、一般堆積層には見られないため、第9層が下位層に落ち込んだことの証左としている。再度この点について確認を行う。

岩本火山灰は、第9層の堆積途中で降下したものである。第Ⅱ調査区では、第9層の中位に岩本火山灰が1層を形成している事実があり、岩本火山灰が第9層と第10層を分けていることはない。さて、火山灰の第9層中におけるありかたは場所によって若干異なる。例えば第Ⅰ調査区などでは、第9層中に1層を形成せず、白色粒がルーズではあるがピークをもって堆積している（『水迫遺跡Ⅱ』p14）。

第Ⅰ調査区でも良好な堆積状況の箇所を見てみると、白色粒は第9層に堆積のピークがあるし、第10層にはほとんど白色粒が含まれていない状況がある（Pl. 165）。

ところで、角閃石の混入割合から、第10層に白色粒が混在する可能性は言及できるのであろうか。早田氏の分析結果では、岩本火山灰は顕著に角閃石を含んでいる。また、第9層に包含される角閃石のおよそ4分の1量が第10層に含まれている（早田2001）。ただし、第10層中の角閃石について、その起源は未だ明らかになっていない。これは、第9層・第10層にそれぞれ含まれる角閃石について理化学分析を実施し、鉱物組成を比較することで、はじめて同一のものか否かが判明するからである。それ以前においては、両者が同一起源のものか、別起源のものかは議論ができない。現状では、第10層中に「岩本火山灰中の白色粒」が入っているか否かについて判断するための方法は、肉眼観察となる。

第Ⅰ調査区北側などの第9層の堆積状況は、炉跡の立ち上がりが残ることと、ブロックが複数基検出されていることから、安定していることが確認された。第9層の安定性は同時に、第9層中の「岩本火山灰中の白色粒」が自然堆積の過程で第10層に大きく混ざり込む可能性は低いことを示している。遺構の埋土は、第10層と同レベルの位置にありながら、白色粒が多く入り込む状態が観察されることがある。これは、第9層が何らかの原因で下位層に向かって落ち込んだためと考えられるが、このような状態は遺構が検出された箇所で顕著に見られる特徴である。よって、白色粒が入り込むのは、遺構の埋没過程によるものと考えるのが妥当であろう。

以上のことは、遺構埋土が自然堆積層とは土色や構成物の点で異なっていることを裏付けており、このことから認識した遺構の立ち上がりの判断は妥当であると考えられる。

(3) 落ち込みに見られる人為性の証左

① 平面形状と断面形状に見える規格性

『水迫遺跡Ⅰ』・『水迫遺跡Ⅱ』の中でも取り上げたが、検出された落ち込みが遺構なのか、否かを判断する基準として、形状に規格性が認められるかどうかという点が重要と考える。

竪穴建物跡で取り上げた規格性は、平面プランと立ち上がりの断面形状に認められるものである。前者では、『方形』に類似した形状であるという規格性を、コーナーの角度の比較や平面形状から確認しようとした。後者では、単体の落ち込みで複数の断面形状が相互に類似するかどうかを、立ち上がりの角度の比較や特徴的な断面形状を共有するかどうかという点から確認しようとした。

i 平面形状

竪穴建物跡とした落ち込みは平面形状が方形に類似した形状となる。方形は4辺と4コーナーを持つが、検出された遺構の内4辺と4コーナーともに揃うものがほとんどない。このため、コーナー形状を最も反映すると考えられるコーナー角度を比較した。結果的に、コーナー角度が100°程度に集約することなどのデータが得られた。結果は、1号が114°・114°・117°・104°、2号が98°、3号が103°、4号が107°、5号が99°、6号が113°、7号が104°、8号が109°・105°、10号が108°となる。データの比較が容易なためにコーナー角度の計測方法は、統一したものをを用いている。得られたデータからは、各落ち込みのコーナー角度がかなり近似していることがわかる。

ii 断面形状

断面形状を比較するために、立ち上がりの角度を計測した。角度の表現には、鉛直から何度傾いているかという数値を用いたので、数値が0に近いほど、立ち上がりは鉛直に近くなるということになる。各遺構で計測した数値は以下のとおり。なお、切り合いなどにより立ち上がりを4方向検出できないものについては、検出できた立ち上がりでの計測値を掲載する。1号が43°・37°・44°・23°、2号が10°・36°・27°・42°、3号が23°・28°、4号が18.5°・30°、5号が30°・33°・18°・27°、6号が23.5°・23°・21°・21°・35°・25°・23°、7号が20°・37°・28°・28°・37°となる。各計測値から、概ね立ち上がり角度は30°におさまることと、大きく傾いても40°程度であることが知られる。報告書の中でも述べているが、40°程度の数値となる場合は、形状からみても、埋没による形状の崩れがある程度影響するものと考えられる。同時に、立ち上がり直下に一旦窪みを持つという形状的特徴が大部分の断面で確認されていることも重要であろう。以上の結果は断面形状に規格性があることを示すと考えられる。

② 自然堆積層と落ち込み底部の形状との相違

自然層位の層理境界面の形状は、当時の地形的特徴を示していると考えられる。ここでは、遺構周辺の地形の傾きと遺構と考えられる落ち込みの底面の形状とを比較する。

6号竪穴建物跡の底面は第14層となっている。周辺は、南へ傾斜する傾斜変換点となっている。西側拡張区南側で見ると、第9層の上下の層理境界面も第11層の上面も南北1.8mの間に20cm落ちている。しかし、6号の底面は、地形の傾斜と異なるラインを見せ、126.65m～126.67mの範囲に収まっており、平坦となっている。

2号竪穴建物跡の西側と東側における、第14層上面の高低差は30cm程度であるが、2号の底面は、付帯遺構と考えられる落ち込みを除くと、2～3cmの高低差の範囲に収まっており、平坦となっている。

7号竪穴建物跡も6号同様に南北方向の緩傾斜地に立地する。床面は第10層bである。この底面も126.69m～126.72mの範囲に収まっており、平坦となっている。

上記は、遺構の立地が「傾斜変換点」に位置する例であり、周辺の自然地形は平坦な部分から、緩斜面へと転じている。落ち込みの底部形状との比較の結果、2号・6号・7号の底部は自然地形の傾斜とは無関係に平坦となっている。

①で落ち込みの平面と断面に規格性があることを再確認した。②で傾斜を持つ自然地形と落ち込みの底面の形状が異なる点に注目した。これは、遺構の底面は平坦であるという規格性を持っていると捉えることができると考える。

このように見ると、検出された落ち込みは人為的な構造物である可能性はきわめて高いと思われ、一定の形状を意識し掘られたものであると考えられる。

(5) 竪穴建物跡の再確認について

竪穴建物跡に関して、検出状況を含めて記述してきた。これらをまとめると、水迫遺跡で検出された遺構には次のような特徴がある。

- ・竪穴は第I調査区と西側拡張区とにおいては第14層に達して掘り込まれている
- ・竪穴の平面プランは概ね直線的な辺とコーナーで構成された方形である
- ・竪穴には規格性が認められる立ち上がりがあり、傾斜変換点に立地する例でも、傾斜の下方にも立ち上がりが確認されるものがある
- ・竪穴の底面は周辺地形の傾斜とは異なる形状となり平坦であることから、自然地形とは考えがたい
- ・竪穴の埋土には第9層に含まれる『岩本火山灰中の白色粒子』と下位層のブロックが混入している。かつ、第10層より色が暗い傾向があり、第10層と区分できる
- ・ほぼ直立した尖底状のピットが、竪穴から概ね近似した距離範囲に竪穴の周囲を取り巻くように集中して位置している

以上は、検出された竪穴が遺構であることを裏付けていると考えられる。第I調査区と西側拡張区のそれぞれの遺構は、検出段階が相互に極めて類似した状況であり、それだからこそ、それぞれを切り離して別個に考察するよりも、同様の状況で検出された同様な遺構が多数あるという事実を重視するべきであろう。また、遺構の用途に関して、方形の竪穴の底面が平坦であり、周辺を杭状のピットが取り巻くという形態を見ると、上部構造を構築することを意識した遺構とみなすことに矛盾はないと考える。

なお、床面直上遺物の検出はいずれの竪穴でも検出されていないが、西側拡張区においては、遺構埋土出土遺物が紹介

されている。その内製品は次のような内容となっている。

3号：細石刃3点，4号：細石刃1点・小形なナイフ形石器1点・三稜尖頭器1点，5号：細石刃1点・小形なナイフ形石器1点，6号：細石刃2点・台形石器1点，7号：三稜尖頭器1点・彫器1点・槍先形尖頭器1点。遺構埋土が一般包含層の第10層を掘り抜き入ることと，埋土中に第9層と第10層に帰属する遺物が混在している傾向があることとは，遺構の帰属時期を第9層（細石刃文化初期～ナイフ形石器終末期）とする見解と矛盾しないと考えられる。

5. 道跡の遺構としての再確認

(1) 道跡の検出状況について

ここでは道跡の検出段階の状況も踏まえながら，道跡の再確認を行っていく。

① 第14層上面で検出された帯状の黒色土の落ち込み

第I調査区・西側拡張区双方で第9層直下の黄色味の強いローム層（第14層）上面付近で土色が異なる範囲を検出した。この範囲は，帯状に伸びる形態であった（Pl.165, Pl.166）。

② 断面での落ち込みの確認

①について，シミの可能性はないかを確認するために，複数の先行トレンチなどを設定して断面を確認した。帯状に土色が異なる範囲には一定の深さがあることを確認。平行する2本の平面ラインに対応する一対の立ち上がりがあり，帯状の落ち込みと確認した。

③ 埋土と周辺土の差異

道跡の埋土中には，「B1」・「B2」・「岩本火山灰中の白色粒」など，本来なら上下の層にあるべきものが混入し，乱れた状況が見られることがある。竪穴建物跡でも述べたが，この状況は周辺の自然堆積層とは異なっている。特に，第14層のブロックである「B2」が本来多く包含されている「第10層b」のレベルより上に上がっている場合が多々ある。こうした点は自然堆積層と考えるには矛盾がある。

①～③は，道跡とした部分が，確実に平面と断面を持つものであることを示している。ただ，遺構か否かは次のような方法で確認した。

(2) 道跡の人為性について

① 平面形態について

道跡の平面形状に見られる規格性は，概ね平行し，かつ，閉じない2本の線で区分されるという平面形状である。この点については，道跡A・B・Cそれぞれで確認できた。

② 断面形態について

断面ではすべての確認箇所で一対の立ち上がりを確認した。場所によっては逆台形断面の箇所がある。また，複数の断面で底面が平坦に近い形状を呈していることを確認した。底面の下部の第14層中に掘削痕跡の可能性があると考えられる鋸歯状に汚れた部分も検出された（『水迫遺跡Ⅱ』参照）。

③ 流水痕の可能性の有無について

帯状の落ち込みの形状から，第一に流水痕跡である可能性を考慮したが，以下の点で流水痕跡である可能性は棄却される。

- ・傾斜と無関係に曲がるなど，地形と関係ない方向に伸びるラインである
- ・埋土中にラミナ成層構造や砂層の再堆積など水成堆積の特徴を示す痕跡が見られない
- ・底面に尖底状の凹部を含む凹凸を呈する部分がある

④ 周辺地形との関係

道跡が検出された箇所の地形との関係は次の通りである。道跡Aは，やや平坦な丘陵上部から南西に傾斜する部分に位置し，傾斜に沿って南西方向に延び，急に南東に方向を変える。道跡が急に方向を変える部分では地形の傾斜方向は変化していない。また，道跡Bと道跡Cは，やや平坦な丘陵上部に位置し，検出された半分以上の長さが等高線と並行している。

道跡Aは地形の傾斜と無関係な曲折を見せる点と，道跡BとCが半分以上等高線と並行しているという点は，道跡が周辺地形に関係なく所在することを示す。また，道跡BとCでは，傾斜の上側と下側に立ち上がりが確認されている。

このことは，浸蝕などの自然営力が傾斜の下方向に向かって働くことと矛盾している。

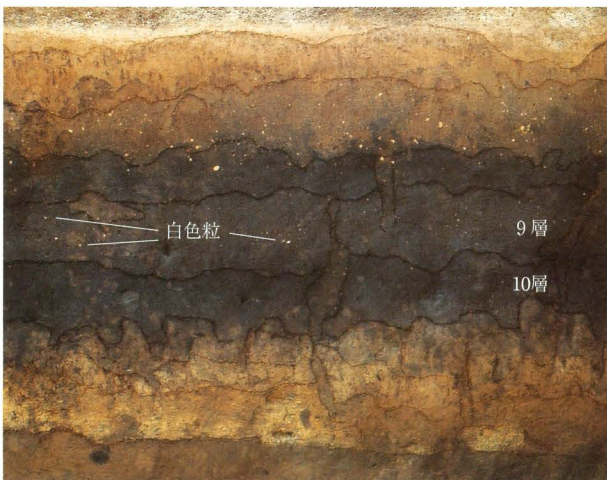
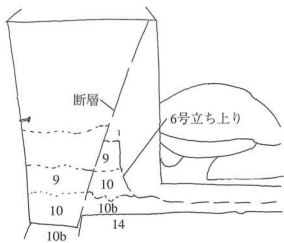


Pl.162 6号竪穴建物跡立ち上がり状況
(試掘溝L部分)



Pl.163 6号竪穴建物跡立ち上がり画像解析
(Pl.162の解析画像)

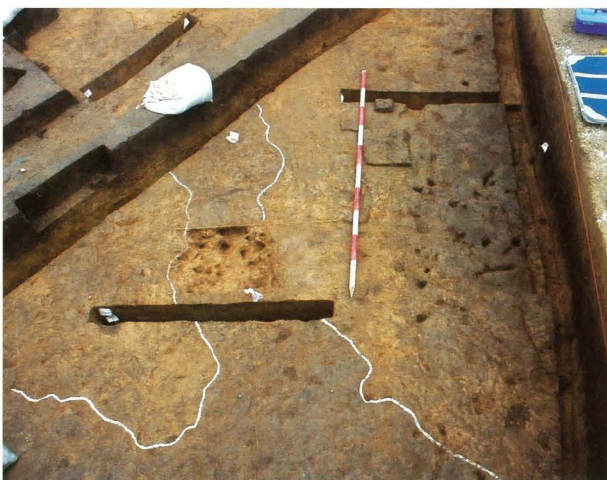
画像解析はimage++2.60を用い、デジタルカメラで撮影した画像をトリミングし、カラー抽出を実施した。カラーモデルは「RGB」を選択、抽出したのはRed0-255, Green78-255, Blue0-255の範囲である。抽出結果は抽出画像で出力した。



Pl.164 水迫遺跡の層序(第9層・第10層前後の状況)



Pl.165 道跡A検出状況



Pl.166 道跡B検出状況

(3) 道跡の再確認について

道跡に関して記述したが、内容の大半は『水迫遺跡Ⅰ』・『水迫遺跡Ⅱ』でも掲載した内容である。再度念を押したいのは道跡もまた、第14層において平面が検出されたのであり、それに基づき、断面形状の確認作業を実施していった。この中で、埋土と考えられる土壌には、自然堆積層とは異なる『上下層の混在』という特徴が顕著に見られた。具体的には、西側拡張区では第14層の上にある第10層bに多く含まれる黄色いブロック「B2」が、第10層bの範囲を越え、一部第9層付近にまで上がり、第9層に見られる「岩本火山灰中の白色粒」や薄いブロック「B1」などと混在している状況である。そして、遺構埋土ではこれが頻繁に見られる。第9層の堆積時点においては、下位層との区別がつかないような大きな攪乱と再堆積は観察されていない。このことから、上記のような埋土状況は、人為的掘削の結果と判断する妥当性があると考えられる。

さらに、平面形状と断面形状には規格性が認められる部分が多々あった。また、類似した平面形状を示すと考えられる流水痕とするには一致点が少なかった。以上のことを総合して、遺構と判断することに矛盾はないと考える。

これまで、遺構群が検出された地点の後期旧石器時代の遺物包含層（第9層）は、遺物の出土状況などから、上下層の区別がつかないような大きな攪乱はなく、安定した層序であること、遺物の出土状況も地形的変化に合致することなどが確認できたことで、遺構が形成されないような条件は存在しないことを確認した。その上で、調査の内容を段階的に述べることで、遺構の特徴を更に浮き彫りにするとともに、遺構と判断した根拠を再確認できたかと思う。

(註)

- (1) 『水迫遺跡Ⅰ』P211 No.62, P216 No.83
- (2) L・a・b値の内容については、指宿市考古博物館企画展図録に詳しく記されている（下山2000）。具体的には、「L*：明度を表す。マンセルValueの10倍にほぼ等しい。a*：正の値で数字が大きいほど赤，負の値で数字が大きいほど緑，b*：正の値で数字が大きいほど黄，負の値で数字が大きいほど青」となっている。
- (3) 平面プランは閉じているという観点は、『水迫遺跡Ⅰ』で述べたように遺構なら基本的に当てはまる状態を指摘したのみの事項である。しかし、傾斜変換点周辺で、風化などの原因で土壌が部分的に失われた場合には、傾斜の下側に立ち上がり形成されないことがあり、平面プランが閉じていない場合があることに注意したい。
- (4) 1号と2号では、方形の落ち込みの外側にシミのような土色が異なる範囲が検出され、当初から例えば「竪穴を掘り上げた後の残土を置いたため土色に変化した」などの解釈が提出されていた。最終的には、土色の異なる範囲が方形に類した形状を呈しているとともに、ピット列がこれに相伴すると見られたことから、1・2号とは別の竪穴建物跡が切り合っているものと解釈し、8号竪穴建物跡・9号竪穴建物跡・10号竪穴建物跡と報告した。

(文献)

指宿市教育委員会	1999	『第6回企画展示「どきどき縄文さがし展」図録』
指宿市教育委員会	2001	『水迫遺跡Ⅰ』 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第34集
指宿市教育委員会	2002	『水迫遺跡Ⅱ』 指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第35集
鹿児島県教育委員会	1992	『西丸尾遺跡』 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(64)
下山 覚	2000	「水迫遺跡における土層の異同判定について—主にデジタルデータの解析を通して—」『第7回時遊館COCCOはしむれ 企画展図録「水迫遺跡からのメッセージ～日本集落の源流を探る～」
早田 勉	2001	「指宿市、水迫遺跡における自然科学分析 I. 水迫遺跡の土層とテフラ」『水迫遺跡Ⅰ』
九州旧石器文化研究会	1997	『九州の細石器文化 —細石器文化の開始と編年研究—』
九州旧石器文化研究会	1998	『九州の細石器文化 —九州島における細石器文化の石器と技術—』

第9節 水迫遺跡の保存処置について

(1) 広域農道迂回案作成までの経緯

①平成5～10年度

平成5年度のサン・オーシャンリゾート開発に伴う鹿児島県文化財課の分布調査により、水迫遺跡が周知化された。

平成8年度に指宿市教育委員会が鹿児島耕地事務所からの委託により、鹿児島県農政部が実施する広域営農団地農道整備事業予定路内での、水迫遺跡と中尾迫遺跡内での確認調査を実施した。水迫遺跡では、2ヶ所の試掘トレンチを設定し確認調査を実施した結果、縄文時代早期と弥生時代中期の遺物包含層があることが確認された。

確認調査の成果に基づき、鹿児島耕地事務所・県文化財課・市耕地課・市教育委員会との協議の結果、指宿市教育委員会が、平成9年度に中尾迫遺跡、平成10年度に水迫遺跡の全面発掘調査を行うこととなった。

②平成11年度

水迫遺跡の発掘調査は、平成11年5月から開始された。

平成11年11月には、縄文時代草創期に帰属する「水迫式土器」の新型式発見の報道発表を行った。

平成11年12月には、第Ⅰ調査区内で後期旧石器時代（ナイフ形石器文化終末期～細石刃文化初期）の竪穴建物跡・道跡・杭跡・石器製作跡から構成される遺構群発見の報道発表を行った。

これらの調査成果を鑑み、平成12年1月から鹿児島耕地事務所・県文化財課・市耕地課・市教育委員会によって、次の件について協議を行った。その結果、平成12年度の事業内容は下記のとおりに決まった。

(i) 第Ⅰ調査区で検出した後期旧石器時代の遺構群の広がり内容確認を目的とした確認調査を行う。

文化庁補助金・県費を用いた重要範囲確認調査事業で実施。県文化財課から遺跡の重要性を鑑み平成12年度から3ヵ年の継続調査を行うよう計画案が提示された。

(ii) 遺跡の保存を目的とした広域農道迂回案作成の情報収集のため、第Ⅰ調査区の東西地域で確認調査を行う。

鹿児島耕地事務所との委託契約事業で実施。

(iii) 広域農道予定路の第Ⅱ調査区の継続調査。鹿児島耕地事務所との委託契約事業で実施。

③平成12年度

(i) では、文化庁の指導を受けながら、東京大学・岡山大学・九州大学・別府大学・熊本大学・鹿児島大学の教授・助教授と院生・学生などの参加による総合調査を実施し、第Ⅰ調査区の西側隣接地に西側拡張区を設定して、後期旧石器時代の遺構群の広がり内容確認を目的として調査を行った。その結果、竪穴建物跡5基、道跡2条、炉跡2基、土抗1基、石器分布を検出した。このことから、第Ⅰ調査区の西側にも遺構群と石器分布が広がっていることが確認された。また、市道を挟んだ1トレンチの確認調査の結果、後期旧石器時代に遺構群が構築された立地は、幅約16mの狭い尾根の南側の平坦地と緩やかな斜面地であることが分かった。

(ii) では、第Ⅰ調査区・第Ⅱ調査区の東側・西側に7ヶ所のトレンチを設定して、後期旧石器時代の遺物包含層・遺構の有無とその広がりを確認することを目的として確認調査を実施した。その結果、第Ⅰ調査区の西側では、弥生時代・縄文時代・後期旧石器時代の遺物包含層が残存していることが確認された。また、東側では、遺物包含層は確認できなかった。この調査成果については、鹿児島耕地事務所へ中間報告した。

(i)・(ii)の調査結果を踏まえ、鹿児島耕地事務所・県文化財課・市耕地課・市教育委員会の四者によって、広域農道迂回路について協議を行った。協議の結果、広域農道の迂回案作成の基本的な考え方としては、広域農道を当初予定路の東側に迂回する案を作成し、それに伴い市道も北側へ付け替えすることで妥結することとなった。

(2) 後期旧石器時代の遺構群の現地保存処置について

後期旧石器時代の遺構群が検出された第Ⅰ調査区と西側拡張区については、奈良国立文化財研究所・埋蔵文化財センターから指導を受け、現地保存を目的として埋め戻しを行った。以下、その埋め戻し作業内容を記載する。PI.167には、第Ⅰ調査区と西側拡張区の埋め戻しをする際に、遺構所在の目印として同時に埋めたピンポール等の位置を示している。なお、埋め戻し用の土壌は、3段階に分けて異なる土壌を用いた。なお、同時期の遺構が検出された11トレンチも同様にして埋め戻しを行った。

第1段階：遺構を直接被覆する土壌として細粒の山砂を用いた。再調査の際に遺構を直接被覆している土壌としての目印にもなるようにした。遺構上に約20cmほどの厚みがあるようにして埋めた。また、第Ⅰ調査区中央付近にある縄文時代早期帰属の集石（『水迫遺跡Ⅱ』に掲載）と西側拡張区東側にある縄文時代早期の舟形配石炉（『水迫遺跡Ⅱ』に掲載）は高いレベルで検出されているが完全に被覆するようにした。

第2段階：細粒の山砂によって、第Ⅰ調査区と西側拡張区を完全に被覆後、パウダー状の細粒シラスを用い、さらに被覆した。北側では約30cm以上、南側では約200cm以上埋めた。

第3段階：シラスの流失防止と埋め土の養生のため、南薩地域で採掘できる開聞岳火山性噴出物の礫混じりの黒色土（通称、山川土）を最後に調査区全体に被覆させた。山川土は、固く引き締まる特性があり、埋め戻し後の土壌の安定性を考慮して用いることとした。

次に、埋め戻し作業段階等の概要について、写真を用いて説明する。

- 写真①：第Ⅰ調査区と西側拡張区における後期旧石器時代の遺構群の現地保存を目的とした埋め戻し作業直前写真。
 写真②：埋め戻し作業終了写真。西側拡張区は、個人所有地であるため畑地に復旧した。
 写真③：第1段階の山砂搬入状況写真。手前のベルトは、第Ⅰ調査区の2号竪穴建物跡の東側に位置するものである。
 写真④：遺構への山砂被覆作業状況写真。ダンプから搬入された山砂を、竪穴建物跡・道跡・炉跡・土抗・縄文時代早期遺構等、調査区全体に直接被覆させていく。
 写真⑤：1号竪穴建物跡への山砂被覆作業状況写真。断面観察用の先行トレンチ内にも充填させた。
 写真⑥：1号竪穴建物跡への山砂被覆後状況写真。少なくとも35cm以上は被覆させている。ベルト南東角のピンポールNo1が見える。ピンポールの頭は、ベルトより高い位置にくるようにした。
 写真⑦：2号竪穴建物跡への山砂被覆作業状況写真。
 写真⑧：2号竪穴建物跡への山砂被覆後状況写真。手前にベルト北西角のピンポールNo2が、奥にベルト東南角のピンポールNo3が見える。
 写真⑨：第Ⅰ調査区中央部での縄文時代早期帰属の集石への山砂被覆作業状況写真。集石を検出した部分に刺したピンポールNo4が見える。
 写真⑩：第Ⅰ調査区中央部での縄文時代早期帰属の集石への山砂被覆後状況写真。写真中央にはピンポールNo4と、2号竪穴建物跡のベルト東南角のピンポールNo3が見える。
 写真⑪：西側拡張区への山砂被覆作業状況写真。東西ベルトの北側中央に刺したピンポールNo8が見える。
 写真⑫：西側拡張区への山砂被覆作業状況写真。手前は、西側拡張区東側にある縄文時代早期に帰属する舟形配石炉の山砂被覆後状況が見え、また、ピンポールNo5も見える。写真奥壁手前には、1号炉跡に刺したピンポールNo6が見える。左手には、道跡B断面観察用のベルトに刺したピンポールNo7が見える。少なくとも、全体的に40cm以上は被覆させた。
 写真⑬：第1段階で遺構に細粒の山砂を直接被覆後、第2段階の細粒シラスの被覆作業状況写真。
 写真⑭：第2段階での細粒シラス被覆終了写真。奥にポールが見える。
 写真⑮：第3段階での山川土被覆終了写真。
 写真⑯：第1段階に用いた山砂の接写写真。
 写真⑰：第2段階に用いた細粒シラスの接写写真。
 写真⑱：第3段階に用いた山川土の接写写真。



Pl.167 第Ⅰ調査区・西側拡張区遺構所在地確認用のピンポール位置写真



Pl.168 埋め戻し作業状況写真①



Pl.169 埋め戻し作業状況写真②



Pl.170 埋め戻し作業状況写真③



Pl.171 埋め戻し作業状況写真④



Pl.172 埋め戻し作業状況写真⑤



Pl.173 埋め戻し作業状況写真⑥



PI.174 埋め戻し作業状況写真⑦



PI.175 埋め戻し作業状況写真⑧



PI.176 埋め戻し作業状況写真⑨



PI.177 埋め戻し作業状況写真⑩



PI.178 埋め戻し作業状況写真⑪



PI.179 埋め戻し作業状況写真⑫



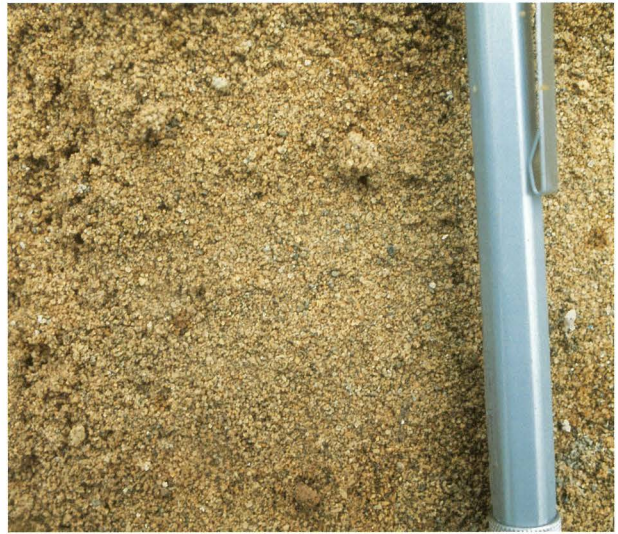
PI.180 埋め戻し作業状況写真⑬



PI.181 埋め戻し作業状況写真⑭



PI.182 埋め戻し作業状況写真⑮



PI.183 埋め戻し作業状況写真⑯



PI.184 埋め戻し作業状況写真⑰



PI.185 埋め戻し作業状況写真⑱

報告書抄録

ふりがな	みずさこいせき							
書名	水迫遺跡							
副書名	平成13・14年度水迫遺跡発掘調査報告書							
巻次	Ⅲ							
シリーズ名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第36集							
編著者名	中摩 浩太郎 渡部 徹也 鎌田 洋昭							
編集機関	鹿児島県指宿市教育委員会（指宿市考古博物館 時遊館COCCOはしむれ）							
所在地	〒891-0403 鹿児島県指宿市十二町2290 TEL：0993-23-5100							
発行年月日	平成16年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
みずさこいせき 水迫遺跡	いぶすきしにしかたみずさこ 指宿市西方水迫	46210	2-58			2001.9.10～ 2002.3.31 2002.4.24～ 2003.3.20	11トレンチ:130㎡ 12トレンチ:50㎡ 13トレンチ:120㎡ 14トレンチ:144㎡	重要範囲確認調査(国庫・県費補助事業)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
水迫遺跡 11トレンチ	包含地 集落 集落	弥生時代中期 縄文時代早期 後期旧石器時代	— — 竪穴建物跡 土坑 ピット	山之口式土器等 下剥峯式土器、辻タイプ、 石鏃、尖頭状石器等 剥片、二次加工剥片等		後期旧石器時代の遺構群を検出		
12トレンチ	包含地	弥生時代中期	ピット	山之口式土器				
13トレンチ	包含地 集落 包含地 包含地	中世 弥生時代中期 弥生時代早期 後期旧石器時代	ピット ピット ピット ピット	— 山之口式土器、剥片、 軽石製加工品等 — —		後期旧石器時代の遺構の広がりが想定できる情報を得た。		
14トレンチ	集落 集落	中世 弥生時代中期	ピット ピット	— 山之口式土器				

水迫遺跡Ⅲ

Report of The Mizusako Archaeological Site Vol.Ⅲ

2004年 3 月

2004 March

発 行

指宿市教育委員会

The Ibusuki Board of Education

鹿児島県指宿市十二町2290

Junicho2290 Ibusuki-city,Kagoshima Pref.Japan

TEL 0993-23-5100

印刷所

溯上印刷株式会社

鹿児島市樋之口町6-6

Tenokuchicho6-6 Kagoshima-city,Kagoshima Pref.Japan

TEL 099-225-2727

